

取扱説明書



本製品をご使用の皆さまへ

本製品を安全に、また正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。

本取扱説明書は、お手持ちのスマートフォンやタブレットからアクセスすることができます。

電子版はこちら



はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走ロールペーラ**の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、すみやかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、《参考》・《重要》として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。 その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警告サイン

⚠ 印付きのつぎのマークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

型式と装備内容について

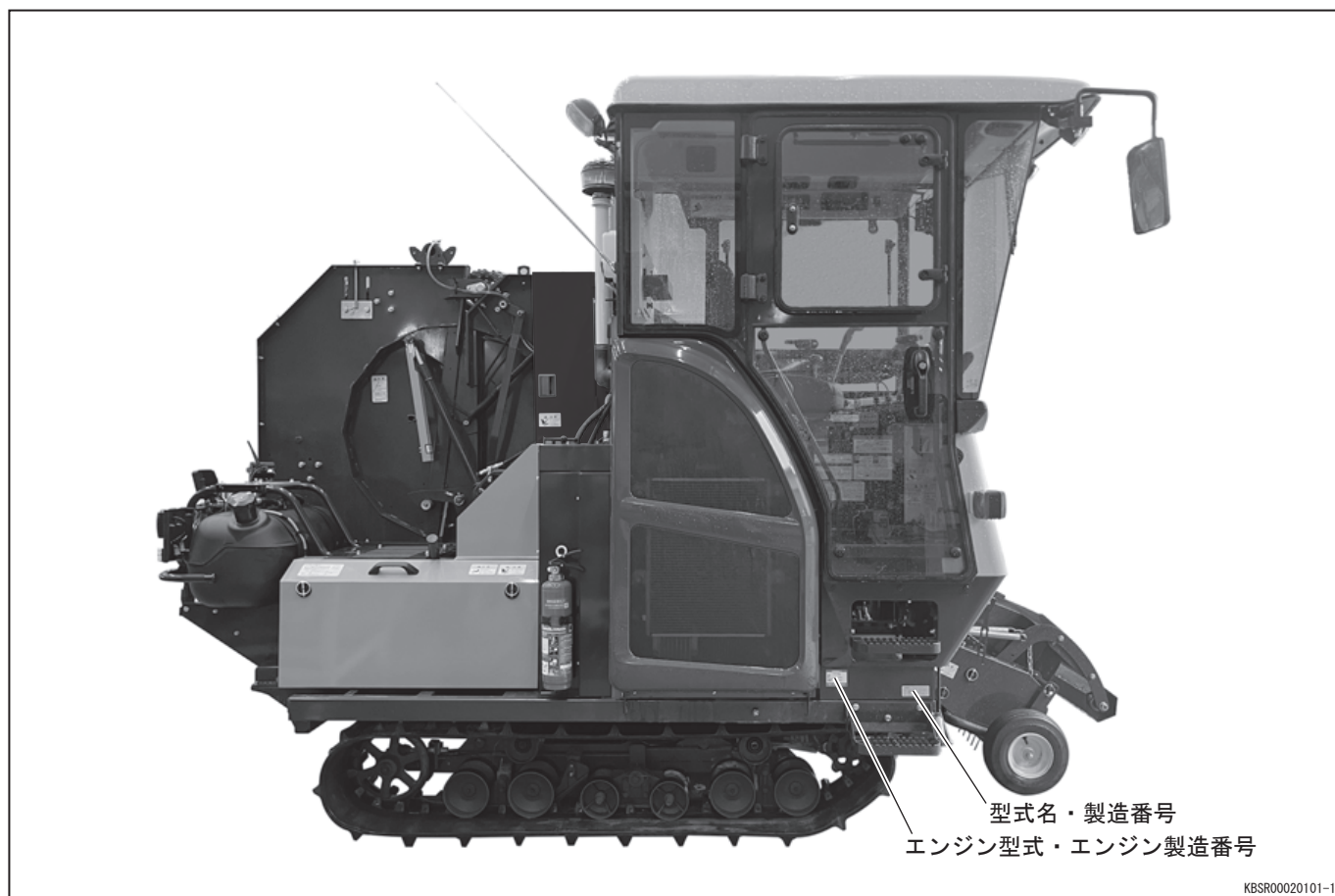
自動車としての取扱い

※ 本機は道路運送車両法の小型特殊自動車に該当しません。そのため、公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックに積んで運搬してください。

◆ 商品の使用にあたって

お買い上げいただきました自走ロールベアラの型式・製造番号を、機体に貼付してあります銘板で確認してください。

◆ 銘板の位置



目次

はじめに	1
------------	---

型式と装備内容について	2
-------------------	---

目次	3
----------	---

1. 使用上のポイント	7
-------------------	---

1.1 使用上のご注意	7
1.1.1 本機を使用するにあたって	7
1.1.2 作業をする前に	8
1.1.3 走行する場合には	9
1.1.4 運搬時の注意事項	11
1.1.5 作業中は	13
1.1.6 毎日の作業後は	15
1.1.7 定期点検・整備について	15
1.1.8 電気配線点検時の注意事項	18
1.1.9 格納・保管時は	18
1.1.10 バッテリ取り扱い時の注意事項	19
1.1.11 ブースタケーブル使用時の注意事項	21
1.2 警告ラベルについて	22
1.3 警告ラベル貼付箇所	22

2. 保証とサービスについて	27
----------------------	----

2.1 商品の保証	27
2.2 サービスネット	27
2.3 銘板の位置	27
2.4 補修用部品供給年限について	28

3. 各部の名称とはたらき	29
---------------------	----

3.1 各部の名称	29
3.1.1 本機前方	29
3.1.2 本機後方	30
3.1.3 レバー・ペダル関係	31
3.1.4 スイッチパネル	32
3.1.5 スイッチ関係	33
3.1.6 コンビネーションメータ	35

3.1.7 マルチアイ	36
3.1.8 コントロールボックス	50

4. 作業前点検	59
----------------	----

4.1 運転席に座る前に	59
4.2 運転席に座って	61
4.3 メインスイッチのキーを「入」位置にして	61
4.4 エンジンを始動して	61

5. 運転のしかた	62
-----------------	----

5.1 新車時の取り扱い	62
5.2 運転席の調節のしかた	62
5.3 エンジン始動と停止のしかた	64
5.3.1 エンジン始動のしかた	64
5.3.2 エンジン停止のしかた	67
5.3.3 エア抜きのしかた	68
5.3.4 水抜きのしかた	68
5.4 走行のしかた	70
5.4.1 パワーステアリングレバーの使いかた	71
5.4.2 走行のしかた	71
5.4.3 停車・駐車のしかた	73
5.4.4 駐車ブレーキの解除のしかた	74
5.4.5 チャンバーの開閉のしかた	75
5.5 自動車等への積み・降ろしのしかた	76
5.5.1 トラックの準備	77
5.5.2 自走ロールベアラの積み込みのしかた	77
5.6 DPF装置の取り扱い	79
5.6.1 DPF装置について	79
5.6.2 DPF自動再生について	81
5.6.3 DPF手動再生のしかた	81
5.6.4 DPF再生禁止のしかた	84

6. 作業前の準備 85

6.1 自走ロールベアラの準備 85

6.1.1 注油箇所 85

6.2 ほ場への出入りのしかた 86

6.3 収穫物の拾い上げ 87

6.3.1 ウインドローの作りかた 87

6.4 ピックアップ部の調整 88

6.4.1 ピックアップ部の高さ調整 88

6.4.2 ピックアップ部のロック 88

6.4.3 クロップカバーの調整方法 89

6.5 コントロールボックスの使いかた ... 90

6.5.1 コントロールボックスの使いかた... 90

6.6 ネット交換のしかた 92

6.6.1 ネットの通しかた 92

7. 作業のしかた 94

7.1 ウインドロー拾い上げ作業のしかた... 94

7.1.1 作業手順と要点 95

7.1.2 回行のしかた 96

7.1.3 作業速度の選びかた 97

7.1.4 エンジン回転の合わせかた 97

7.2 ベールの作りかた 98

8. 自動装置について 101

8.1 IQアクセル装置 101

8.1.1 機能について 101

8.1.2 取り扱い時の注意事項 101

8.1.3 操作のしかた 101

8.2 車体水平および平行制御装置 ... 103

8.2.1 機能について 103

8.2.2 取り扱い時の注意事項 103

8.2.3 操作のしかた 104

8.3 刈高さ制御装置 106

8.3.1 機能について 106

8.3.2 取り扱い時の注意事項 106

8.3.3 操作のしかた 106

8.4 バックリフト(自動上昇装置) 108

8.4.1 機能について 108

8.4.2 操作のしかた 108

8.5 センサチェックモード(コンビネーションパネル) ... 109

8.5.1 機能について 109

8.5.2 センサチェックのしかた 109

8.5.3 センサのチェック項目 110

8.6 入力チェックモード(コントロールボックス) ... 111

8.6.1 機能について 111

8.6.2 入力チェックのしかた 111

8.6.3 入力のチェック項目 112

8.7 出力チェックモード(コントロールボックス) ... 113

8.7.1 機能について 113

8.7.2 出力チェックのしかた 113

8.7.3 出力のチェック項目 114

9. メンテナンスモード 115

9.1 メンテナンスモードの選択のしかた... 115

9.1.1 メンテナンスモードの内容 115

9.1.2 各モードについて 115

9.1.3 メンテナンスモードの切替えかた... 116

9.2 エンジン始動設定と始動のしかた... 117

9.2.1 エンジン始動設定のしかた ... 117

9.2.2 エンジン始動設定時のエンジン始動のしかた ... 119

9.3 液晶コントラスト調整のしかた... 121

9.4 メンテナンス情報表示のしかた... 123

9.5 メンテナンス案内について 126

9.6 メーカーセッテイモードについて... 128

9.6.1 メーカーセッテイモードの内容 ... 128

9.6.2 メーカーセッテイモードへの切替えかた ... 128

9.6.3 画面表示の切替えかた 128

9.6.4 設定値の変更のしかた 129

10. 各部の開閉のしかた …… 131

10.1 ラジエータカバー ……	131
10.2 チェンカバー ……	132
10.3 左サイドカバー ……	133
10.4 ベルトカバー ……	134
10.5 右駆動カバー ……	135
10.6 タンクガード ……	136
10.7 ネット駆動カバー ……	137
10.8 キャビンカバー ……	138
10.9 ピックチェンカバー ……	139

11. キャビンについて …… 141

11.1 各部の名称 ……	141
11.2 各部の使いかた ……	142
11.2.1 ドアの施錠・解錠 ……	142
11.2.2 ドアの開けかた ……	143
11.2.3 サイドウィンドウ ……	144
11.2.4 リヤハッチ ……	146
11.2.5 バックミラー ……	147
11.2.6 ルームランプ ……	147
11.2.7 作業灯 ……	148
11.2.8 電源ソケット ……	148
11.2.9 ワイパ・ウォッシャー ……	149
11.2.10 ウォッシャータンク ……	149
11.2.11 CDラジオ ……	150
11.2.12 バックガイドモニター ……	151
11.3 エアコン ……	152
11.3.1 各部の名称 ……	153
11.3.2 エアコン操作パネル ……	153
11.3.3 エアコンの使いかた ……	154

12. 点検整備 …… 157

12.1 定期点検一覧表 ……	158
12.2 燃料給油 ……	161
12.2.1 ディーゼル燃料について ……	162
12.2.2 燃料給油ブザーの使いかた ……	162
12.3 オイルの点検と交換のしかた ……	163
12.3.1 給油一覧表 ……	163
12.3.2 エンジンオイル ……	164
12.3.3 延長フランジオイル ……	166
12.3.4 走行メインギヤケースオイル ……	167
12.3.5 HST入力ギヤケースオイル ……	168
12.3.6 油圧オイル ……	169
12.3.7 逆転ミッションオイル ……	170
12.3.8 チェンオイル ……	171
12.4 グリス注入のしかた ……	174
12.4.1 使用グリス一覧表 ……	174
12.4.2 転輪・イコライザ部・アイドルローラのグリスアップ ……	175
12.4.3 車体水平および平行制御装置軸受のグリスアップ ……	175
12.4.4 ピックアップ部のグリスアップ ……	176
12.4.5 ベーラ部のグリスアップ ……	176
12.4.6 チャンバー部のグリスアップ ……	177
12.5 ベルトの点検と調節のしかた ……	178
12.5.1 ベルトの点検と調節一覧表 ……	178
12.5.2 エンジン出力ベルト ……	180
12.5.3 HSTベルト ……	181
12.5.4 作業ベルト ……	182
12.5.5 ネット用ベルト ……	184
12.5.6 クーラベルト ……	185
12.5.7 ゼネレータベルト ……	186
12.5.8 冷却ファンカウンタベルト ……	187
12.5.9 冷却ファンベルト・逆流ファンベルト ……	188
12.5.10 コンベアベルト ……	189
12.6 チェンの点検と調整のしかた ……	191
12.6.1 チェンの点検と調整一覧表 ……	191
12.6.2 ベーラ駆動チェン ……	192
12.6.3 中間チェン ……	192
12.6.4 タイトチェン ……	193
12.6.5 ピック駆動チェン ……	194

12.7 ワイヤの点検と調整のしかた	195
12.7.1 作業クラッチワイヤ	195
12.8 その他の点検と調整について	196
12.8.1 駐車ブレーキスプリングの点検と調整	196
12.8.2 燃料フィルタの掃除と交換	197
12.8.3 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	198
12.8.4 HSTオイルフィルタカートリッジの交換	199
12.8.5 ブリーザエレメントの交換	199
12.8.6 エアクリーナーとプレクリーナーの掃除と交換	199
12.8.7 燃料ホースの点検と交換	201
12.8.8 ラジエータホースの点検と交換	201
12.8.9 バッテリーの点検と交換	202
12.8.10 ラジエータ・オイルクーラ・燃料クーラの掃除	203
12.8.11 電気配線・ヒューズ関係の点検と交換	204
12.8.12 リレー・ヒューズの点検	206
12.8.13 スローブローヒューズの点検	207
12.8.14 各センサの調整	209
12.8.15 マグネットの配置	210
12.8.16 クローラの点検と調整	211
12.8.17 冷却水の点検と交換	212
12.8.18 エアコン部品の配置	214
12.8.19 フィルタの掃除	215
12.8.20 コンデンサの掃除	216
12.8.21 冷媒量の点検	217
12.8.22 フロン排出抑制法に基づくエアコン機器の簡易点検	218
12.8.23 ネット切断ナイフの点検	218
12.8.24 シェアボルトの点検と交換	219

13. 格納時の手入れ 220

13.1 掃除のしかた	221
13.1.1 掃除箇所	221
13.2 その他の手入れのしかた	222

14. 不調時の診断と処置 223

14.1 異常発生時の処置	223
14.2 異常表示時の処置 (自動制御関係)	229
14.3 エンジン異常コード	230

15. 付表 233

15.1 主要諸元	233
15.2 付属品一覧	234
15.3 推奨潤滑油一覧表	235
15.4 主要消耗品	237
15.5 オプション	241
15.5.1 灰皿	241
15.6 配線図	242
15.6.1 ロールベアラコントロールボックス部	242
15.6.2 ロールベアラ電装配置図	244
15.7 フロン排出抑制法によるお客様点検	245

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意

この自走ロールベアラを正しくお使いいただくために、必要な情報が記載されています。

ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。

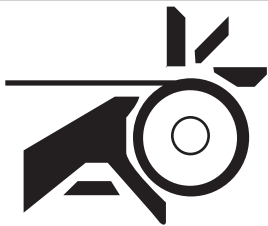
1.1.1 本機を使用するにあたって

警告	こんなときは、運転をしないでください。 ● 18歳未満の人 ● 飲酒したとき ● 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転ができないとき ● 妊娠しているとき ● 取扱説明書を熟知していない人 ※ 守らないと、誤操作しやすく、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	作業に適した服装をしてください。 はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。 ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具等を付けて、だぶつきのない服装をしてください。 ※ 守らないと、本機に巻き込まれたり、滑って転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	本機に運転者以外は、乗せないでください。 本機の乗車定員は、1名です。 運転者以外は、乗車させないでください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	使用目的以外での使用は禁止です。 本機は、稲わら・麦わらのべール結束を目的とした機械です。 他の目的以外で、本機を使用しないでください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	本機を改造しないでください。 ● 指定以外の部品を取り付けたり、本機を改造しないでください。 ● 指定以外のアタッチメントを取り付けたりしないでください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	本機を貸すときは、正しい使いかたを指導してください。 取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず、読むように指導してください。 ※ 守らないと、借りた人が機械の運転に不慣れなため、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1. 使用上のポイント

1.1.2 作業をする前に

! 危険	燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 くわえタバコやマッチ・ライター等の裸火照明は、絶対にしないでください。 ※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。	
	本機を常にきれいにしてください。 エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリー等に溜っている枯草等を、きれいに取り除いてください。 ※ 守らないと、思わぬ火災の原因となります。	
	マフラの排気口が泥で詰まるような湿田のほ場では作業をしないでください。 拾い上げ作業を行うとき、ほ場が湿田の場合は状態をよく確認して、泥が排気管内に侵入しないようにしてください。 ※ 守らないと、火災が発生するおそれがあります。	
	ワラくずや枯れた雑草の上に機械を停車しないでください。 ※ 守らないと、ワラくずや枯れた雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。	
! 警告	閉め切った屋内等では、エンジンを始動しないでください。 エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。 ※ 守らないと、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。	
	自走ロールベアラを発進させるときは、前後、左右の状況を確認し、自走ロールベアラの近辺に人を近づけないでください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	注油・給油をするときは必ず、エンジンやその他の駆動部が、完全に停止してから行ってください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

！ 警告	こぼれた燃料は、ふき取ってください。 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。 ※ 守らないと、思わぬ火災の原因となります。	
	駐車ブレーキのききや各レバー類の動作の点検を行ってください。 駐車ブレーキのきき具合や、各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ガタがある場合は、必要な処置をしてください。 ※ 守らないと、正常な走行ができず、傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。	
	始業時・終了時は必ず、点検・整備を行ってください。 ※ 守らないと、傷害事故や、機械の故障を引き起こすおそれがあります。	
	無理・無駄のない、ゆとりある作業計画をたててください。 ※ 守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
！ 注意	保護カバー類が取り付けであるか確認してください。 取り外されているときは、必ず取り付けてください。 ※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1.1.3 走行する場合には

！ 危険	自走ロールベアラを排かんくずや枯れた雑草の上に駐停車したまま、空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしたりしないでください。 ※ 守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、排かんくずや枯れた雑草に着火し火災の原因になります。	
！ 警告	運転者は、運転席に座って運転してください。 ※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	運転席には、運転者以外は乗せないでください。また、機体の上には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。 ※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1. 使用上のポイント

警告

エンジンを始動するときは、各レバーを「切」位置にし、主変速レバーを「中立」(「N」)位置にして、周囲の人に合図をして、安全を確認してから、エンジンを始動してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



寒冷時には必ず暖気運転を行ってください。寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから暖気運転(約10~15分)を必ず行ってください。

※ 守らないと、駐車ブレーキワイヤ等が凍結して、誤作動する可能性があります。

スピードの出しすぎや、急な発進・停止・旋回は事故の原因となるだけではなく、本機の寿命を縮めますので、行わないでください。また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険ですので、作業スピードを極力低くして、作業を行ってください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落等の傷害事故を引き起こすおそれがあります。



非常の場合を除いて、走行中や作業中の自走ロールベアラに飛び乗ったり、飛び降りたりしないでください。

※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

農道では、路肩に注意してください。側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときには、速度を落として十分注意して走行してください。

※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

あぜを横断するときは、ピックアップ部を最上げにしロックして、あぜと直角にゆっくり走行してください。

あぜの高さが高いところ(段差が10cm以上)でのほ場の出入りでは必ず、アユミ板を使用してください。

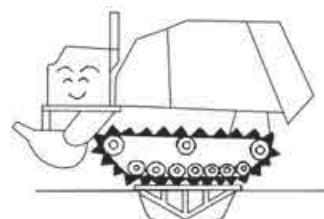
あぜを横断する前に、成形室内のベールを放出してください。

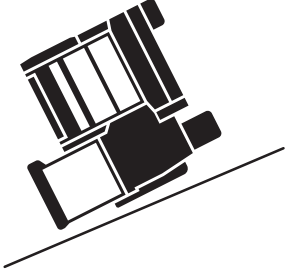
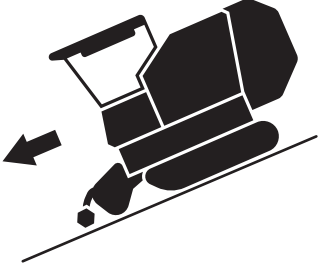
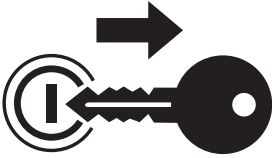
※ 守らないと、バランスが崩れて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



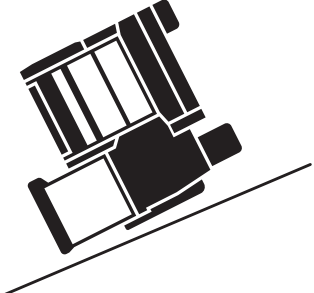
溝を横断したり軟弱な場所を通るときは、スリップや転倒事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、滑り止めのある、基準に合ったアユミ板を使用し、最低速度で通過してください。

※ 守らないと、バランスが崩れて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



! 警告	坂道では、必ず低速で走行し、急な旋回をしないでください。 ※ 守らないと、転倒・転落事故の原因になります。	
	坂道では、駐車しないでください。 やむをえず、坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。 ※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、事故の原因になります。	
	坂道では、副変速レバーを操作しないでください。 ※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、事故の原因になります。	
	自走ロールベアラを離れるときは、平たんな場所に駐車し、ピックアップ部を最下げにしてエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いてください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1.1.4 運搬時の注意事項

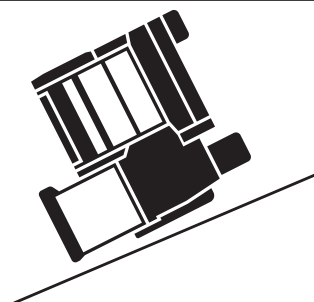
! 警告	本機で、公道走行をすることはできません。 ● 本機で公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。 ● 公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。 ※ 守らないと、法令により処罰されます。	
	アユミ板の上では、パワーステアリングレバーでの進路変更や、副変速レバー、駐車ブレーキペダルの操作をしないでください。 ※ 守らないと、転倒・転落事故の原因になります。	

1. 使用上のポイント



積み降ろしを行うときは、周囲に危険のない平坦で地面の硬い場所を選んでください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因になります。



トラックを使用して積み降ろしを行うときは、トラックのエンジンを停止し、変速を「1 速」または「R」位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。

※ 守らないと、積み降ろし時、トラックが動いて転落事故の原因になります。



● 積み降ろしは、直進性を見定めて、積むときは「前進」、降ろすときは「後進」で、副変速を「低速」にしてゆっくり行ってください。

● アユミ板は、強度、幅、長さが十分あり、滑り止めの付いた、基準に合ったものを使用し、自走ロールペーラの重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。

● アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実にかけてください。

● 万一来て、自走ロールペーラの周りには人を近づけないでください。

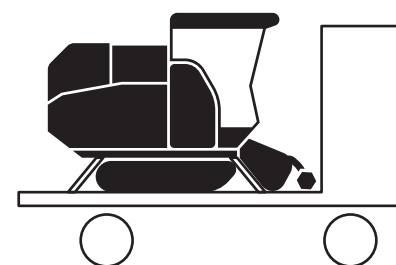
※ 守らないと、転落事故の原因になります。



● トラックで運搬するときは、必ず自走ロールペーラに駐車ブレーキをかけ、ロープ等で荷台に固定してください。

● 運搬中は不用意な急発進、急旋回、急停車をしないでください。

※ 守らないと、自走ロールペーラが動き出し、転落事故の原因になります。



自動車等で運搬するときは、カバー類の取り付けを確実に行ってください。

また取扱説明書の「自動車等への積み・降ろしのしかた」を遵守してください。(76 ページ)

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

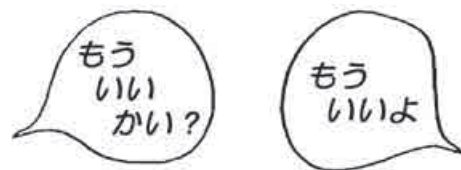
1.1.5 作業中は

 危険	作業中は、周りの人（特に子供）に注意してください。 ● 作業中は、作業員以外の人を本機に近づけないでください。 ● 作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	チャンバーを開けて掃除や点検等をするときは必ず、シリンダストッパを、左右ともにセットしてください。 ※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。	
	回転部や作業部、マフラ・ラジエータ・エンジン等の高温部、バッテリー端子等の通電部に、手や足で絶対に触れないでください。 ※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。	
	後進して作業をするときは、後方に障害物のないことを十分に確認し、本機と障害物の間に人や、動物をはさまないようにしてください。 ※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。	
	バールの放出は、後方に人や障害物がないことを十分に確認して、放出距離を考慮して放出してください。 ※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。	
 警告	乾燥火災に、注意してください。 ● 乾燥不十分な材料をバールで成形すると、バール内部からの発火により、火災が発生する危険性があります。 ● バール成形後2～3日間は、風通しのよい屋外に仮置きしたのち、屋内に収納してください。 ※ 守らないと、火災につながるおそれがあり危険です。	

1. 使用上のポイント

警告

2人以上で作業するときは、お互いに声をかけ合い、安全を確認しながら、作業を行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ドアを開放したまま作業しないでください。
※ 守らないと、作業中の衝撃等により、不意にドアが閉まって手や身体がはさまれるおそれがあります。

自走ロールベアラを発進するときは、周囲の状況を確認し、近辺に人を近づけないようにして、ゆっくり発進してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

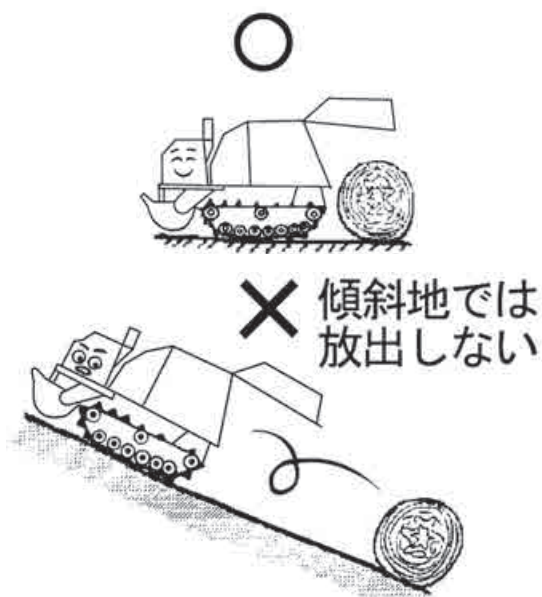
作業途中で、運転席より離れる場合やシェアボルトの交換・巻き付き草等を取り除くときは、平坦な場所に停止し、各レバーを「切」位置にし、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。
※ 守らないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常と思ったらエンジンをすぐに停止してください。駐車ブレーキをかけて、作業関係のレバーをすべて「切」位置にしてから点検をしてください。
※ 守らないと、思わぬ破損、傷害事故になります。

夜間作業は、行わないでください。
やむをえず、作業が夜間におよぶときには、あたりが暗くなってきたら、早めに作業灯を点灯してください。
※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

傾斜地で作業をする場合は、つぎの事柄を必ず、守ってください。

- 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると、横転する危険があります。
斜面での作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。
 - 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。
 - 本機を駐車する場所は、平坦で広い地面の硬い場所を選んでください。やむをえず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
 - 傾斜地でのベール放出は、谷側にベールが転がって危険です。必ず、平坦地まで移動して、安全な場所で放出してください。
- ※ 守らないと、横転したり、ベールに巻き込まれる等の傷害事故を引き起こすおそれがあります。





長時間作業する場合は、2 時間に 1 度、15 分程度の休憩をとるようにしてください。
また、必要に応じて聴覚保護具を着用してください。
※ 守らないと、健康を害するおそれがあります。

1.1.6 毎日の作業後は



エンジン本体、マフラ周辺、ベルトおよびブリー周辺、バッテリー周辺に溜っているワラくずは、きれいに取り除いてください。
※ 守らないと、火災の原因となります。



1.1.7 定期点検・整備について



高温部の点検・整備は、十分冷えてから行ってください。
● エンジン停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の高温部が十分に冷えてから行ってください。
● ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後、十分冷えてから注意して開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



カバー類は必ず、取り付けてください。
● カバー類等の防護装置を取り外す場合は必ず、各レバーを「切」位置にし、エンジンやその他の駆動部が、完全に停止してから行ってください。
● 取り外したカバー類は必ず、元通りに取り付けてください。
※ 守らないと、本機に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1. 使用上のポイント

警告

高圧油に、注意してください。

- 油圧がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、高圧油による傷害を防止するため、配管・ホース等の取り出し前には必ず、残圧を抜いてください。
- 圧力をかける前に配管・ホース等は、正しく確実に締め付けてください。
- 非常に小さな穴からの油もれは、ほとんど目に見えないことがあります。
- 手で油もれを探すことは、やめてください。必ず、保護メガネをかけ、紙等を使用して調べてください。
- 万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すみやかに医療機関を受診してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



高温油に、注意してください。

- 高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換は、しないでください。温度が十分下がった状態で、作業をしてください。
- やけどやケガを負った場合は、すみやかに医療機関を受診してください。

※ 守らないと、やけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ナイフには、十分注意してください。

ナイフ類は、絶対に素手で触れないで、必ず、手袋等の保護具を着用してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



燃料パイプの破損や、燃料もれがないか必ず、点検してください。

※ 守らないと、やけどや火災の原因になります。

ピックアップ部を上げて点検・整備する場合には、必ず、ロックスイッチを「ロック」位置にしてください。ピックアップ部の下には木片、ブロック等のしっかりした台を敷いて固定してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐車ブレーキや操作レバー・スイッチ類は、必ず点検整備をしてください。

駐車ブレーキや各操作レバー類に、著しいガタや遊びがないか点検し、ガタある場合は、必要な処置をしてください。

※ 守らないと、正常な走行ができず、傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

警告

高い場所の整備や手入れを行う場合は、脚立等を使用してください。

※ 守らないと、高いところから落ちてケガをするおそれがあります。

1年ごとの定期点検・整備をしてください。

整備不良による不具合や事故を防止するため、1年ごとに定期点検・整備を受け、本機が最良の状態で作業ができるようにしてください。

※ 守らないと、傷害事故や機械の故障を引き起こすおそれがあります。



点検・整備・掃除をするときは、つぎの事柄を必ず、お守りください。

● 点検・整備は明るく、地面が平坦で硬く、広い場所を選び、ピックアップ部を最下げにし、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。

● 各レバーを「切」位置にし、エンジンやその他の駆動部が、完全に停止してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



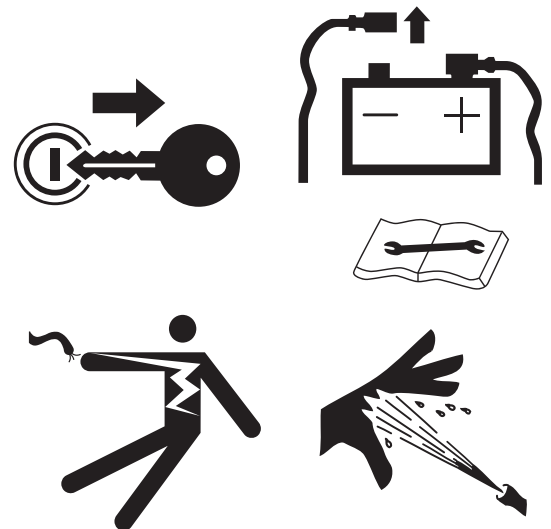
コモンレール仕様エンジンには、高電圧、また、高圧力の燃料が通る部分があります。

● 掃除や点検時、エンジンの電気部品や配線に触れるときは、メインスイッチのキーを抜き、バッテリーコードを外して行ってください。

● エンジンの高圧力の燃料が通る部品は分解や修理を行わないでください。また、周辺のボルト、ナット類も緩めないでください。高圧力の燃料が通るのは高圧ポンプからインジェクタの間です。

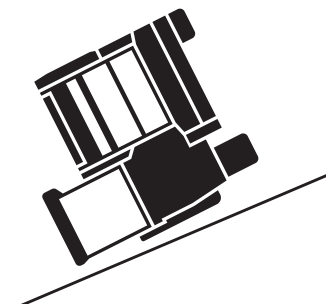
● エンジンの点検および修理は、必ずお買い上げ先にご相談ください。

※ 守らないと、感電したり高圧燃料のもれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。



左右ブレーキのきき具合が異なるときは、ただちに使用を中止し、点検整備をお買い上げ先に依頼してください。

※ 守らないと、死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1. 使用上のポイント

！ 注意	オイル交換時は、つぎの事柄に注意してください。 ● 本機から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。 ● 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。 ● 廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。 ※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながります。守らないと、法令により処罰されることがあります。	
-------------------------------	---	--

1.1.8 電気配線点検時の注意事項

！ 危険	バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラକୁズ・ゴミ等は、きれいに取り除いてください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
！ 危険	配線の端子や接続部の緩み、および配線の損傷は、早めに交換・修理してください。 ※ 守らないと、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電し、火災・傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
！ 警告	電気配線の点検は、必ず、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。 ※ 守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
！ 注意	接続部の点検は、メインスイッチを「切」位置にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。 ※ 守らないと、スパーク（火花がとぶ）・感電し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1.1.9 格納・保管時は

！ 危険	長期格納するときは、本機を掃除し、回転部には十分注油して、屋内の平たんな場所に保管してください。 ※ 守らないと、火災の原因や傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
-------------------------------	--	---

危険	長期格納する場合は、バッテリーコードを取り外してください。 取り外すときは⊖コードから取り外してください。 ※ 守らないと、ネズミ等がかじったとき、コードがショートして発火し、火災の原因になります。	
	● 長期格納するときは、燃料タンクを満タンにして錆や水の発生を防いでください。 ● 燃料パイプの破損や、燃料もれがないか必ず点検してください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
	マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺に溜っているワラくずは、きれいに取り除いてください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
警告	機体カバーは、エンジン、排気管等の高温部が十分冷めたことを確認してからかけてください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
	取扱説明書に従って、定期点検を実施してください。 ※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	点検・整備は、適正な工具を正しく使用してください。 また、点検・整備に必要な工具類を常備してください。 ※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	格納時は、メインスイッチのキーを抜いてください。キャビン型式は、ドアの施錠を確実に行ってください。 ※ 守らないと、機械の盗難やいたずら等で重大な事故を引き起こすおそれがあります、	

1.1.10 バッテリー取り扱い時の注意事項

危険	● ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。 ● バッテリーは、充電中に可燃性ガスが発生します。充電中は、タバコや火気を近づけないでください。 ● バッテリーの充電は、通風のよいところで行ってください。 ※ 守らないと、引火爆発の原因になります。	 
-----------	---	--

1. 使用上のポイント

危険	バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。 ● バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。 ● もし、目・皮膚・服に付いたときは、ただちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、すみやかに医療機関を受診してください。 ※ 守らないと、失明ややけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	バッテリーの交換は、指定された型式のバッテリーを使用してください。 ※ 守らないと、ショートして、やけどや火災の原因になります。	
	バッテリーの液量が、バッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電しないでください。 ※ 守らないと、バッテリーが爆発してやけどや火災の原因になります。	
注意	バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。 ※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	バッテリーの取り付け・取り外しは、正しい手順で行ってください。 ● バッテリーの取り外しは⊖コードを取り外したあと、⊕コードを取り外してください。 ● 取り付けは⊕コードを取り付けたあと、⊖コードを取り付けてください。 ※ 守らないと、ショートやスパークして、やけどや火災、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	バッテリーコードは、メインスイッチを「切」にし、3分以上たってから外してください。 ※ 守らないと、エンジンその他装置の故障の原因になります。	

1.1.11 ブースタケーブル使用時の注意事項



バッテリーの液量が規定範囲外の場合は接続しないでください。

※ 守らないと、引火爆発の原因になります。



バッテリーにタバコ等の火気を近づけたり、ショートやスパークをさせたりしないでください。

※ 守らないと、引火爆発の原因になります。



● 接続するバッテリーは、必ず 12V を使用してください。

● 自走ロールベアラ側の⊖端子にブースタケーブルを接続しないでください。

バッテリーから離れているエンジン本体の金属部分に接続してください。

※ 守らないと、スパークが発生し、引火爆発の原因になります。



ブースタケーブルは、バッテリーの通電容量に適合したものを使用してください。

※ 守らないと、ブースタケーブルの焼損等による火災の原因になります。

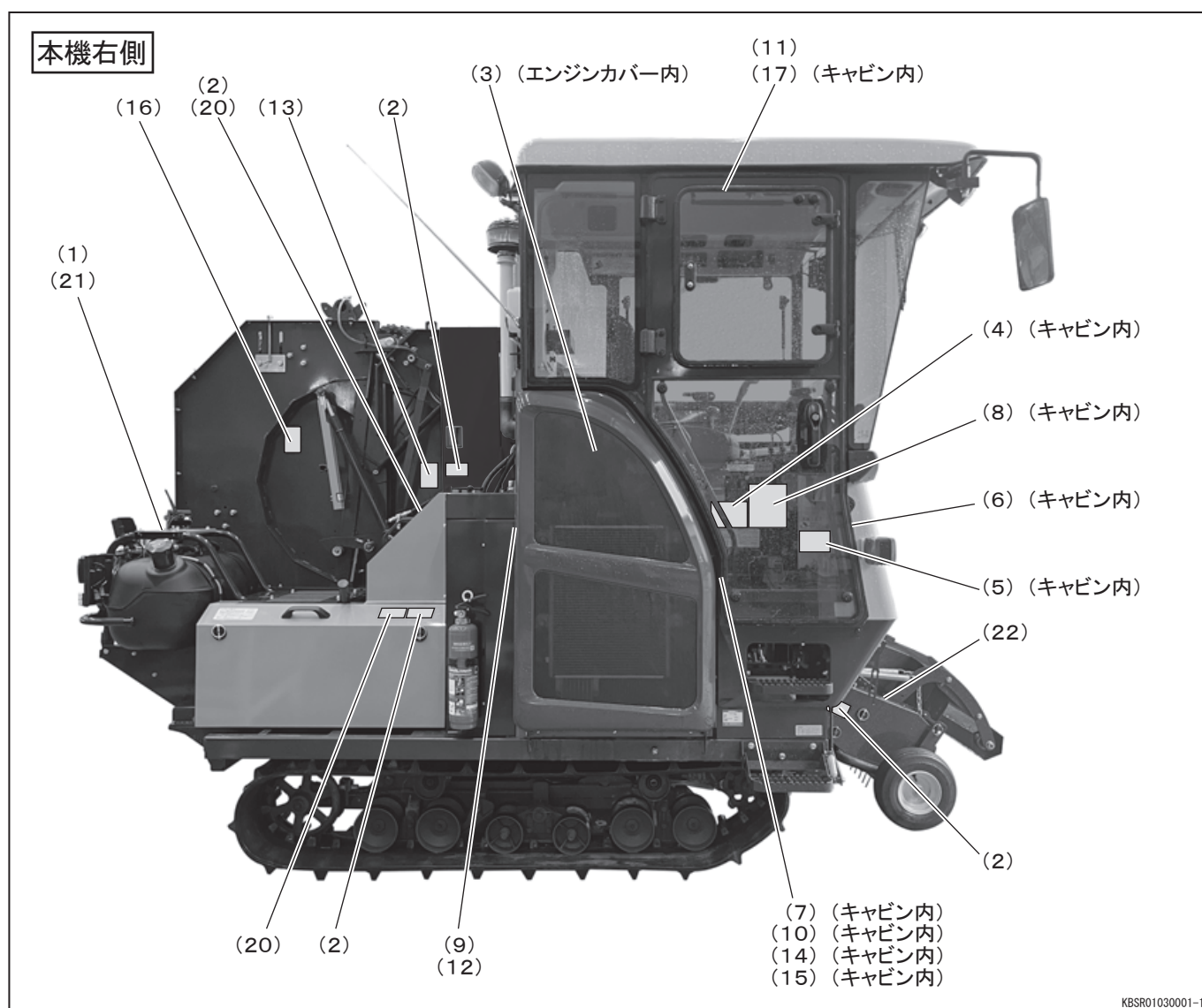


1. 使用上のポイント

1.2 警告ラベルについて

- この自走ロールベアラには、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破れたり、剥がれたり、読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 高圧洗浄機等で、洗車すると、警告ラベルが剥がれるおそれがあります。圧力水を直接警告ラベルにかけないでください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルもお買い上げ先へ注文してください。

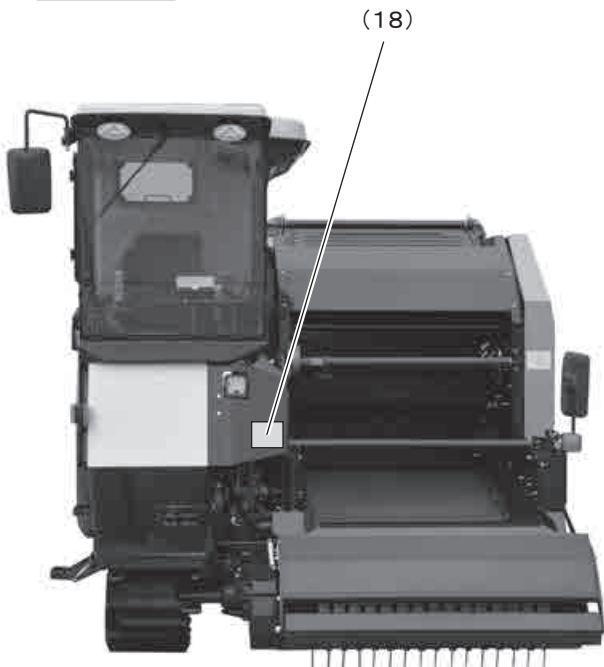
1.3 警告ラベル貼付箇所



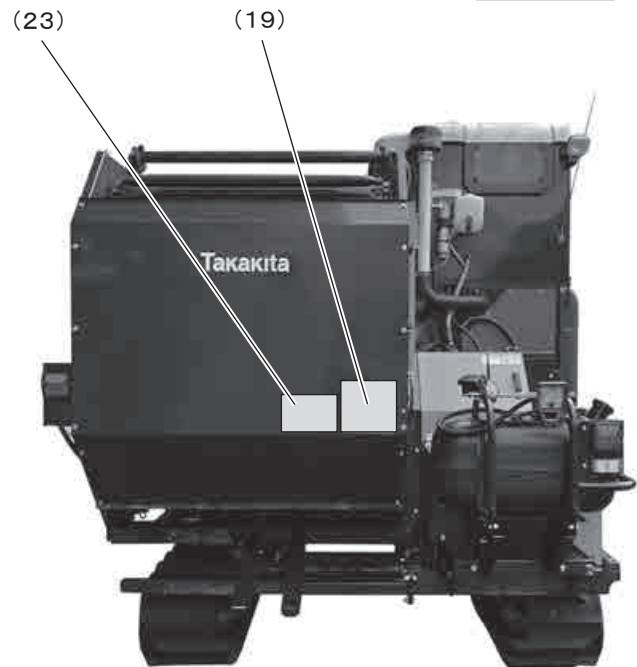
本機左側



本機前方

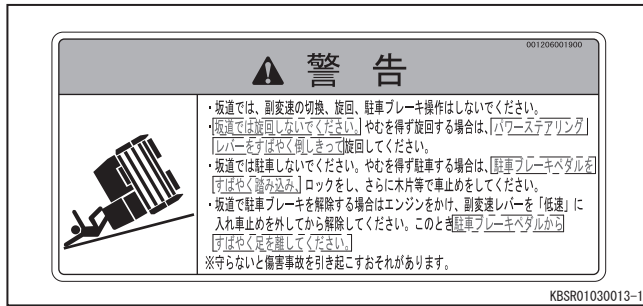


本機後方



KBSR01030002-1

(11) 00120-6001-900 警告



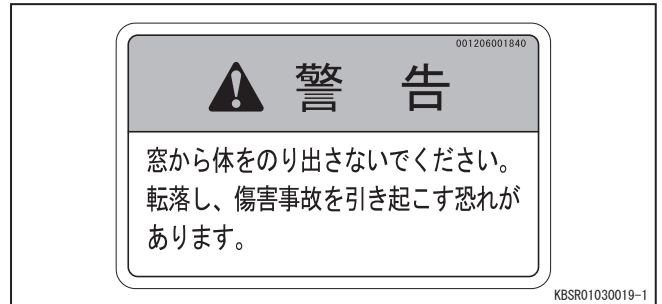
(16) 00120-6001-440 注意



(12) 3888-901-001-0 警告



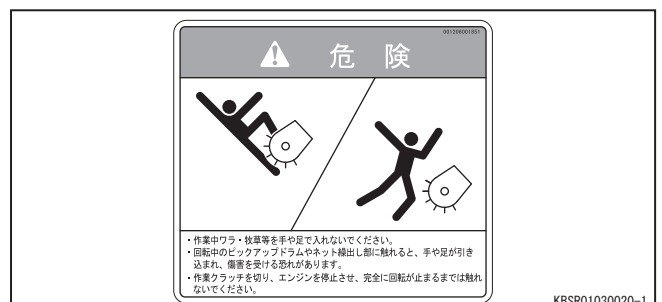
(17) 00120-6001-840 警告



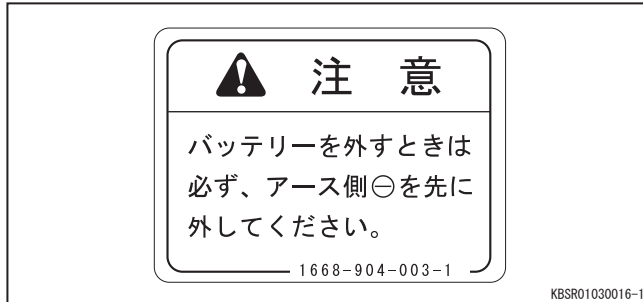
(13) 00130-6000-190 注意



(18) 00120-6001-851 危険



(14) 1668-904-003-1 注意



(19) 00120-6001-780 危険



(15) 1668-904-011-3 危険



(20) 00120-6001-690 注意



1. 使用上のポイント

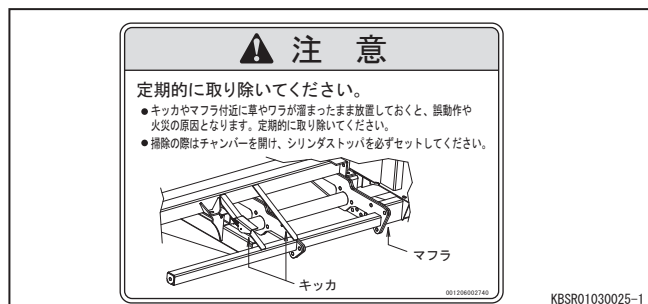
(21) 00120-6002-670 警告



(22) 00130-6000-080 警告



(23) 00120-6002-740 注意



2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

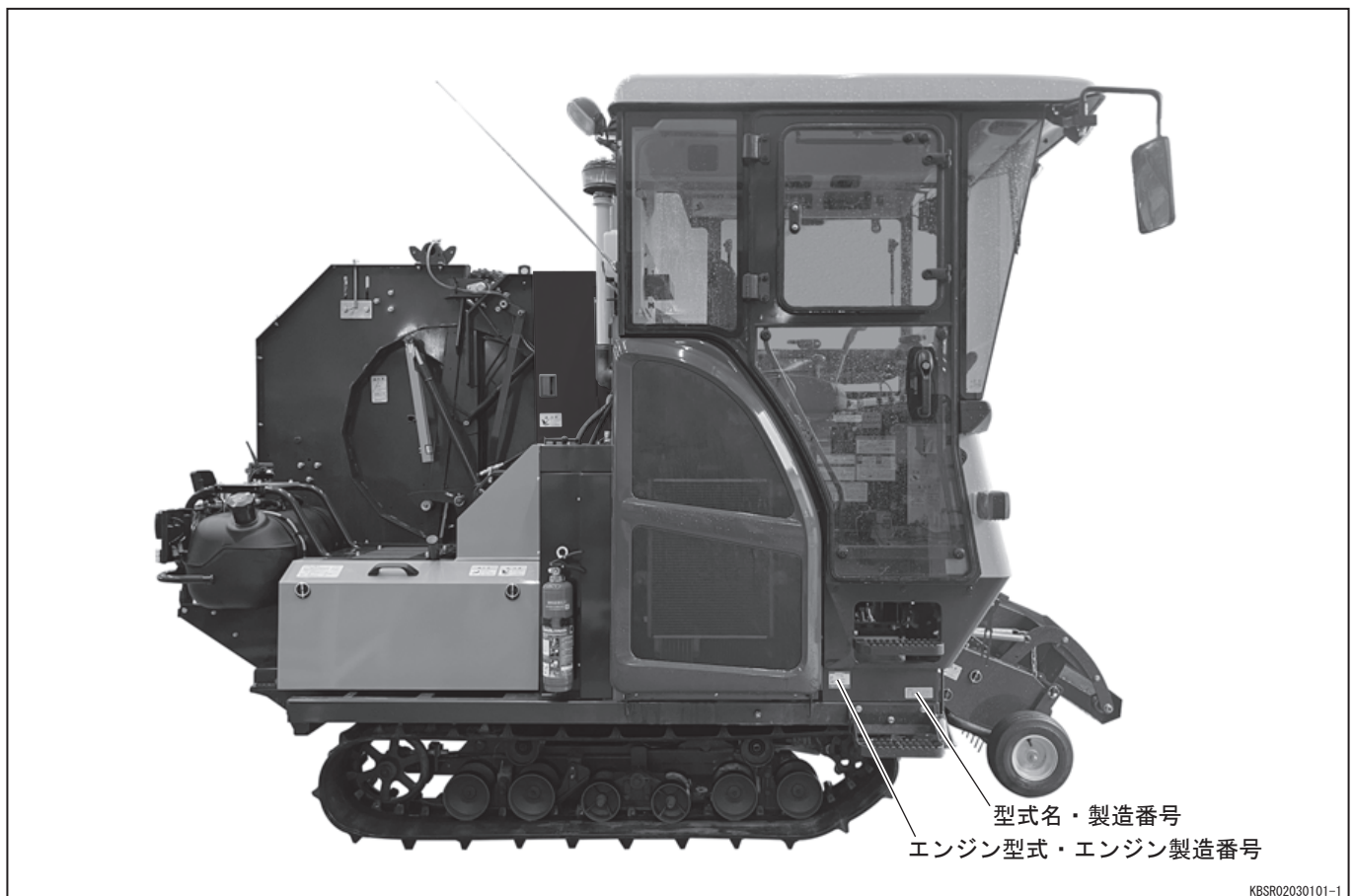
この自走ロールベアラ（商品）には、『保証書』が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。
その際、つぎの内容をあわせてご連絡ください。

- (1) 型式名と製造番号
- (2) エンジン型式とエンジン製造番号

2.3 銘板の位置



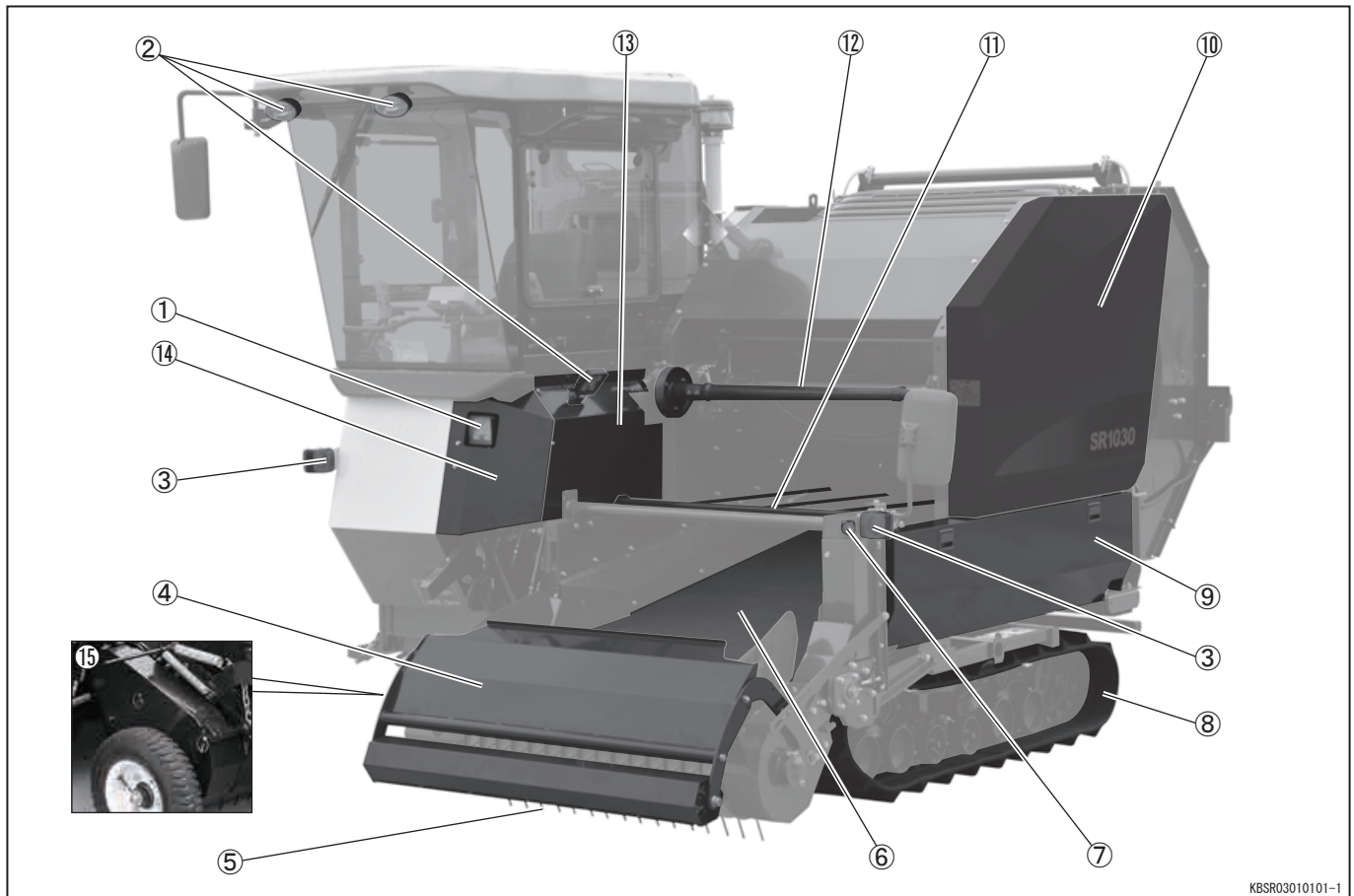
2.4 補修用部品供給年限について

- この自走ロールベアラの補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合があります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

3.1.1 本機前方

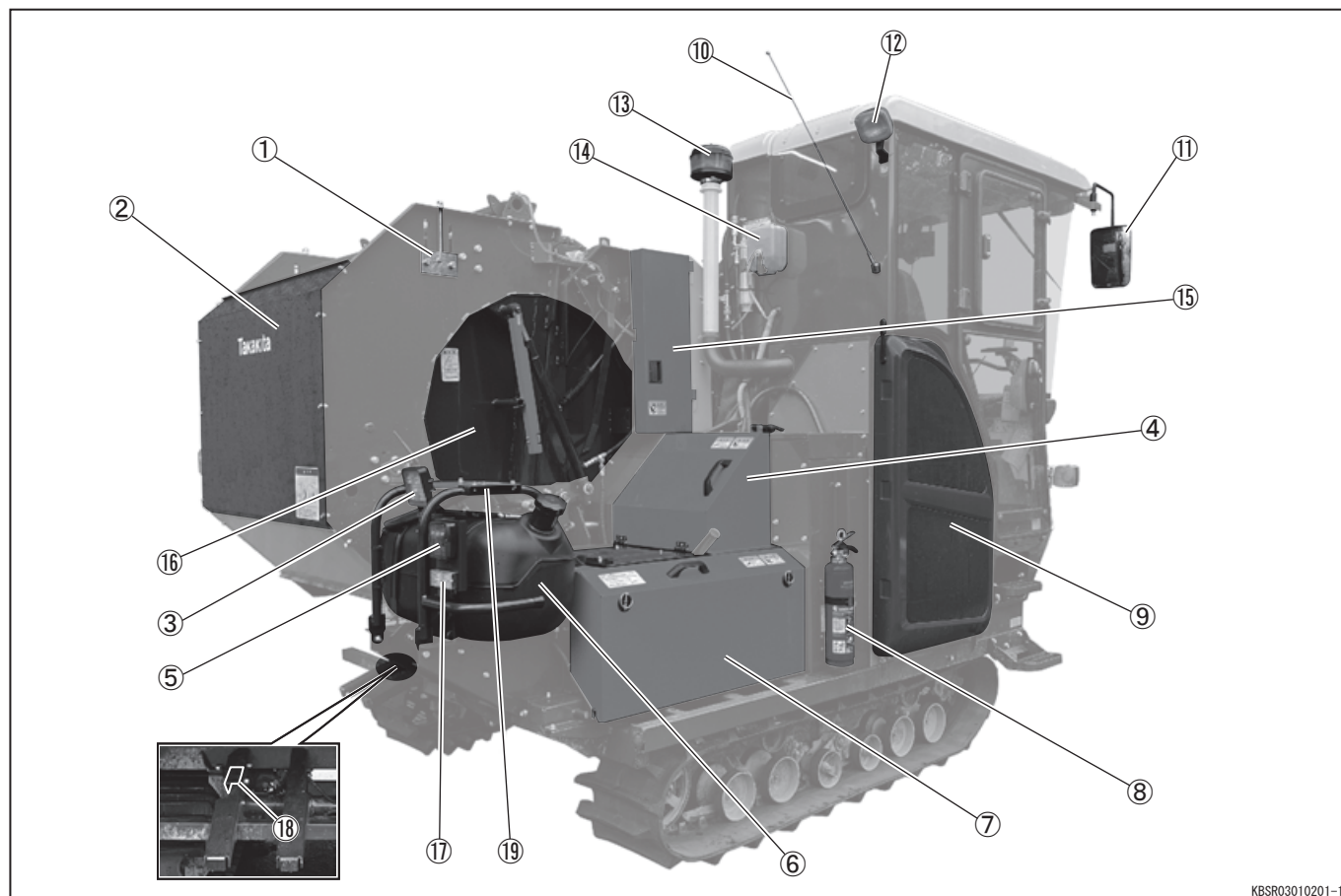


KBSR03010101-1

番号	名称	はたらき
①	前照灯	ヘッドライトのスイッチを入れると前方を照らします。
②	作業灯	スイッチを入れると点灯します。
③	方向指示器（左右に各 1 個）	スイッチを入れると点滅します。
④	クロープカバー	材料が飛び散らないようにします。（89 ページ）
⑤	ピックアップ	材料を拾い上げます。
⑥	搬送ベルト	材料を成形室に送り込みます。
⑦	非常停止スイッチ	外部からエンジンを停止させます。
⑧	クローラ	ゴム製の走行履帯です。
⑨	チェンカバー	（132 ページ）
⑩	左サイドカバー	（133 ページ）
⑪	プレスバー	材料の搬送を補助します。
⑫	ネット装置	バールの結束を行います。
⑬	キャビンカバー左	（138 ページ）
⑭	キャビンカバー前	（138 ページ）
⑮	ピックチェンカバー	（139 ページ）

3. 各部の名称とはたらき

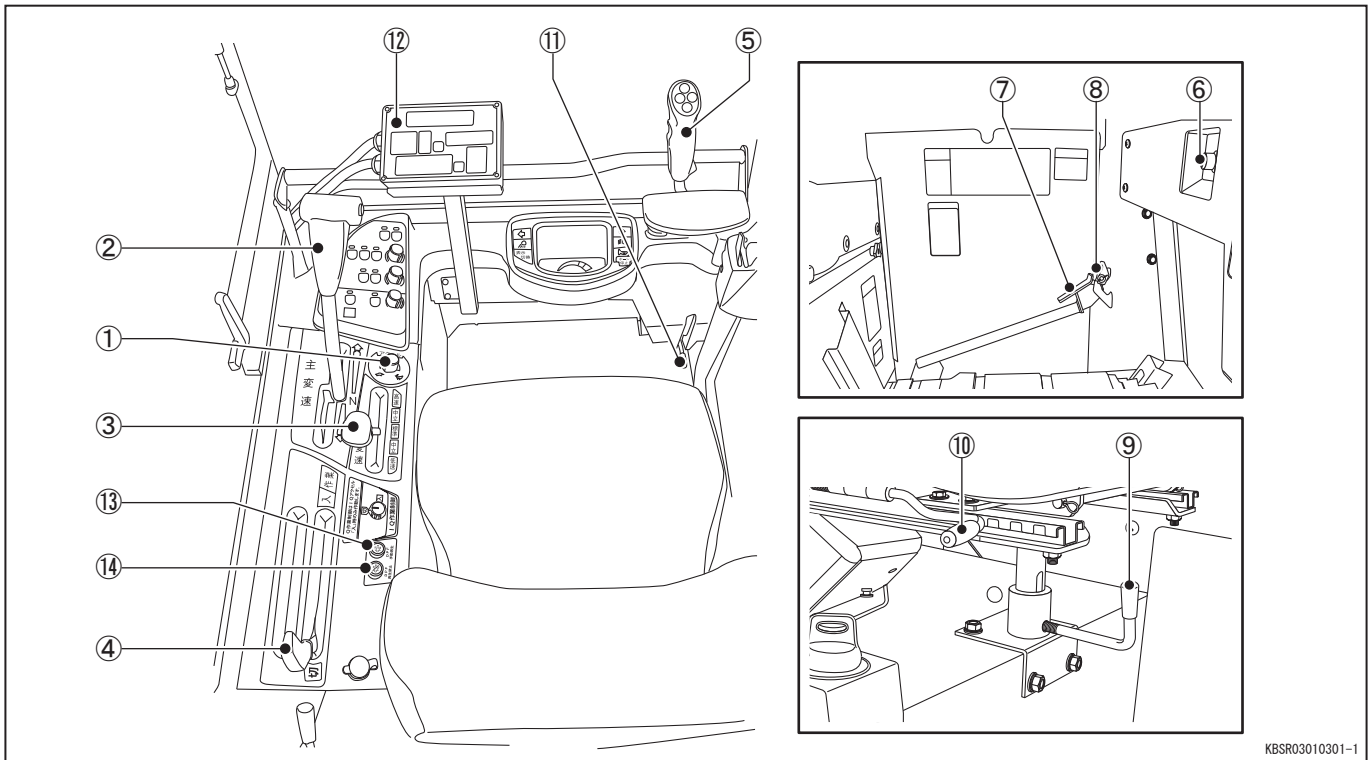
3.1.2 本機後方



KBSR03010201-1

番号	名称	はたらき
①	タイトチェーンテンショナー (左右に各 1 個)	タイトチェーンの張りを調整します。
②	リヤチャンバー	でき上がったベールを放出します。
③	作業灯／リヤカメラ	スイッチを入れると点灯します。/ 作業機の後方、ベール放出の映像をモニターに映します。
④	右駆動カバー	(135 ページ)
⑤	テールランプ (左右に各 1 個)	方向指示器・ブレーキランプ・尾灯が一体になっています。
⑥	燃料タンク	燃料 (軽油) を 55L 入れることができます。
⑦	ベルトカバー	(134 ページ)
⑧	消火器	—
⑨	ラジエータカバー	(131 ページ)
⑩	アンテナ	伸縮させてラジオの受信感度を調整します。
⑪	バックミラー (左右に各 1 個)	左右側面の視界を映します。
⑫	作業灯	スイッチを入れると点灯します。
⑬	プレクリーナー	エアクリーナーにゴミが入らないようにします。
⑭	ウォッシャータンク	ウォッシャー液が入っている容器です。
⑮	ネット駆動カバー	(137 ページ)
⑯	成形室	材料を円筒型に圧縮します。
⑰	バックランプ	後進時に点灯します。
⑱	キッカーアーム	ベールが放出されたことを検出します。
⑲	タンクガード	(136 ページ)

3.1.3 レバー・ペダル関係

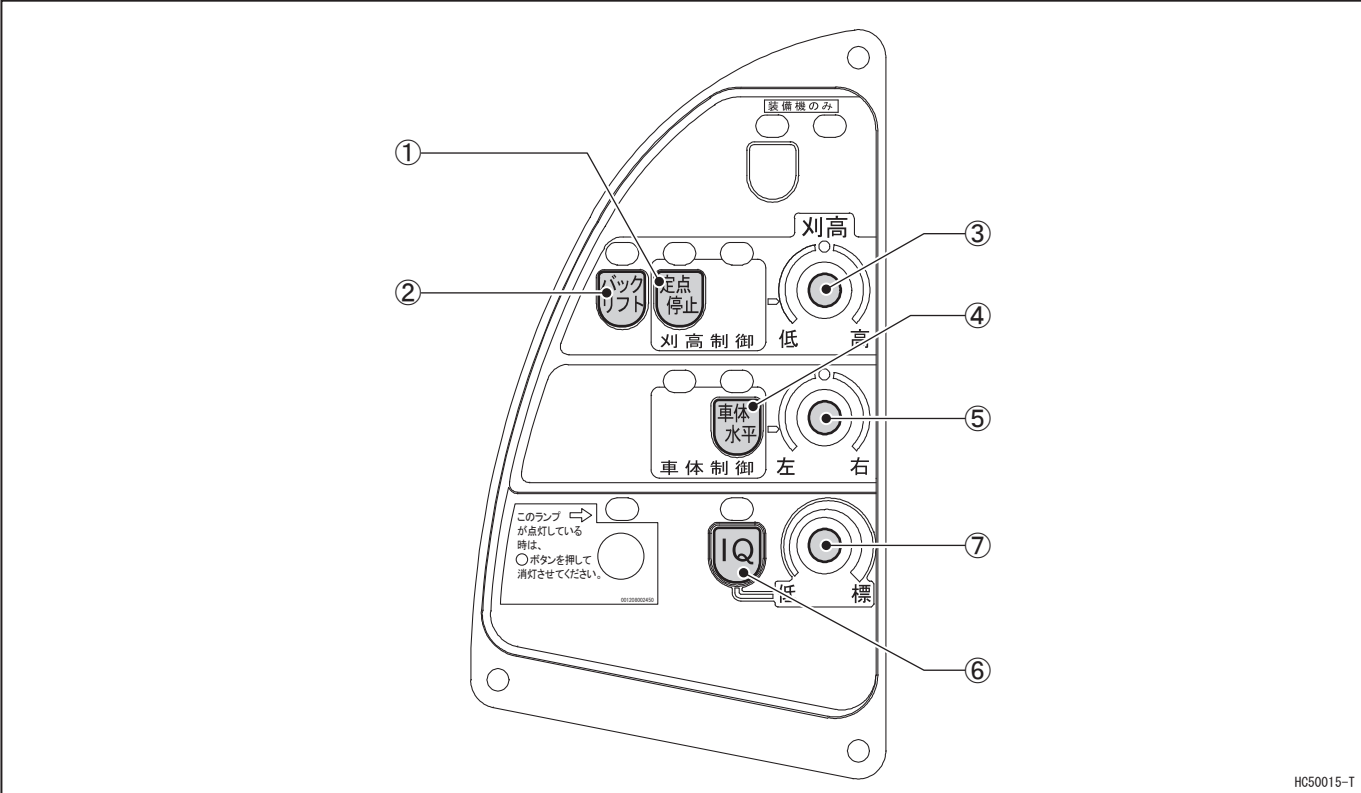


KBSR03010301-1

番号	名称	はたらき
①	アクセルダイヤル	エンジンの回転を調節します。ダイヤルを右に回すとエンジン回転が上がり、ダイヤルを左に回すとエンジン回転が下がります。
②	主変速レバー	前進と後進の切替えと同時に车速の調節をします。レバーを前方向に動かすと前進、後方に動かすと後進し、レバーを動かす量で速度が無段に変わります。
③	副変速レバー	走行と作業速度の切替えをします。移動走行のときには「高速」位置、作業をするときには「標準」位置または「低速」位置にします。
④	作業クラッチレバー	レバーを「入」位置にするとロールベアラ部が回転します。
⑤	パワーステアリングレバー	レバーを前後に操作すると、ピックアップ部が上下し、左右に操作すると、倒し量に応じて機体の方向修正と、旋回をすることができます。
⑥	作業ロックノブ	ノブを「ロック」側にすると、ピックアップ部は下がりにません。
⑦	駐車ブレーキペダル	ロックするまで踏み込むと駐車ブレーキがかかります。
⑧	ロック解除ペダル	踏み込むと駐車ブレーキペダルのロックが解除されます。
⑨	シートロックレバー	レバーを緩めると、シートを上下できます。
⑩	シート前後位置調節レバー	レバーを引き上げると、シートを前後に調節できます。
⑪	乗降ステップレバー	乗降ステップの乗降位置と収納位置との切替えをします。乗降時には、レバーを下げ、乗降位置にします。
⑫	コントロールボックス	結束作業の調整・制御をすることができます。
⑬	DPF 手動再生スイッチ	DPF 手動再生を開始するときに使用します。
⑭	DPF 再生禁止スイッチ	DPF の再生を禁止するときに使用します。

3. 各部の名称とはたらき

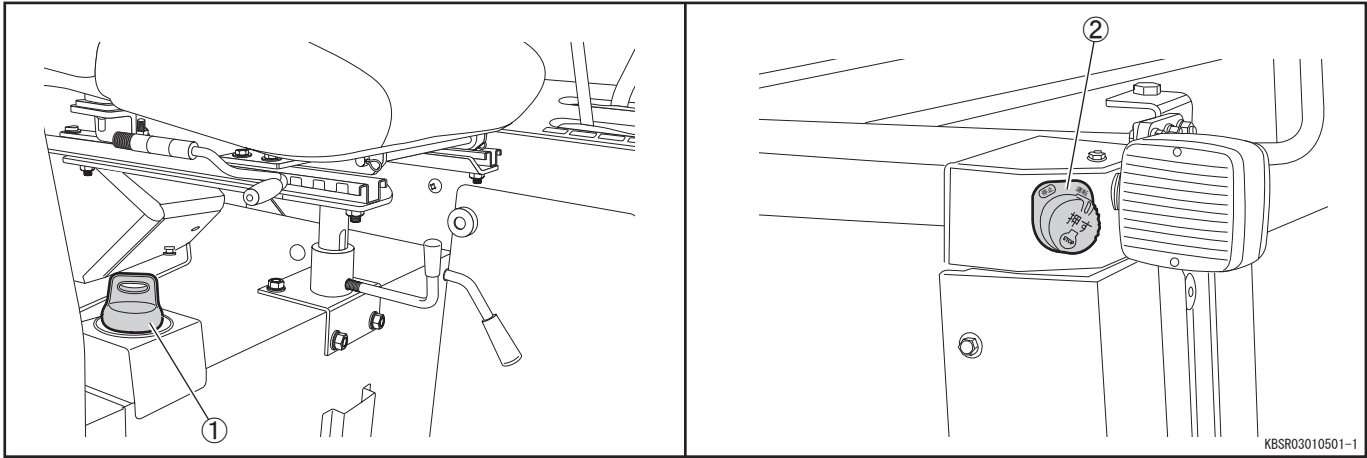
3.1.4 スイッチパネル



番号	名称	はたらき
①	定点停止スイッチ	スイッチを「入」にすると、ピックアップ部の高さを刈高さ設定ダイヤルでセットした高さに制御します。
②	バックリフトスイッチ	スイッチを「入」にすると、後進時にピックアップ部を自動的に一定量上昇させます。
③	刈高さ設定ダイヤル	ピックアップ部の高さを調整することができます。
④	車体水平スイッチ	スイッチを「入」にすると、左右方向の傾斜を自動的に修正し、機体を水平に保ちます。
⑤	車体傾斜調整ダイヤル	車体水平制御中の車体の左右傾きを調整することができます。
⑥	IQ アクセルスイッチ	スイッチを「入」にすると、移動走行、ロールベアラ作業に適したエンジン回転数に制御します。
⑦	IQ アクセルダイヤル	IQ アクセルの制御回転を調整することができます。

3.1.5 スイッチ関係

◆ メインスイッチ・非常停止スイッチ



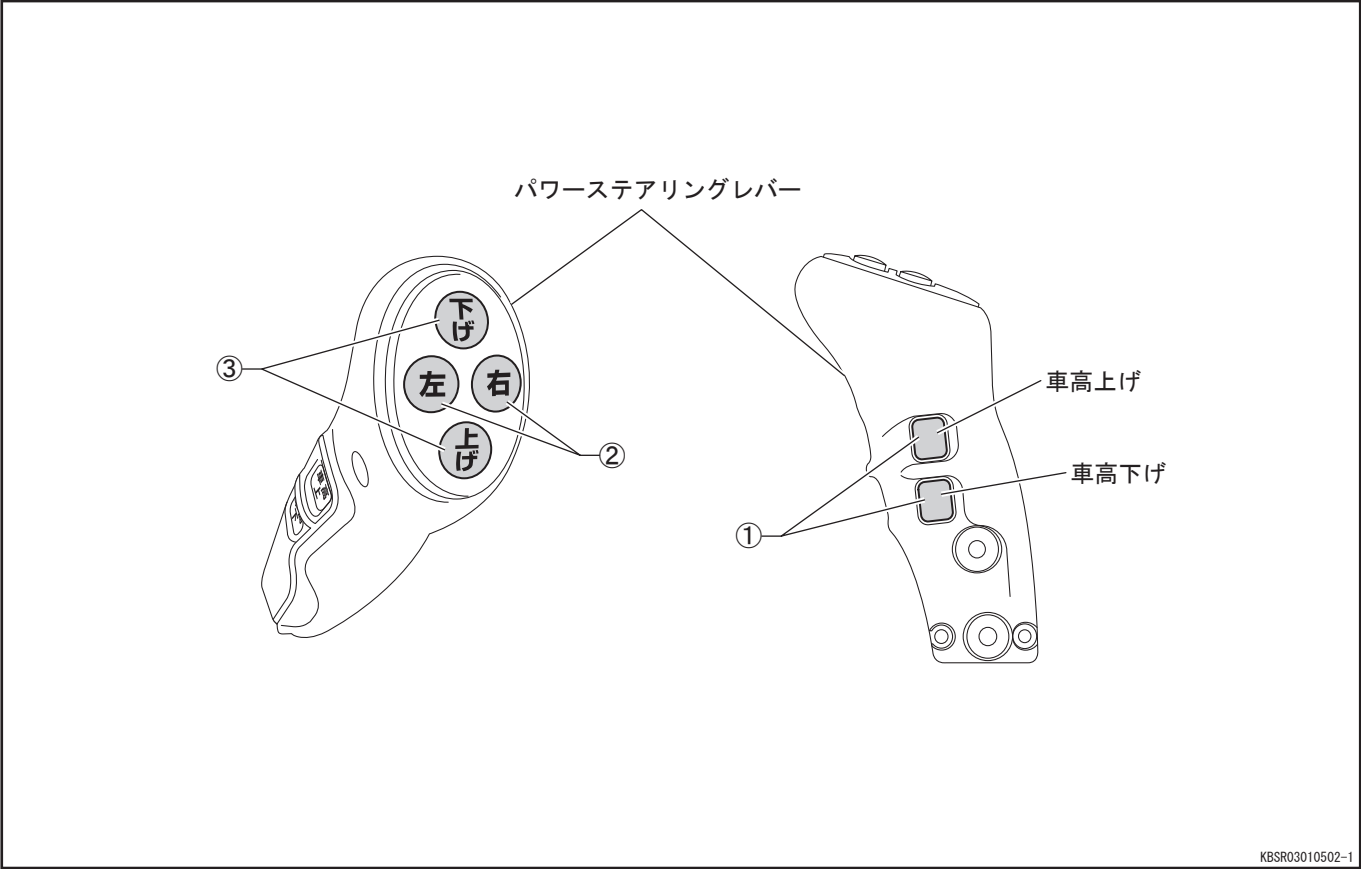
番号	名称	はたらき
①	メインスイッチ	「切」 ……エンジン进行停止するとき使用します。 「入」 ……電装品が作動します。 また、エンジンの予熱ができます。 「始動」 ……エンジンを始動するとき使用します。 セルモータが回転し、エンジンが始動します。
②	非常停止スイッチ	「運転」 ……エンジンを始動することができます。 「停止」 ……作業クラッチレバーが「入」位置になっているとき、 エンジンを停止させることができます。

《 重要 》

- 作業クラッチレバーが「入」位置にある場合、メインスイッチを「始動」位置にしても、エンジンは始動しません。
また、非常停止スイッチが「停止」位置になっていてもエンジンは始動できますが、作業クラッチレバーを「入」位置にした時にエンジンが停止します。(64 ページ)
- 作業クラッチレバーを「入」位置にしたときにエンジンが停止する場合は、非常停止スイッチを「運転」位置にして、エンジンを始動してください。
- 10 秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」位置にし、30 秒以上休止してから、再び操作してください。

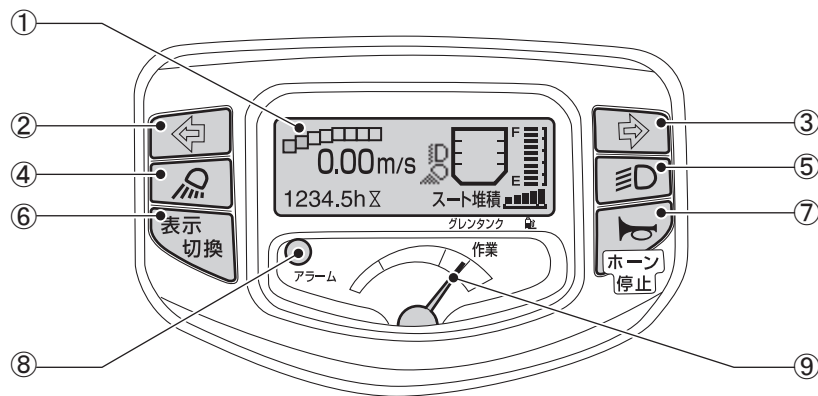
3. 各部の名称とはたらき

◆ パワーステアリングレバー



番号	名称	はたらき
①	車高上下スイッチ	スイッチを押すと、機体を上下させることができます。
②	車体傾斜スイッチ（左・右）	スイッチを押すと、機体を左右に傾斜させることができます。
③	チャンバー開閉スイッチ	スイッチを押すと、チャンバー部を開閉させることができます。

3.1.6 コンビネーションメータ



HC50020-T

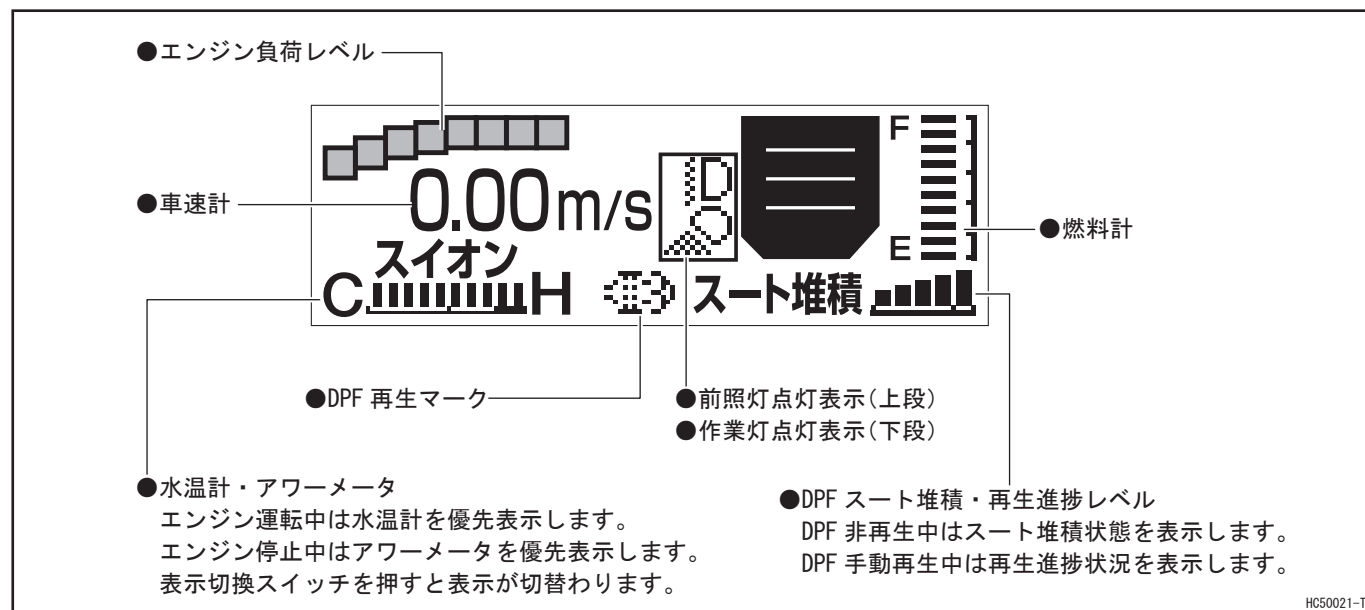
番号	名称	はたらき
①	マルチアイ	自走ロールベアラの運転状態を表示します。 〈表示内容〉 エンジン運転状態 車体水平運転状態表示 自動化装置異常表示 操作支援表示 操作スイッチ切替え表示
②	ウインカスイッチ左 ウインカパイロット左	スイッチを押すと、左の方向指示器が点滅します。左折が終わったら、もう一度スイッチを押してください。方向指示器の点滅を表示します。
③	ウインカスイッチ右 ウインカパイロット右	スイッチを押すと、右の方向指示器が点滅します。右折が終わったら、もう一度スイッチを押してください。方向指示器の点滅を表示します。
④	作業灯スイッチ	スイッチを押すと作業灯と前照灯が点灯します。もう一度押すと作業灯が消灯します。 (前照灯は点灯したままです。前照灯スイッチを押して消灯してください。)
⑤	前照灯スイッチ	スイッチを押すと前照灯が点灯します。もう一度押すと前照灯が消灯します。
⑥	表示切換スイッチ	マルチアイの表示を切替えます。
⑦	ホーン・停止スイッチ	スイッチを押すとホーンが鳴ります。警報等で鳴り出したブザーはこのスイッチを押すと止まります。
⑧	アラーム	異常を知らせます。運転中、異常な箇所が発生した場合に点灯・点滅します。
⑨	エンジン回転計	エンジン回転数を表示します。

3. 各部の名称とはたらき

3.1.7 マルチアイ

「マルチアイ」は、自走ロールベアラの運転に必要な情報、各種警告・異常状態の表示をします。また、万一故障した場合の処置方法等を適切なタイミングで、わかりやすくメッセージとして表示します。

◆ 通常表示



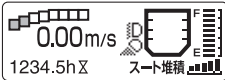
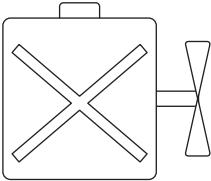
《 参考 》

- ・車速表示は、ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。
- ・負荷レベル表示、車速表示はエンジン停止中は表示しません。

◆ はたらき

『マルチアイ』は、「アラーム」と連動して機械の作業状態や異常状態を表示します。
また、異常発生時は緊急度に応じて、エンジン停止、ホーン吹鳴、アラーム表示を行います。

各表示・機能の見かたはつぎの通りです。

表示・機能	内容	正常時	異常時
マルチアイ	運転状態を文字、または絵で表示します。異常時は画面を切替えて表示します。	 静止画面	
アラーム	異常時に点灯します。	—	 アラーム 点灯
ホーン警報	異常時にホーンを吹鳴します。	—	 連続吹鳴  断続吹鳴
エンジン停止	非常時にエンジンを自動的に停止します。	—	

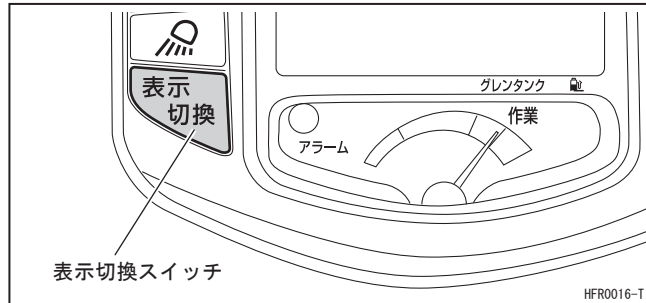
3. 各部の名称とはたらき

◆ 表示内容

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
メインスイッチを「入」にします。 《 参考 》 電源投入直後アラームが点灯する場合がありますが、異常発生ではありません。	初期表示モード 各センサ関係の点検確認をしています。 異常箇所があれば表示します。				
駐車ブレーキペダルを踏み込み、メインスイッチを「始動」にすると、エンジンを始動できます。 メインスイッチを「入」にして10秒以内にエンジンを始動しないとき、通常表示と交互に表示されます。同時に燃料給油ブザーが吹鳴します。				燃料残量に応じてブザーが断続または連続吹鳴します。	

◆ 表示切換

表示切換スイッチを 1 回押すごとに、マルチアイはつぎの表示内容に切替わります。作業の目安にしてください。

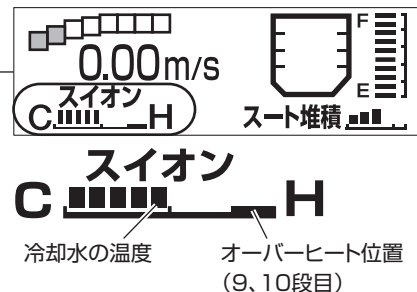


①水温

エンジン冷却水の温度をバーグラフ表示します。
(エンジン停止中は 2 番目に表示します。)

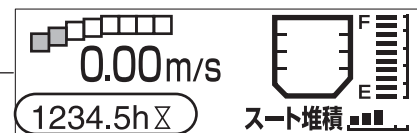
参考

- 冷却水の温度がオーバーヒート位置になるとマルチアイにエンジン「水温異常」が表示されます。



②アワーメータ

エンジン運転中の積算時間を表示します。
(エンジン停止中は 1 番目に表示します。)



③エンジン回転

エンジンの実回転数を表示します。



④メンテナンスモード

エンジン始動設定、液晶コントラスト調整
メンテナンス情報の確認ができます。



⑤センサチェックモード

各センサの入力チェックが行えます。



⑥刈高さ設定ダイヤル

定点停止モードの刈高さを表示します。



⑦車高、車体傾斜表示

車高と車体の左右の傾斜状態を表示します。



※④⑤はエンジン運転中は表示が出ません。

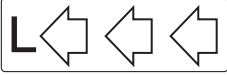
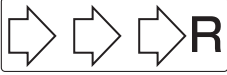
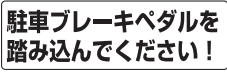
HC501170-T

◆ メンテナンスモード

メンテナンスモードの使いかたは、115 ページを参照してください。

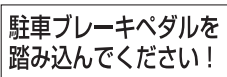
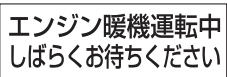
操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
マルチアイ画面がメンテナンスモード表示になるまで表示切換スイッチを押します。 ホーン・停止スイッチを押すとメンテナンスモードを実行します。 ウインカスイッチ・表示切換スイッチを押すと表示が変わります。 《 参考 》 メンテナンスモードは、メインスイッチ「入」の状態のみ表示します。エンジン運転中は表示をしません。	スイッチを押すたびに表示が換わり、メンテナンスモード表示になります。 エンジン始動時の認証を設定します。 液晶のコントラストを調整します。 メンテナンス情報を表示します。	1234.5hΣ  ↓ メンテナンスモード 切換⇒進む ホーン⇒選択 ↓ ←戻る 進む→ エンジン始動設定 切換⇒進む ホーン⇒選択 ↓ ←戻る 進む→ 液晶コントラスト調整 切換⇒進む ホーン⇒選択 ↓ ←戻る 進む→ メンテナンス情報 切換⇒進む ホーン⇒選択			

◆ 割り込み表示

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
ウインカスイッチ左を押します。	ウインカスイッチ左を押し、方向指示器左が点滅中に補助画面として、表示します。 ウインカスイッチ左をもう一度押すと、方向指示器が消滅し通常表示に変わります。				
ウインカスイッチ右を押します。	ウインカスイッチ右を押し、方向指示器右が点滅中に補助画面として、表示します。 ウインカスイッチ右をもう一度押すと、方向指示器が消滅し通常表示に変わります。				
パワーステアリングレバーの車体傾斜または車高上下スイッチを押します。	車高、左右傾斜の状態を一括して表示します。 表示はスイッチ操作後 2 秒間で元の表示に戻ります。				
エンジン始動時にキーを「始動」位置にします。	駐車ブレーキペダルが踏み込まれていない場合表示します。				
作業灯スイッチを押します。	作業灯・前照灯を点灯させると表示します。 表示はスイッチ操作後 5 秒間で元の表示に戻ります。				
前照灯スイッチを押します。	前照灯を点灯させると表示します。 表示はスイッチ操作後 5 秒間で元の表示に戻ります。				
定点停止スイッチ「入」時に刈高さ設定ダイヤルを操作します。	設定高さを表示します。 表示はダイヤル操作後 2.5 秒間で元の表示に戻ります。				

3. 各部の名称とはたらき

◆ 操作支援表示

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
作業前、作業中の各部の操作状態や設定の異常を通常画面と交互に表示します。 表示内容に従って各部を操作すると表示は消えます。	燃料残量が少なくなると表示します。 燃料を補給してください。				
	駐車ブレーキペダルを踏み込んでいない状態でエンジン始動操作したときに表示します。 駐車ブレーキペダルを踏み込んでください。				
	作業クラッチレバーが「入」位置になっています。表示中は、エンジンが始動しません。 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。				
	エンジン始動時、冷却水温が低いときに表示します。 冷却水温が高くなると、「暖機運転が終了しました」と表示され、通常画面に戻ります。	 			
	エンジン回転数が2000rpm以下で主変速レバーを操作し、機体を移動させる場合に表示します。 エンジン回転数を2000rpm以上にすると表示は消えます。				
	副変速レバーが走行位置で、作業をしはじめると表示します。 副変速レバーを「標準」・「低速」位置にすると、表示が消えます。				

※マルチアイ画面では「作業クラッチレバー」を「脱穀レバー」と表示しています。
本機には脱穀機能はありません。

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
作業前、作業中の各部の操作状態や設定の異常を通常画面と交互に表示します。 表示内容に従って各部を操作すると表示は消えます。	自走ロールベアラが大きく左右に傾いたときに表示します。 すみやかに平坦な場所へ自走ロールベアラを移動させてください。	車体傾斜角度に「注意」してください			
	メンテナンス案内の予告を表示します。 ホーン・停止スイッチを押すと次回予告時まで表示が消えます。	まもなく「メンテナンス」の0000時間です。			
	メンテナンス時間が来たときに表示します。 表示切換スイッチを押すと通常画面に戻りますが、次回始動時に再度表示されます。 案内に沿ってメンテナンスを終了させると通常画面に戻ります。	戻る 進む メンテナンス情報 切換→進む ホーン→選択			
	過負荷状態でエンジン回転数が低くなると表示します。 主変速レバーを戻して減速してください。	エンジンパワーMAX 減速してください!!		 電子ブザーのみ	

3. 各部の名称とはたらき

◆ DPF 関連表示

DPF の取り扱いについては、79 ページを参照してください。

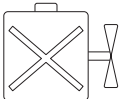
表示条件・表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
DPF 非再生中は通常表示の右隅にスート堆積レベルを「0」～「5」の6段階で表示します。				
●自動再生モード スート堆積レベル「5」になり、その後自動再生がはじまると表示します。 自動再生中に表示します。	DPF 自動再生を 始めます。 自動再生中 ↓ 点灯		 電子ブザーのみ 1回	
自動再生が、終了または中断すると「DPF 再生 終了しました」を表示します。 (5 秒間表示したあと、通常表示に切替わります。)	DPF 再生 終了しました。		 電子ブザーのみ 1回	
●手動再生要求前期 自動再生が完了できないまま自走ロールベ ーラの使用を続けると表示します。 「手動再生必要」とスート堆積レベルを交互に 表示します。	作業を止め、DPF スイッチで 手動再生を行ってください スート堆積 ↓ 遅点減 ↓ 遅点減	手動再生 ランプ 遅点減	 電子ブザーのみ 3回 電子ブザーのみ 継続	
●手動再生要求後期 手動再生を行わないままさらに自走ロール ベーラの使用を続けると表示します。 スート堆積レベルと「手動再生必要」を交互 に表示します。	ただちに、DPF スイッチで 手動再生を行ってください スート堆積 ↓ 遅点減	手動再生 ランプ 遅点減	 電子ブザーのみ 継続	

表示条件・表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
●手動再生モード 手動再生要求中、手動再生操作を行う则表示します。 手動再生中は通常表示と「手動再生中」を交互に表示します。	DPF 手動再生を 始めます。 🔧 手動再生中 ↓ 0.00m/s スワイオン C H 再生進捗 F E ↕ 手動再生中 🔧 再生進捗 🔧 点灯	手動再生 ランプ 点灯	電子ブザーのみ 1回	
手動再生が終了すると「DPF 再生終了しました」を表示します。 (表示切換スイッチを押すと通常表示に戻ります。)	DPF 再生 終了しました。 切換⇒通常表示に戻る		電子ブザーのみ 1回	

3. 各部の名称とはたらき

◆ 異常表示

機械に異常が発生した場合の表示内容

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
作業中にエンジンの異常や、ピックアップ部に異常が発生すると右の表示を行います。 《参考》 異常発生時は作業を中止し、49 ページを参照して処置してください。	非常停止スイッチが押された	1番詰まり発生			
	エンジンのオーバーヒート	エンジン「水温異常」			
	エンジンオイルの減少またはエンジンオイルのセンサ異常	エンジン「オイル」			
	発電不良 チャージ回路の異常	発電回路異常			
	燃料フィルタ内の水分過多	燃料フィルタ 水位警報 			
自動制御装置の使用中に異常が発生すると表示を行います。該当する装置のスイッチを「切」にすると表示は消えます。 《参考》 異常発生時は、該当する自動制御装置の使用を中止してください。	車体水平制御装置の異常	車体 水平 制御			
	バックリフト装置の異常	バック リフト 制御			
	刈高さ制御装置の異常	刈高さ制御			
自動制御装置の異常表示時に、異常に関係のあるセンサやスイッチを表示します。	〈例〉 車体水平制御装置異常（傾斜センサの異常を感知した場合）	車体 水平 制御 ↓ 左右傾斜 センサ信号異常 自動スイッチを「切」にして 手動スイッチにて調整してください。			

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
各種センサに異常が発生した場合 《 参考 》 異常発生時は、お買い上げ先に連絡してください。	パワーステアリング左右センサ異常 自走ロールベアラが左右に旋回できません。ただちに使用を中止してください。	パワーステアリング		 4回	
	パワーステアリング上下センサ異常 各種自動制御装置が使用できません。	パワーステアリング			
	アクセルセンサ異常 エンジン回転数が2000 rpm に固定されます。ロールベアラ作業はできません。	アクセルポジションセンサ信号異常			
エンジンの異常が発生すると、右記の表示を行い、続けて異常の詳細が表示されます。(223 ページ) 《 重要 》 右記の異常発生時はただちに作業を中止し、お買い上げ先にご連絡ください。	エンジンのセンサ、噴射ノズル、配線等の異常 異常の種類によってはエンジンが停止したり、出力が低下する場合があります。	エンジン異常			

3. 各部の名称とはたらき

◆ ブザーの止めかた

異常発生時に鳴り出したブザーは、ホーン・停止スイッチ、作業クラッチレバー、メインスイッチの各操作で鳴り止みます。つぎの表に対応関係を示します。

マルチアイ画面	ブザー	ホーン・ 停止スイッチ	作業クラッチ レバー「切」	メイン スイッチ「切」
1番詰まり発生		○	○	○
エンジン 「水温異常」		○		○
エンジン 「オイル」		○		○

《 参考 》

- エンジンを再始動する場合は、必ず作業クラッチレバーを「切」位置にし、メインスイッチのキーを抜いて、異常箇所の処置をしてからエンジンを始動してください。
- エンジン停止装置が作動しかけた直後(1秒以内)に解除すると、燃料供給量が不足して、エンジン馬力不足(回転ダウン)となる場合があります。
このときは、メインスイッチを一度「切」にしてから再始動してください。

《 重要 》

主変速レバーが「中立」(「N」)位置にない状態でエンジン停止したときは、駐車ブレーキをかけ、副変速レバーも「中立」位置にしてエンジンを始動してください。
守らないと、エンジン故障の原因になります。

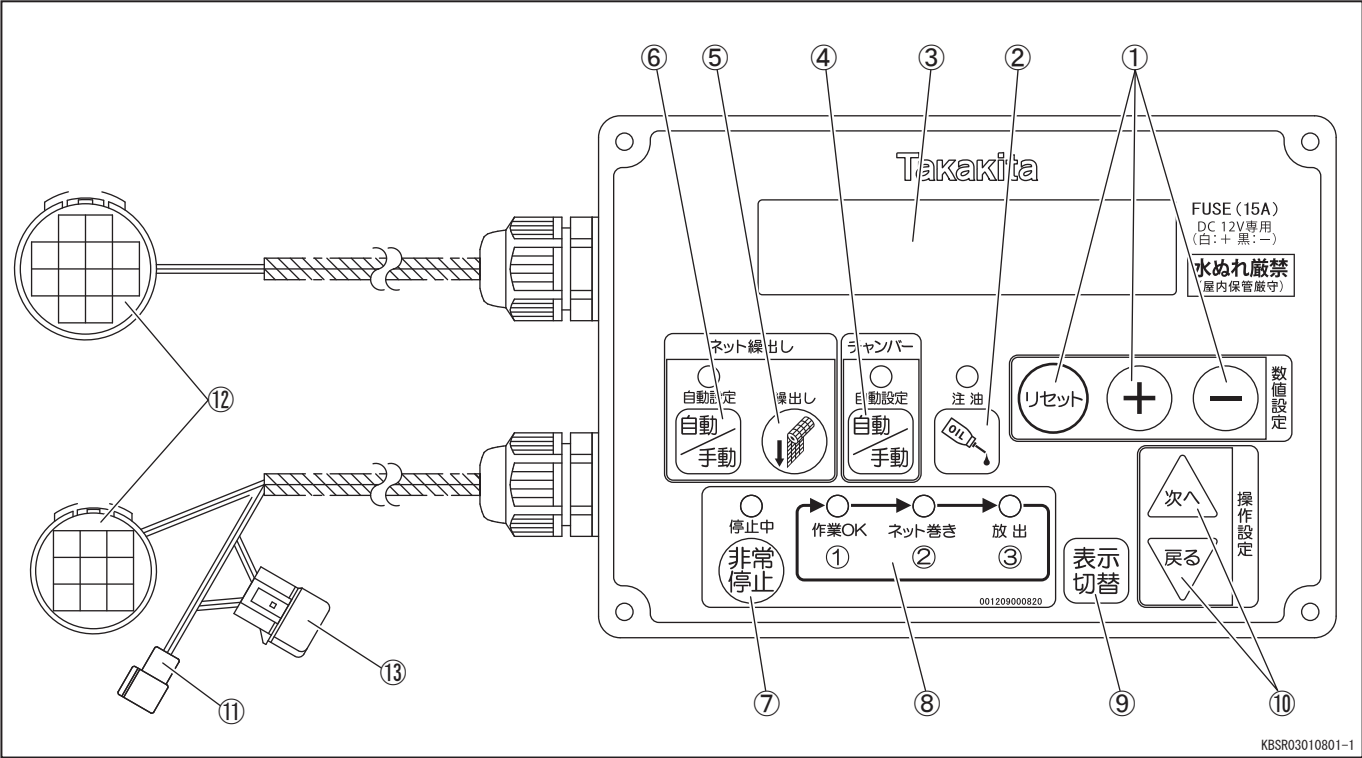
◆ 異常発生時の処置

マルチアイに警報が表示されたときは、下表の通り処置してください。

マルチアイ画面	処置
1番詰まり発生	非常停止スイッチを「運転」位置にしてください。 (33 ページ)
エンジン 「水温異常」	アイドリングで約 5 ～ 10 分間運転後、エンジンを停止し、つぎの点検をしてください。 ●冷却水の量 (212 ページ) ●ラジエータ、ラジエータカバーネットの詰まり (203 ページ) ●ゼネレータベルト、冷却ファンベルトの緩み (186、187、188 ページ) 《 参考 》 冷却水の温度が設定以上に上昇すると、エンジン保護のためエンジンの出力が制限されます。
エンジン 「オイル」	エンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。 (164 ページ)
発電回路異常	エンジンを停止し、バッテリーの端子とゼネレータの配線を点検してください。 (202 ページ)
燃料フィルタ 水位警報 	燃料フィルタの水抜きを行ってください。(68 ページ)

3. 各部の名称とはたらき

3.1.8 コントロールボックス



KBSR03010801-1

番号	名称	はたらき
①	リセットボタン +ボタン -ボタン	・押すとセッテイモードの項目の設定値を初期値にリセットします。 ・押すとセッテイモードの項目の設定値に +1 します。 ・押すとセッテイモードの項目の設定値に -1 します。
②	注油ボタン	・ボタンを押している間 LED が点灯しタイトチェンに注油します。 ・ベール放出後、チャンバーを閉じると自動注油を行います。 このとき、注油中に LED が点灯します。
③	ディスプレイ	・作業状態、エラー内容を表示します。
④	チャンバー自動 / 手動ボタン	・ネット繰出し後、ベール放出の手動 / 自動を切替えます。 ・ベール放出が自動のとき LED が点灯します。
⑤	ネット繰出しボタン	・押すとネット繰出しがスタートします。
⑥	ネット繰出し自動 / 手動ボタン	・ネット繰出しの手動 / 自動を切替えます。 ・ネット繰出しが自動のとき LED が点灯します。
⑦	非常停止ボタン	・押すとロールベアラ部の全出力が OFF になります。もう一度ボタンを押すとリセットします。
⑧	作業状態 LED	・作業の段階ごとに LED が点灯します。 作業 OK：感知前にエラー状態となっていない場合点灯 ネット巻き：ネット繰出し中に点灯 放出：ベール放出し、再び作業可能となるまで点灯
⑨	表示切替ボタン	・押すとセッテイモード→入力チェックモード→出力チェックモード→作業画面に切替えます。
⑩	次へボタン 戻るボタン	・設定画面時に押すとつぎの項目に進みます。 ・設定画面時に押すと前の項目に戻ります。
⑪	電源コネクタ	・電源の供給を受けます。
⑫	入出力用コネクタ	・メインハーネスと接続しています。
⑬	ヒューズ	・過電流が流れた場合に、コントロールボックスを保護します。 (ヒューズ 15A)

◆ はたらき

『ディスプレイ』に、ロールベアラ部の作業状態や異常状態を表示します。
また、異常発生時は緊急度に応じて、ブザー警報を行います。

記号の見かたはつぎの通りです。

表示・機能	内容	正常時	異常時
ディスプレイ	ロールベアラ部の作業状態やセンサ異常について、文字で表示します。	セ`ンシ`ト`ウ0コ 0/70 静止画面	* ネットヲコウカン クリタ`シホ`タンヲオス
ブザー警報	異常時やネット交換、作業完了時にブザーを吹鳴します。	—	 連続吹鳴  断続吹鳴
ホーン警報	異常時やネット交換、作業完了時にホーンを吹鳴します。	—	 連続吹鳴  断続吹鳴

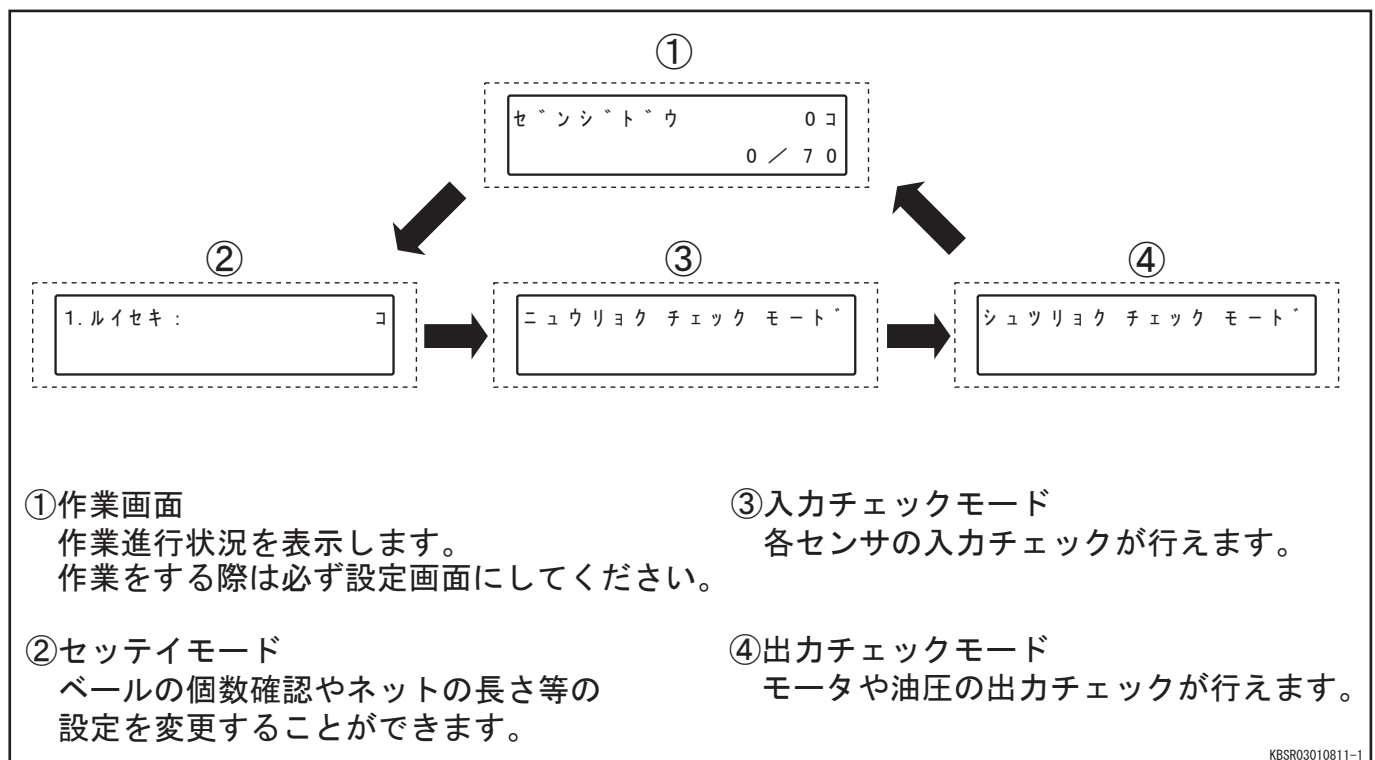
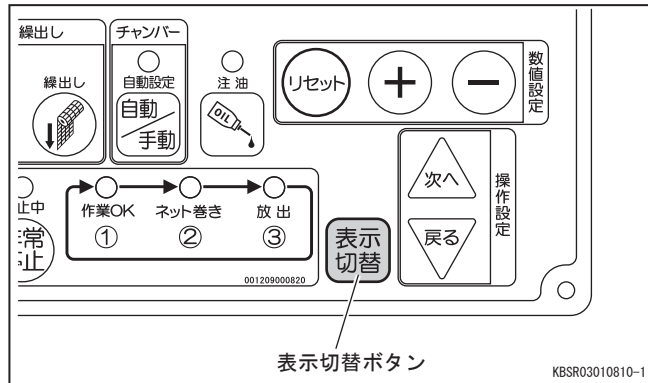
3. 各部の名称とはたらき

◆ 表示内容

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー	ホーン
メインスイッチを「入」位置にしてください。	バージョン情報表示	T a k a k i t a 4 7 2 2 7 - 9 7 1 1 - * * *		
	初期画面表示	セ ` ン シ ` ト ` ウ0コ 0/70		

◆ 表示切換

表示切替ボタンを押すと各モードに移行し、表示切替ボタンを押すごとにディスプレイはつぎの表示内容に切替わります。



KBSR03010811-1

◆ セッテイモード

セッテイモードの使いかたは、90 ページを参照してください。

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー
表示切替ボタンを一度押します。	作業画面	セ`ンシ`ト`ウ 0コ 0/70	
次へ / 戻るボタンを押すと項目が移動します。		1. ル イ セ キ : コ	
次へ / 戻るボタンを押すと項目が移動します。		2. コ ス ウ コ リセッ ト ナ カ ` オ シ テ ` 0コ	
+ボタン / -ボタンを押すと設定値を変更することができます。		3. チ ャ ン ハ ` オ ー ト カ イ 5. 0 s	
リセットボタンを押すと設定値は初期値に戻ります。		3. チ ャ ン ハ ` オ ー ト カ イ 5. 1 s	
		3. チ ャ ン ハ ` オ ー ト カ イ 5. 0 s	

◆ 入力チェックモード

入力チェックモードの使いかたは、111 ページを参照してください。

操作	表示内容	ディスプレイ画面
表示切替ボタンを 2 回押します。	通常表示	セ`ンシ`ト`ウ 0コ 0/70
	「ニューリヨクチェックモード」と表示されます。	ニューリヨク チェック モード` ハ`ッテリ 14.4 V
次へ / 戻るボタンを押すと項目が移動します。		ニューリヨク チェック モード` チャンハ`ヘイヒタ`リ ON センサ ON 時ブザー鳴る センサ OFF 時ブザー鳴らない

◆ 出力チェックモード

出力チェックモードの使いかたは、113 ページを参照してください。

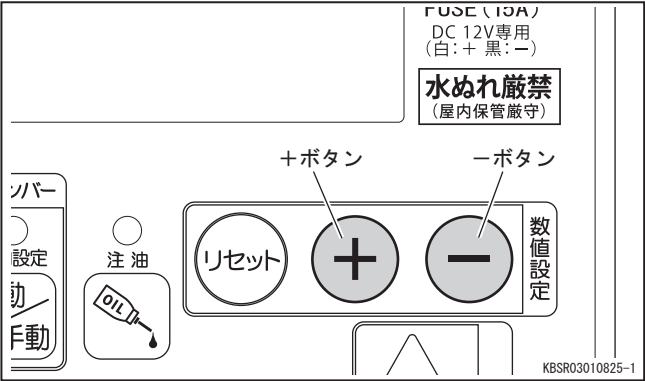
操作	表示内容	ディスプレイ画面
表示切替ボタンを 3 回押します。	通常表示	セ`ンシ`ト`ウ 0コ 0/70
	「シュツリヨクチェックモード」と表示されます。	シュツリヨク チェック モード` モ-タ セイテン OFF
次へ / 戻るボタンを押すと項目が移動します。		シュツリヨク チェック モード` モ-タ キ`ャクテン OFF
+ボタンを押している間表示している項目の出力先を動作させることができます。 このとき、ブザーも同時に鳴ります。		シュツリヨク チェック モード` モ-タ セイテン ON

3. 各部の名称とはたらき

◆ メーカーセッテイモード

コントロールボックスの+ボタン、-ボタンを同時に押しながら電源を投入するとメーカーセッテイモードになります。

メーカーセッテイモードの使いかたは、128 ページを参照してください。



操作	表示内容	ディスプレイ画面
+ボタン、-ボタンを同時に押しながら電源を投入してください 次へ / 戻るボタンを押すと項目が移動します。	「メーカーセッテイモード」と表示されます。 0.5 秒後に画面が切替わり、1 番目の項目が表示されます。	メーカ ー セ ッ テ イ モ ー ド 1. ネット クリ タ シ エ ラ ー 1 0 s 3. ヨ カ ン チ キ ョ リ 2 0 mm

◆ 異常発生時の処置

異常が発生した場合は、つぎの表より処置してください。

ディスプレイ画面表示	処置
* カム ショキイチ エラー ホ`タン ヲ オシテ カイシ`ョ	コントロールボックスの電源投入後、カムが初期位置まで移動できなければ表示されます。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ) 出力チェックモードで繰出しモータが作動するか確認してください(113 ページ) コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すと作業画面に入ります。 ネット繰出し中にモータが作動せず、カムが動いていなければ表示されます。
* カム モータ ヲ カクニン ホ`タン ヲ オシテ カイシ`ョ	ネット繰出し中にカムが作動できなければ表示されます。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ) 出力チェックモードで繰出しモータが作動するか確認してください(113 ページ) コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すと作業画面に入ります。
* ネット ヲ コウカン クリタ`シホ`タン ヲ オス	ネットが繰出されなかった際に表示されます。 ネットを交換してください。(92 ページ) コントロールボックスのネット繰出しボタンを押してください。
セ`ンシ`ト`ウ 0コ * キッカー SW ヲ カクニン	キッカーセンサが反応していないと表示されます。 この表示が出ている間はチャンバーは下げることができません。 キッカーアームを下げている原因を取り除いてください。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ)
セ`ンシ`ト`ウ 0コ  * チャンハ`カ`ヒライタイムス	チャンバーが開いていると表示されます。周囲の安全を確認してからパワーステアリングレバーの下げボタンを押し、チャンバーを閉じてください。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ)
セ`ンシ`ト`ウ 0コ * カムウエ SW ヲ カクニン	カム上センサが反応していないと表示されます。 カムが初期位置にあるか確認してください。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ)
セ`ンシ`ト`ウ 0コ * カムシタ SW ヲ カクニン	カム下センサが反応していないと表示されます。 カムが初期位置にあるか確認してください。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ)
セ`ンシ`ト`ウ 0コ * カム SW ヲ カクニン	カム上、下センサが両方反応していないと表示されます。 カムが初期位置にあるか確認してください。 入力チェックモードでセンサの作動を確認してください。(111 ページ)
ソクテイ ハンイカ`イ  ネットヲクリタ`シマス 0 / 70	タイトチェンを張りすぎて満了感知できないため、この表示が出てから 2 秒後にネットを強制的に繰出します。 タイトチェンを調節してください。(193 ページ)
セ`ンシ`ト`ウ 0コ チェン チョウセイ 0 / 70	タイトチェンが緩みすぎている場合に表示されます。 タイトチェンを調節してください。(193 ページ)
* チャンハ`カ`ヒラキマセン ホ`タン ヲ オシテ カイシ`ョ	ベール放出中にチャンバーが開かない場合に表示されます。 チャンバーと何かが接触していないか確認してください。 油圧バルブを確認してください。(225 ページ) コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すとリセットされます。
* チャンハ`カ`トシ`マセン  ホ`タン ヲ オシテ カイシ`ョ	ベール放出中にチャンバーが全閉できない場合に表示されます。 チャンバーとベールが接触していないか確認してください。 油圧バルブを確認してください。(225 ページ) コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すとリセットされます。

3. 各部の名称とはたらき

ディスプレイ画面表示	処置
* キッカー S W ヲ カクニシ ホ`タン    ヲ    オシテ    カイシ`ヨ	全自動作業中にチャンバーが開いたあと、キッカーアームが下がり続けていると表示されます。 キッカーにボールが乗ったままになっていないか確認してください。 コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すとリセットされます。
* ベ`ルカ` オチテイマセン ホ`タン    ヲ    オシテ    カイシ`ヨ	全自動作業中にチャンバーが開いたあと、ボールがチャンバーから放出されていない場合表示されます。 チャンバーからボールを落としてください。 チャンバーに近づくときは、エンジンを停止し、シリンダストッパをセットしてからボールを落としてください。(75 ページ) コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すとリセットされます。
ヒシ`ヨ    ウテイシ  ホ`タン ヲ オシテ カイシ`ヨ	非常停止ボタンを押すとロールベアラ部の全出力が OFF になり、この画面が表示されます。 コントロールボックス上のいずれかのボタンを押すとリセットされます。

4. 作業前点検

⚠ 危険

- 燃料を補給するときは、火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。
※ 守らないと、燃料の引火による爆発や火災の原因になります。
- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してください。
※ 守らないと、燃料の引火による爆発や火災の原因になります。
- 燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。
※ 守らないと、燃料の引火による爆発や火災、転倒による傷害事故の原因になります。

⚠ 警告

- 点検するときは、平たんで水平な広く地面の硬い場所を選んで駐車し、駐車ブレーキをかけてください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故の原因になります。
- 給油、注油および回転部等の点検をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。

⚠ 注意

- 点検時に、カバーを開けたり、取り外したりしたときは、必ず元に戻してから作業してください。
※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。

4.1 運転席に座る前に

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
前日に異常があった箇所	再度異常がないか。	お買い上げ先に連絡する。	—
警告ラベル貼付箇所	剥がれ、汚れ、破損等がないか。	新しいものに貼り換える。	22～26
反射器	汚れ、破損等がないか。	掃除、交換する。	—
ロールベアラ部 エンジン、マフラ部	損傷がないか。 ワラくずが溜まっていないか。	お買い上げ先に連絡する。 掃除する。	—
ボルト、ナット	緩み、脱落がないか。	締め付け、補充する。	—
パイプ、ホース	オイル、燃料、水もれがないか。	掃除、取り付け部の締め付け、交換する。	163 201
リレー・ヒューズ	リレー・ヒューズに切れはないか。	交換する。	205 206

4. 作業前点検

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
配線コード	たるみ、被覆の損傷がないか。	締め付け、交換する。	204
配線端子	外れ、緩みがないか。	締め付け、接続する。	204
エンジンオイル	オイルゲージの上下限の間に油面があるか。	補給する。 ギセキハイクオリティエンジン オイル (10W-30 CK-4/DH-2)	164
油圧オイル	検油ホースの上限近くに油面があるか。	補給する。	169
逆転ミッションオイル	オイルが検油口より流れはじめるか。	補給する。 ギヤオイル # 90 (VG68)	170
チェンオイル	注油タンク内にオイルがあるか。	補給する。	171
冷却水	リザーブタンクの上下限の間に液面があるか。	補給する。	212
ラジエータカバー	網が詰まっていないか。	掃除する。	131
ラジエータ	フィンが詰まっていないか。	掃除する。	203
ゼネレータベルト	たるみ、損傷がないか。	お買い上げ先に連絡する。	186
エアフィルタ	フィルタが目詰まりしていないか。	掃除する。	215
オイルクーラ	フィンが詰まっていないか。	掃除する。	203
エアクリーナー	エレメントにホコリが溜まっていないか。	掃除する。	199
燃料クーラ	フィンが目詰まりしていないか。	掃除する。	203
冷却ファンベルト 逆流ファンベルト	たるみ、損傷がないか。	お買い上げ先に連絡する。	187 188
エンジン・DPF・排気管 周辺	ワラくず、ホコリが溜まっていないか。	掃除する。	—
非常停止スイッチ	「停止」位置になっていないか。	「運転」位置にする。	64
クローラ	たるみ、損傷がないか。	張り量の調整、交換する。	211
コンデンサ	フィンが詰まっていないか。	掃除する。	216
プレクリーナー	ホコリが溜まっていないか。	掃除する。	199
バックミラー	汚れ、破損等がないか。	掃除する。 交換する。	—

4.2 運転席に座って

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
バックミラー	後方が正しく確認できるか。	ミラーの角度を調節する。	—
駐車ブレーキペダル	スプリング高さは適正か。	調整する。	196

4.3 メインスイッチのキーを「入」位置にして

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
ホーン	ホーン・停止スイッチを押すと、鳴るか。	ヒューズ切れ、配線コード外れを点検し、交換、接続する。	205
バックブザー	主変速レバーを「後進」位置にすると、鳴るか。	ヒューズ切れ、配線コード外れを点検し、交換、接続する。	205
灯火類	各スイッチ操作で、点灯、点滅するか。	電球、ヒューズ切れ、配線コード外れを点検し、交換、接続する。	205
燃料計	軽油が十分入っているか。	補給する。 ディーゼル軽油 JIS2 号 (寒冷時 JIS3 号)	36 161
マルチアイ	ディスプレイにエラーメッセージは表示されないか。	画面表示に従い操作する。	46

4.4 エンジンを始動して

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
エンジン回転計	動作に異常がないか。	お買い上げ先に連絡する。	—
エンジン・排気管周辺	異音・排気ガス色の異常がないか。	お買い上げ先に連絡する。	—

5. 運転のしかた

5.1 新車時の取り扱い

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが、本機の寿命に影響をおよぼします。

ならし運転期間中の走行速度は低速で、過負荷となる作業はさけてください。

本機の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が必要です。

◆ 初期 50 時間のならし運転

- ・ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- ・ 寒い日や冬期、エンジンは十分に暖機運転を行ってください。
- ・ 副変速レバー「高速」位置での作業は、さけてください。
- ・ 整地されていない凸凹道では、低速走行をしてください。

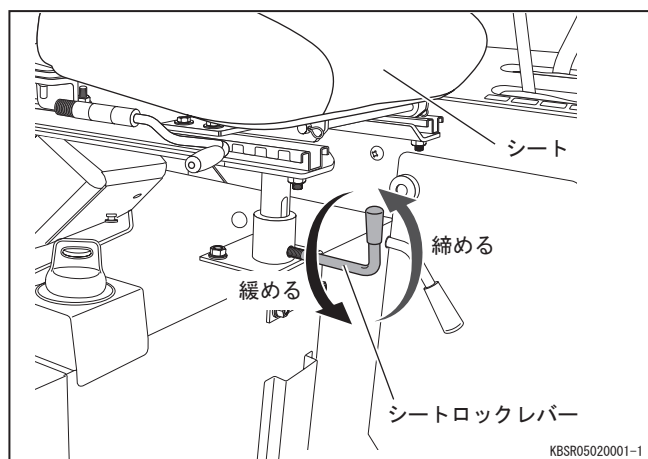
◆ 油脂・フィルタ類の交換とチェン・ベルトの張り調整

- ・ 新車時は、ローラーの回転・摺動部の各部品になじみがついていませんので、ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがありますので、油脂・フィルタ類は、初期 50 時間で交換してください。
- ・ チェンやベルト類は、ならし運転中に初期の伸びが発生しますので、初期 20 時間で張り調整をしてください。

5.2 運転席の調節のしかた

◆ シートの上下調節のしかた

- (1) シート下部フレームの「シートロックレバー」を緩めてください。

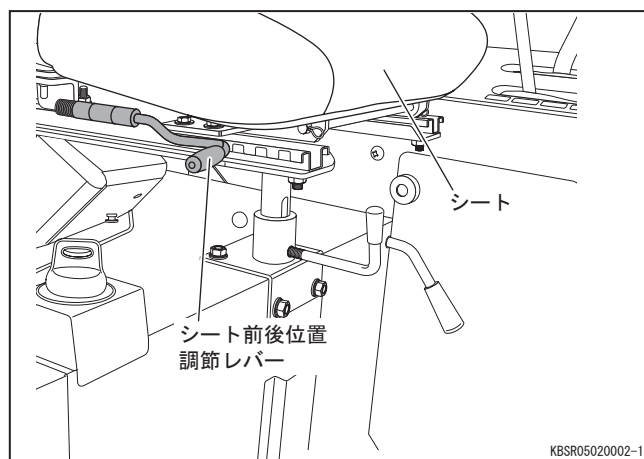


- (2) 座る位置に合わせてシートの高さを調整してください。

- (3) 「シートロックレバー」を締め付けてください。

◆ シート前後調節のしかた

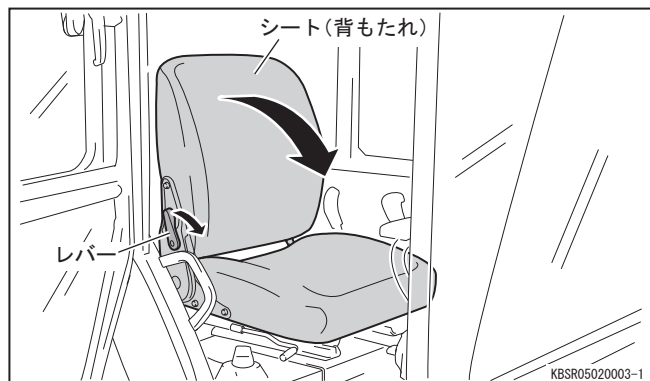
- (1) シート右上部にある「シート前後位置調節レバー」を上方へ軽く引いてください。



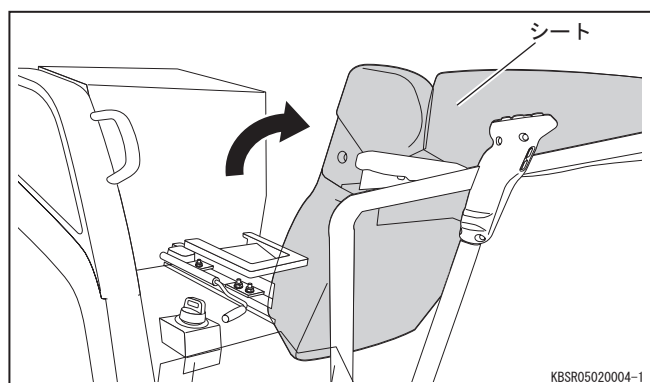
- (2) 座る位置に合わせてシートの前後位置を調整してください。

◆ シートの前倒しのしかた

- (1) シートの横にあるレバーを前に倒し、シートのロックを解除してください。



- (2) 前倒しされた背もたれを持って、シートを前に倒してください。



- (3) シートを元に戻すときは、シートを後ろに倒し、シートを固定してから背もたれを起こしてください。

⚠ 注意

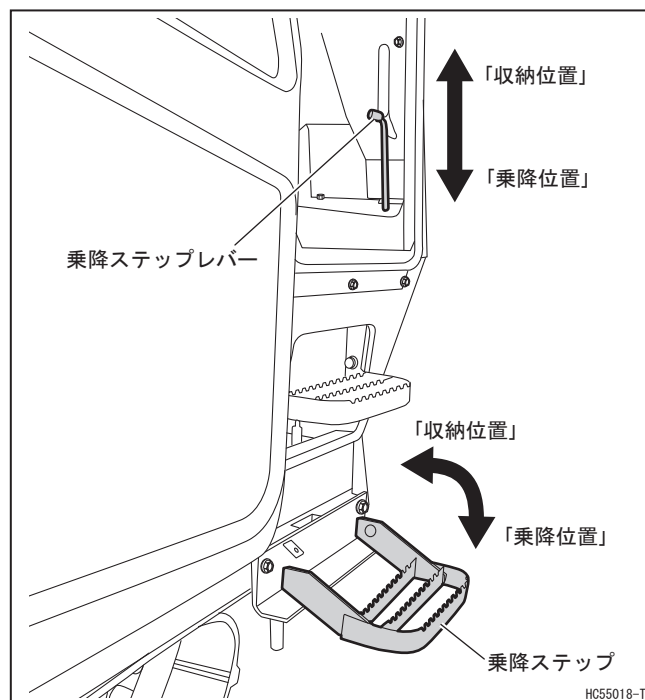
- 必ずシートを元に戻してから、運転席に座り運転、作業をしてください。
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。

◆ 乗降ステップの使いかた

- (1) 「乗降位置」にするときは、乗降ステップレバーを押し下げてください。
- (2) 「収納位置」にするときは、乗降ステップレバーを引き上げてください。

《参考》

- 乗降ステップを直接操作しても、「乗降位置」「収納位置」にすることができます。
- あぜ際での作業時は、障害物との接触をさけるため、乗降ステップを「収納位置」にしてください。



5.3 エンジン始動と停止のしかた

5.3.1 エンジン始動のしかた

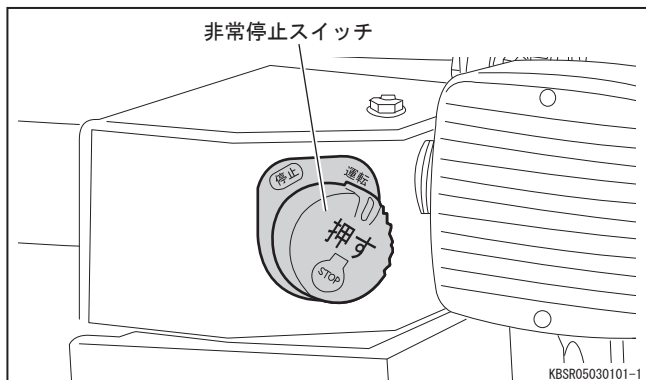
⚠ 警告

- エンジンを始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーを「中立」(「N」) 位置、作業クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキをかけてエンジンを始動してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

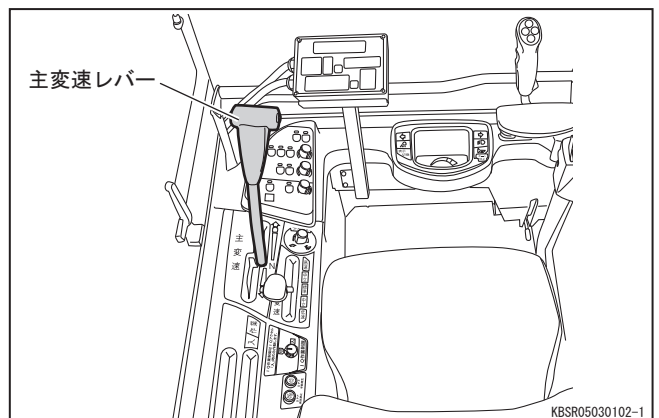
⚠ 注意

- 各保護カバー類が取り付けられているか確認してください。外れている場合は、必ず取り付けてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーが「中立」(「N」) 位置にない状態でエンジン停止したときは、駐車ブレーキをかけ、副変速レバーも「中立」位置にしてエンジンを始動してください。
※ 守らないと、エンジン故障の原因になります。

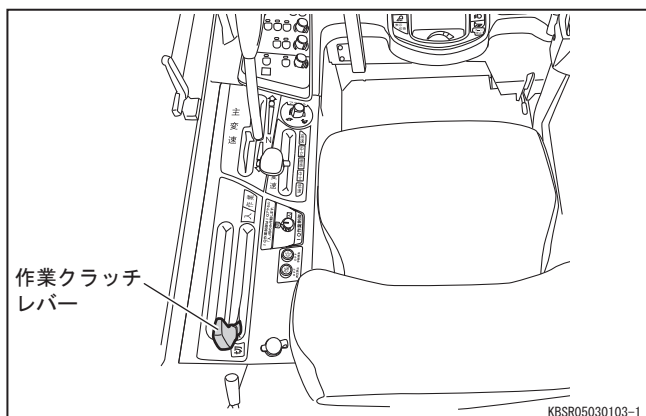
(1) 非常停止スイッチが、「運転」位置にあることを確認してください。



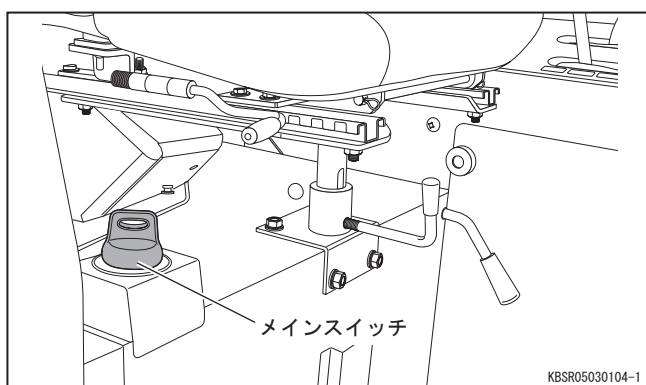
(2) 主変速レバーを「中立」(「N」) 位置にしてください。



(3) 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



(4) メインスイッチを「入」位置にしてください。

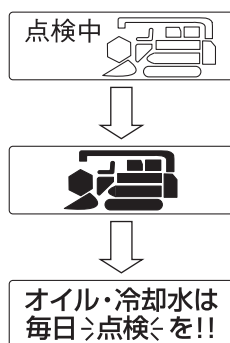


(5) マルチアイにつぎの画面が順番に表示され、各センサの点検を行います。
異常箇所があれば、マルチアイに表示されますので、確認してください。

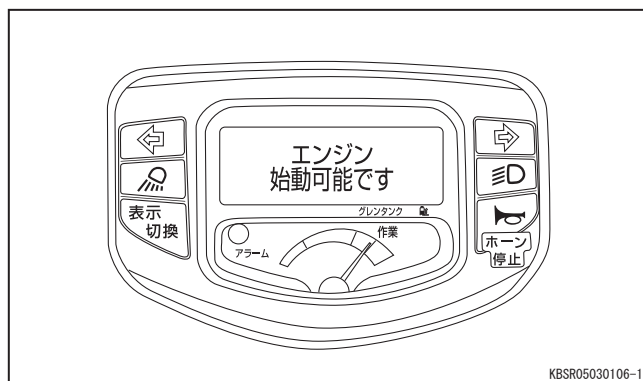
初期画面が表示されます。

各センサ関係の点検確認をしています。

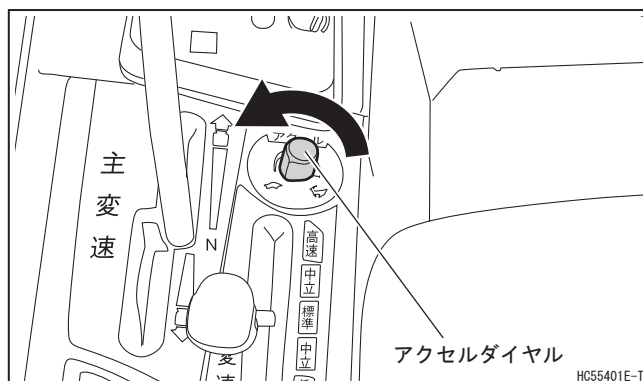
異常箇所があれば表示します。



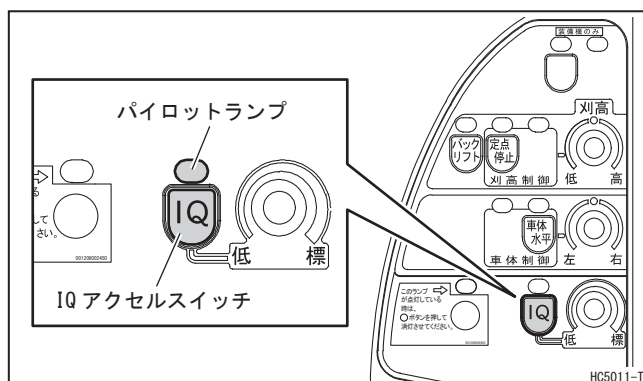
マルチアイに「エンジン始動可能です」と表示されたら、予熱完了です。



(6) アクセルダイヤルを「」側にいっぱいまで回してください。

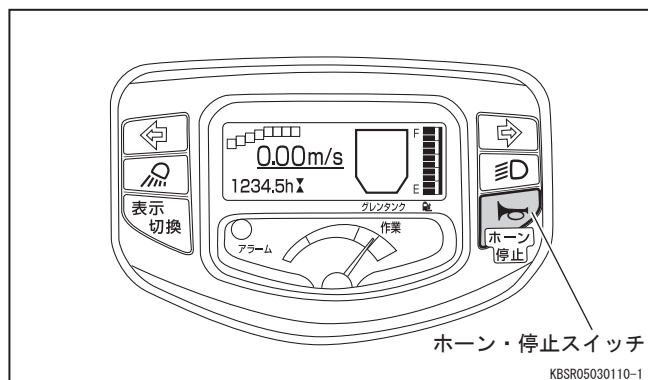


(7) IQ アクセルスイッチを「入」(パイロットランプ点灯)にしてください。

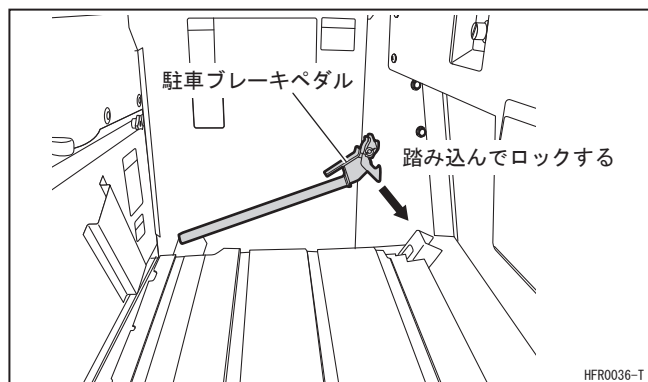


5. 運転のしかた

- (8) 周囲に人がいないことを確認して、ホーンを鳴らしてください。



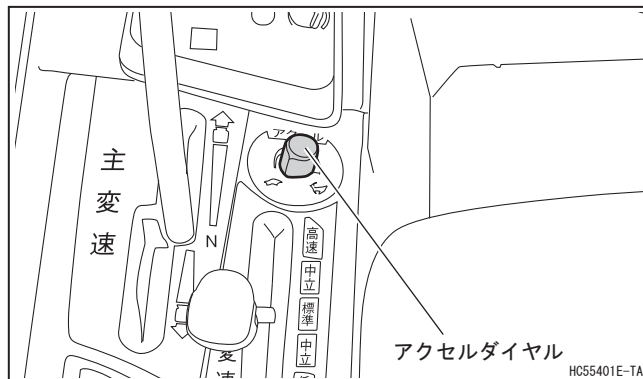
- (9) 駐車ブレーキペダルがロックされていないときは、ロックするまで踏み込んで、メインスイッチを「始動」位置にしてください。



《重要》

- ・ 駐車ブレーキペダルがロックするまで踏み込まれていないと、エンジンは始動できません。
- ・ 10 秒程始動操作をしてもエンジンが始動しないときは、メインスイッチを「切」にし、30 秒以上休止してから再び操作してください。
- ・ 異常が発生してエンジンが停止したときは、必ず各クラッチを「切」にし、メインスイッチのキーを抜いて、異常箇所の処置をしてからエンジンを始動してください。

- (10) エンジン始動後は、アクセルダイヤルを「」側にしたまま、約 5 ～ 10 分間暖機運転をしてください。



⚠ 注意

- 5℃以下の寒冷時は、約 10 ～ 20 分間暖機運転を行ってください。

※ 守らないと、油圧系統の故障の原因になります。

《重要》

- ・ エンジンを始動するときに水温が 5℃以下の場合は、マルチアイに「エンジン暖機運転中しばらくお待ちください」と表示され、自動的に暖機モードがはじまります。暖機モード中は、エンジン回転が制限されますが、故障ではありません。

エンジン暖機運転中
しばらくお待ちください

HC1024A

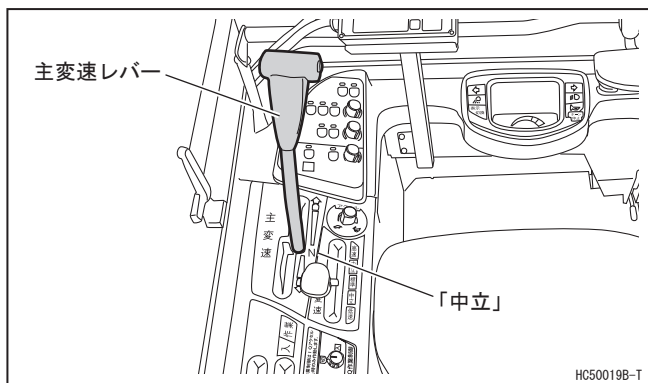
- ・ 水温が高くなると (15℃以上) 自動的に暖機モードは解除され、マルチアイに「暖機運転が終了しました」と表示されます。

暖機運転が
終了しました

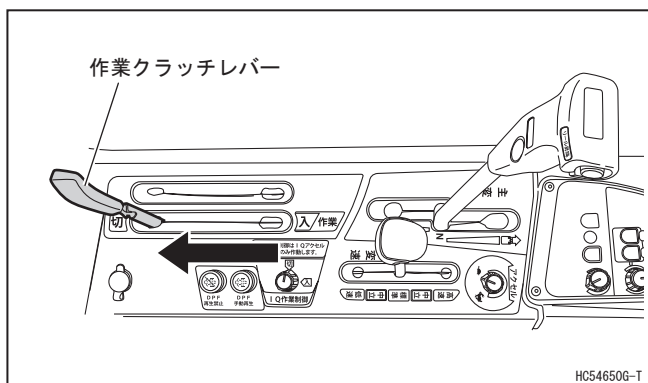
HC1024B

5.3.2 エンジン停止のしかた

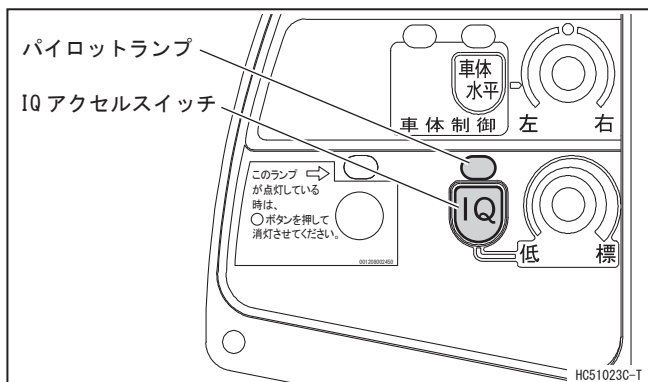
- (1) 主変速レバーを「中立」(「N」) 位置にし、駐車ブレーキペダルをロックするまで踏み込んでください。



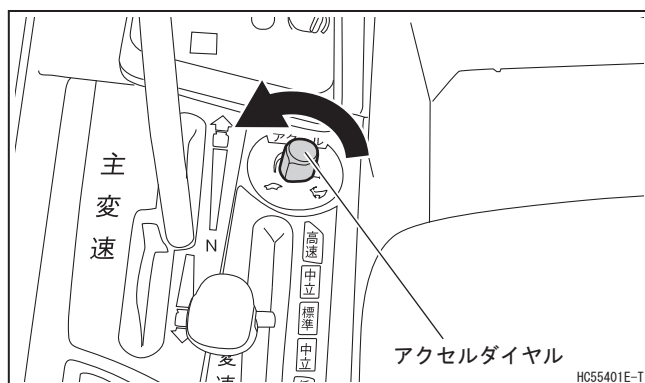
- (2) 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



- (3) IQ アクセルスイッチを「切」(パイロットランプ消灯) にしてください。



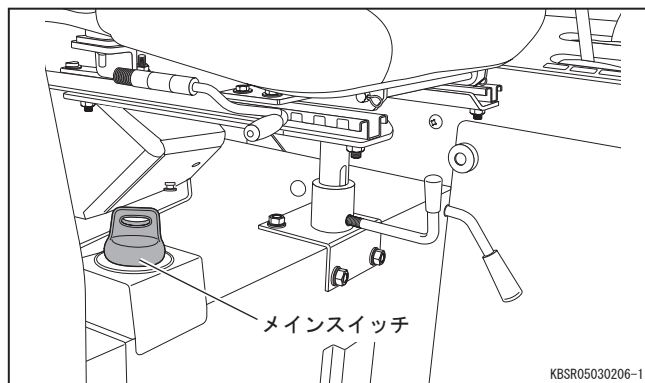
- (4) アクセルダイヤルを「」側にいっぱいまで回してください。



《参考》

長時間運転後は、この状態で約5分ほど運転してからエンジンを停止してください。

- (5) メインスイッチを「切」にして、エンジンを停止してください。

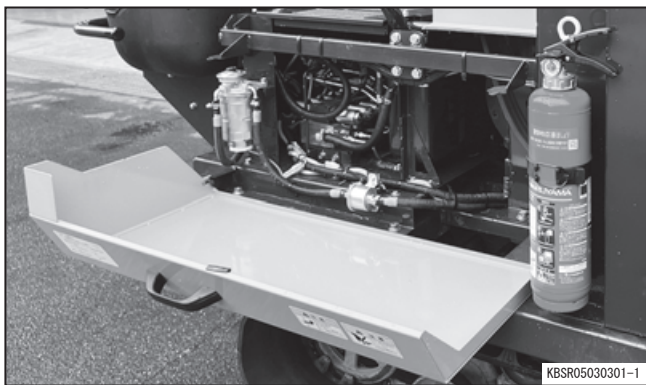


5.3.3 エア抜きのしかた

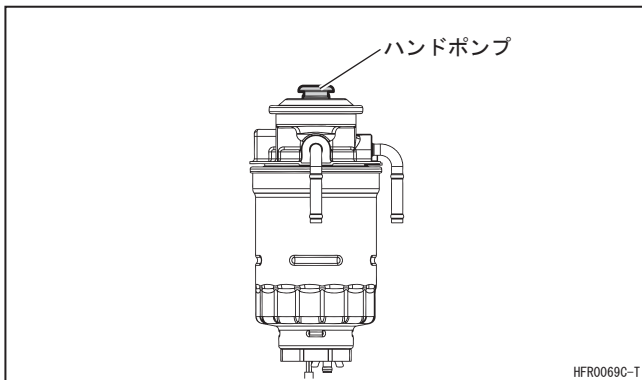
燃料系統にエアが混入すると、始動困難やエンジン不調の原因になります。

燃料タンクを空にしてしまったときや、燃料の水抜きやエレメントの交換等を行ったときは、必ずエア抜きを行ってください。

(1) ベルトカバーを開いてください。(134 ページ)



(2) 燃料フィルタのハンドポンプを重くなるまで押してください。



(3) 開いたカバーを閉じてください。(134 ページ)

(4) メインスイッチを「入」にして、約 1 分間お待ちください。

《 参考 》

自動でエア抜きが行われます。

⚠ 危険

- エア抜き後、エンジンを始動させて、燃料系統に燃料もれがないか点検してください。

※ 燃料もれがあると、火災の原因になります。

(5) エンジンを始動してください。(64 ページ)

《 参考 》

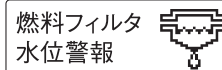
エンジンが始動しないときは、再度エア抜きを行ってください。

5.3.4 水抜きのしかた

⚠ 注意

- マルチアイに「燃料フィルタ水位警報」が表示されたときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いて、燃料フィルタ内の水を排出してください。

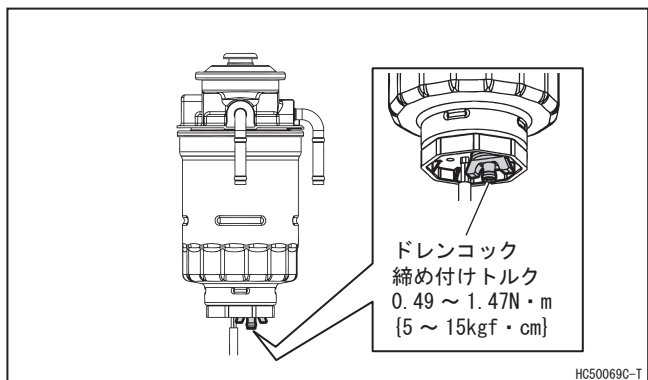
※ 水を含んだ燃料を使用すると、エンジンの早期故障につながります。



(1) ベルトカバーを開いてください。(134 ページ)



(2) 水を受ける容器を、燃料フィルタの下に用意し、燃料フィルタ下部のドレンコックを緩めて、水を排出してください。



(3) 排出される水が燃料に変わったら、ドレンコックを規定トルクで締め付けてください。

(4) エア抜きをしてください。(68 ページ)

(5) 開いたカバーを閉じてください。(134 ページ)

⚠ 危険

● 水抜き後、燃料もれがないか点検してください。

※ 燃料もれがあると、火災の原因になります。

5.4 走行のしかた

⚠ 警告

- 急発進、急制動、急旋回はしないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 機体の上には、人、物等を乗せないでください
※ 守らないと、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 機械の周囲に人がいないことを必ず確認し、「ホーン」を鳴らして合図してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 移動走行での右・左折は、方向指示器で合図し、低速で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 必ず減速してから緩やかに旋回してください。
※ 守らないと、高速走行時の旋回で、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 自走ロールベアラを離れるときは、平たんな場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- やむをえず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけてから木片等で車止めをしてください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 側溝のあるところや両側が傾斜しているところを走行するときは、速度を落として十分注意してください。
※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- ベールは、必ず排出してから走行してください。
※ 守らないと、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 副変速レバーの操作は、急な坂道では行わないでください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが急加速・急減速し、事故の原因になります。
- 自走ロールベアラが大きく左右に傾斜したときは、転倒防止のために警報ブザーが鳴ります。すみやかに平たんな場所へ機械を移動させてください。
※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

5.4.1 パワーステアリングレバーの使いかた

パワーステアリングレバーで、ピックアップ部の上下と、機体の方向修正、旋回ができます。

(1) ピックアップ部を上・下に操作するときは、レバーを前、後に操作してください。

(2) レバーを左、右に操作すると、方向修正から旋回までできます。

レバーの倒し量に応じてブレーキ力が変わります。緩やかな方向修正から旋回まで、条件に合わせて操作してください。

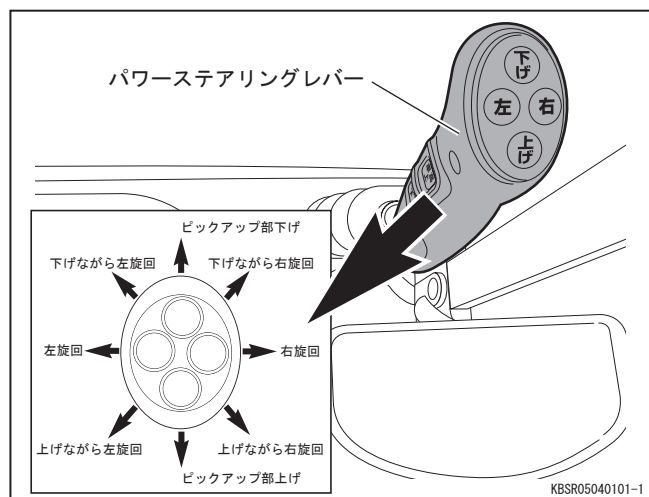
● 緩やかな方向修正

……左または右に軽く倒してください。

● 旋回

……左または右にいっぱい倒してください。

(3) レバーを斜めに操作すると、ピックアップ部を上昇または下降させながら、方向修正ができます。



5.4.2 走行のしかた

警告

● 移動走行するときは、車高調節スイッチを操作し、車高を最下げ位置にしてください。

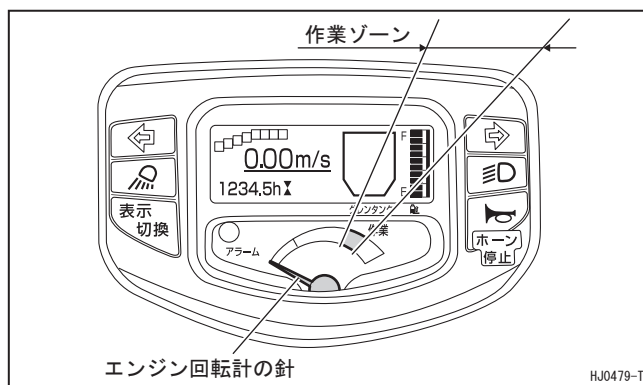
※ 守らないと、転倒等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

● 傾斜地では、副変速レバーの切替をしないでください。

※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させてください。(64 ページ)

(2) アクセルダイヤルを操作して、エンジン回転計の針を、「作業ゾーン」に来るように調節してください。



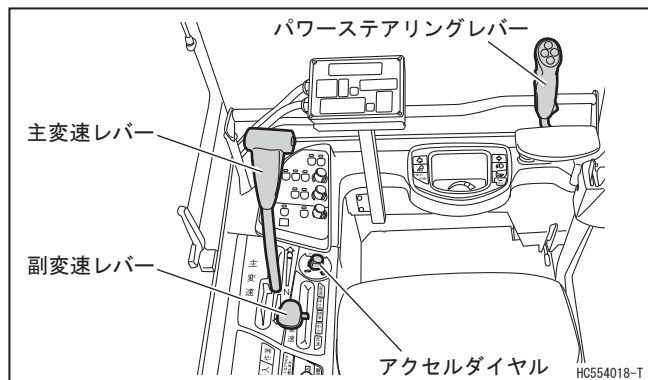
《 参考 》

IQ アクセルスイッチを「入」にしておくと、アクセルダイヤルを操作しなくても自走ロールベアラの走行、停車に応じてエンジン回転数を制御します。

5. 運転のしかた

(3) パワーステアリングレバーを操作して、ピックアップ部を上げてください。(71 ページ)

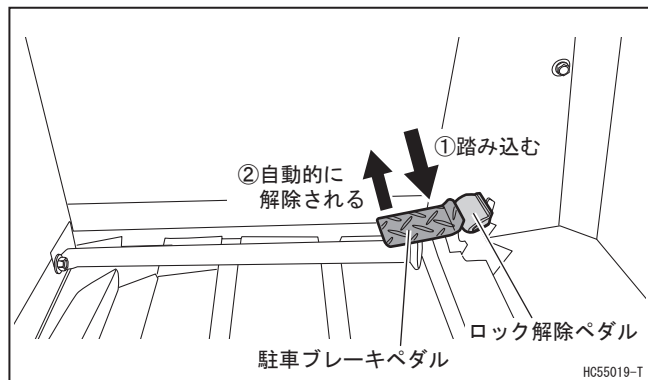
(4) 副変速レバーを、「高速」「標準」「低速」のいずれかの位置に合わせてください。



《 参考 》

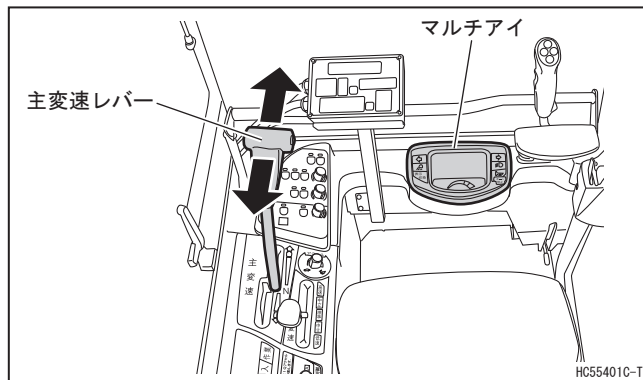
副変速レバーを操作するときは、主変速レバーを「中立」(「N」) 位置にしてください。

(5) ロック解除ペダルを踏んで、駐車ブレーキを解除してください。



(6) 主変速レバーを「前進」側または「後進」側にゆっくり動かして走行してください。

主変速レバーの押し量に応じて、無段階に走行速度を調節することができます。

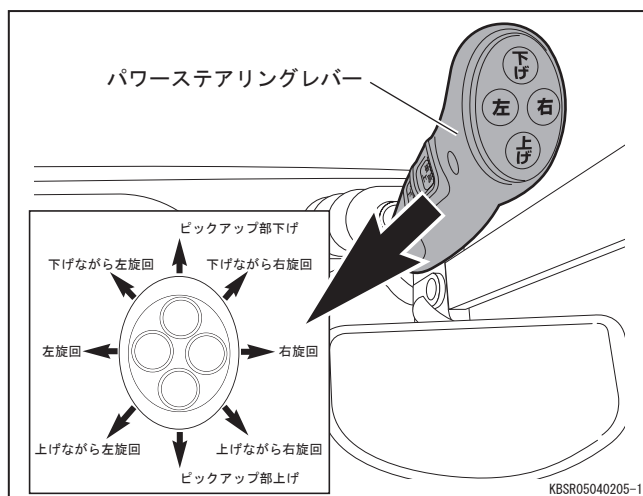


《 重要 》

エンジン回転数が 2000rpm 未満で使用した場合には、マルチアイに「エンジン回転数 2000rpm 以上で使用してください」が表示されます。

回転数を 2000rpm 以上にすると表示は消えます。

(7) 機体の向きを変えたいときは、パワーステアリングレバーを向けたい方向に倒してください。パワーステアリングレバーの倒し量に応じて、方向修正から旋回まで、無段階に向きを変えることができます。



⚠ 警告

- パワーステアリングレバーを左右にいっぱい倒してコーナー旋回すると、急旋回状態になることがあります。ゆっくり操作してください。

※守らないと、転倒・転落事故の原因になります。

⚠ 注意

- 移動走行する場合は、エンジン回転数を 2000rpm 以上で使用してください。

※守らないと、油圧無段変速装置 (HST) の寿命が低下します。

5.4.3 停車・駐車のしかた

⚠ 警告

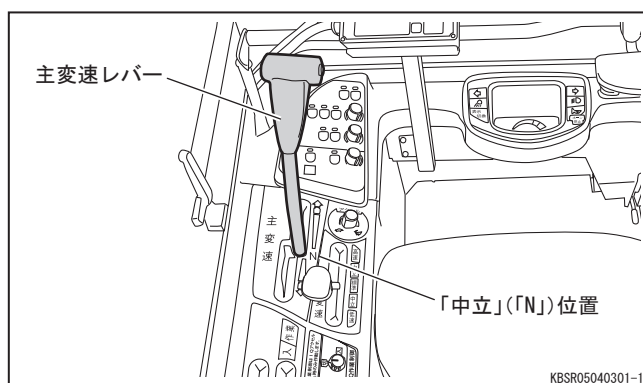
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合は、駐車ブレーキをかけ、木片等で車止めをしてください。

※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

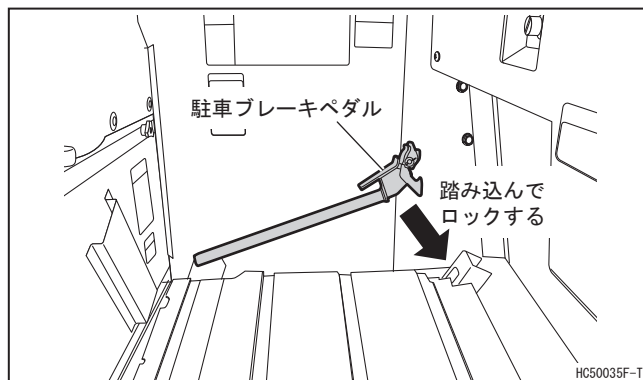
- 停車するときは必ず主変速レバーを「中立」(「N」) 位置に戻してから、駐車ブレーキをかけてください。

※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

- (1) 主変速レバーを「中立」(「N」) 位置にしてください。



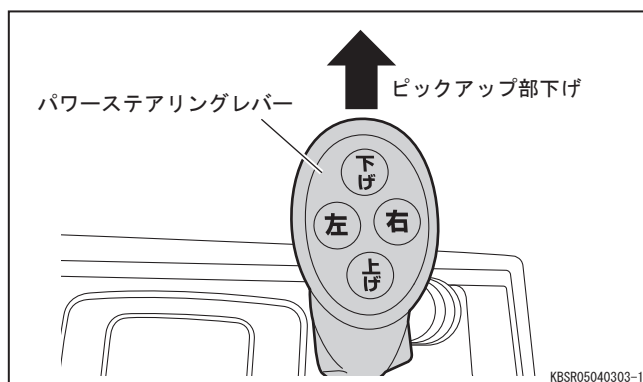
- (2) 駐車ブレーキペダルをロックするまで踏み込んでください。



《重要》

駐車ブレーキをかけると、主変速レバーの操作ができなくなります。

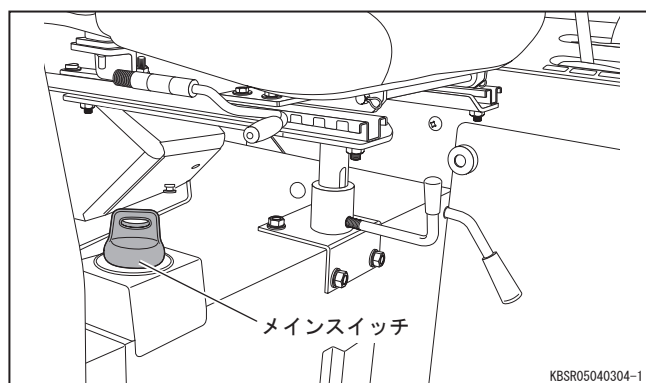
- (3) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部を最下げ位置にしてください。



⚠ 警告

- やむをえず、ピックアップ部を上げて駐車する場合は、ピックアップ部の下にスタンド等の台を置いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

(4) メインスイッチを「切」位置にして、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。

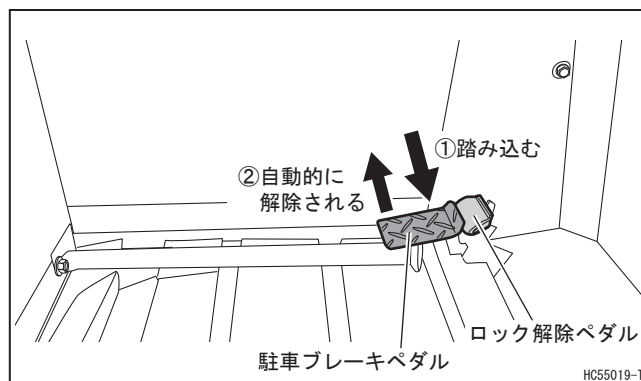


5.4.4 駐車ブレーキの解除のしかた

⚠ 警告

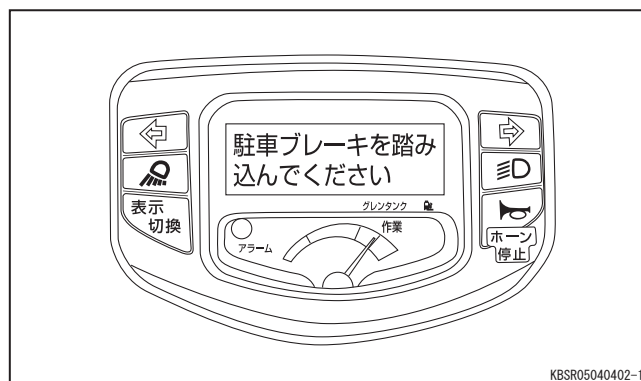
- 坂道で駐車ブレーキを解除する場合は、エンジンを始動し、副変速レバーを「低速」位置に入れ、車止めを外してから解除してください。
- 駐車ブレーキを解除するときは、付近に人がいないことを確認してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロック解除ペダルを踏んで、駐車ブレーキを解除してください。



《参考》

メインスイッチを「始動」位置にした場合、駐車ブレーキペダルが踏み込まれていないときは、マルチアイに「駐車ブレーキを踏み込んでください」が表示されます。



5.4.5 チャンバーの開閉のしかた

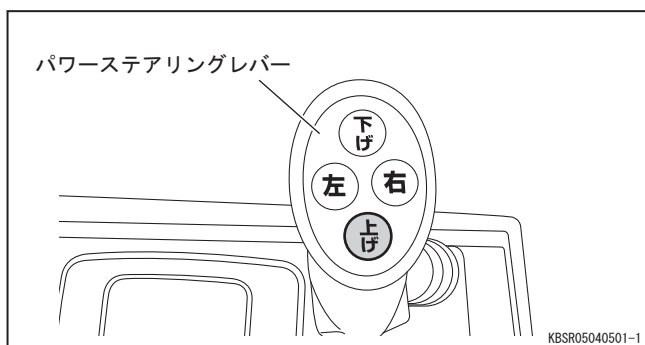
⚠ 危険

- チャンバーを開くときは必ず、人・障害物がないことを確認してください。
※守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャンバーを開いて作業を行うときは、必ず、シリンダストッパをセットしてください。
※守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

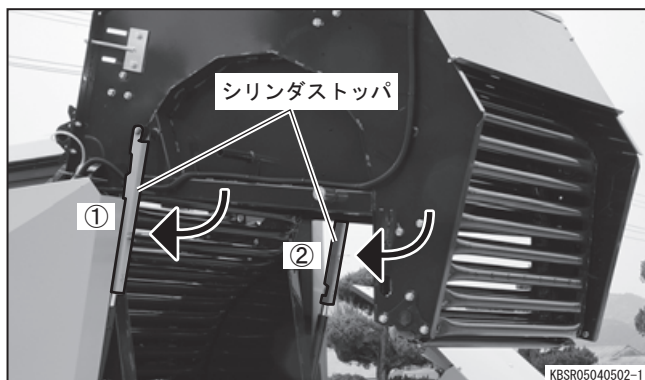
◆ チャンバーの開きかた

(1) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させてください。(64 ページ)

(2) パワーステアリングレバーの「上げ」ボタンを押し続けると、チャンバーが開きます。



(3) 開いたチャンバー内で作業を行う場合は、シリンダストッパを、①、②ともにセットし、エンジンを停止してください。



《 重要 》

- ・ チャンバーを開けて作業を行うときは、必ず、シリンダストッパをセットしてください。
- ・ シリンダストッパは、必ず①側からセットしてください。

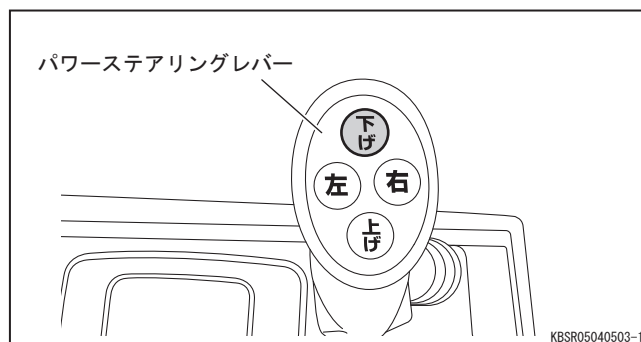
◆ チャンバーの閉めかた

(1) シリンダストッパを、取り外してください。

《 重要 》

- ・ シリンダストッパを取り外すときは、必ず、開いたチャンバー内に人がいないことを確認してください。
- ・ シリンダストッパは、必ず②側から取り外してください。

(2) パワーステアリングレバーの「下げ」ボタンを押し続けると、チャンバーが閉まります。



5.5 自動車等への積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

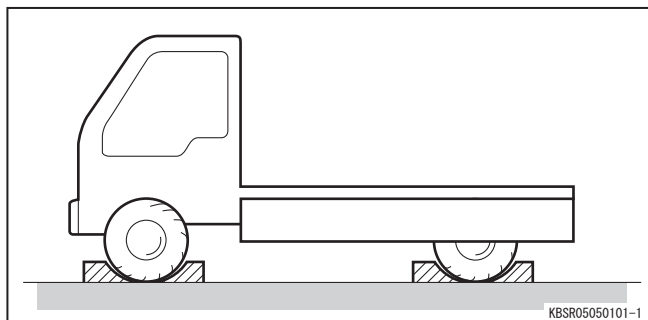
- アユミ板の上では、パワーステアリングレバー、副変速レバー、駐車ブレーキペダルを操作しないでください。
※守らないと、衝突・転倒・転落し傷害事故の原因になります。
- 積み・降ろし的时候は、機体の周辺には立たないでください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- アユミ板の上では、ピックアップ部の上下操作をしないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 周囲に危険のない平坦で、地面の硬い場所を選んでください。
※守らないと、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板は、滑り止めの付いた基準に合ったものを使用し、荷台に段差のないよう確実にかけてください。(77 ページ)
※守らないと、衝突・転倒・転落し傷害事故の原因になります。
- 積み・降ろし的时候は、トラックのエンジンを停止して、変速を「1 速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- 積み込みは、ベアラを空にしてから行ってください。また、カバー類の取り付けが確実にされているか確認してください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- 積み・降ろし的时候は、車高上下スイッチを操作し、車高を最下げ位置にしてください。
※守らないと、転倒のおそれがあります。
- 機体は、荷台からはみ出ないように積み込んでください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- 本機を運搬するときは、サイドウインドウ（左側）（ドア側）・リヤハッチは閉め、ドアは施錠してください。
※守らないと、運搬中に落下し、自走ロールベアラの破損や傷害事故の原因になります。
- アユミ板から荷台に移るときや荷台からアユミ板に移るときは、急に機体の角度が変わるので十分注意してください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。

⚠ 注意

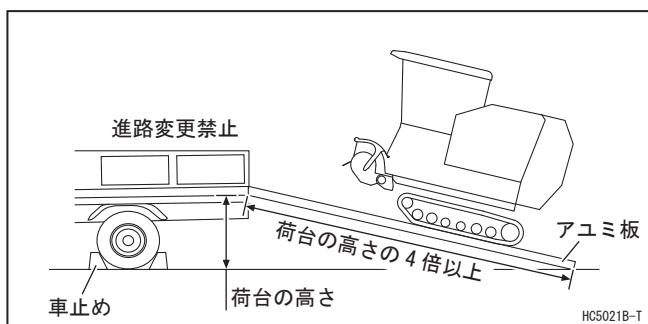
- ロープは所定のフック以外にはかけないでください。
※守らないと、自走ロールベアラの破損や故障を引き起こすおそれがあります。

5.5.1 トラックの準備

- (1) トラックを平たんで地面の硬い場所に止めたあと、エンジンを停止させ、変速を「1 速」または「R」位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。



- (2) 基準に合ったアユミ板を用意してください。

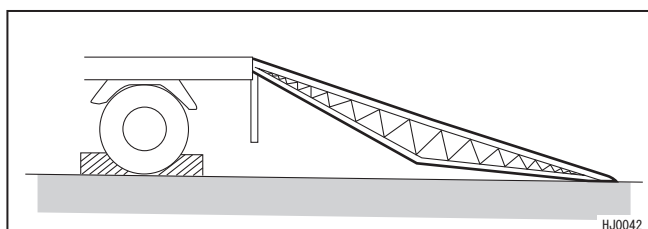


《重要》

・アユミ板の基準

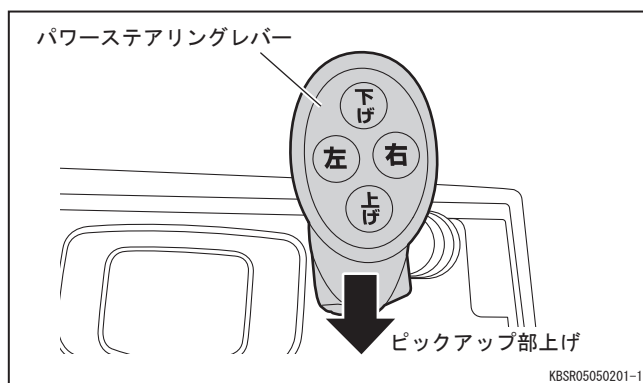
- 長さ……車の荷台高さの 4 倍以上
- 幅……50cm 以上
- 強度……2000kg 以上 (片側 1 枚)
- 数量……2 枚使用
- 滑らないよう処理してあること
- 一方の端にトラックの荷台に引っかけることのできる形状になっていること

- (3) アユミ板のフックを荷台に段差がないように、また、ずれないようにかけてください。

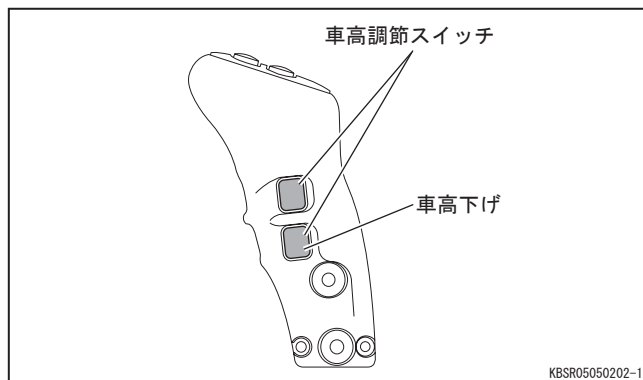


5.5.2 自走ロールベアラの積み込みのしかた

- (1) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させてください。
- (2) IQ アクセルスイッチを「切」にし、アクセルダイヤルを操作してエンジン回転計の針を作業ゾーンに合わせてください。
- (3) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部を最上げ位置にしてください。

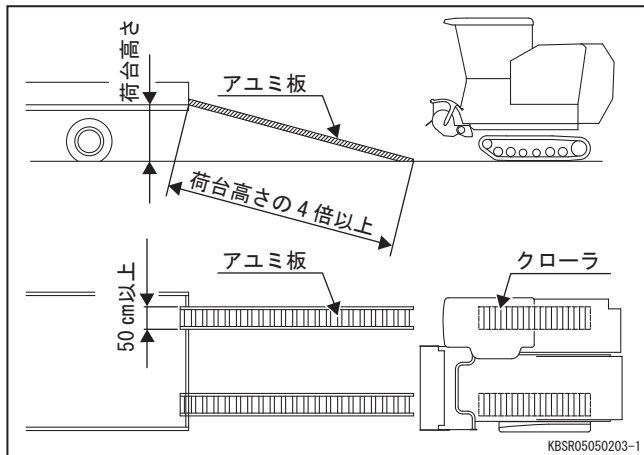


- (4) 車高調節スイッチを操作し、車高を最下げ位置にしてください。



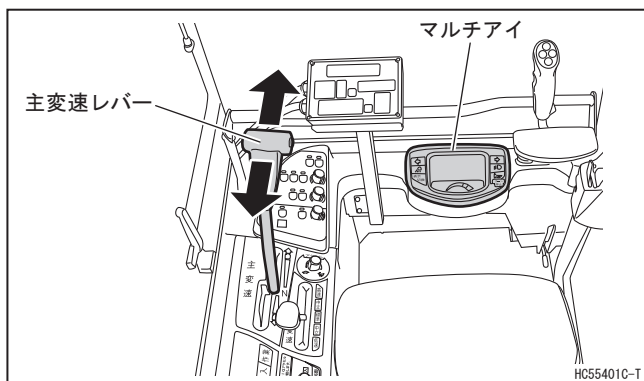
5. 運転のしかた

- (5) アユミ板の前でいったん停止し、左右のクローラがアユミ板と平行になるまで、自走ロールベアラの位置、向きを合わせてください。



- (6) 副変速レバーを「低速」位置にし、主変速レバーを前進方向にゆっくり動かし、微速にて積み込んでください。

- (1) 積み込みは「前進」で行ってください。
(2) 降ろすときは、「後進」で行ってください。



《参考》

エンジン回転数は 2000rpm 以上にしてください。

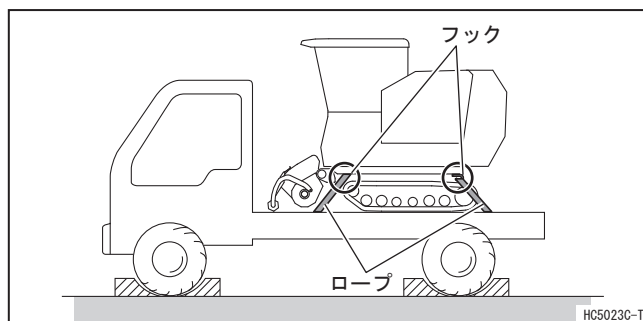
- (7) 駐車ブレーキペダルをロックするまで踏み込み、エンジンを停止してください。

《参考》

- ・駐車ブレーキを確実にかけてください。
- ・車高は最下げ位置にしてください。

- (8) メインスイッチを「切」にしてください。

- (9) 4本（四すみ）のフックをロープで引っ張り、自走ロールベアラを固定してください。



- (10) トラックからの降ろしかたは、逆の手順で行ってください。

⚠ 警告

- トラックで運搬するときは、ゴムバンド等で自走ロールベアラの各カバーを固定してください。

※守らないと、輸送中に風圧等によりカバーが外れた場合、落下物となり、傷害事故の原因になります。

⚠ 注意

- ロープは、所定のフック以外にはかけないでください。

※守らないと、機械破損や故障の原因になります。

5.6 DPF 装置の取り扱い

5.6.1 DPF 装置について

DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）とは、排気ガス中に含まれるスート（黒煙等の粒子物質）等を捕集する装置です。フィルタでスートを一定量以上捕集すると、フィルタの目詰まりを解消するために再生（スートの燃焼）が必要となります。

《重要》

DPF 再生中は、DPF および排気管（排気ガス）が高温になります。

DPF の再生には、「自動再生」と「手動再生」の 2 種類があります。

「自動再生」…通常の作業や走行中に自動で再生を行います。

「手動再生」…DPF 手動再生スイッチを操作して再生を行います。

また、DPF 再生禁止スイッチを操作することで、DPF の再生を禁止、中断することができます。

⚠ 警告

- DPF 再生中は、自走ロールベアから離れないでください。
※守らないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 再生中および再生直後は、排気フィルタ周辺や排出ガスの出口が高温になります。
絶対に触らず近づかないようにしてください。
※守らないと、やけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 可燃性のものが周囲にないように常にきれいにしてください。また、再生直後は機体カバーをかけないようにしてください。
※守らないと、火災の原因になります。
- DPF の再生は、換気のよい屋外で行ってください。
※守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたる原因になります。
- 機体カバーは、エンジン、DPF および排気管が十分冷めてからかけてください。
※守らないと、火災の原因になります。

⚠ 注意

- 必ず、燃料は超低硫黄軽油 (S10)、エンジンオイルは「#セキハイクオリティエンジンオイル (CK-4/DH-2)」を使用してください。
エアクリーナーエレメントを交換するときは、必ず純正部品を使用してください。
※守らないと、DPF 装置に悪影響を与え、故障の原因になります。
※守らないと、国内の排ガス規制基準値に適合しなくなるおそれがあります。
- 不必要なアイドリング運転は行わないでください。
※エンジン回転数が低いほど排出ガス温度が低くなるため、DPF 内が低温になりスートが堆積しやすくなります。

5. 運転のしかた

DPF 再生禁止スイッチ「切」(DPF 再生禁止ランプ消灯)のときの DPF の状態と表示およびブザーの関係

通常時		
ランプ		○(消灯)
		○(消灯)
マルチアイ		通常表示

自動再生開始

自動再生完了

手動再生完了

DPF 自動再生中		
ランプ		○(消灯)
		○(消灯)
マルチアイ		自動再生中

自動再生未完了
で作業継続

手動再生要求前期		
ランプ		○(消灯)
		◎(遅点滅)
マルチアイ		手動再生必要！
ブザー		遅断続

手動再生開始

- 手動再生手順
- ① 駐車ブレーキをかける
 - ② アクセルダイヤルを「」側にいっぱいまで回す
 - ③ IQ アクセルスイッチを「切」にする
 - ④ DPF 手動再生スイッチを3秒以上長押しする

DPF 手動再生中		
ランプ		○(消灯)
		●(点灯)
マルチアイ		手動再生中

手動再生未実施
で作業継続

手動再生要求後期		
ランプ		○(消灯)
		◎(速点滅)
マルチアイ		手動再生必要！
ブザー		速断続

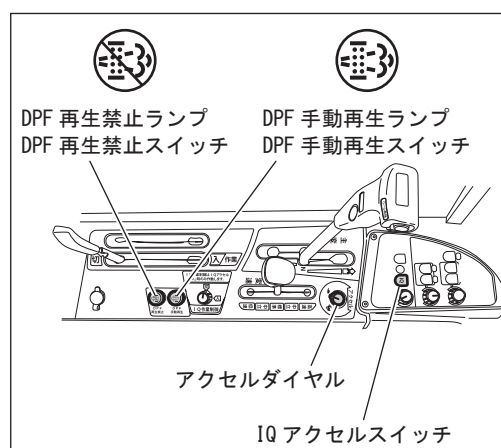
手動再生開始

手動再生要求後期になると、エンジンの出力と回転数が制限され、拾い上げ作業ができません。安全を確保し、ただちに手動再生を行ってください。

手動再生未実施
で作業継続

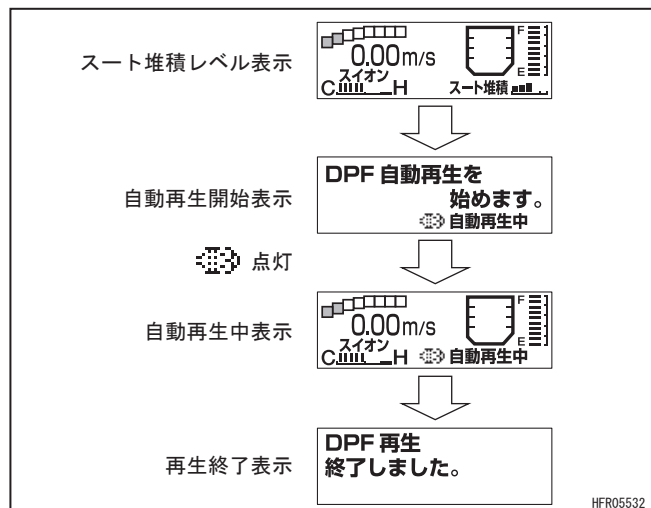
DPF 再生不可		
ランプ		○(消灯)
		○(消灯)
マルチアイ		エンジン異常
ブザー		連続

マルチアイに「エンジン異常」が表示されます。ただちに安全な場所に自走ロールベアラを移動させ、使用を中止してください。お買い上げ先での修理(有償)が必要になります。



5.6.2 DPF 自動再生について

スート堆積レベルが5 段目になると自動再生がはじまり、マルチアイに「自動再生中」と表示されます。



《 参考 》

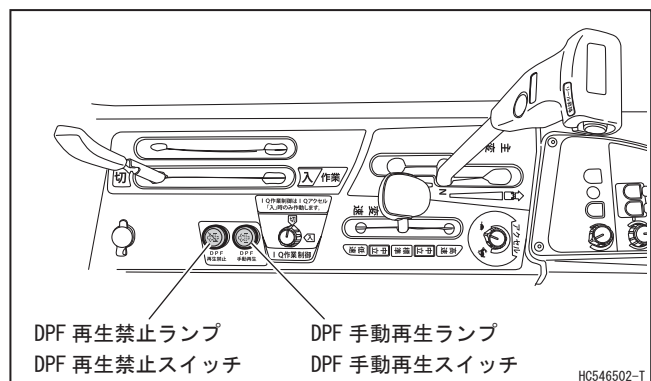
自動再生中は、拾い上げ作業ができます。

自動再生が終了すると、マルチアイに「DPF 再生終了しました。」と表示されます。

《 参考 》

DPF 再生直後は、DPF および排気管等は高温になっています。DPF および排気管等を冷却するためにエンジンの運転を継続することをお勧めします。

自動再生中にエンジンを停止するか、DPF 再生禁止スイッチを「入」(DPF 再生禁止ランプ点灯)にすると再生が中断されますが、エンジン再始動後しばらくすると自動再生が再開されます。



《 参考 》

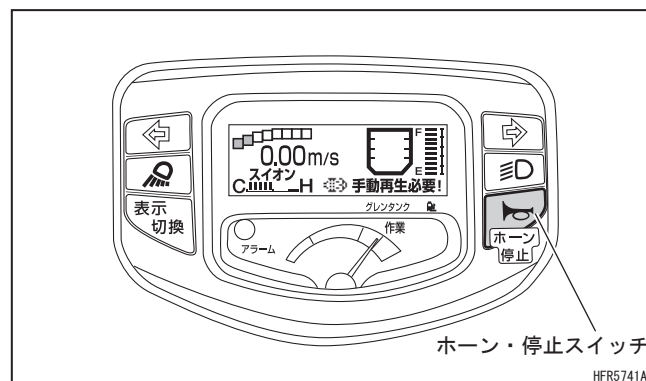
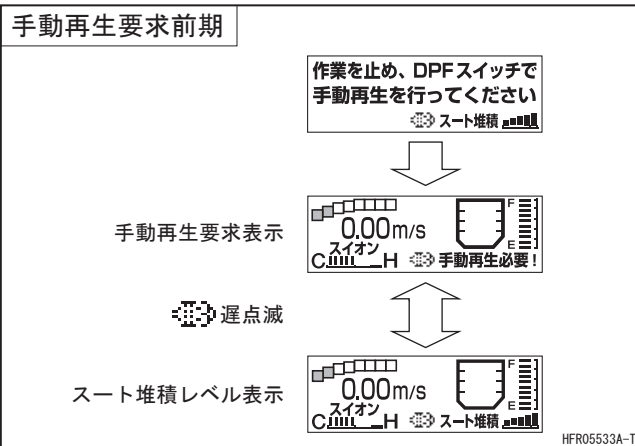
- ・長時間のアイドリングや、低速低負荷の作業等の運転条件により、自動再生が中断されることがあります。
- ・自動再生が中断されたときも、マルチアイに「DPF 再生終了しました。」と表示されます。
- ・自動再生の中断を繰り返すと DPF の再生が完了せず、手動再生が必要になります。

5.6.3 DPF 手動再生のしかた

手動再生が必要になると、ブザーが鳴り、DPF 手動再生ランプが点滅し、マルチアイに手動再生要求が表示されます。手順に従って手動再生を行ってください。なお、これは DPF の機能を回復するためのものであり、故障ではありません。

《 参考 》

鳴り出したブザーは、ホーン・停止スイッチを押すことで一時停止できます。

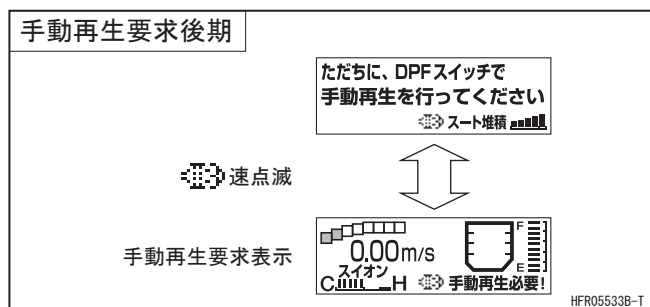


手動再生要求には前期と後期があり、ランプ点滅、ブザー吹鳴の間隔が変化します。

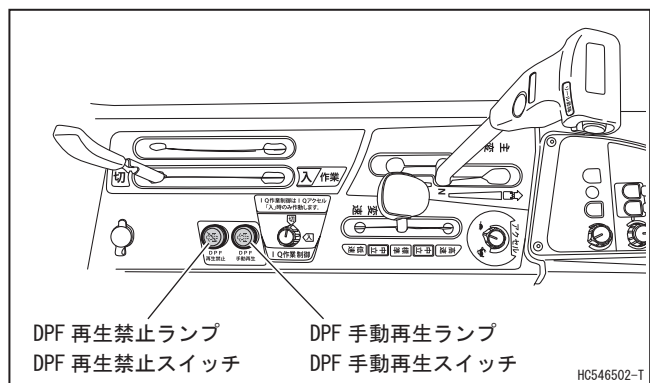
《重要》

- 手動再生要求後期になると、DPF 保護のためエンジンの出力と回転数が制限され、拾い上げ作業ができません。

安全を確保し、ただちに手動再生を行ってください。



- 手動再生要求後期のまま運転を続けると、マルチアイに「エンジン異常」が表示されます。ただちに安全な場所に自走ロールベアラを移動させ、使用を中止してください。お買い上げ先での修理（有償）が必要になります。



警告

- DPF の手動再生は、換気のよい屋外で行ってください。

※守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたる原因になります。

- エンジン、DPF および排気管周辺に排かんくず、ゴミ等がないことを確認してください。

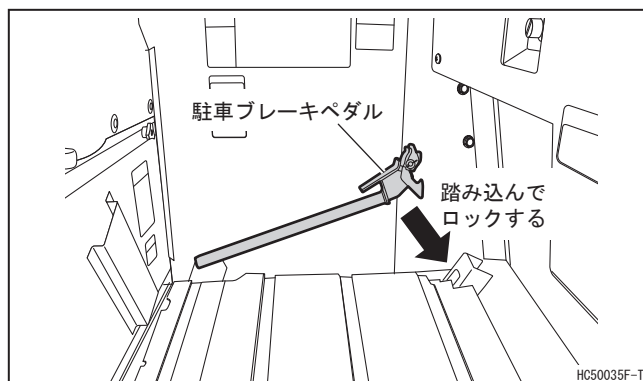
※守らないと、排気管の熱や排気ガスにより着火し、火災の原因になります。

- 排気ガスや高温部に注意してください。

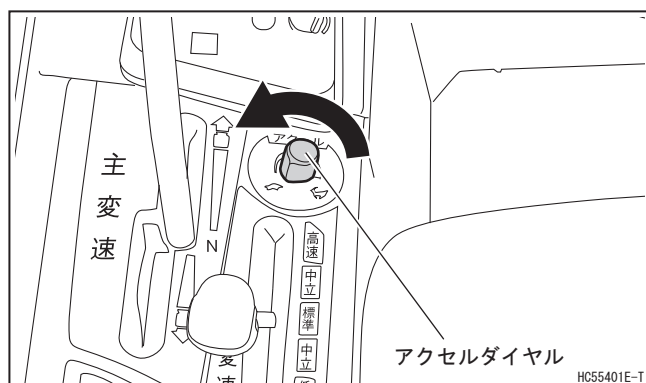
※守らないと、やけどの原因になります。

- (1) 屋外の、かれ草等の燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。

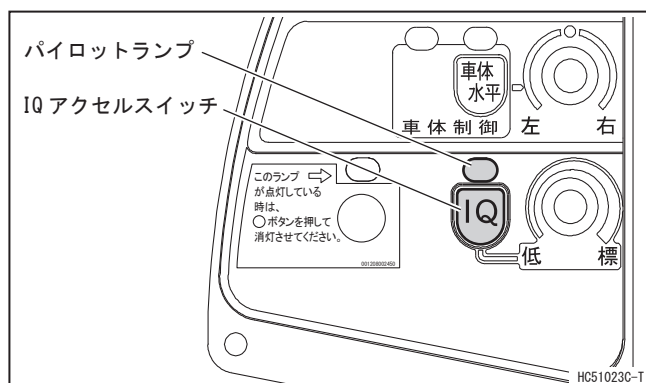
- (2) 駐車ブレーキペダルをロックするまで踏み込んでください。



- (3) アクセルダイヤルを「」側にいっぱいまで回してください。

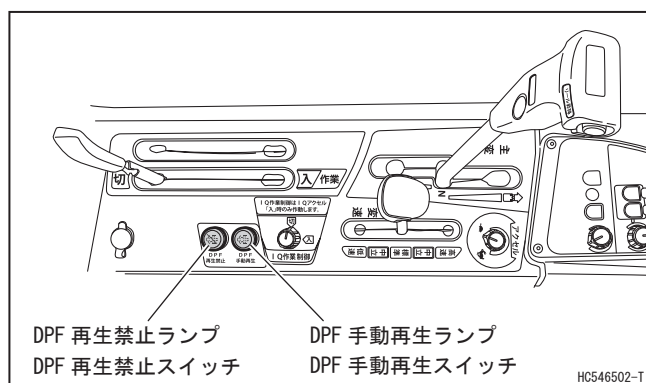


- (4) IQ アクセルスイッチを「切」(パイロットランプ消灯) にしてください。



- (5) DPF 再生禁止スイッチが「入」(DPF 再生禁止ランプ点灯) のときは、DPF 再生禁止スイッチを3秒以上長押しして「切」(DPF 再生禁止ランプ消灯) にしてください。

- (6) DPF 手動再生スイッチを3秒以上長押しして「入」(DPF 手動再生ランプ点灯) にしてください。



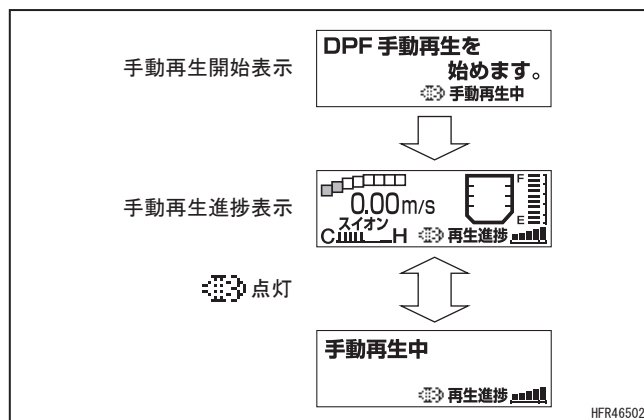
《重要》

冷却水温が低いと、DPF 手動再生スイッチを操作しても「入」になりません。

水温計 (39 ページ) の2段目が表示されるまで暖機運転を行ってから操作してください。

- (7) DPF 手動再生ランプが点滅から点灯に変わり、マルチアイに「手動再生中」を表示し、エンジン回転数が自動で上昇し、再生がはじまります。再生中は自走ロールベアから離れないでください。

再生は通常、約 40 分程度で終了します。



《重要》

- ・ 駐車ブレーキペダル、アクセルダイヤル、IQ アクセルスイッチ、DPF 再生禁止スイッチの状態が手順と異なると、再生ははじまりません。また、再生中に上記項目のいずれかが、手順と異なる状態になると、再生が中断されます。
- ・ 再生時にはスートの燃焼に伴い、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ・ 再生終了の時間は外気温度によって異なります。手動再生はエンジンが冷めているときよりも作業直後等、暖まっているときのほうが早く終了します。

- 手動再生中は、冷却水温が上昇することがあります。
 - 再生は、できるだけ中断せず終了するまで行ってください。
- やむをえず再生を中断するときは、DPF 再生禁止スイッチを 3 秒以上長押ししてください。再生中断後に再生要求が表示されるときは、できるだけ早く手動再生を行ってください。

(8) 再生終了時には、DPF 手動再生ランプが消灯し、エンジン回転がアイドリングになり、マルチアイに「DPF 再生終了しました。」と表示されます。



《 参考 》

DPF 再生直後は、DPF および排気管等は高温になっています。DPF および排気管等を冷却するためにエンジンの運転を継続することをお勧めします。

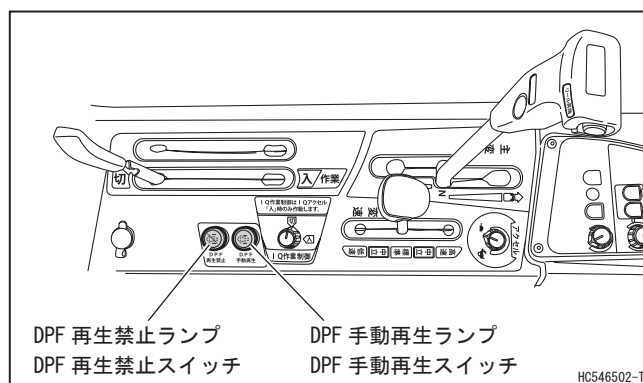
5.6.4 DPF 再生禁止のしかた

DPF の再生を禁止、中断することができます。換気の悪い屋内や、可燃物とマフラ先端が近づく場所で使用してください。

また、やむをえず自動再生、手動再生を中断するときには使用してください。

◆ 再生禁止

- (1) DPF 再生禁止スイッチを 3 秒以上長押しして「入」(DPF 再生禁止ランプ点灯) にしてください。



◆ 再生禁止の解除

- (1) DPF 再生禁止スイッチを 3 秒以上長押しして「切」(DPF 再生禁止ランプ消灯) にしてください。

《 参考 》

メインスイッチを「切」にしたときも再生禁止は解除されます。

6. 作業前の準備

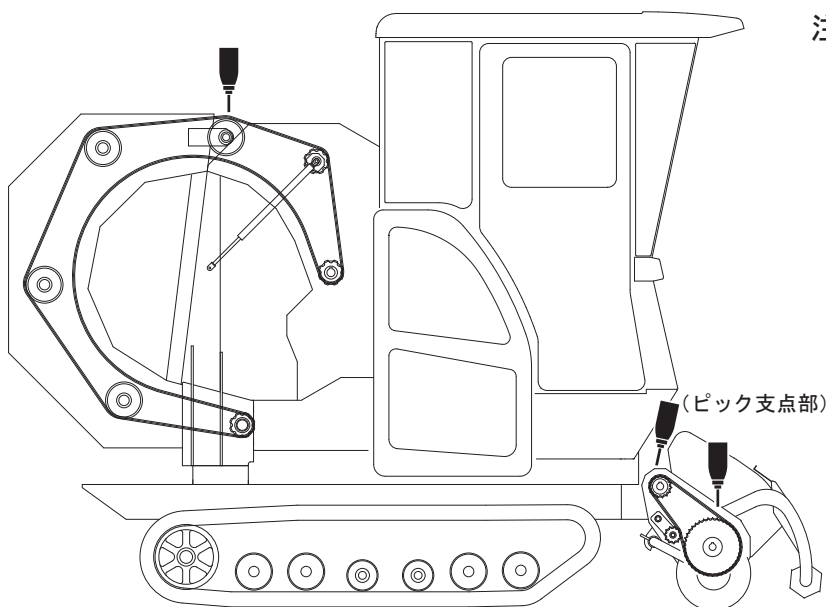
6.1 自走ロールベアラの準備

6.1.1 注油箇所

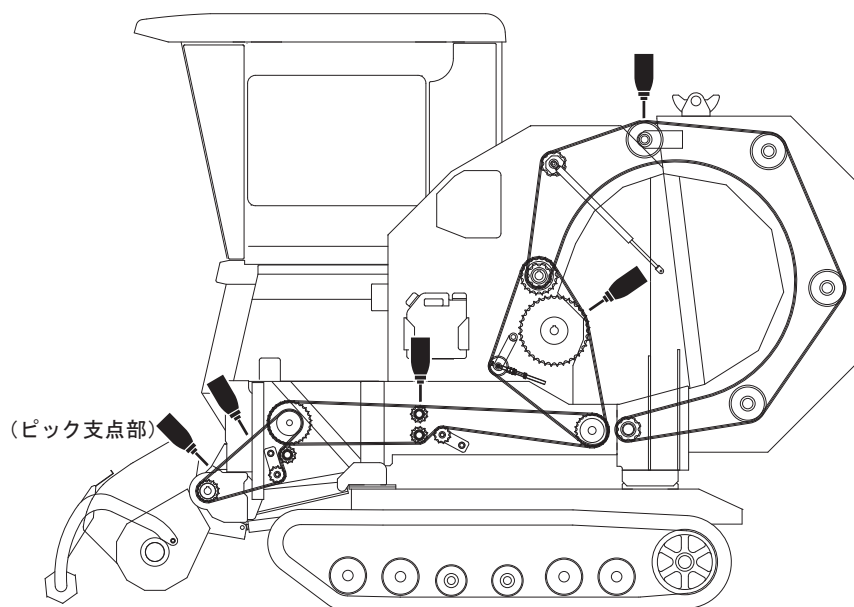
作業前に、必ず注油してください。

本機右側

注油箇所 



本機左側



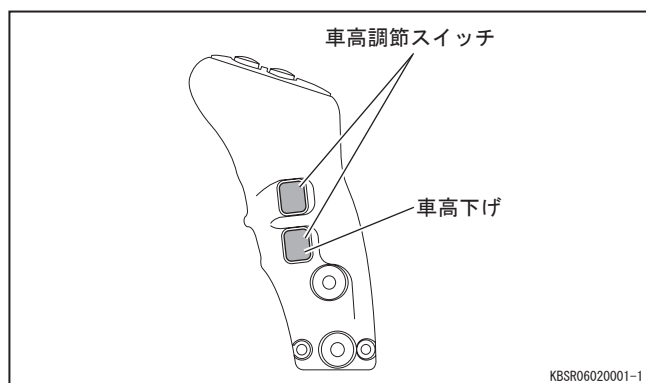
KBSR06010101-1

6.2 ほ場への出入りのしかた

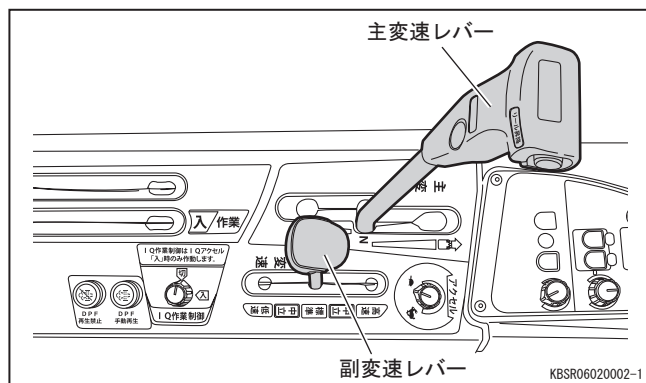
⚠ 警告

- アユミ板は、「アユミ板の基準」(77 ページ) を満たすものを使用してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板は自走ロールペーラの重量で傾かない場所を選んで、使用してください。
※ 守らないと、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

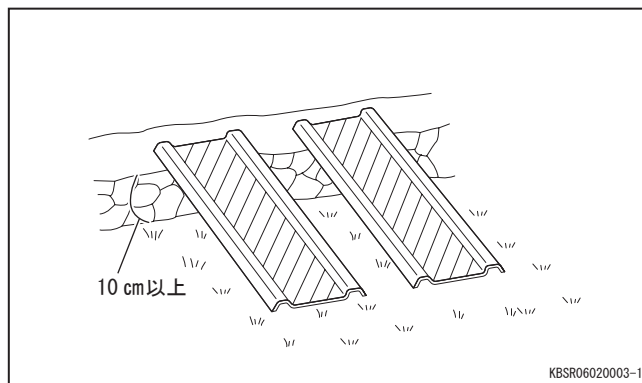
- (1) 車高調節スイッチで、車高を最下げ位置にしてください。



- (2) 副変速レバー「低速」位置で、主変速レバーを「前」側に押してゆっくりとした速度で前進し、あぜに対して直角にのり越えてください。



- (3) 10cm 以上の高いあぜを越える場合は、アユミ板を使用してください。

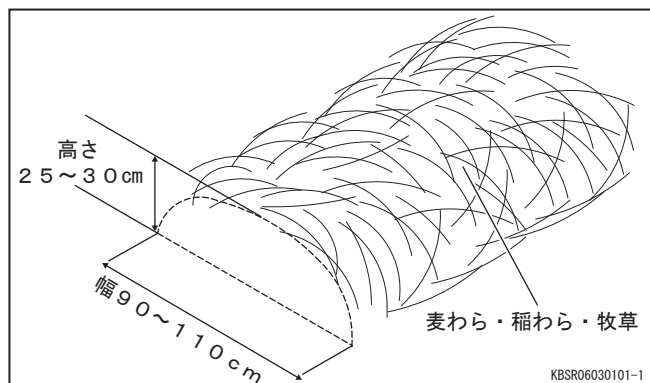


6.3 収穫物の拾い上げ

6.3.1 ウインドローの作りかた

必ず、ウインドローを作ってください。

均一なウインドローの作りかたは、つぎのようにしてください。



《 参考 》

- ウインドローの草量が多いと、詰まりの原因となり、能率的な作業ができません。
- 草の長さが短いと、拾い残しが多くなります。切断長は 10cm 以上を目安にしてください。

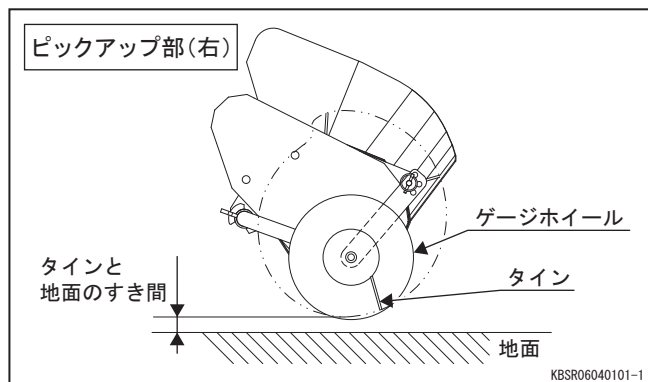
6.4 ピックアップ部の調整

6.4.1 ピックアップ部の高さ調整

◆ ピックアップ部の標準高さ

稲わら等を拾い上げるときの、ゲージホイールは、地面から少し浮いた状態になるように調整してください。また、タイヤと地面のすき間は、つぎの表を参考に、高さ調整を行ってください。

収穫物	タイヤと地面のすき間
稲わら	10 ～ 20mm
麦わら	30 ～ 40mm



《 参考 》

ゲージホイールで草を踏むと、ピックアップ部で詰まりやすくなります。

6.4.2 ピックアップ部のロック

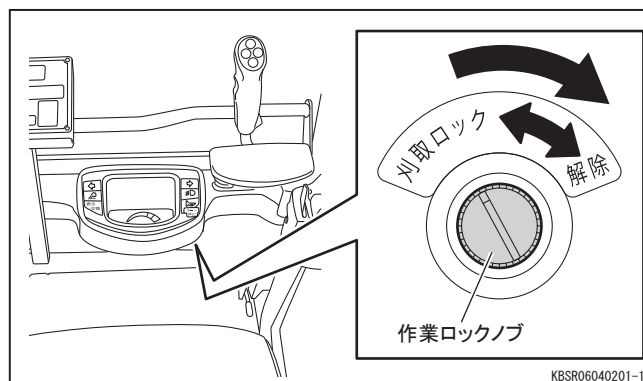
⚠ 警告

- ピックアップ部を上げて機体の点検・調整をするときは、必ず作業ロックノブを「ロック」位置にして、ピックアップ部の下にスタンド等の台を置き、ピックアップ部が下がらないようにしてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

◆ 点検のしかた

- (1) エンジンを始動して、ピックアップ部を上げ、作業ロックノブを「ロック」位置にしてください。

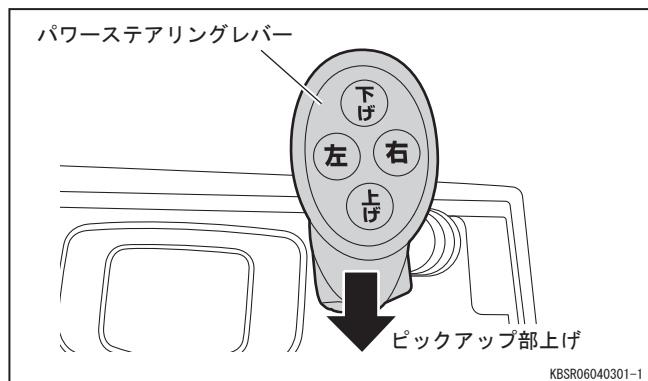


- (2) エンジンを停止し、ピックアップ部の下にスタンド等の台を置いてください。
- (3) 点検・調整の終了後、作業を行うときは、作業ロックノブを「解除」位置にしてください。

6.4.3 クロップカバーの調整方法

作業時の高さ調整は、チェーンで行ってください。

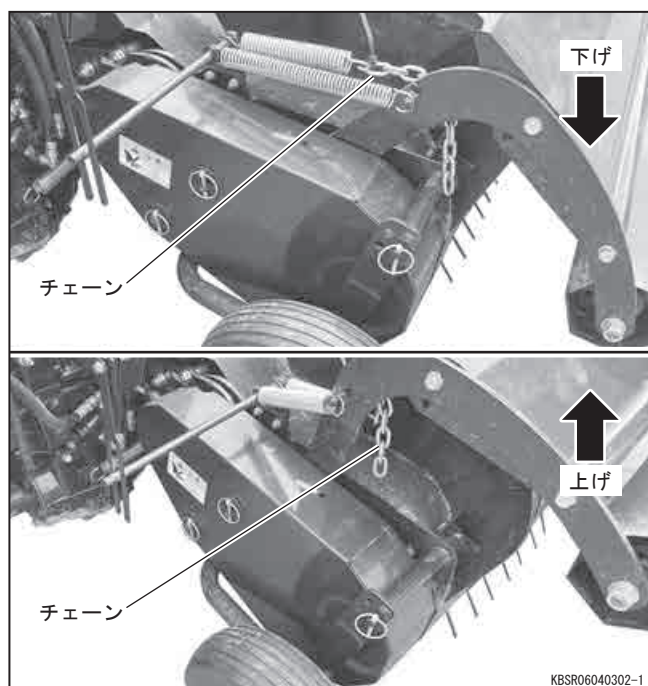
- (1) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部を最上げ位置にしてください。



- (2) クロップカバーの高さを調整してください。

《 参考 》

- ピックアップ部横のチェーンの長さを調整することで、クロップカバーの高さを調整することができます。
- ウィンドローが大きいときはクロップカバーを高く、切りわら作業では低く調整してください。

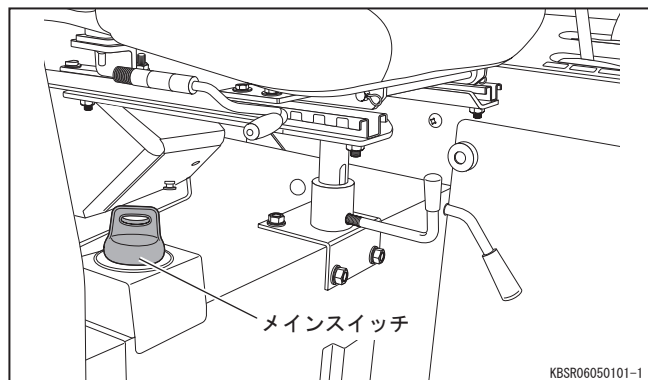


6.5 コントロールボックスの使いかた

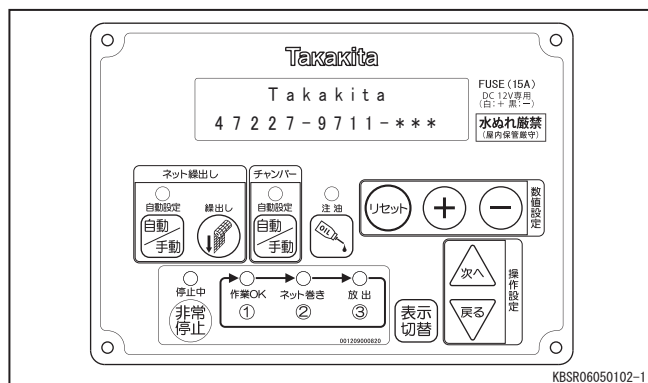
6.5.1 コントロールボックスの使いかた

◆ コントロールボックスの起動のしかた

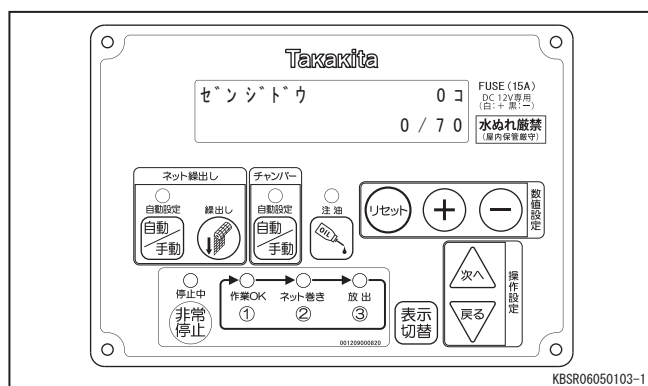
(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



(2) コントロールボックスのディスプレイに、バージョン情報が表示されます。

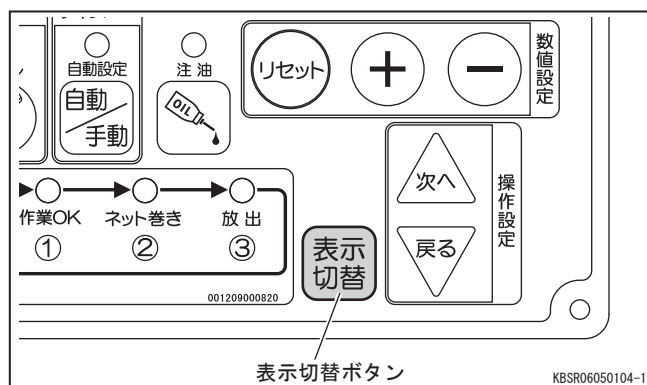


(3) 作業画面が表示されます。



◆ セッテイモードへの移行のしかた

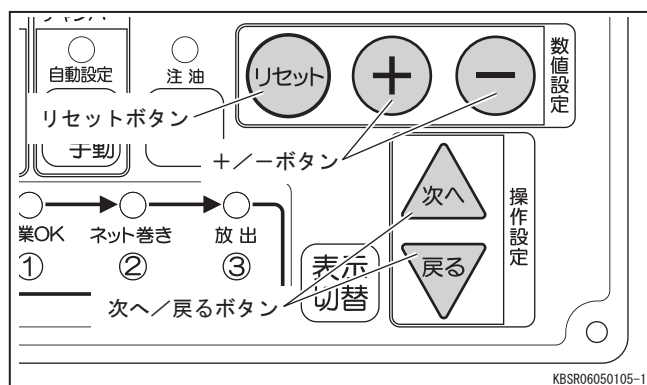
(1) 作業画面から表示切替ボタンを一度押すと、セッテイモードへ移行することができます。



(2) セッテイモードは10項目あり、次へ/戻るボタンを押すことで各設定項目へ移行することができます。

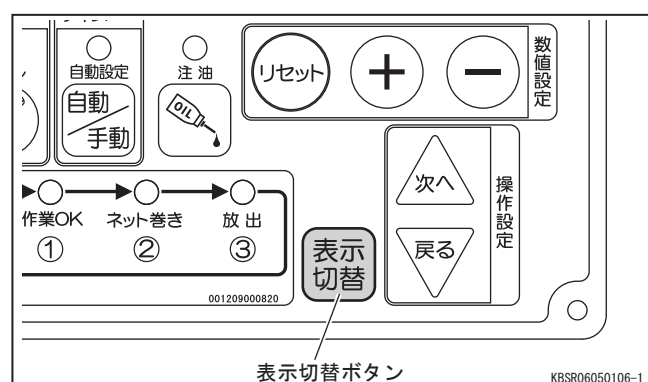
また、+/-ボタンで値を変更、リセットボタンで値を初期値に変更できます。

各設定項目の詳細については、つぎの通りです。



設定項目	初期値	内容
1. ルイセキ	0 コ	作成したベールの総個数を表示します。
2. コスウ	0 コ	作成したベールの個数を表示します。 「リセットボタン」を3秒間長押しすることでリセットできます。
3. チャンバー オート カイ	5.0s	ネット巻き後にチャンバーを開く時間を設定できます。 範囲 :3.0 ~ 10.0
4. オート カイヘイ マチジカン	1.0s	チャンバー自動開閉時にホーンが鳴ったあと、チャンバーが動作しはじめるまでの時間を設定できます。 範囲 :0.5 ~ 5.0
5. チュウユ ジカン	4s	自動注油の時間を設定できます。(自動注油はベールを放出しチャンバーを閉じたあとに行います。) 範囲 :2 ~ 10
6. クリダシ ホーン ジカン	0.5s	ネット繰出しをはじめる前に鳴る、ホーンの鳴り時間を設定できます。 範囲 :0.1 ~ 3.0
7. カウント	3.0 ソウ	ネットの巻き数を変更できます。 範囲 :1.0 ~ 5.0
8. ブレーキ カイジョ	0.5 ソウ	ベールにネットが入って行くための繰出し量を変更できます。 範囲 :0 ~ 2.0
9. カンチキヨリ	70mm	満了までの感知距離を変更できます。 設定を上げすぎるとシェアボルト切れ、エンジンダウン、強制ネット繰出しの原因になります。 範囲 :10 ~ 100
10. ポテンショ ショキチ	セッテイチ 2.50V	満了感知ポテンショの初期値を変更できます。 リセットボタンを長押しすると、現在の電圧を初期値として保存します。

(3) 表示切替ボタンを3回押すと、作業画面に戻ります。



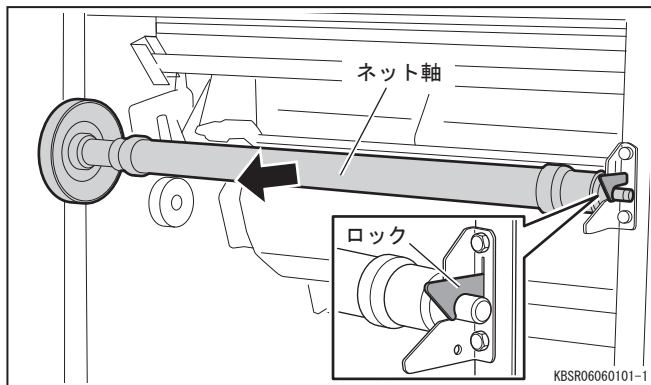
《 参考 》

- 「入力チェックモード」への移行のしかたは、8章「入力チェックモード（コントロールボックス）」(111 ページ) を参照してください。
- 「メーカーセッテイモード」への移行のしかたは、9章「メーカーセッテイモードについて」(128 ページ) を参照してください。

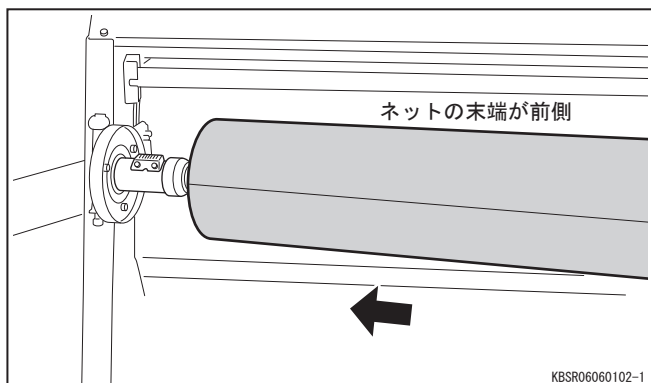
6.6 ネット交換のしかた

6.6.1 ネットの通しかた

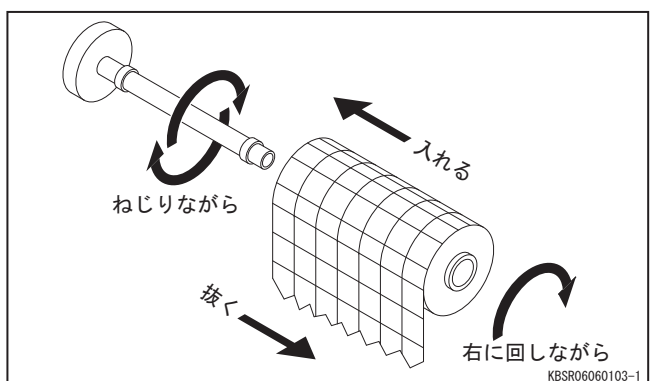
- (1) ロックを上げ、ネット軸を矢印の方向へ引き出してください。



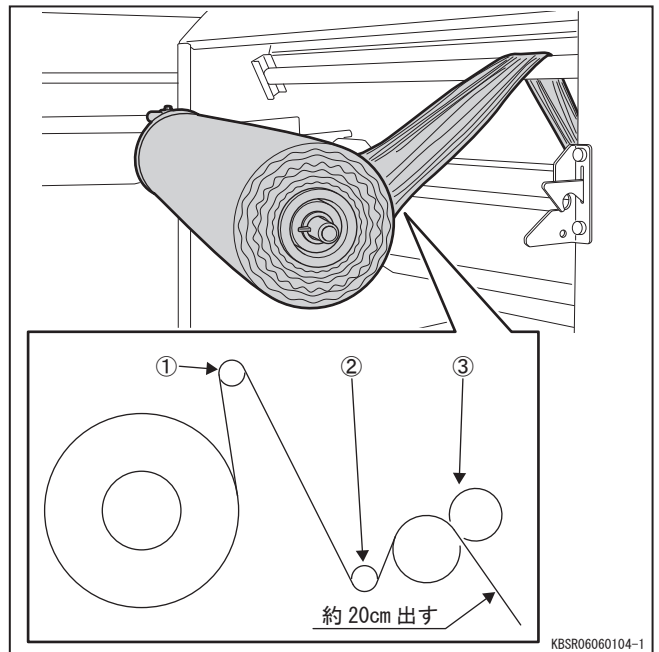
- (2) ネットの末端が前側になるように、ネット軸に、ネットを差し込んでください。
ネットの末端は、あらかじめ2mほど引き出しておいてください。



- (3) ネットを矢印の方向へ、ねじりながら差し込んでください。



- (4) ネットは束ねた状態で、①～③の順に通してください。

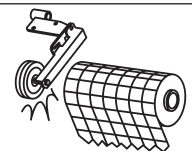


《参考》

- 帯電しないネットを使用してください。
ネットの種類によりトラブルが発生することがあります。
- ネットをカウントローラにぶつけないようにしてください。カウントローラが破損するおそれがあります。

カウントローラ破損
のおそれあり！
ネット挿入時注意！

001204501440

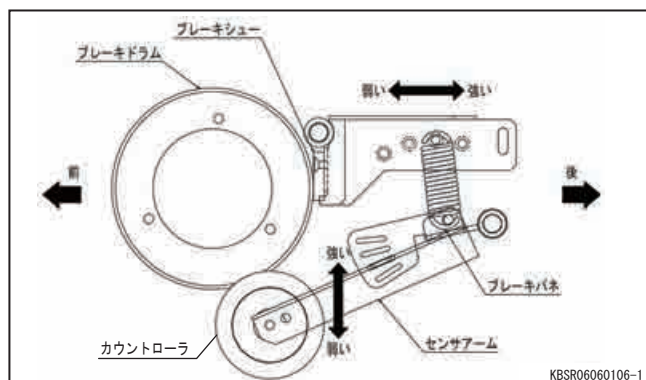


KBSR06060105-1

(5) ブレーキ力は、ネットの後ろ側にあるブレーキバネで調整してください。

(6) ブレーキバネを下図のように

- ・切れやすいときは前（弱い）へ
 - ・広がらないときは後ろ（強い）へ
- かけかえてください。



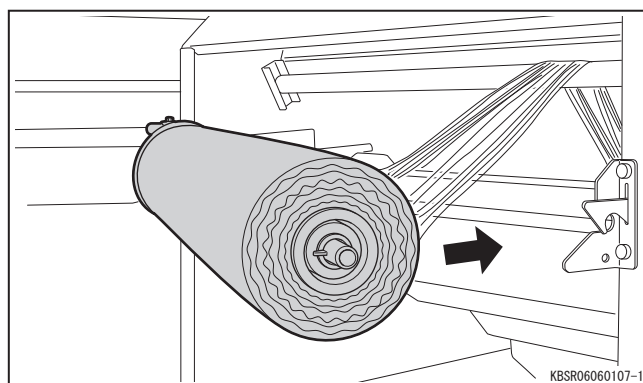
(7) ブレーキバネを調整するときは、ネットロールを前に出してください。

(8) ブレーキバネの調整よりもさらに微調整したいときは、センサーアームの穴位置を変更してください。

《 参考 》

- ・ブレーキドラムが錆びていると、最初の数ベールはブレーキ力が弱くなります。また、ブレーキシューの減りが早くなります。
- ・ブレーキが弱いとネットが広がらず、強いと切れやすくなります。ネットが広がらない場合は、付属のブレーキバネに交換してください。

(9) ネットロールを矢印の方向に押して、ネットを巻き取りながら収納してください。



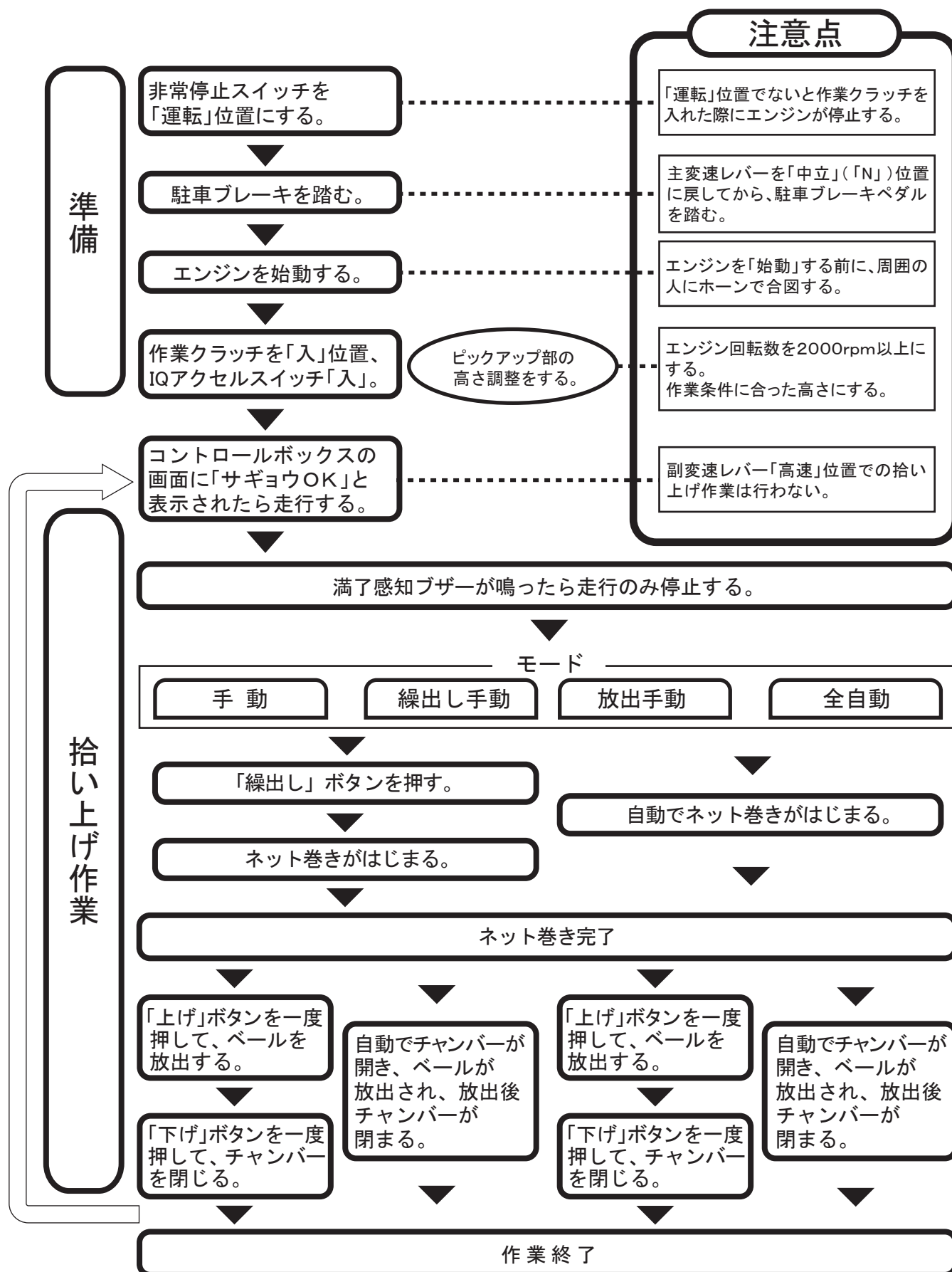
7. 作業のしかた

7.1 ウインドロー拾い上げ作業のしかた

⚠ 警告

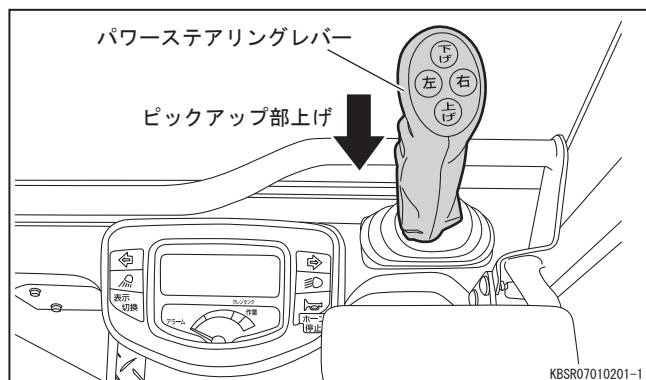
- 作業に適した服装を着用してください。
はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具等を付けて、だぶつきのない服装をしてください。
※守らないと、巻き込まれ、はさまれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- すべてのカバーを装着してください。
※守らないと、巻き込まれ、はさまれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 異常が発生したときは、ただちにエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜き、点検してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- フラクズを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 二人以上の共同作業では、補助者の状況に十分注意をはらい、運転してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 後進するときは、後方の状況に十分注意をはらい、低速で後進してください。
※守らないと、機械に巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 拾い上げ作業をするときは、周囲の状況に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。
※守らないと、機械に巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジンが動いているときは、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。
※守らないと、巻き込まれ、はさまれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- パワーステアリングレバーを左右にいっぱい倒してコーナー旋回すると、急旋回状態になることがあります。ゆっくり操作してください。
※守らないと、転倒・転落事故の原因になります。

7.1.1 作業手順と要点

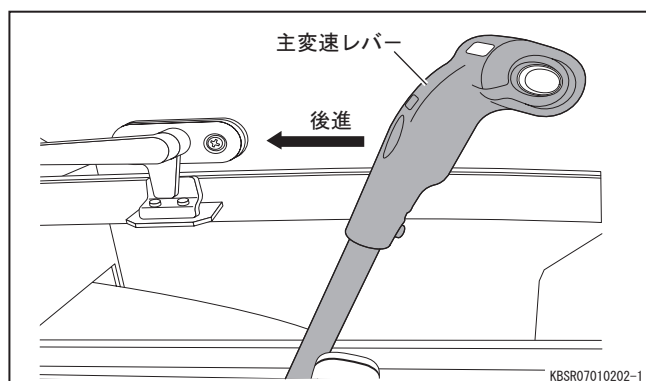


7.1.2 回行のしかた

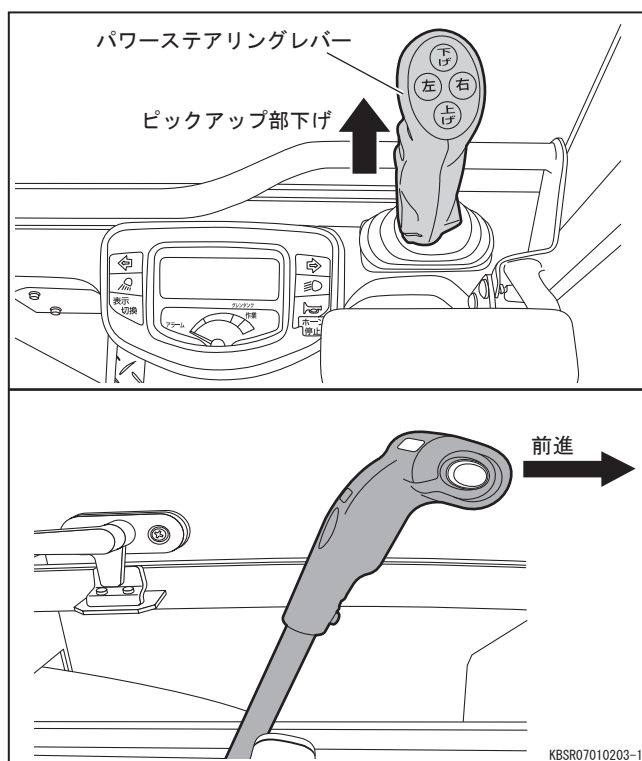
- (1) ウィンドローの端まで拾い終わったら、パワーステアリングレバーでピックアップ部を上げてください。



- (2) 主変速レバーとパワーステアリングレバーを操作して、つぎのウィンドローに位置合わせをしてください。

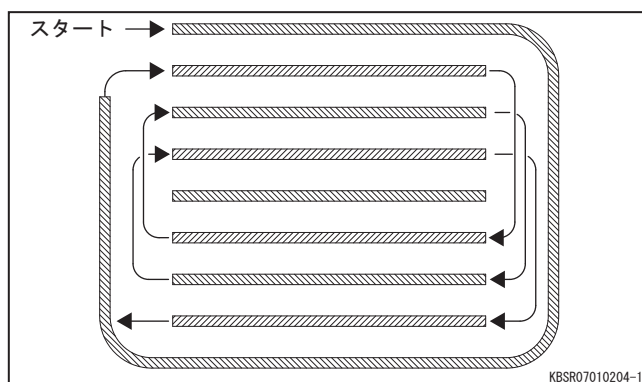


- (3) ピックアップ部を下げ、主変速レバーを「前進」側に押し、前進してください。



《重要》

- 旋回するときは、できるだけ大きく旋回し、急旋回はしないでください。
- 急旋回が必要な場合は、必ず作業クラッチレバーを「切」位置にして旋回してください。



7.1.3 作業速度の選びかた

注意

- 副変速レバー「高速」位置での拾い上げ作業を行わないでください。
※守らないと、故障の原因となります。

つぎの表を目安にして、作業速度を調節してください。

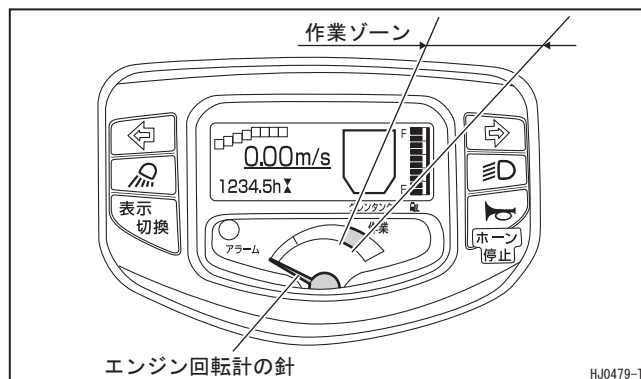
適用	作業速度
稲わら、麦わら	1.1 ~ 1.4m/s

《 参考 》

- ・ウインドロー拾い上げの作業速度は、わらの種類や水分量、ウインドローの草量によって異なります。
- ・ウインドローの草量が多い場合は、作業速度を落としてください。

7.1.4 エンジン回転の合わせかた

アクセルダイヤルで、エンジン回転計の針が、「作業ゾーン」にくるように、調整してください。



《 重要 》

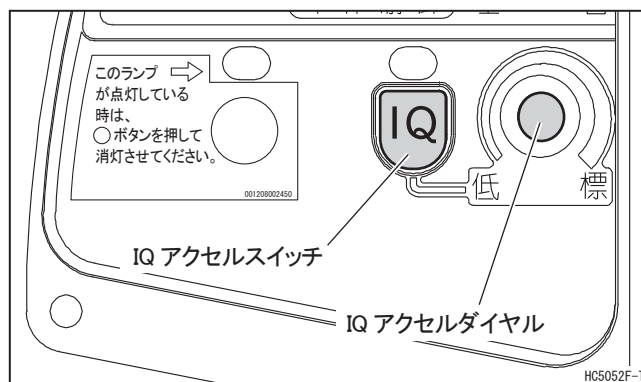
エンジン回転が高すぎると、作業ロスが多くなります。

また、エンジン回転が低すぎると、エンストや詰まりの原因となったり能率があがりません。

◆ IQ アクセルスイッチ「入」のとき

移動走行、停車、拾い上げ作業の状況に応じて適切なエンジン回転数に自動制御します。

IQ アクセルダイヤルで拾い上げ作業時の制御回数を作業ゾーンの範囲内で調節できます。

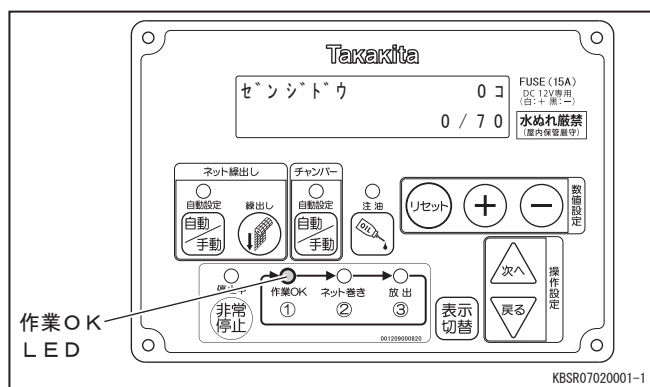


7.2 ベールの作りかた

⚠ 危険

- ベールを放出するときは、後方に人や動物・障害物がないことを確認してください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 傾斜地で放出すると、ベールが転動して、危険です。
必ず平坦な場所で放出してください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

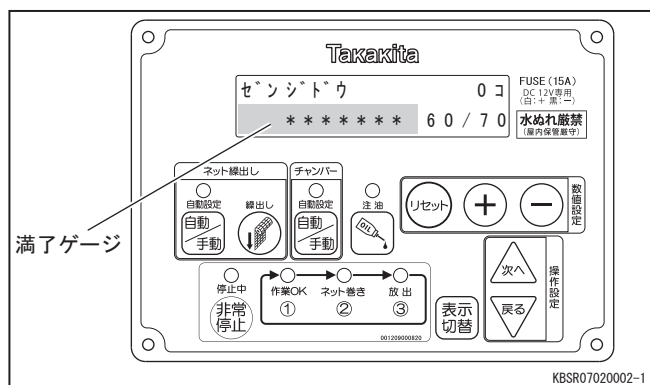
- (1) コントロールボックスの「作業 OK」LED が点灯していることを確認してから、収穫をはじめてください。



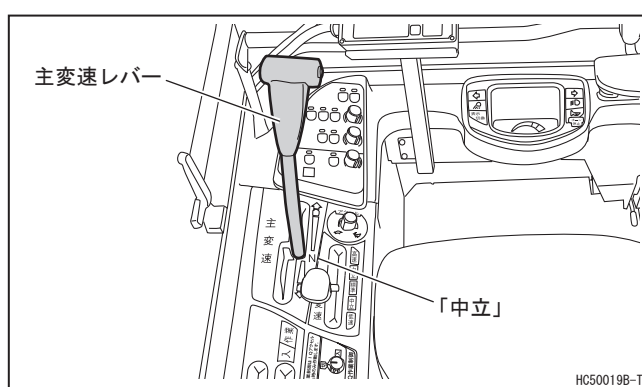
《 参考 》

草量が多いときは、拾い上げ開始後 5 ～ 10m はゆっくり走行してください。
詰まりの原因となります。

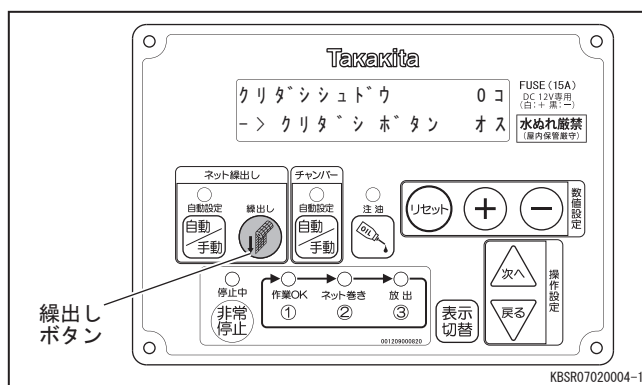
- (2) ウィンドローから拾い上げ作業を行うと満了ゲージが増えます。
満了ゲージは、10 段階で表示されます。



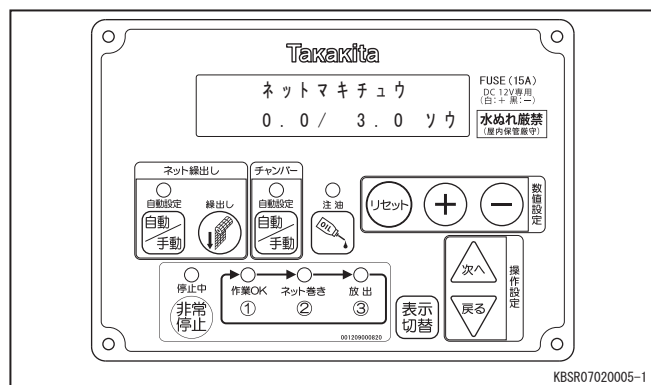
- (3) 満了ゲージが設定値に達するとブザーが鳴りますので、主変速レバーを「中立」(「N」) 位置にして本機を、停止させてください。



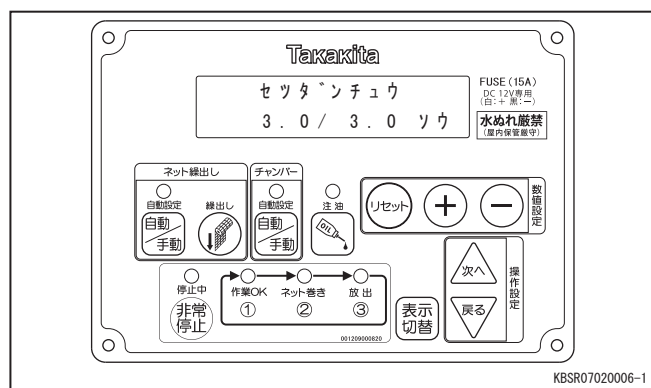
- (4) 手動モードまたは繰出し手動モードの場合は、つぎの表示が出ますので、繰出しボタンを押すとネットが繰出されます。



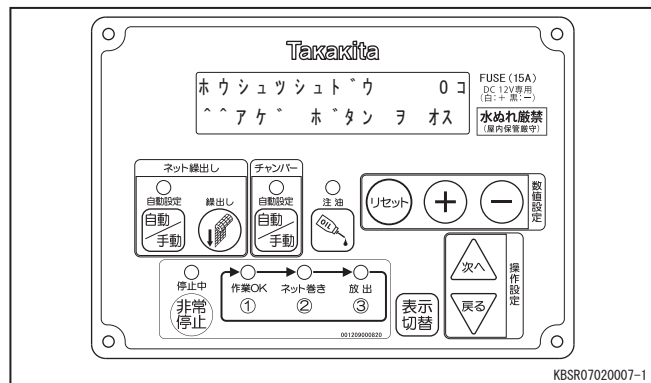
- (5) 繰出しボタンを押したあとまたは全自動モード、放出手動モードのとき繰出すネットの長さが表示され、設定値までネットがチャンバーへ繰出されます。



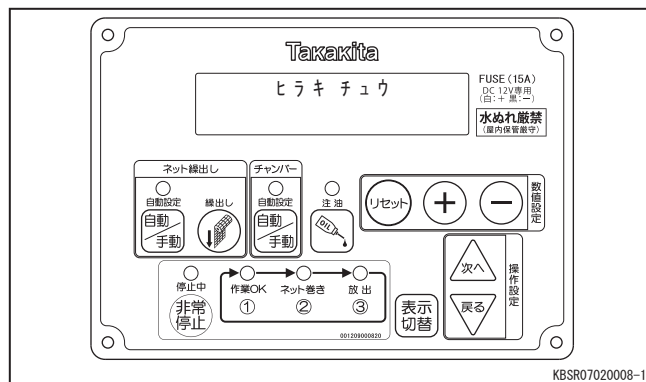
- (6) 「セツダンチュウ」と表示され、ナイフでネットを切断します。



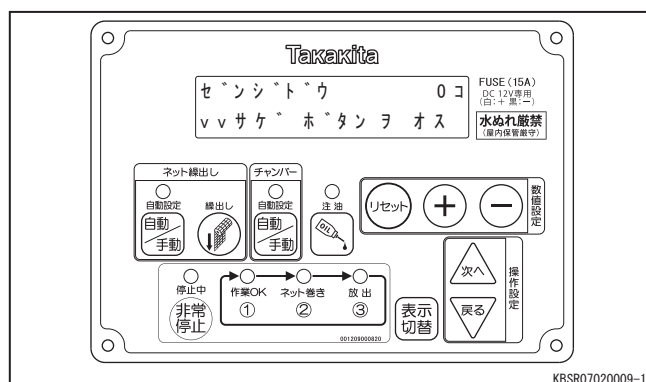
- (7) 手動モードまたは放出手動モードの場合、つぎのように表示されますので、パワーステアリングレバーの上げボタンを一度押すと、チャンバーが開きます。



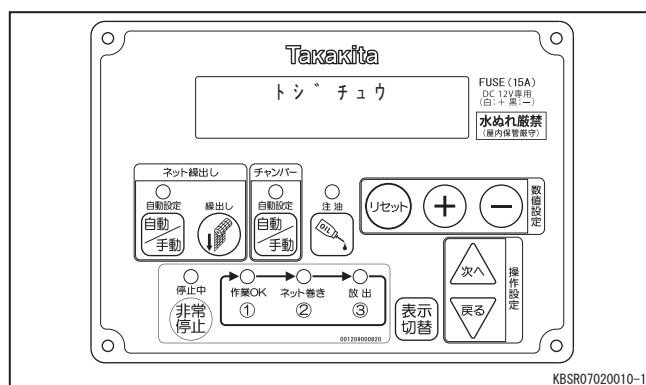
- (8) 上げボタンを押したあと、または全自動モード、繰出し手動モードのとき設定したタイマの間チャンバーを開く動作をします。



- (9) 手動モード、または放出手動モードの場合、ベールが放出されると下図の表示が出ますのでパワーステアリングレバーの下げボタンを一度押すと、チャンバーが閉じます。



- (10) 下げボタンを押したあと、または全自動モード、繰出し手動モードのとき設定したタイマの間チャンバーを閉じる動作をします。

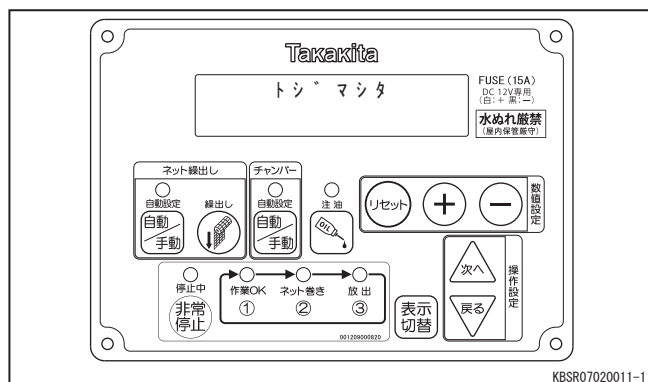


《重要》

チャンバーを開くときは必ず、人・障害物がチャンバーの後ろにいないことを確認してください。

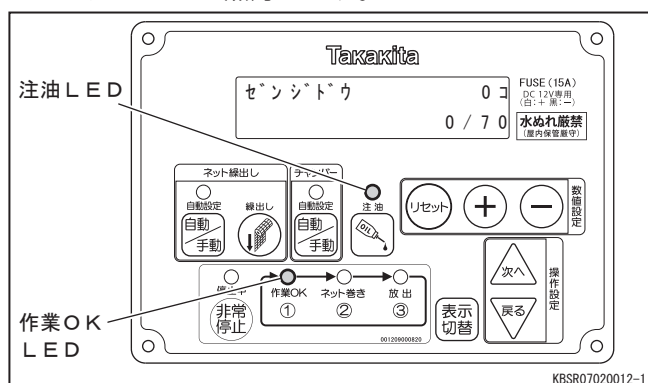
7. 作業のしかた

- (11) チャンバーが完全に閉じると「トジマシタ」と表示されます。その後、タイトチェン部に自動で注油が行われます。



- (12) コントロールボックスの「作業 OK」LED が点灯していることを確認してから、再度収穫をはじめてください。

また、注油を行っている間は注油ボタンの上にある LED が点灯します。



《 参考 》

- セッテイモードやメーカーセッテイモードで、設定値を変更することができます。
- 設定変更のしかたは、3 章「各部の名称とはたらき」(54 ページ)、9 章「メンテナンスモード」(128 ページ)を参照してください。
- 各作業時にエラーメッセージが表示された場合は、3 章「異常発生時の処置」(57 ページ)を参照してください。

8. 自動装置について

8.1 IQ アクセル装置

8.1.1 機能について

- ・移動走行、拾い上げ作業、放出作業の各作業状態に応じて、エンジン出力を効率よく使用できるように、エンジン回転を制御します。
- ・移動走行時は、主変速レバーの増減速操作に応じて、エンジン回転を自動的に調整します。
- ・作業時、エンジン回転を IQ アクセルダイヤルで設定した回転数に保ちます。
- ・停止時（非作業時）は、エンジン回転数を約 2000rpm に保ちます。
- ・停止時（非作業時）に、駐車ブレーキペダルを踏み込むと、エンジン回転をアイドリングにします。
- ・停止時（非作業時）に、IQ アクセルスイッチを「切」にすると、エンジン回転をアイドリングにします。

8.1.2 取り扱い時の注意事項

⚠ 警告

- 点検・整備等で、ピックアップ部を低い回転で運転する場合や、トラックへの積み込み時は、IQ アクセルスイッチを「切」にして、アクセルダイヤルで回転調整してください。

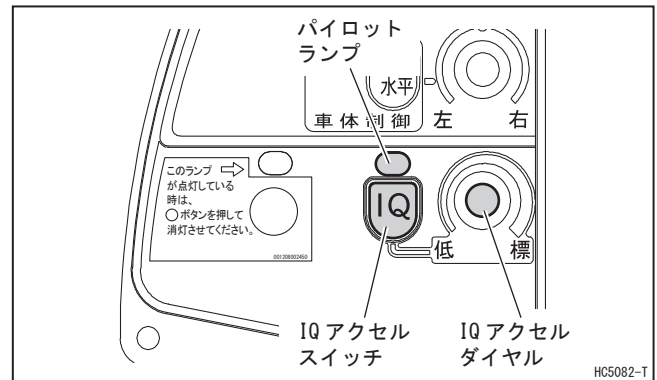
※守らないと、IQ アクセル制御によりエンジン回転数が変動し、傷害事故を引き起こす原因となります。

《参考》

拾い上げ作業中に、エンジン回転が作業回転域を下回る場合は、エンジンが過負荷となっています。エンジン回転が作業回転域を保つように主変速レバーを操作して使用してください。

8.1.3 操作のしかた

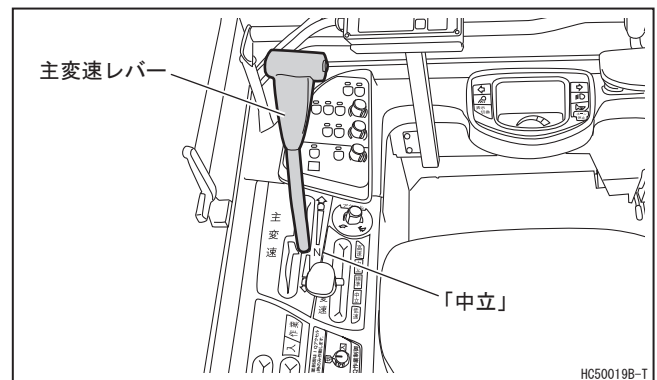
- (1) IQ アクセルスイッチを「入」（パイロットランプ点灯）にしてください。



《参考》

エンジン回転数が 2000rpm に保たれます。

- (2) 移動走行時は、主変速レバーを操作してください。

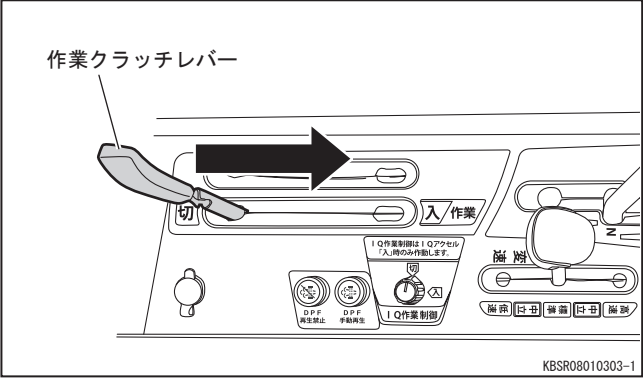


《参考》

レバーの操作量に応じてエンジン回転が調整されます。

8. 自動装置について

- (3) 作業時は、作業クラッチレバーを「入」位置にし、作業をはじめてください。
- エンジン回転数が自動的に IQ アクセルダイヤルで設定された回転数を保ちます。

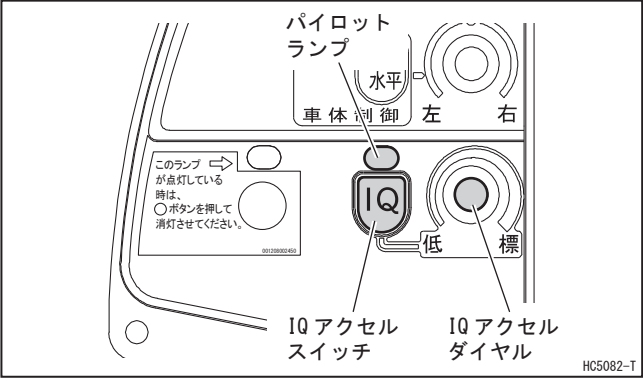


《 参考 》

IQ アクセルダイヤルは、通常「標」位置で使用してください。

- (4) IQ アクセルダイヤルによりエンジン回転数をつぎの表の範囲で調整できます。

作業状態	IQ アクセルダイヤル 「低」～「標」
拾い上げ作業時	約 2450 ～ 2600rpm



8.2 車体水平および平行制御装置

8.2.1 機能について

- ・車高調節スイッチで設定した車高を保ったまま自走ロールベアラの姿勢を水平に制御します。
- ・車体水平モードは、機体が傾いたときに、左右方向の傾きを自動的に修正し、機体を水平に保つので、き上がったベールの形状が安定します。

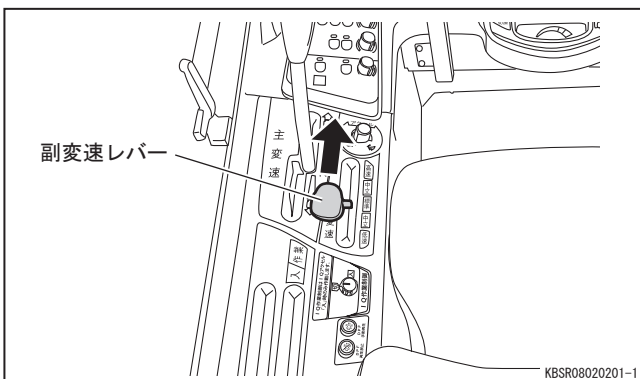
8.2.2 取り扱い時の注意事項

⚠ 注意

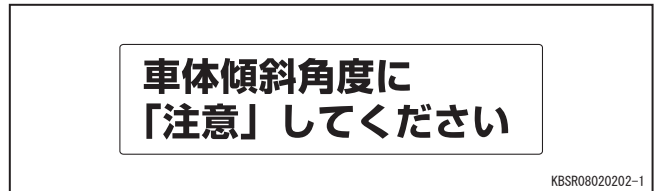
- 移動走行時、傾斜地走行時、車両等による運搬および積み込み時は、車高調節スイッチを「下げ」位置に操作し、必ず車高を最下げ位置にしてください。

※守らないと、自走ロールベアラが転倒するおそれがあります。

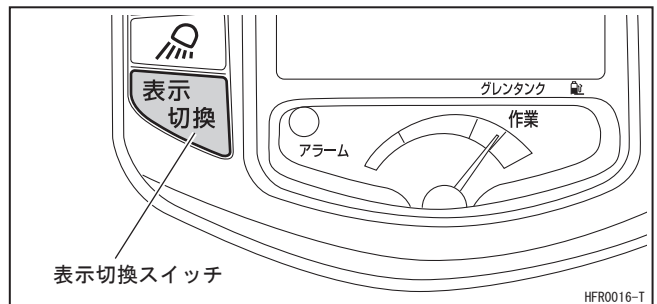
- (1) 路上走行時等で、副変速が「高速」位置の状態では、走行速度が速くなると、自動的に車高が最下げ位置になります。



- (2) 機体が左右に大きく傾くと、ブザーが断続的に鳴ります。

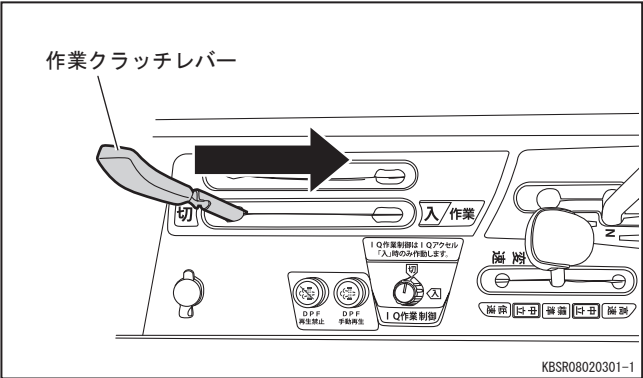


- (3) 車高調節スイッチ、車体傾斜スイッチ操作時に、マルチアイ画面に表示される車体の状態は、スイッチ操作後約5秒間で元の表示に戻りますが、表示切換スイッチを押すことにより、所定の画面に固定することができます。



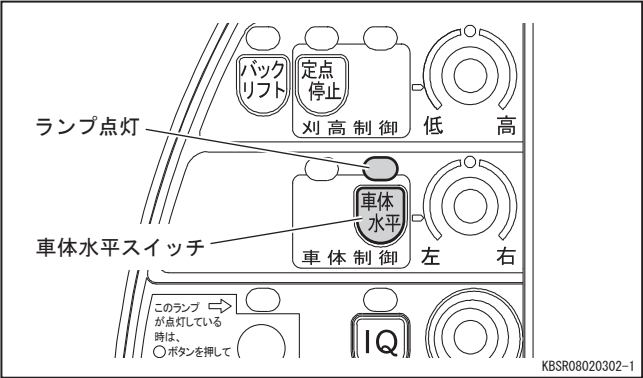
8.2.3 操作のしかた

(1) 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。

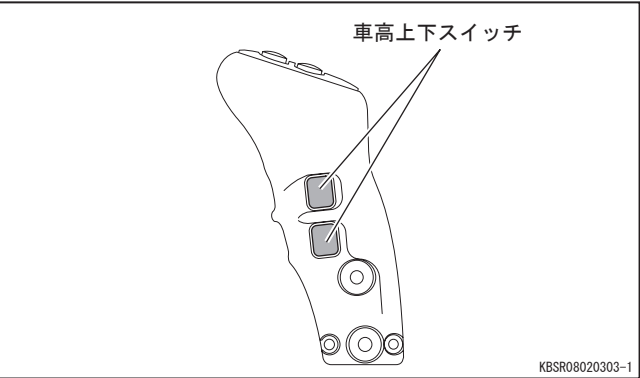


(2) 車体制御スイッチを、ほ場条件に合わせて「入」(パイロットランプ点灯) にしてください。
セットは、つぎの表を参考にしてください。

ほ場条件	車体水平スイッチ
傾斜地	「入」

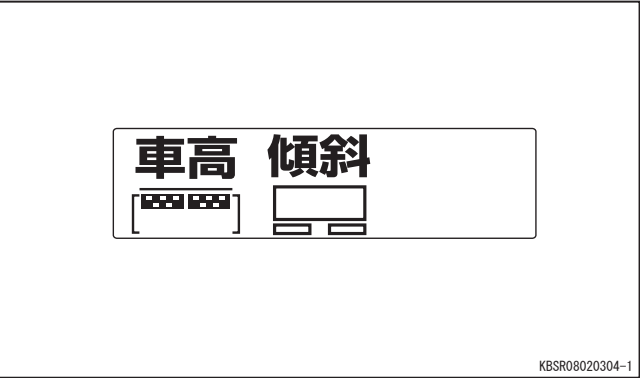


(3) 車高上下スイッチで、ほ場条件に合わせて車高を調節してください。



《参考》

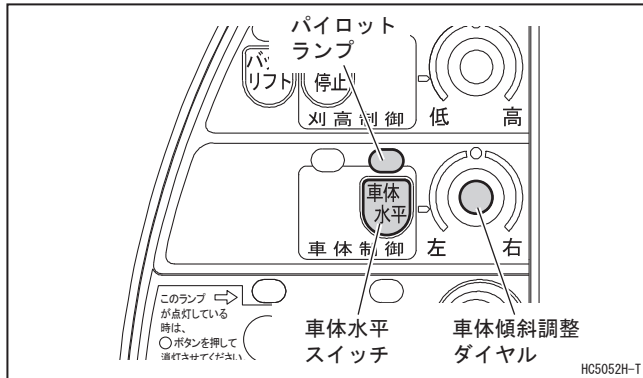
車高上下スイッチを操作すると、マルチアイに車高の状態が表示されます。



(4) 車体傾斜スイッチ (パワーステアリングレバー上面) を操作すると、車体水平スイッチの「入」「切」に関わらず、任意の方向に機体を傾けることができます。車体水平スイッチが「入」の場合は、車体傾斜スイッチを放すと水平に戻ります。



- (5) 車体水平制御中に、車体傾斜調整ダイヤルを「左」傾・「右」傾方向に回すと、本機の傾きを微調整でき、この姿勢を保つように制御します。



《 参考 》

車体傾斜スイッチを操作すると、コンビネーションパネル内のマルチアイ画面に機体の傾きが表示されます。

水平にする場合等に、ご利用ください。



8.3 刈高さ制御装置

8.3.1 機能について

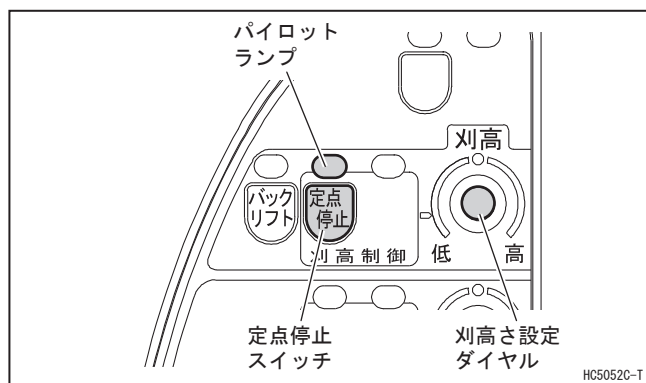
定点停止スイッチは、ピックアップ部の高さをダイヤルで設定した高さに制御します。

8.3.2 取り扱い時の注意事項

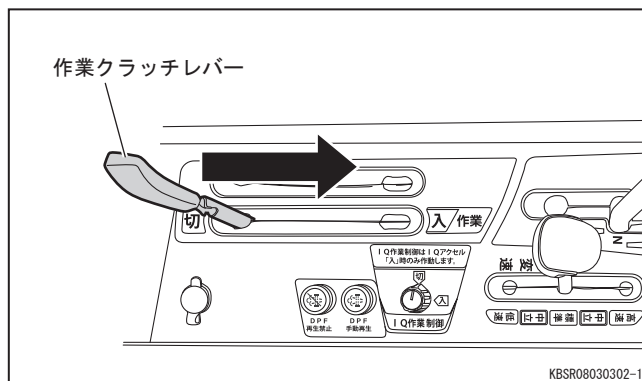
- ・うねほ場での横作業等、自走ロールベアラ前後で上下方向の動きが激しいほ場では、使用できません。
- ・定点停止制御で拾い上げる前に、パワーステアリングレバーで高さを合わせた後に、ダイヤル操作した場合、一時的に高さが変わらない場合があります。このときは、一度ダイヤルを大きく回す等して、ダイヤル位置とピックアップ部の高さを一致させてから、所定の高さになるようダイヤルを操作してください。

8.3.3 操作のしかた

- (1) 定点停止スイッチを「入」(パイロットランプ点灯)にしてください。

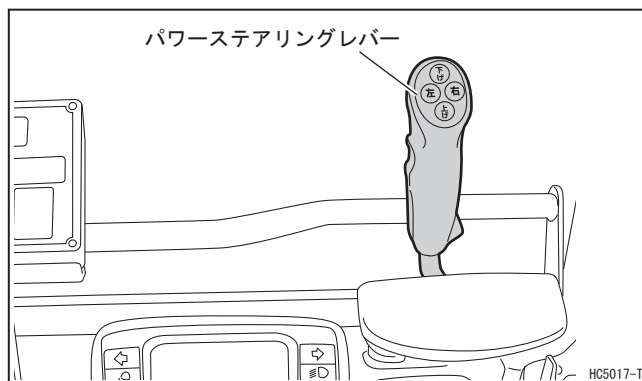


- (2) 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。



- (3) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部を下げてください。

ピックアップ部は、刈高さ制御装置が作動し、ピックアップ部が自動で下がりはじめ、一定の高さで止まります。

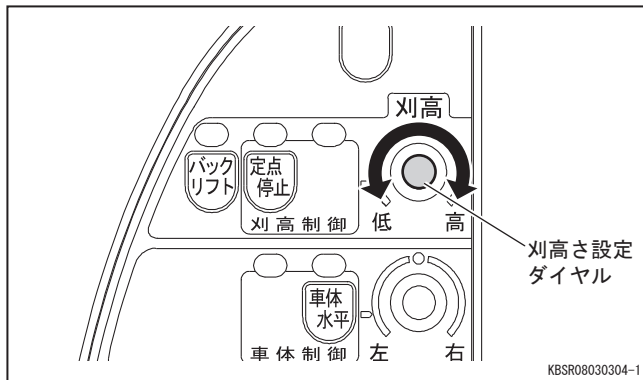


《参考》

ピックアップ部が下がりはじめたら、すぐにパワーステアリングレバーを「中立」位置に戻してください。そのまま「下げ」方向に操作し続けると、手動操作が優先してピックアップ部が下がりすぎ、タインが地面に刺さり、破損する場合があります。

(4) 刈高さ設定ダイヤルで、ピックアップ部の高さを調節できます。

- ・ 左に回す…低くなる
- ・ 右に回す…高くなる



8.4 バックリフト（自動上昇装置）

8.4.1 機能について

ピックアップ部が下がったままで後進すると、ピックアップ部を自動的に一定量上昇させます。

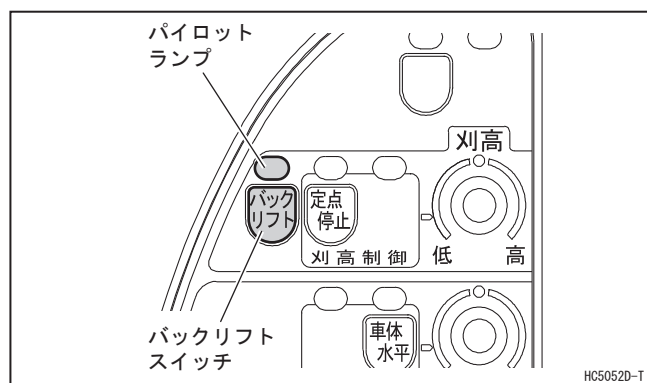
8.4.2 操作のしかた

⚠ 注意

- 作業時以外はバックリフトスイッチを「切」にしてください。

※ 守らないと、路上や納屋の中での点検・整備中にピックアップ部が自動上昇して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

バックリフトスイッチを「入」（パイロットランプ点灯）にしてください。



《重要》

ピックアップ部の上下は手動優先です。

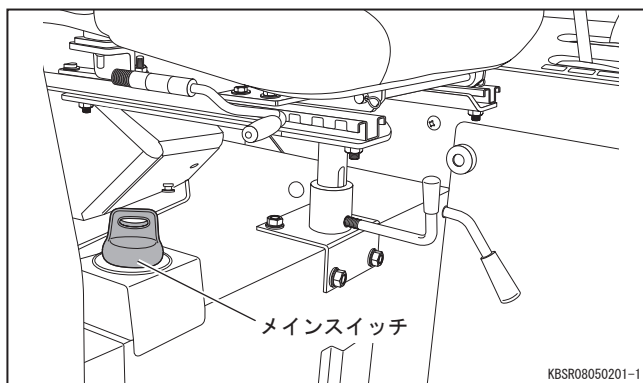
8.5 センサチェックモード（コンビネーションパネル）

8.5.1 機能について

自動制御装置に関係するセンサやスイッチ、レバーの作動を、ブザーの音で容易にチェックすることができます。

8.5.2 センサチェックのしかた

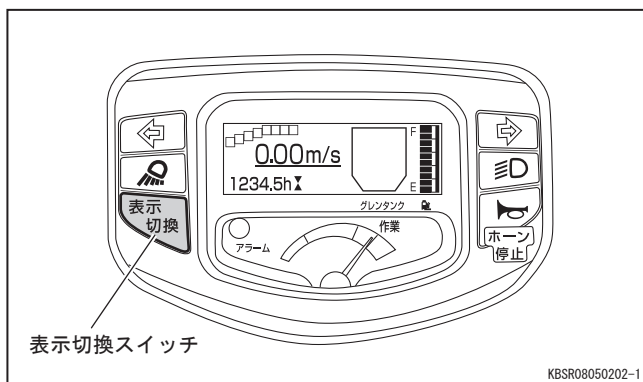
(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



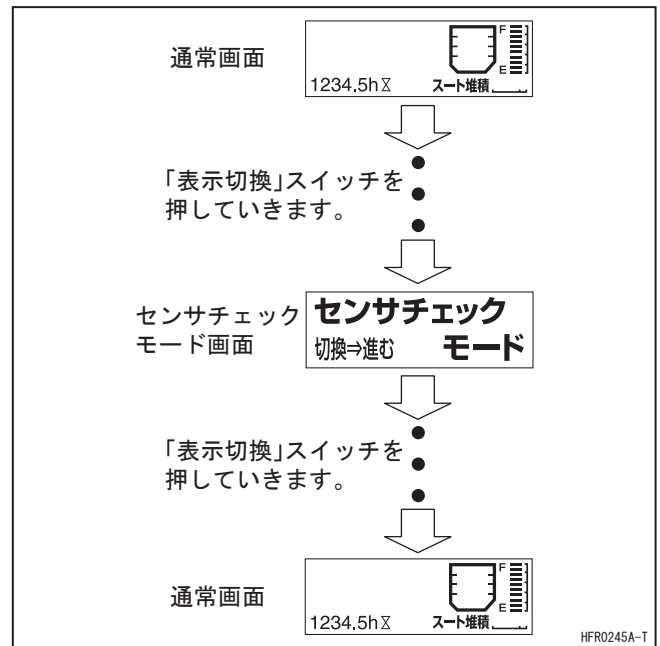
《 参考 》

エンジン運転中は、「センサチェックモード」画面は表示されません。

(2) マルチアイが通常画面の状態、表示切換スイッチを押していくと、表示が順次切替わり「センサチェックモード」画面が表示されます。



(3) 画面が「センサチェックモード」の状態、次項のチェック方法に従ってチェックしてください。
正常な場合は、センサを作動させた時や、スイッチ・レバーを切替えた時に、ブザーが鳴ります。



《 重要 》

ブザーが鳴らない場合は、該当する部品のカプラの接続確認と、関係する部品のヒューズ切れをご確認ください。

問題が解決しない場合は、お買い上げ先にご連絡ください。

(4) 「センサチェックモード」画面の状態、表示切換スイッチを押していくと、表示が順次切替わり、通常画面に戻ります。

8.5.3 センサのチェック項目

◆ 刈高さ制御装置・バックリフト装置

部品	こうすればブザーが鳴ります
定点停止スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
バックリフトスイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
刈高さ設定ダイヤル	ダイヤルを「低」⇔「高」に操作します。
パワーステアリングレバー	レバーを「前」⇔「後」に操作します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。
HST ポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」に操作します。

◆ アクセル制御装置 (IQ アクセル)

部品	こうすればブザーが鳴ります
IQ アクセルスイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
IQ アクセルダイヤル	ダイヤルを「低」⇔「標」に操作します。
HST ポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」に操作します。
アクセルダイヤル	アクセルダイヤルを「  」⇔「  」に操作します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。

◆ アクセル制御装置 (IQ アクセル)

部品	こうすればブザーが鳴ります
車体水平スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
車体傾斜スイッチ「左」・「右」 (パワーステアリングレバークリップ)	車体傾斜「左・右」スイッチを押します。
車高上下スイッチ (パワーステアリングレバークリップ)	車高「上・下」スイッチを押します。
車体傾斜調整ダイヤル	ダイヤルを「左」⇔「右」に操作します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。

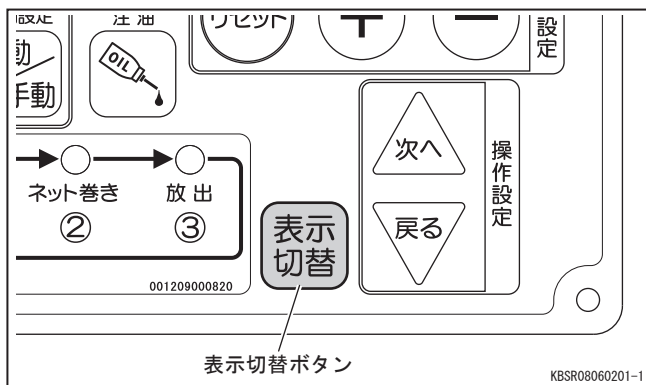
8.6 入力チェックモード（コントロールボックス）

8.6.1 機能について

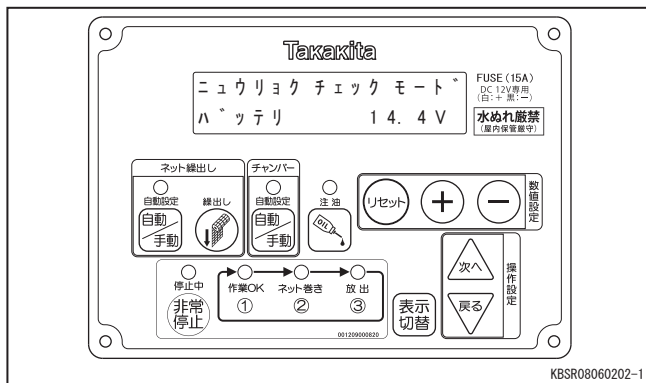
ロールベアラ部のセンサの作動を、ブザーの音で容易にチェックすることができます。

8.6.2 入力チェックのしかた

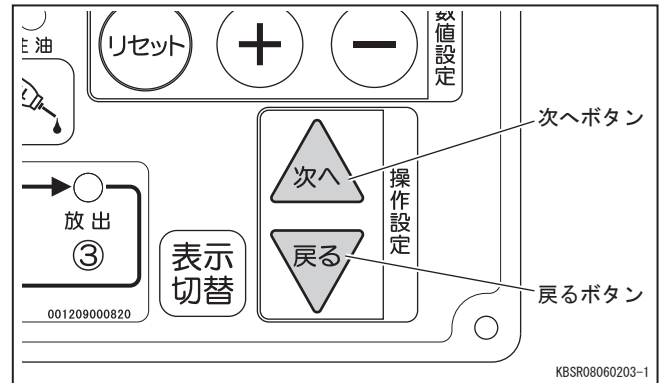
- (1) 作業画面から表示切替ボタンを2回押すと、入力チェックモードへ移行することができます。



- (2) ディスプレイの1行目に「ニューリヨクチェックモード」と表示されます。



- (3) 次へ / 戻るボタンを押すと、各設定項目へ移行することができます。



《 参考 》

入力チェックモード中、「ON」表示すると、ブザーが鳴ります。

- (4) 表示切替ボタンを2回押すと、作業画面に戻ります。

8.6.3 入力のチェック項目

NO.	表示	内容
1	バッテリー 14.4V	コントロールボックスに供給されている電圧を表示
2	チャンバーハイヒダリ ON	チャンバー閉左センサの状態を ON/OFF で表示
3	チャンバーハイミギ ON	チャンバー閉右センサの状態を ON/OFF で表示
4	カムシタ ON	カム下センサの状態を ON/OFF で表示
5	カムウエ ON	カム上センサの状態を ON/OFF で表示
6	キッカー ON	キッカーセンサの状態を ON/OFF で表示
7	カウント ON	カウントセンサの状態を ON/OFF で表示
8	ダイシャシンゴウ 0.0V	パワーステアリングレバーの上げ / 下げボタンを押したときの電圧を表示
9	カンチ pt 2.5V	満了感知ポテンショの電圧を表示 (2.4 ~ 2.6V のときブザーが鳴ります)

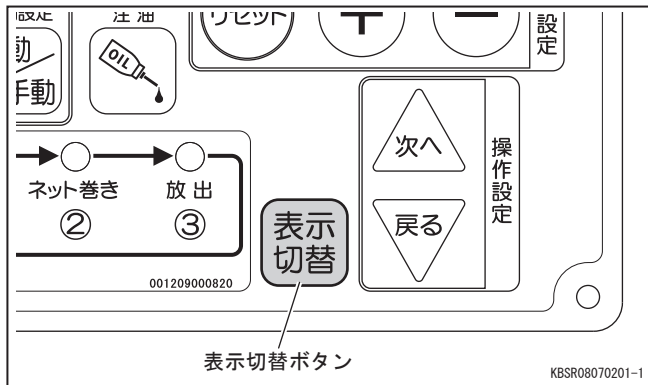
8.7 出力チェックモード（コントロールボックス）

8.7.1 機能について

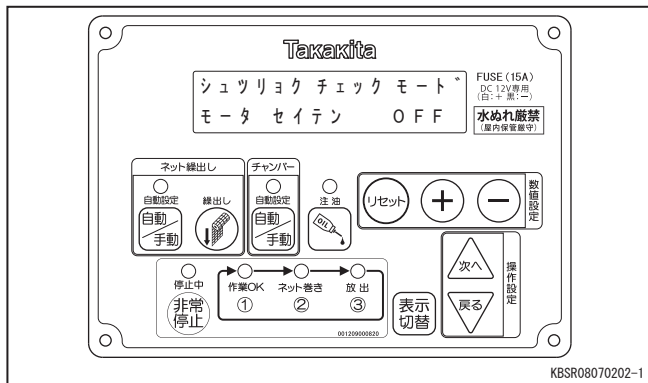
ロールベアラ部の各出力を確認することができます。

8.7.2 出力チェックのしかた

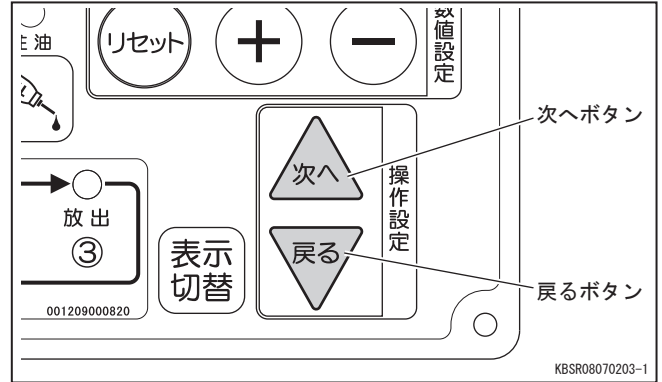
(1) 作業画面から表示切替ボタンを3回押すと出力チェックモードへ移行することができます。



(2) ディスプレイの1行目に「シュツリョクチェックモード」と表示されます。



(3) 次へ / 戻るボタンを押すことで、各設定項目へ移行することができます。



(4) 表示切替ボタンを1回押すと、作業画面に戻ります。

8.7.3 出力のチェック項目

NO.	表示	内容
1	モータ セイテン OFF	+ボタンを押している間, 繰出しモータに正転出力します。
2	モータ ギャクテン OFF	+ボタンを押している間, 繰出しモータに逆転出力します。
3	チュウユポンプ OFF	+ボタンを押している間, 注油ポンプに出力します。
4	ホーン OFF	+ボタンを押している間, ホーンに出力します。
5	チャンバー カイ OFF	+ボタンを押している間, チャンバーを開きます。
6	チャンバー ヘイ OFF	+ボタンを押している間, チャンバーを閉じます。

9. メンテナンスモード

9.1 メンテナンスモードの選択のしかた

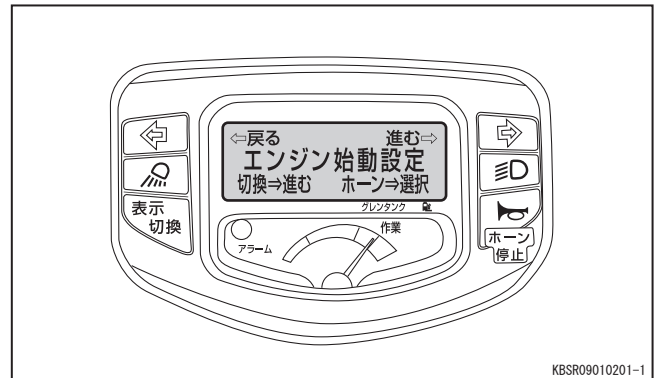
9.1.1 メンテナンスモードの内容

- ・メンテナンスモードには、エンジンの始動をキー入力で管理できる「エンジン始動設定」や、画面表示が見えづらい場合に、液晶画面のコントラストを調整できる「液晶コントラスト調整」や、日常点検や、格納点検の情報を確認することのできる「メンテナンス情報」があります。
- ・各モードの操作は、メインスイッチが「入」位置のときに、各モードの確認・調整をすることができます。

9.1.2 各モードについて

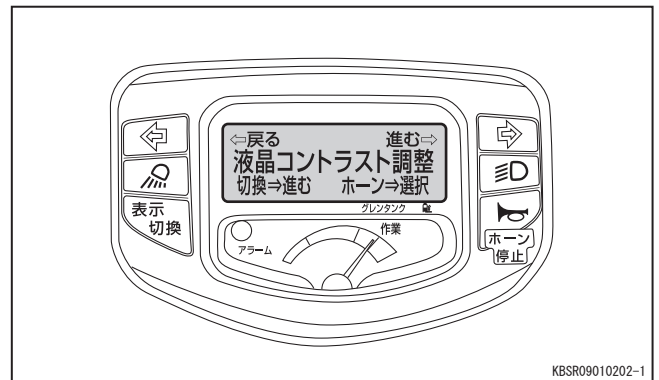
(1) エンジン始動設定（117 ページ）

メインスイッチ操作だけでは、エンジンの始動ができないように設定することができます。



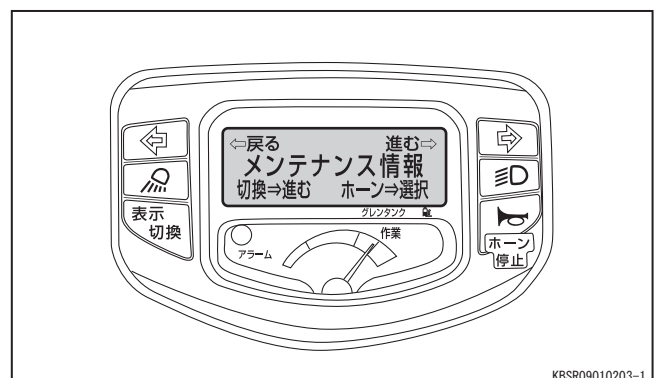
(2) 液晶コントラスト調整（121 ページ）

真夏・真冬時、画面表示が見づらい場合に、マルチアイの液晶コントラストを調整することができます。



(3) メンテナンス情報（123 ページ）

日常点検・格納点検・メンテナンス情報を、確認することができます。



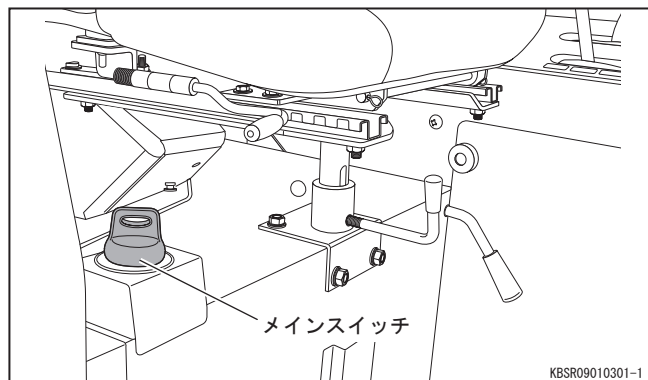
9. メンテナンスモード

9.1.3 メンテナンスモードの切替えかた

《 参考 》

メインスイッチが「入」位置で、メンテナンスモードの確認・調整をすることができます。

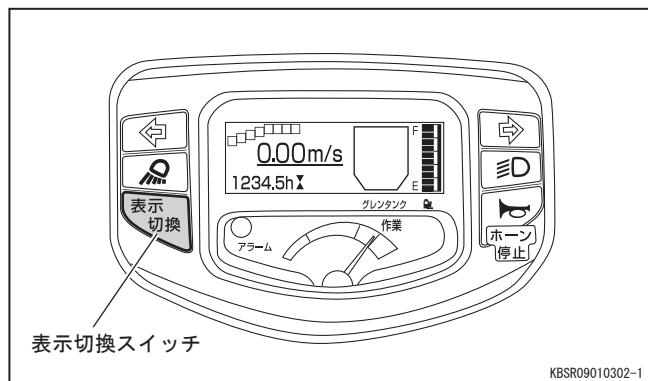
- (1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



《 参考 》

エンジン始動中は、「メンテナンスモード」画面は表示されません。

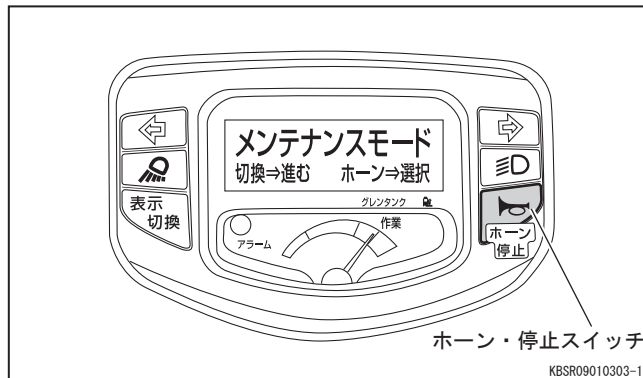
- (2) マルチアイが通常画面の状態、表示切換スイッチを押していくと、「メンテナンスモード」画面が表示されます。



《 参考 》

「メンテナンスモード」画面で、表示切換スイッチを押していくと、順次表示が切り替り、通常画面に戻ります。

- (3) 「メンテナンスモード」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、「エンジン始動設定」画面に切替わります。



- (4) 表示切換スイッチを押すたびに、メンテナンスモード内の各項目画面に切替わります。

《 参考 》

「モードを終了しますか？」の画面で、ホーン・停止スイッチを押すことで、メンテナンスモードを終了することができます。

9.2 エンジン始動設定と始動のしかた

！ 注意

- エンジン始動設定をした場合でも、自走ロールベアラから離れるときは、メインスイッチのキーを抜いて保管してください。

※ 守らないと、簡易的なエンジン始動牽制機能のため、盗難等の原因になります。

9.2.1 エンジン始動設定のしかた

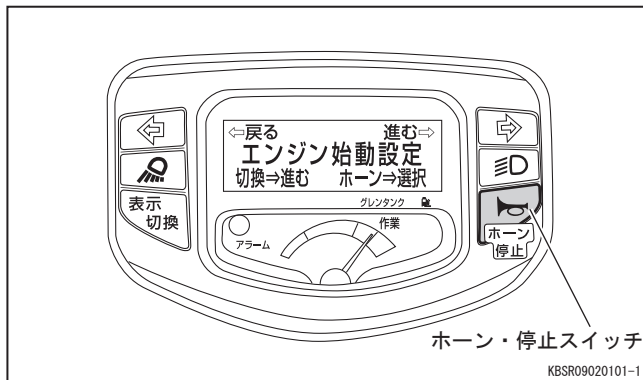
《 参考 》

メインスイッチ操作だけでは、エンジンの始動ができないように、設定することができます。

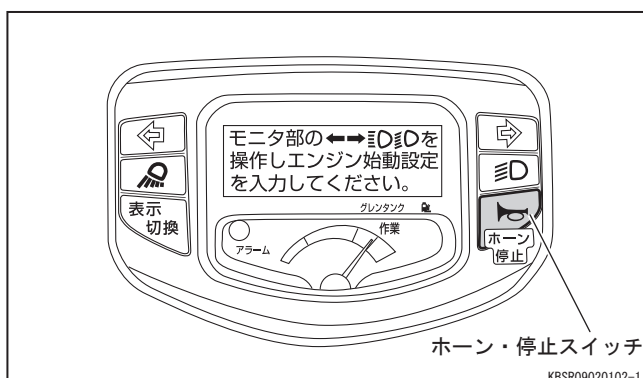
- (1) 「エンジン始動設定」画面を表示してください。

(116 ページ)

- (2) 「エンジン始動設定」画面で、ホーン・停止スイッチを押してください。

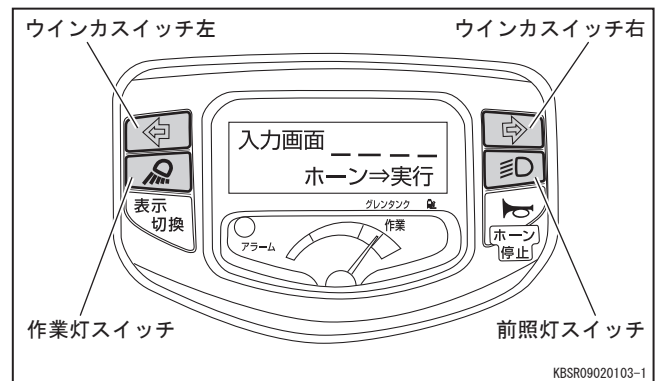


- (3) エンジン始動設定の案内画面が表示されます。
案内画面でホーン・停止スイッチを押すと、エンジン始動設定キーの入力画面が表示されます。



つぎのスイッチから 4 個のスイッチを選択し、順に押していくと、入力画面にスイッチの画像が表示されます。

- ・ウインカスイッチ左……………
- ・ウインカスイッチ右……………
- ・作業灯スイッチ……………
- ・前照灯スイッチ……………



《 重要 》

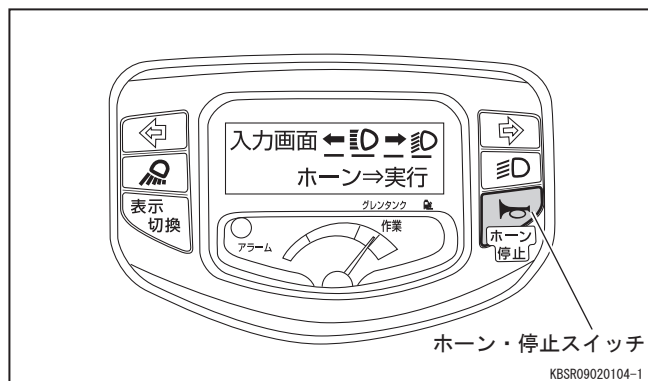
- ・ 同じスイッチを 2 回以上使用可能です。
- ・ 設定したスイッチの順番を忘れると、次回からエンジンの始動ができなくなります。
- ・ エンジン始動設定キーを忘れた場合は、お買い上げ先に、ご連絡ください。

《 参考 》

エンジン始動設定キーのスイッチ入力数は、1 ～ 4 までです。

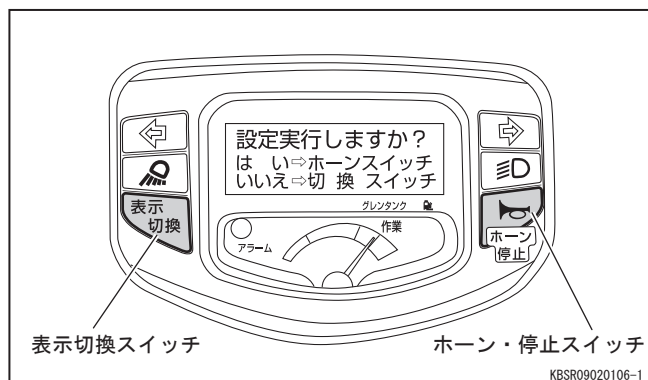
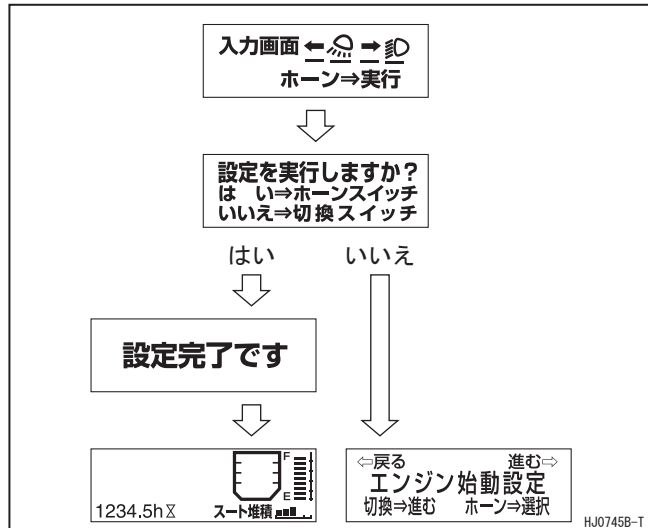
9. メンテナンスモード

- (4) 4 個のスイッチを入力した画面の状態、ホーン・停止スイッチを押すと、設定確認画面が表示されます。

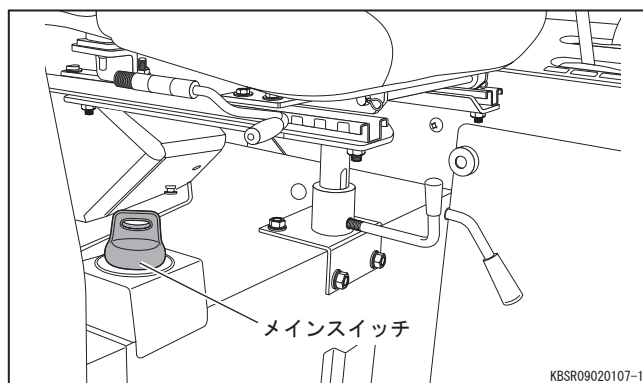


- (5) 設定確認画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、設定が記憶され「設定完了です」画面が表示された後、通常画面に戻ります。

確認画面の状態、表示切換スイッチを押すと、設定は中止され、「エンジン始動設定画面」に戻ります。



- (6) メインスイッチを「切」位置にしてください。



《 参考 》

エンジンを始動するときは「エンジン始動設定時のエンジン始動のしかた」を参照してください。(119 ページ)

9.2.2 エンジン始動設定時のエンジン始動のしかた

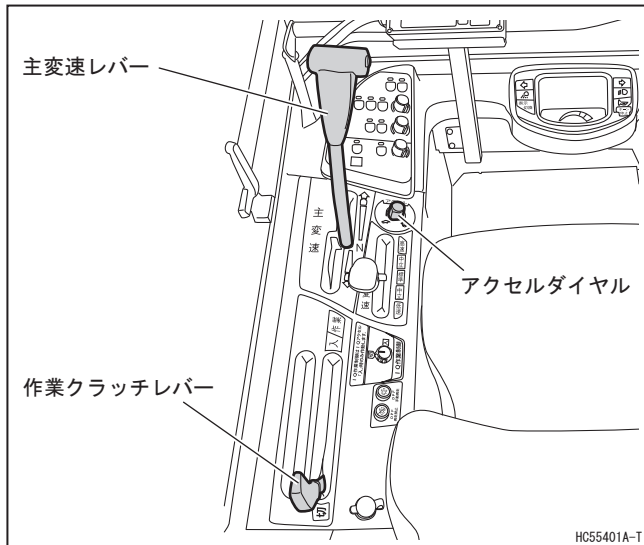
！ 警告

- 始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーを「中立」位置、作業クラッチレバーを「切」位置にして始動してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

！ 注意

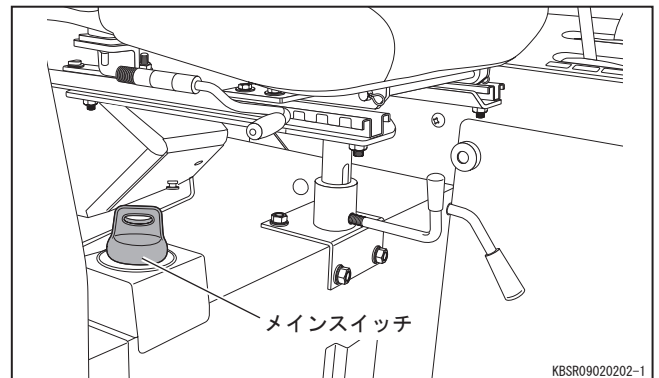
- 保護カバー類が取り付けられているか確認してください。外れている場合は、必ず取り付けてください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。

(1) 主変速レバーを「中立」位置にしてください。

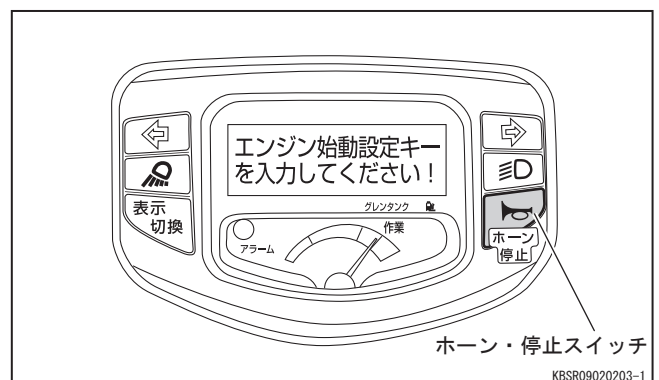


(2) 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。

(3) メインスイッチを「入」位置にしてください。

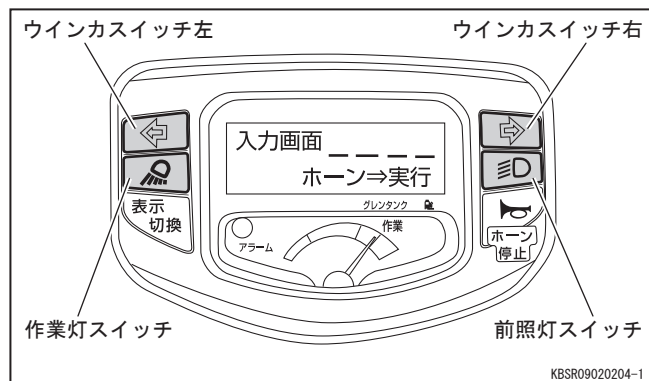


(4) マルチアイに「エンジン始動設定キーを入力してください!」と画面に表示され、ホーン・停止スイッチを押すと、エンジン始動設定キーの入力画面が表示されます。



9. メンテナンスモード

- (5) 「エンジン始動設定のしかた」(117 ページ) で設定したスイッチを順番に押していくと、入力画面にスイッチの画像が表示されます。



- (6) 4 個のスイッチを入力した画面の状態、ホーン・停止スイッチを押すと、エンジン始動設定が解除されます。

《重要》

- エンジン始動設定キーの入力を間違えると、「設定キーが違います」と表示され、メインスイッチを「切」位置にするまでブザーが鳴り、エンジンの始動はできません。
- エンジン始動設定キーは、エンジン始動設定を解除するたびにリセットされるので、次回もエンジン始動設定キーを設定する場合は、エンジン始動設定キーの登録を再度行ってください。
- エンジン始動設定キーを設定しない場合は、通常のエンジン始動方法と同じになります。

- (7) 「5.3.1 エンジン始動のしかた」手順 4 から操作してください。(65 ページ)

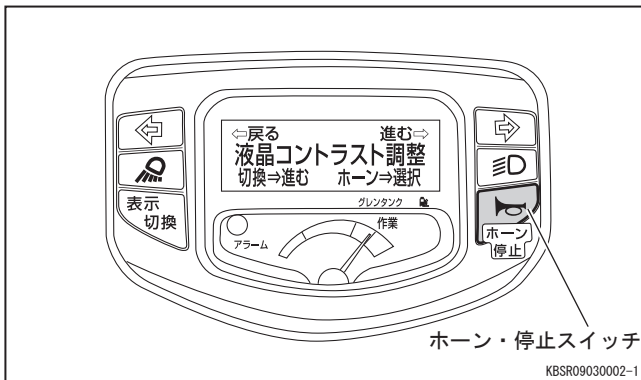
9.3 液晶コントラスト調整のしかた

《 参考 》

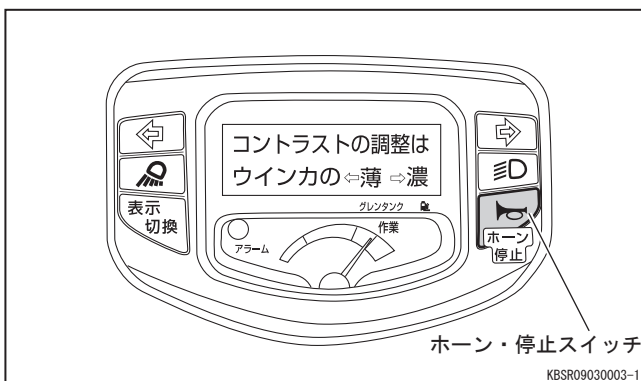
マルチアイの表示が見づらい場合に、マルチアイのコントラストを調整することができます。

- (1) 「液晶コントラスト調整」画面を表示してください。
(115 ページ)

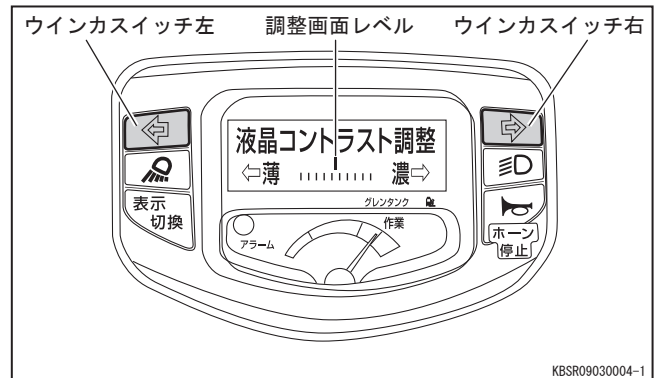
- (2) 「液晶コントラスト調整」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、コントラスト調整の案内画面が表示されます。



- (3) コントラスト調整の案内画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、「液晶コントラスト調整画面」が表示されます。



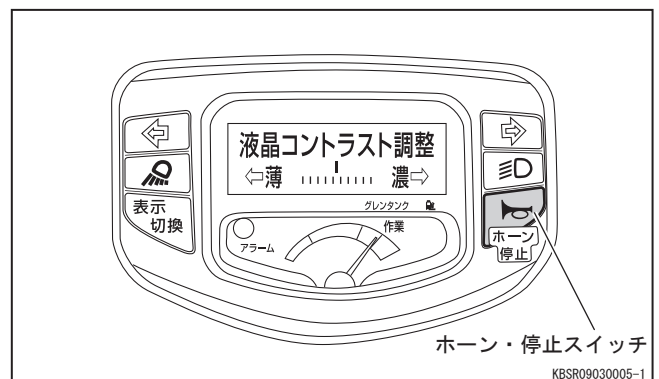
- (4) ウィンカスイッチ左、またはウィンカスイッチ右を押して、液晶コントラストを調整してください。
- ・ウィンカスイッチ左を押す…コントラストが薄くなります。
 - ・ウィンカスイッチ右を押す…コントラストが濃くなります。



《 参考 》

- ・カーソルは、現在のコントラスト調整位置を示しています。
- ・スイッチを押すたびに、カーソルが移動し、コントラストが変わっていきませんが、変化に時間がかかることがあります。画面の状態を確認しながら調整してください。

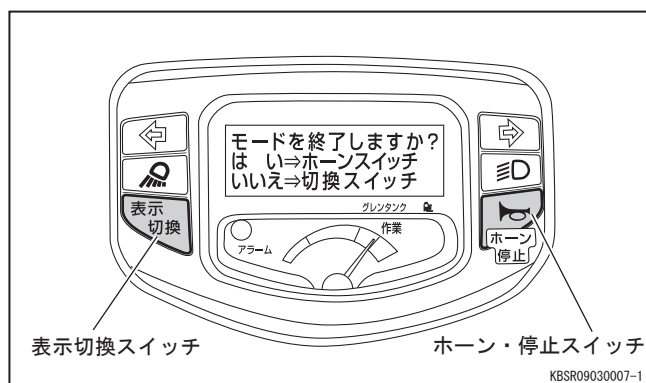
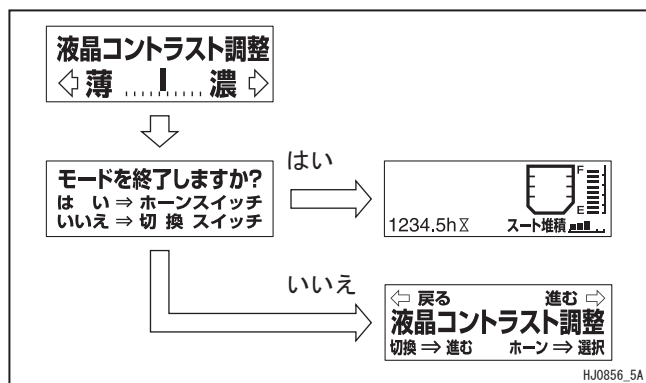
- (5) コントラスト調整後、「液晶コントラスト調整画面」で、ホーン・停止スイッチを押すと、設定確認画面が表示されます。



9. メンテナンスモード

(6) モード終了確認画面の状態、ホーン・停止スイッチを押すと通常画面に戻ります。

表示切換スイッチを押すと、液晶コントラスト調整画面に戻ります。



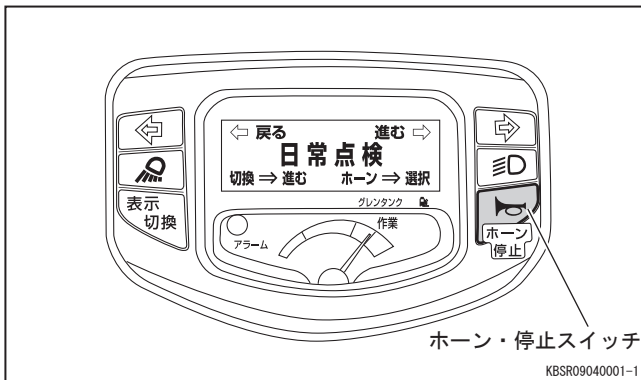
9.4 メンテナンス情報表示のしかた

《 参考 》

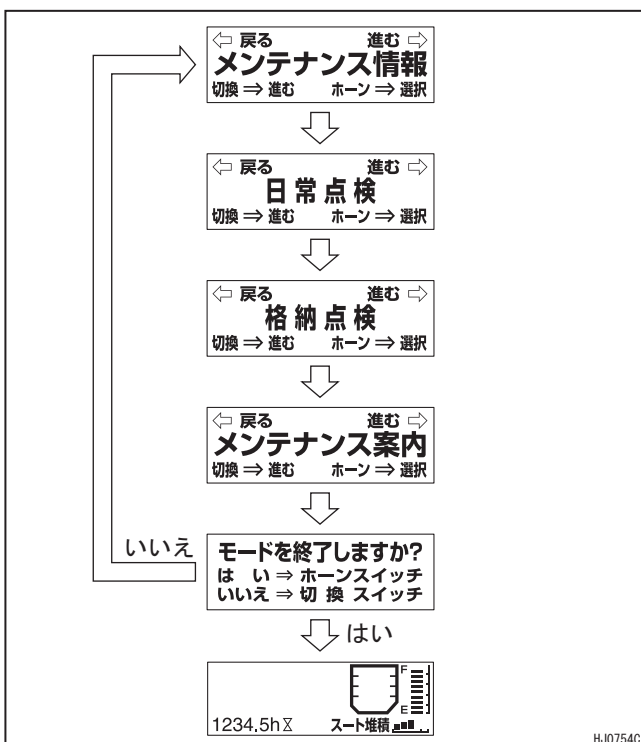
日常点検・格納点検・メンテナンス時間を確認することができます。

(1) 「メンテナンス情報」画面を表示してください。
(115 ページ)

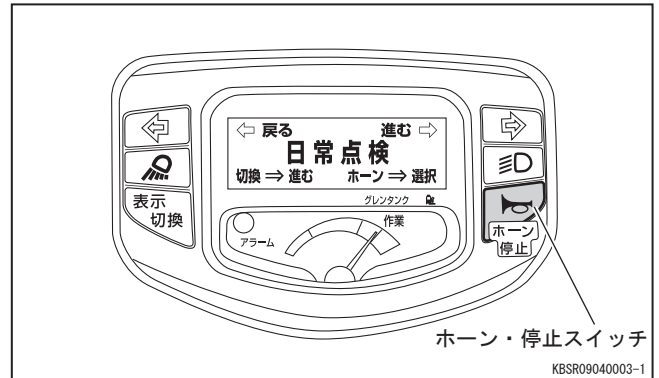
(2) 「メンテナンス情報」画面の状態では、ホーン・停止スイッチを押すと、「日常点検」画面が表示されます。



(3) 画面表示が切替り、表示切換スイッチを押すたびに、各案内画面に切替ります。

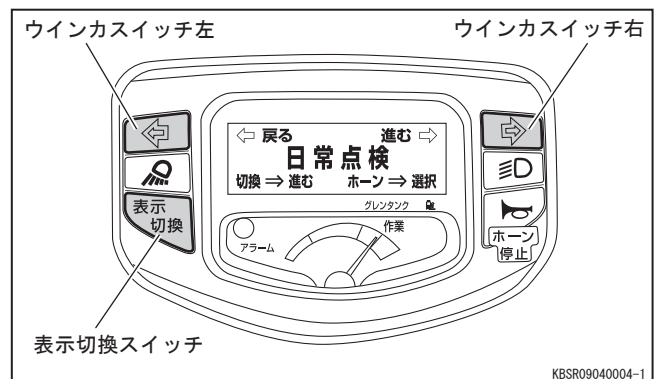


(4) 各案内画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、各メンテナンスの案内画面が表示されます。

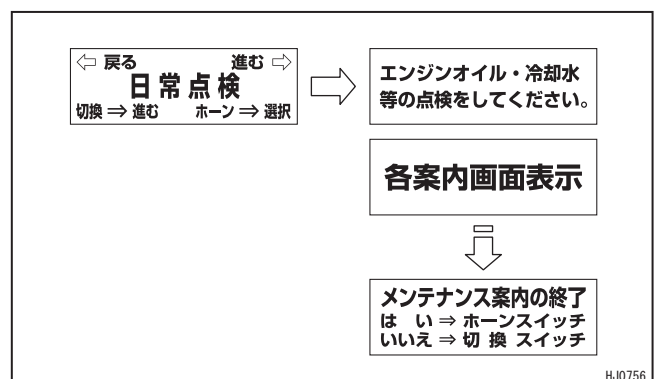


画面表示の切替は、つぎの3つのスイッチを使用してください。スイッチを押すたびに、「日常点検」、「格納点検」、「メンテナンス案内」の画面に切替ります。

- ・ウインカスイッチ左……戻る
- ・ウインカスイッチ右……進む
- ・表示切換スイッチ……進む



(5) 「日常点検」画面は、日常点検の簡易案内を確認することができます。

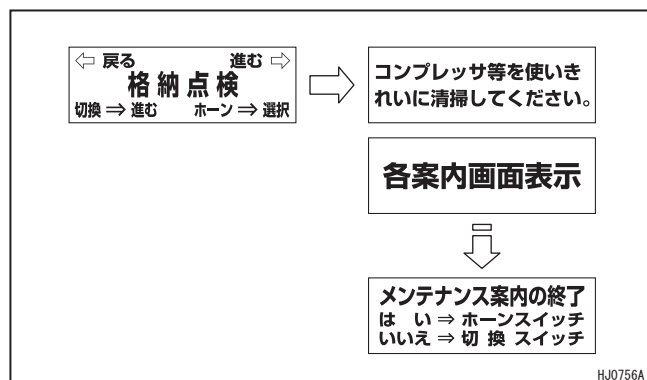


9. メンテナンスモード

《 参考 》

マルチアイでの案内は簡易的なものです。詳細については「12. 点検整備」(157 ページ)を参照してください。

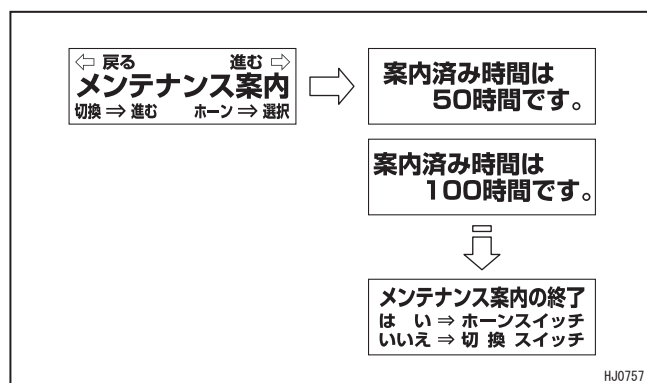
- (6) 「格納点検」画面は、格納点検の簡易案内を確認することができます。



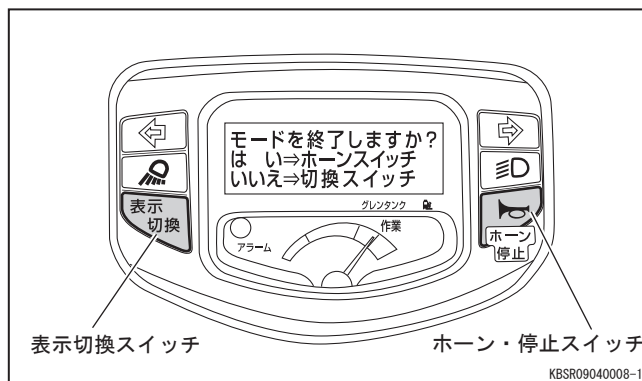
《 参考 》

マルチアイでの案内は簡易的なものです。詳細については「13. 格納時の手入れ」(220 ページ)を参照してください。

- (7) 「メンテナンス案内」画面で、案内済みメンテナンス時間の確認と、次回の定期点検時間の確認ができます。

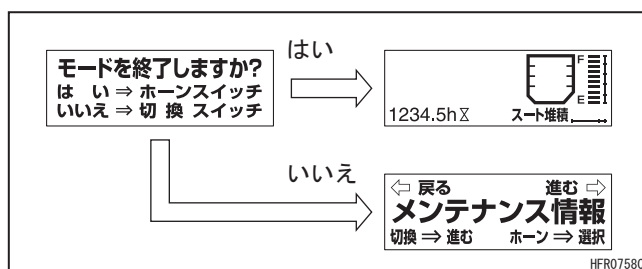


- (8) 「メンテナンス案内」画面で、表示切換スイッチを押すと、「モードを終了しますか？」画面が表示されます。



モードを終了したい場合は、「モードを終了しますか？」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、通常画面へ戻ります。

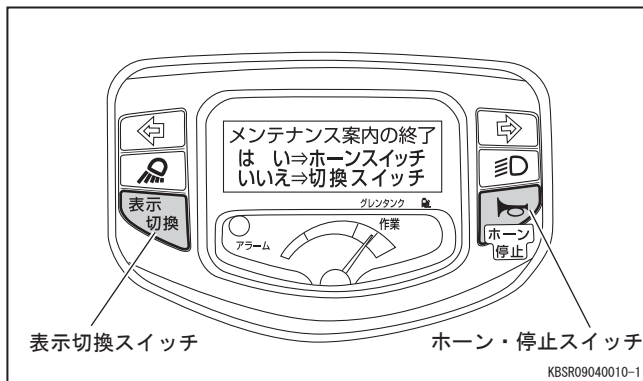
モードを終了しない場合は、「モードを終了しますか？」画面で、表示切換スイッチを押すと「メンテナンス情報」画面へ戻ります。



(9) 各案内画面の最後に、「メンテナンス案内の終了」画面が表示されます。

モードを終了する場合は、「メンテナンス案内の終了」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、通常画面へ戻ります。

モードを終了しない場合は、「メンテナンス案内の終了」画面で、表示切換スイッチを押すと「メンテナンス情報」画面へ戻ります。

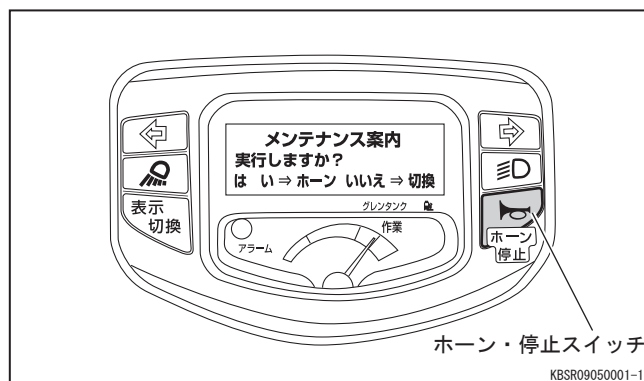


9.5 メンテナンス案内について

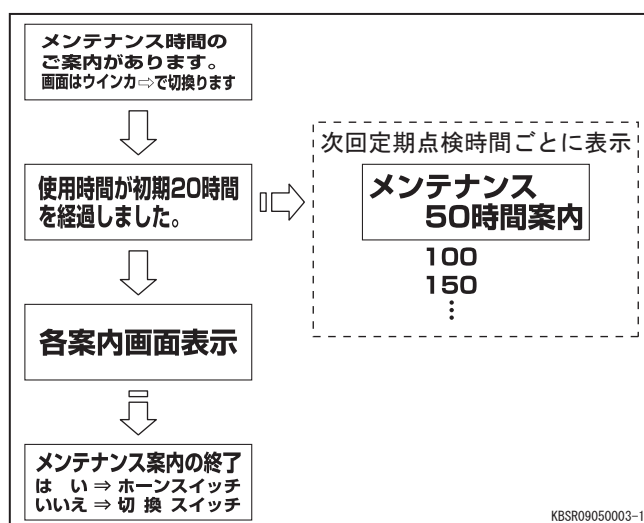
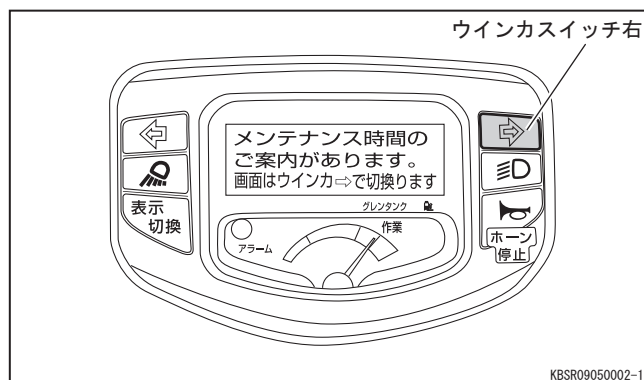
《 参考 》

- 一般的な各部の定期点検時間の5時間前に、メインスイッチを「入」にすると、マルチアイに「メンテナンス案内」画面が表示されます。
- 作業中にアワーメータが点検時間の5時間前に達したときは、次回メインスイッチを「入」にしたときに表示されます。
- 定期点検の詳細については「12. 点検整備」(157 ページ) を参照してください。

- (1) 「メンテナンス案内」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、各メンテナンスの案内情報が表示されます。



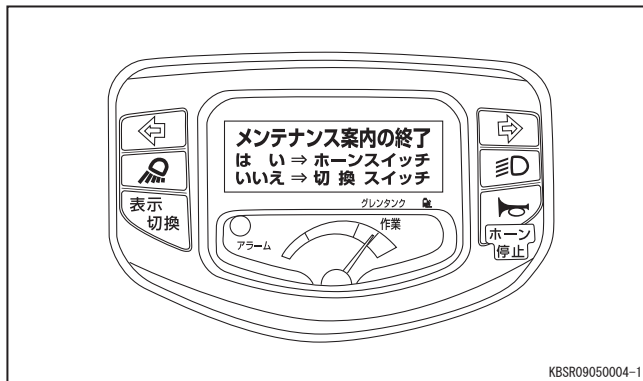
画面表示の切替えは、ウインカスイッチ右 (進む) を使用してください。



(2) 「メンテナンス案内」画面の終了のしかたによって、次回に「メンテナンス案内」画面が表示される時期が異なります。

[1] 次回定期点検時間のときに表示

「メンテナンス案内の終了」画面を表示させ、ホーン・停止スイッチを押してください。



[2] 次回メインスイッチのキーを「入」にしたときに表示

「メンテナンス案内」画面表示中に、表示切換スイッチを押してください。

9. メンテナンスモード

9.6 メーカーセッテイモードについて

9.6.1 メーカーセッテイモードの内容

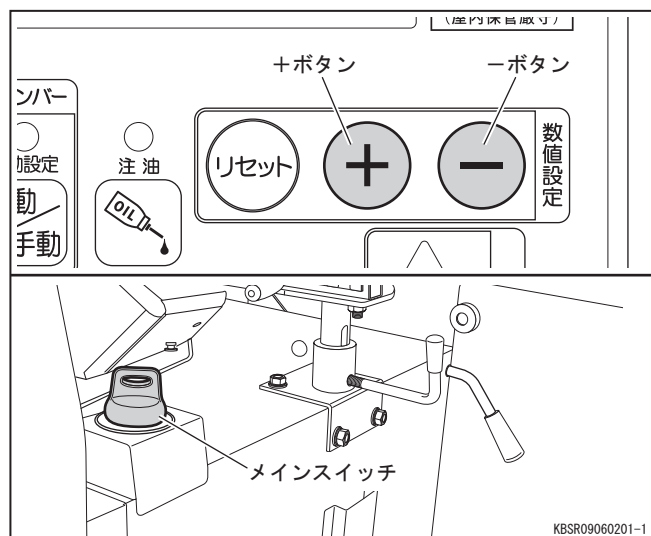
出荷時の設定から、一部の設定項目のみを変更することができます。

《重要》

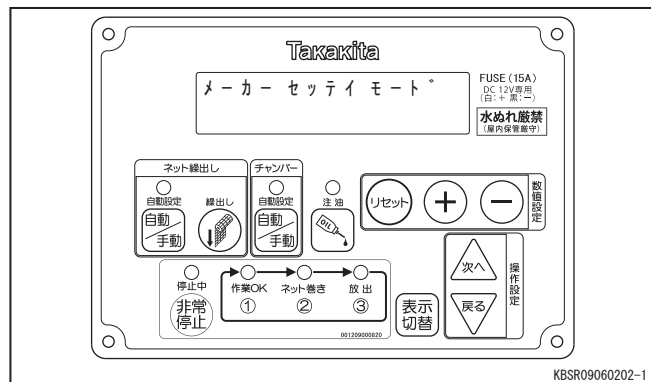
- ・設定を変更すると、本機が不調になるおそれのある項目があります。
- ・設定を変更したい場合は、お買い上げ先にご相談ください。

9.6.2 メーカーセッテイモードへの切替えかた

- (1) + / - ボタンを同時に押しながら、メインスイッチを「入」位置にしてください。

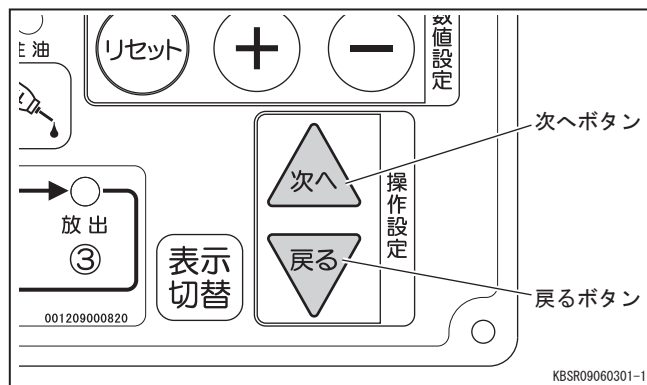


- (2) ディスプレイに「メーカーセッテイモード」と表示されます。

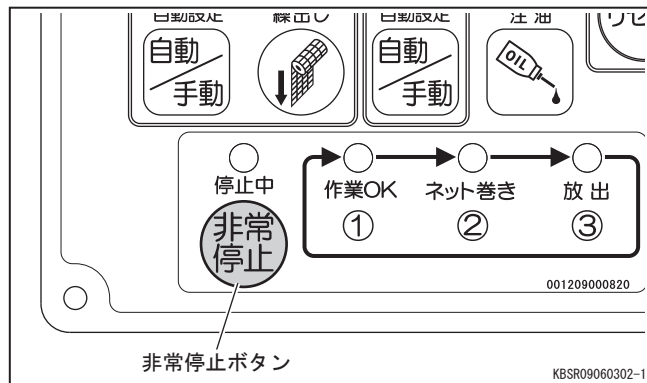


9.6.3 画面表示の切替えかた

- (1) 次へ / 戻るボタンを押すことで各設定項目へ移行することができます。

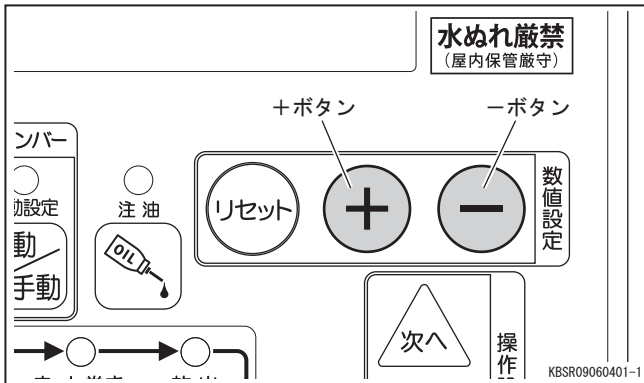


- (2) 非常停止ボタンを押すと、コントロールボックスがリセットされ、作業画面に戻ります。



9.6.4 設定値の変更のしかた

(1) +ボタン / -ボタンを押すと、設定値を変更することができます。



◆ 各設定項目について

設定項目	初期値	内容
1. ネット クリダシ エラー	10s	ネットを繰出してから、巻き付けが完了しないときにエラーが出るまでの経過時間を、設定することができます。 範囲:10 ~ 30
2. ヨカンチキョリ	20mm	ベールが100%になる前に、残り何mmでブザーが鳴るかを、調整することができます。 範囲:0 ~ 感知距離まで
3. クリダシ タイキ ジカン	2s	満了感知し、ホーンが鳴り終えてから繰出しを開始するまでの待ち時間を、設定することができます。 範囲:0 ~ 5
4. サイティデンアツ	1.0V	タイトチェンの張りを感知する最低値を、調整することができます。 この値を下回ると、ネットが強制的に繰出されます。 範囲:0.0 ~ 2.0
5. サイダイデンアツ	4.3V	タイトチェンの張りを感知する最大電圧を、調整することができます。 この値を上回ると、ディスプレイに「チェン チョウセイ」と表示されます。 範囲:3.0 ~ 5.0
6. カウントセンサ	ON	カウントセンサが故障等で使用できなくなったときに、設定を「OFF」にすることで作業が可能になります。このとき、ネット繰出しは手動のみになります。 範囲:ON, OFF
7. キッカーセンサ	ON	キッカーセンサが故障等で使用できなくなったときに、設定を「OFF」にすることで作業が可能になります。このとき、ベール放出は手動のみになります。 範囲:ON, OFF
8. ルイセキ	0 個	作成したベールの総個数を表示します。
9. カイヘイ ホーン ジカン	0.5s	チャンバーが自動で開閉する直前に、鳴るホーンの鳴り時間を、設定することができます。 範囲:0.0 ~ 3.0

9. メンテナンスモード

設定項目	初期値	内容
10. カム ショキイチ タイマ	10s	カムの初期位置合わせのときに、エラーになるまでの時間を、設定することができます。 範囲 :0 ~ 15
11. チャンバー カイ ケイコ ク	ON	チャンバーが開いている間、コントロールボックスのブザーから警告音が鳴ります。 OFF にすると、警告音が鳴らないように設定することができます。 範囲 :ON, OFF
12. チャンバーヘイセンサ	ヒダリ :ON ミギ :ON	チャンバー閉センサの片方が故障等で使用できなくなったとき、「OFF」に設定することで作業ができるようになります。 範囲 : ヒダリ :ON ミギ :ON ヒダリ :ON ミギ :OFF ヒダリ :OFF ミギ :ON
13. ネット ヨブン	0.2 ソウ	ネットを結束して切断する間に、余分にチャンバーへ送られるネット量を、調整することができます。 範囲 :0.0 ~ 1.0
14. チャンバー セミオート	ON	ネット巻き完了後、パワーステアリングレバーの上げ / 下げボタンを一度押すと設定した時間分チャンバーが開きますが、「OFF」にすることで上げ / 下げボタンを押した分開閉するように設定することができます。 範囲 :ON, OFF

10. 各部の開閉のしかた

⚠ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

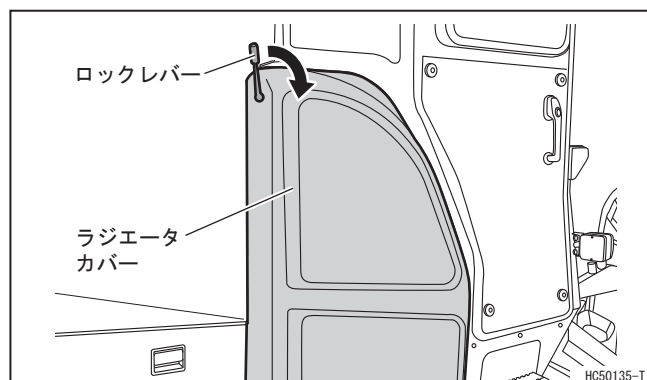
⚠ 注意

- 傾斜地では開閉操作をしないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 開けたカバーは必ず閉めてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、はさまれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

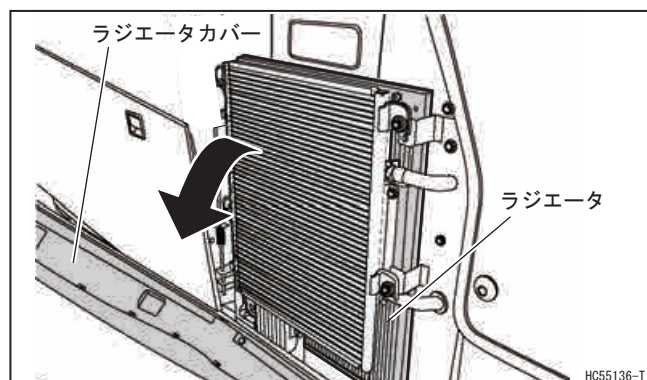
10.1 ラジエータカバー

◆ ラジエータカバーの開けかた

(1) ロックレバーを手前に引いてください。



(2) ゆっくりラジエータカバーを開けてください。



◆ ラジエータカバーの閉じかた

ラジエータカバーを閉じるときは、開けるときの逆の手順で、閉じてください。

⚠ 警告

- ロックが確実にかけたことを確認してください。
※ 守らないと、走行中にカバーが開いて、傷害事故の原因になります。

10.2 チェンカバー

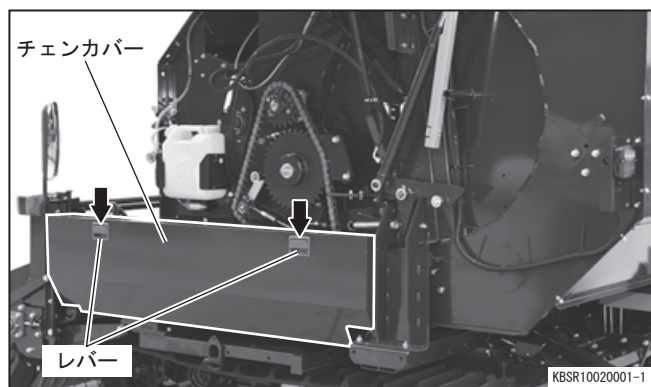
⚠ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

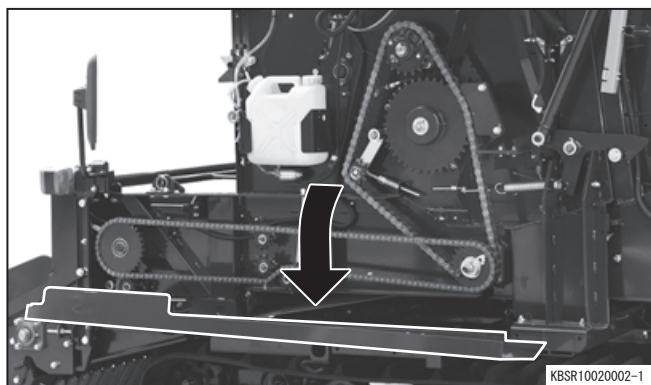
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ チェンカバーの開けかた

- (1) 矢印の箇所(2箇所)を持ち、レバーを握って、チェンカバーのロックを外してください。



- (2) チェンカバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ チェンカバーの閉じかた

チェンカバーを閉じるときは、開けるときの逆の手順で、閉じてください。

10.3 左サイドカバー

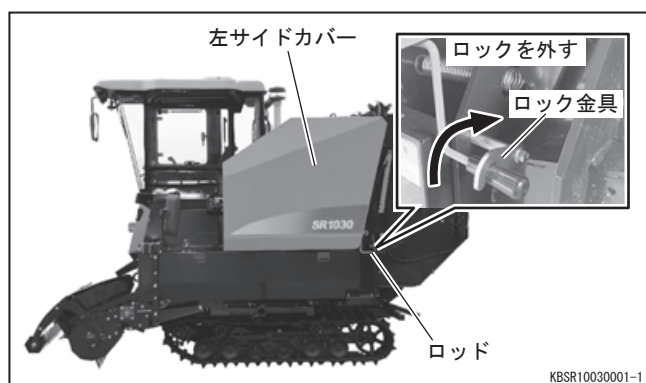
！ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

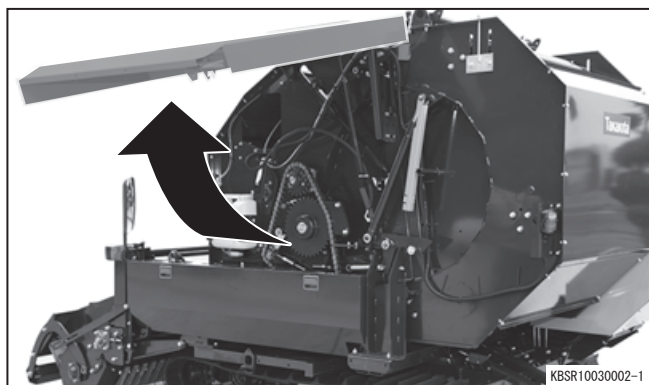
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 左サイドカバーの開けかた

- (1) ロッドのロック金具を外してください。



- (2) ロッドを引いて、左サイドカバーを矢印の方向へ開いてください。



◆ 左サイドカバーの閉じかた

左サイドカバーを閉じるときは、開けるときの逆の手順で、閉じてください。

10.4 ベルトカバー

⚠ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

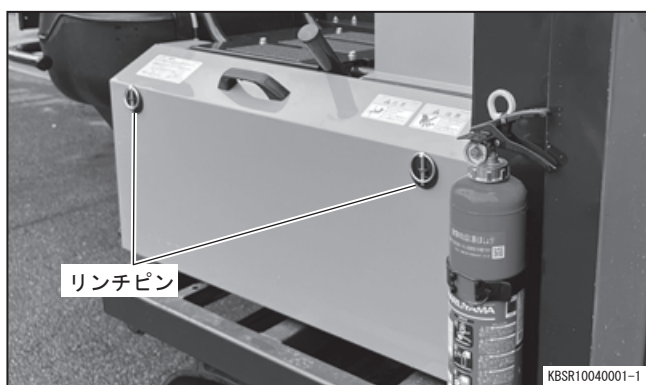
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

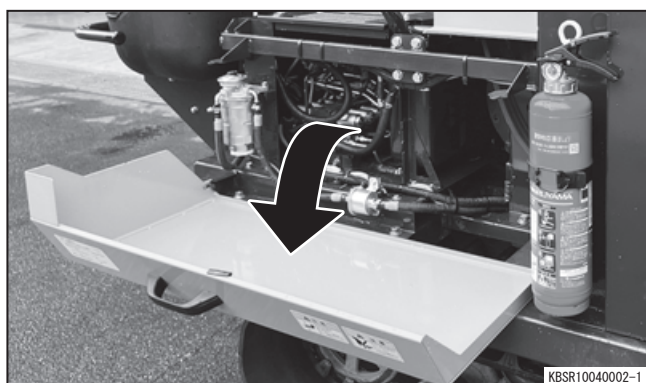
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ ベルトカバーの取り外しかた

(1) リンチピンを2箇所取り外してください。



(2) ベルトカバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ ベルトカバーの取り付けかた

ベルトカバーを取り付けるときは、取り外すときの逆の手順で、取り付けてください。

10.5 右駆動カバー

警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

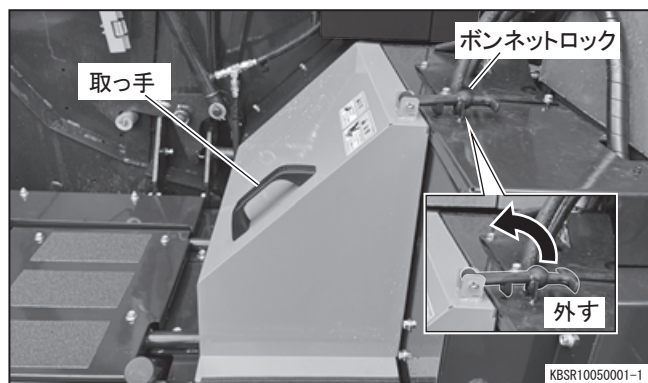
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

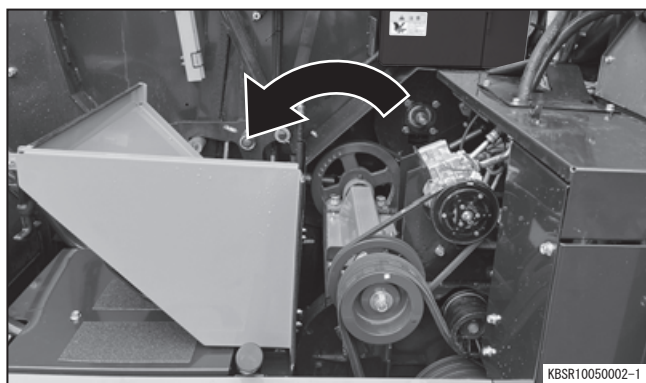
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 右駆動カバーの開けかた

- (1) ポンネットロックを矢印の方向に外してください。



- (2) 取っ手を持って、右駆動カバーを矢印の方向へ開いてください。



◆ 右駆動カバーの閉じかた

右駆動カバーを閉じるときは、開けるときの逆の手順で、閉じてください。

10.6 タンクガード

⚠ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

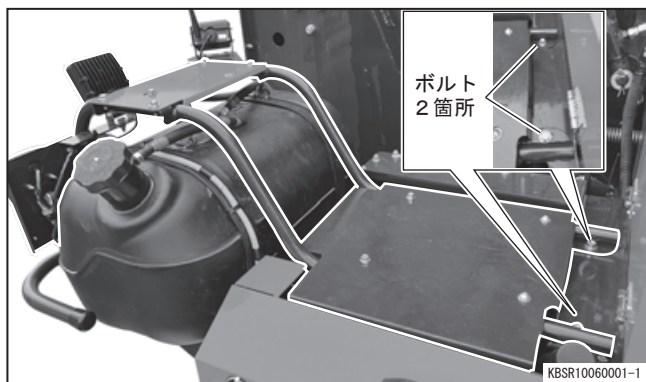
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ タンクガードの開けかた

(1) ボルト（2箇所）を外してください。



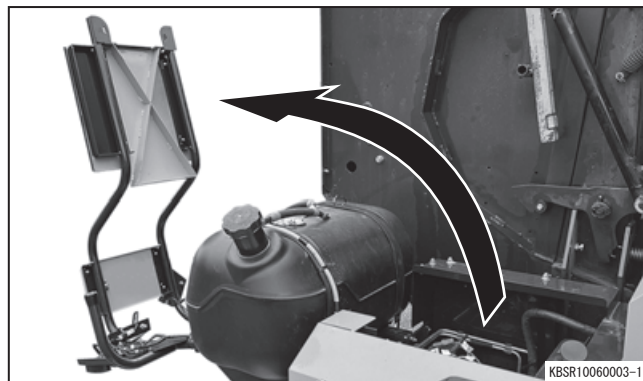
(2) ボルトを外して、タンクガードからエアブリーザを取り外してください。エアブリーザのホース先端を、燃料タンクより高い位置で保持してください。



《重要》

エアブリーザのホース先端が、燃料タンク内の液面より下にあると、燃料がもれることがありますので、注意してください。

(3) タンクガードを矢印の方向へ開いてください。



◆ タンクガードの閉じかた

タンクガードを閉じるときは、開けるときの逆の手順で、閉じてください。

10.7 ネット駆動カバー

！ 警告

- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

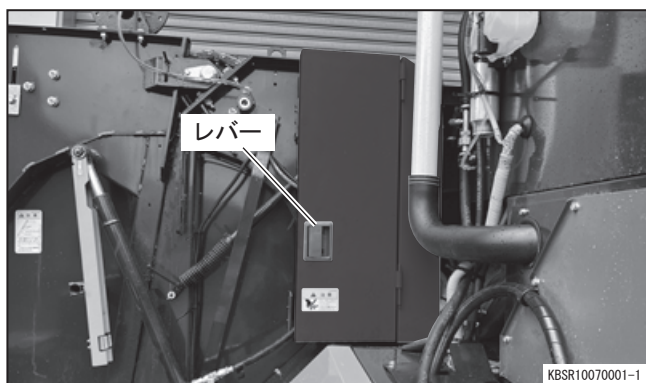
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンが冷えてから作業してください。

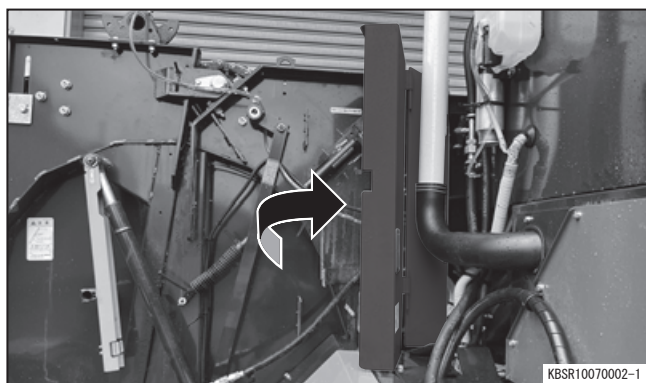
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ ネット駆動カバーの開けかた

- (1) レバーを握って、ネット駆動カバーのロックを外してください。



- (2) ネット駆動カバーを、矢印の方向へ開いてください。



◆ ネット駆動カバーの閉じかた

ネット駆動カバーを閉じるときは、開けるときの逆の手順で、閉じてください。

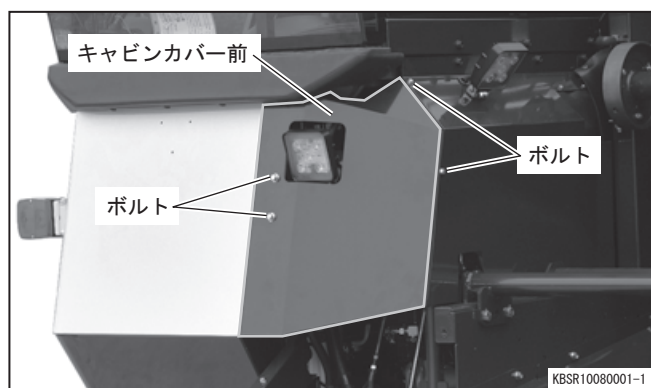
10.8 キャビンカバー

⚠ 警告

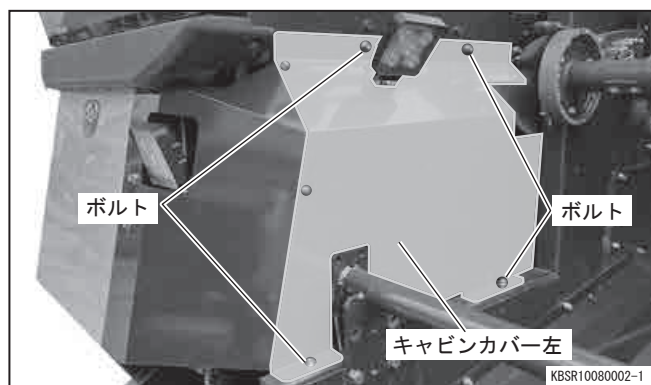
- 各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジンが冷えてから作業してください。
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ キャビンカバーの取り外しかた

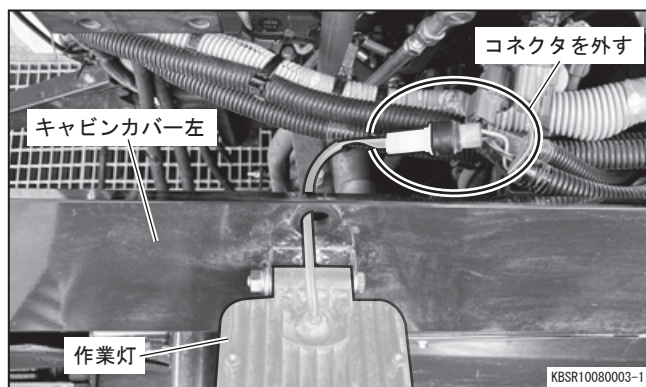
- (1) ボルト（4箇所）を取り外し、キャビンカバー前を取り外してください。



- (2) ボルト（4箇所）を取り外してください。



- (3) 作業灯のコネクタを取り外してから、キャビンカバー左を取り外してください。



◆ キャビンカバーの取り付けかた

キャビンカバーを取り付けるときは、取り外すときの逆の手順で、取り付けてください。

10.9 ピックチェンカバー

！ 警告

●各部の開閉作業時は、自走ロールベアラを平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ ピックチェンカバーの取り外しかた

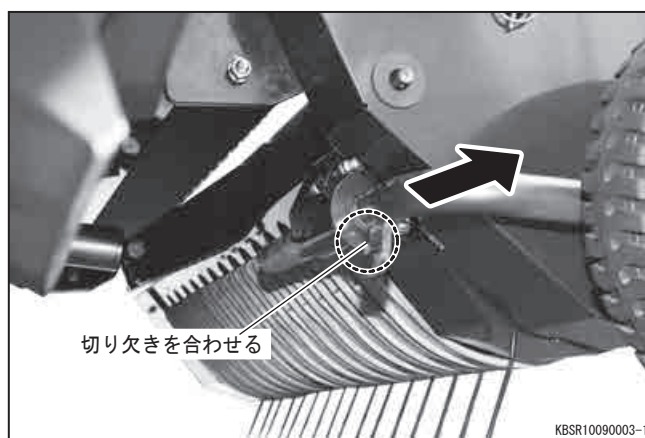
(1) ハイトアジャスタのリンチピンを取り外してください。



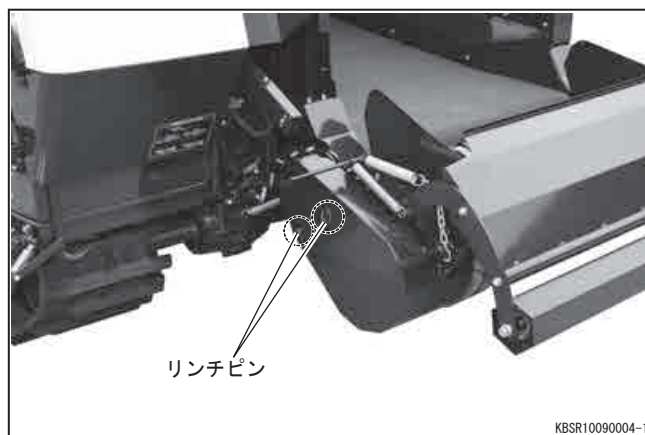
(2) ピックアップ部を下げた状態でゲージホイールのタイヤを矢印の方向へ持ち上げてください。



(3) ゲージホイールのシャフトと取り付け部の切り欠きを合わせて矢印の方向に引き抜いてください。

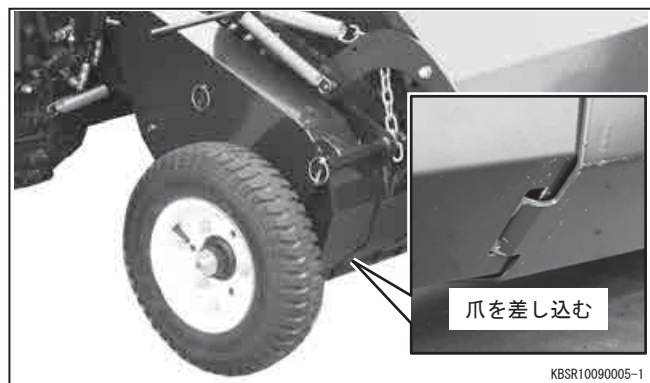


(4) 2箇所のリンチピンを取り外し、ピックチェンカバーを取り外してください。



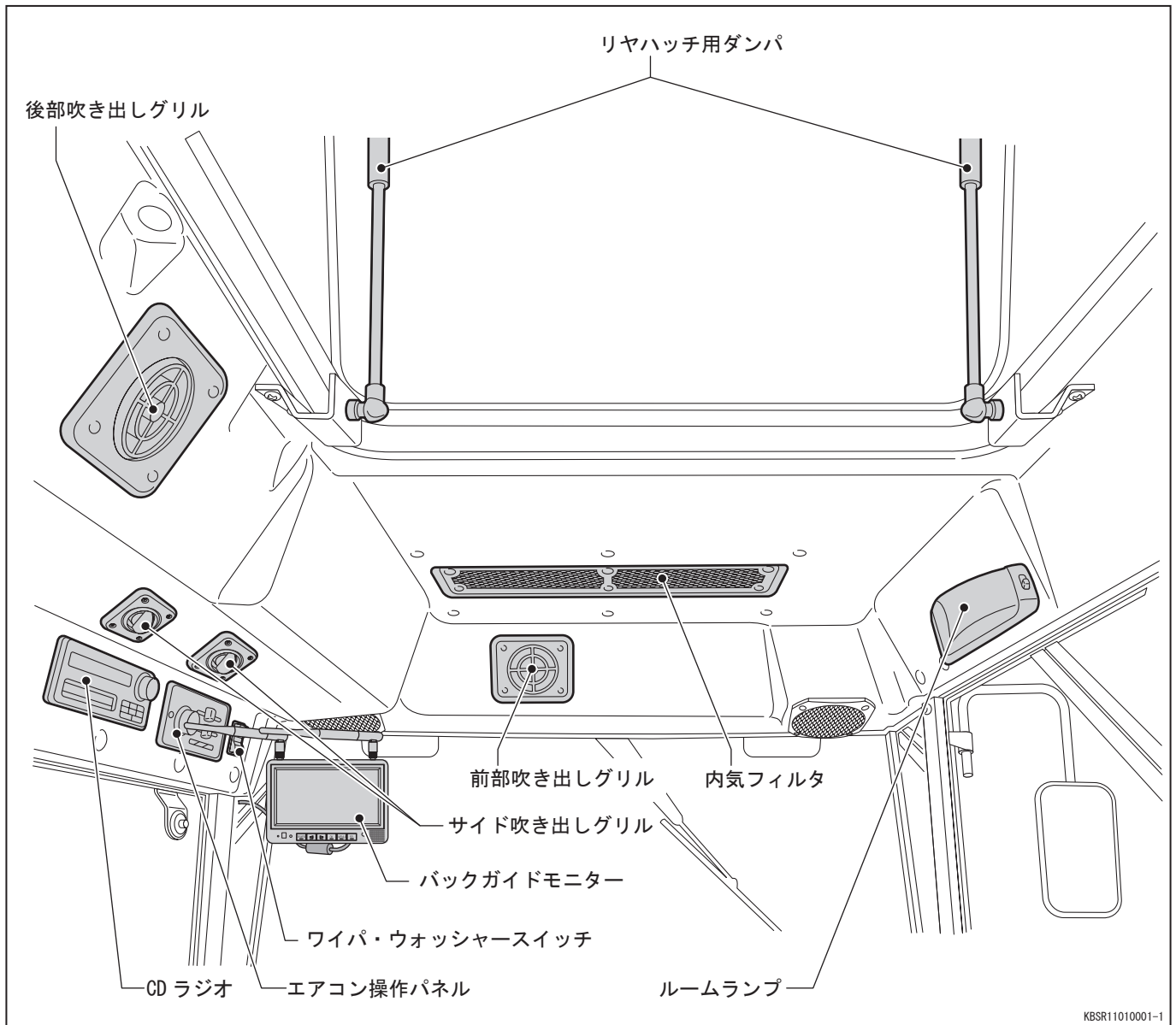
◆ ピックチェンカバーの取り付けかた

ピックチェンカバーを取り付けるときは、ピックチェンカバーにピックフレームの爪を差し込んでから、その後取り外すときの逆の手順で、取り付けてください。



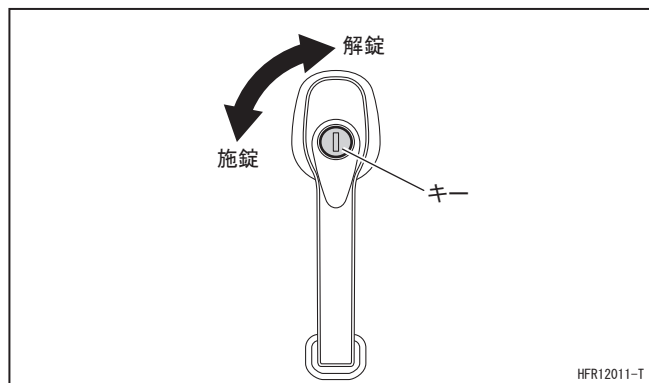
11. キャビンについて

11.1 各部の名称



11.2 各部の使いかた

11.2.1 ドアの施錠・解錠



◆ 施錠

キーを差し込み、左方向に 90° 回すと施錠します。
キーは水平位置のままで、抜き取ってください。

◆ 解錠

キーを差し込み、右方向に 90° 回すと解錠します。
キーは垂直位置のままで、抜き取ってください。

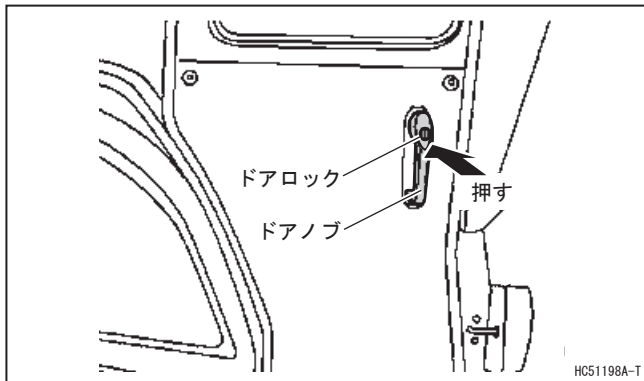
11.2.2 ドアの開けかた

！ 注意

- ドアを開けたままで走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ドアを閉めるときは、手等をはさまないように注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

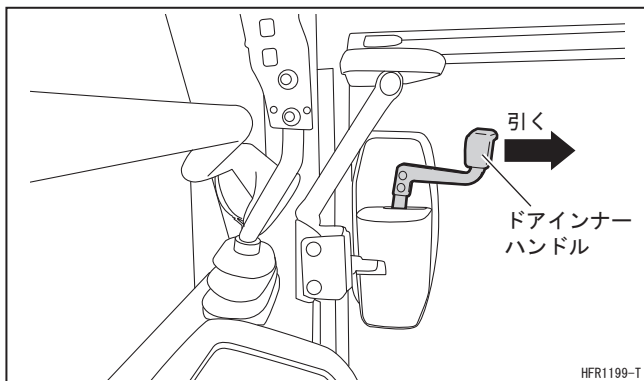
◆ 車外からの開けかた

ドアロックを解錠して押し込み、ドアノブを引いて、開けてください。



◆ 車内からの開けかた

ドアインナーハンドルを手前に引いて、開けてください。

**《重要》**

乗降時にドア開閉用ダンパに荷重をかけないでください。

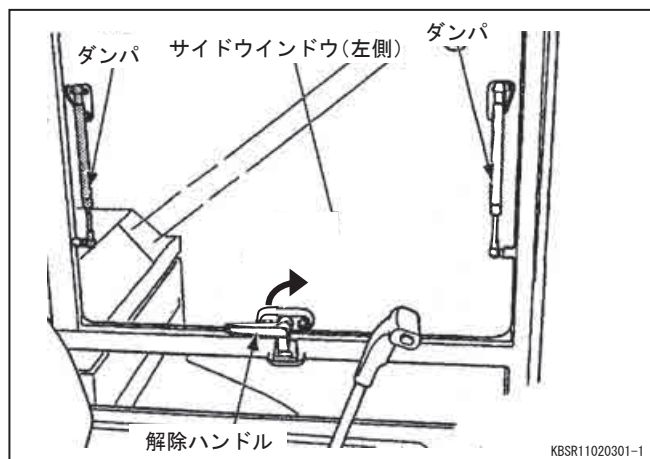
11.2.3 サイドウインドウ

⚠ 注意

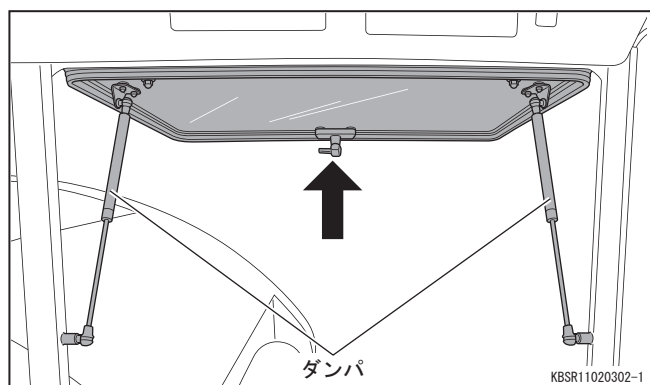
- サイドウインドウを開くときは、周囲の状況を確認してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- サイドウインドウを開いたままで走行や作業をしないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- サイドウインドウを閉めるときは、手等をはさまないように注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ サイドウインドウ（左側）の開けかた

- (1) 解除ハンドル部を 90° 回転させて、サイドウインドウ（左側）のロックを解除してください。

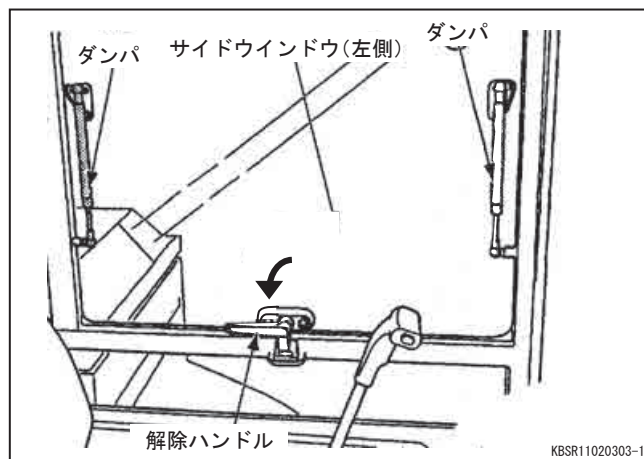


- (2) サイドウインドウを少し押し出すと、ダンパの作用によって自動的に開きます。



◆ サイドウインドウ（左側）の閉めかた

閉めるときは、ハンドルを解除した状態でロックが確実にできるまで、サイドウインドウ（左側）を手前に引き、90° 回転させて、サイドウインドウ（左側）をロックしてください。

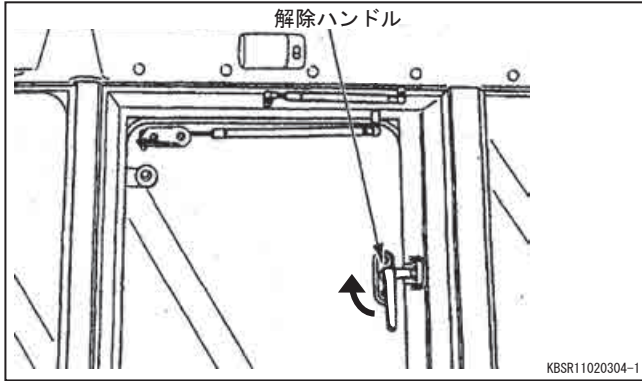


《重要》

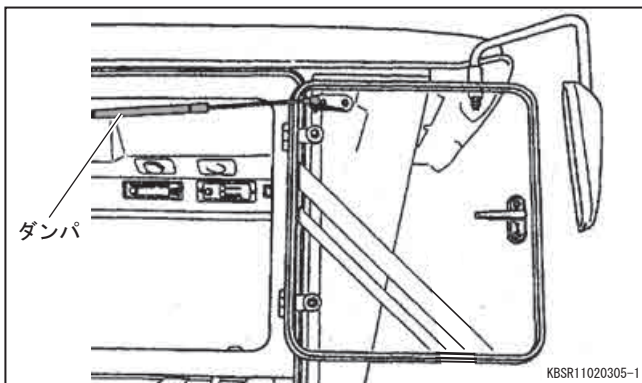
解除ハンドルをロック位置のままサイドウインドウを閉めないでください。

◆ サイドウインドウ（ドア側）の開けかた

(1) 解除ハンドル部を 90° 回転させて、サイドウインドウ（ドア側）のロックを解除してください。

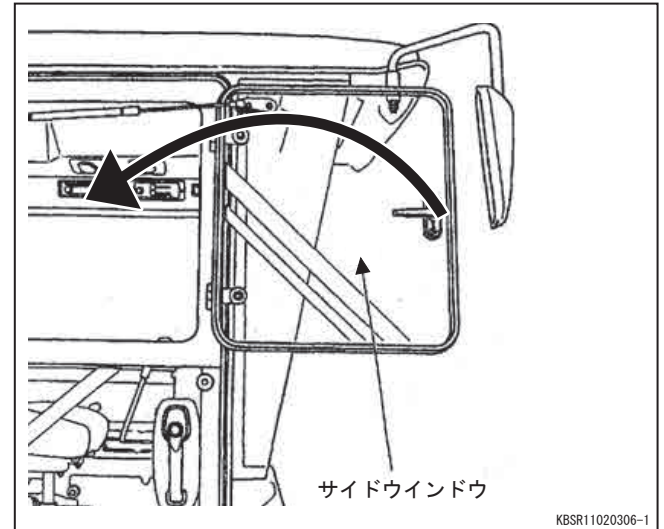


(2) サイドウインドウ（ドア側）を少し押し出すと、ダンパの作用によって自動的に開きます。



◆ サイドウインドウ（ドア側）の閉めかた

閉めるときは、ハンドルを解除した状態でロックが確実にできるところまで、サイドウインドウ（ドア側）を手前に引き、90° 回転させて、サイドウインドウ（ドア側）をロックしてください。



《 重要 》

- 解除ハンドルをロック位置のままサイドウインドウを閉めないでください。
- ドアを開閉するときは、サイドウインドウを閉じた状態で操作してください。

11.2.4 リヤハッチ

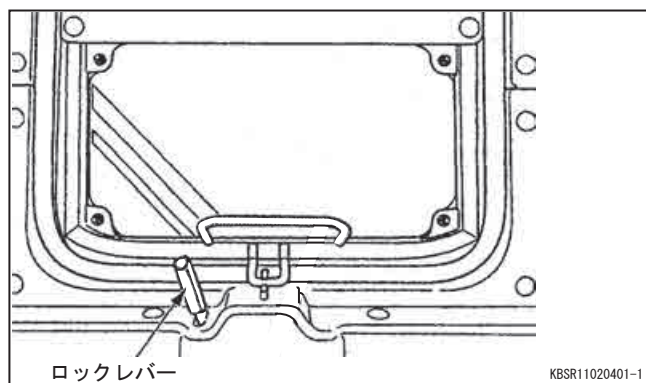
⚠ 注意

● リヤハッチを閉めるときは、手等をはさまないように注意してください。

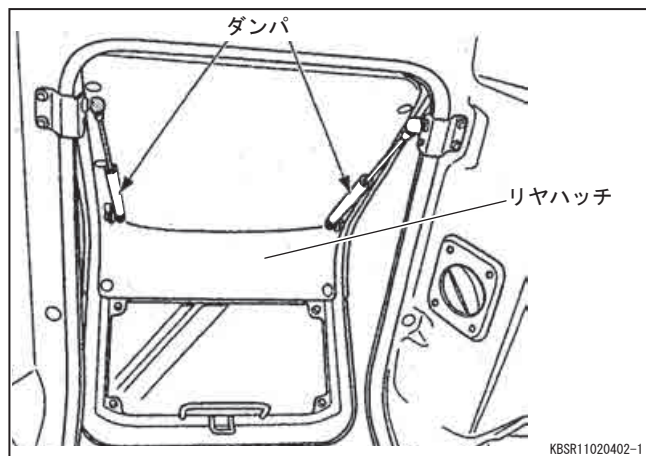
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ リヤハッチの開けかた

(1) ロックレバーを持ち上げ、ロックを解除してください。

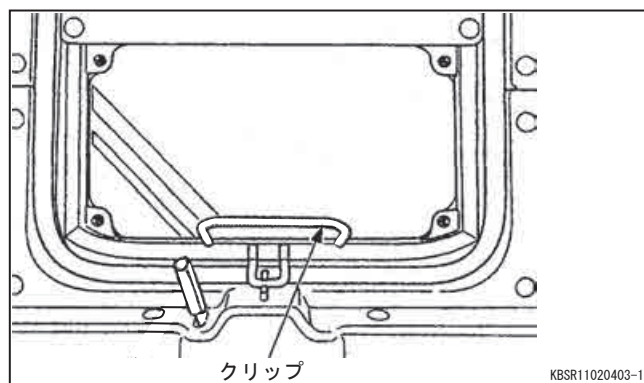


(2) リヤハッチを少し押し出すと、ダンパの作用によって、自動的に開きます。



◆ リヤハッチの閉めかた

閉めるときは、グリップを持ちリヤハッチを静かに引き下げ、ロックレバーを確実に、ロックしてください。

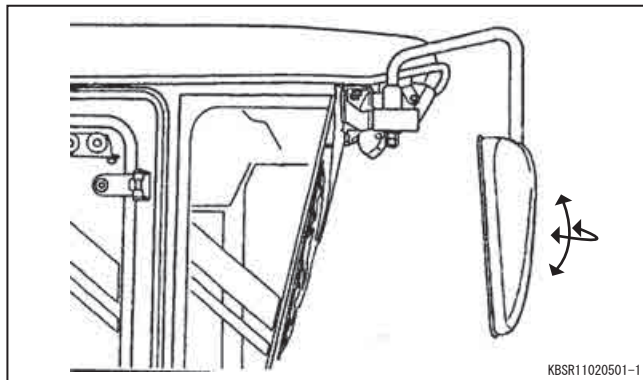


《重要》

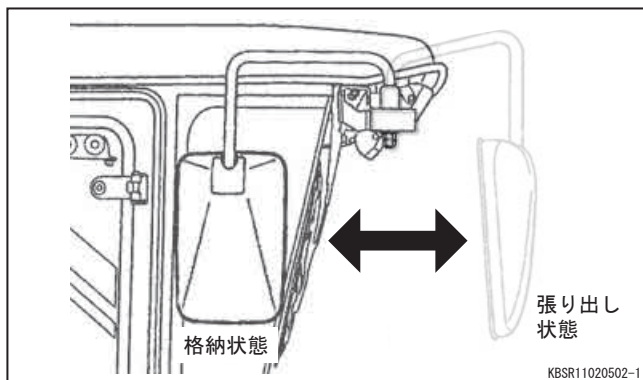
リヤハッチを開いたままで走行や作業をしないでください。

11.2.5 バックミラー

(1) バックミラーは、上下・左右に角度調節できますので、運転席に座って見やすい位置に、調節してください。



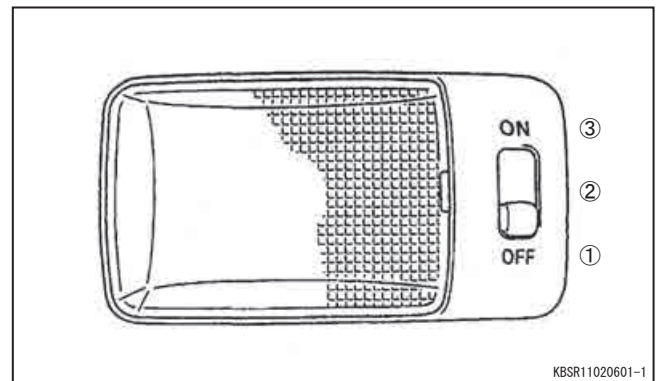
(2) 狭いところへ自走ロールベアラを格納する場合には、バックミラーが接触しないように、前方または、後方へ倒すことができます。



11.2.6 ルームランプ

スイッチの位置により、点灯状態がつぎのようになります。

- ①「OFF」位置：常時消灯
- ②「中立」位置：常時消灯
- ③「ON」位置：常時点灯



《重要》

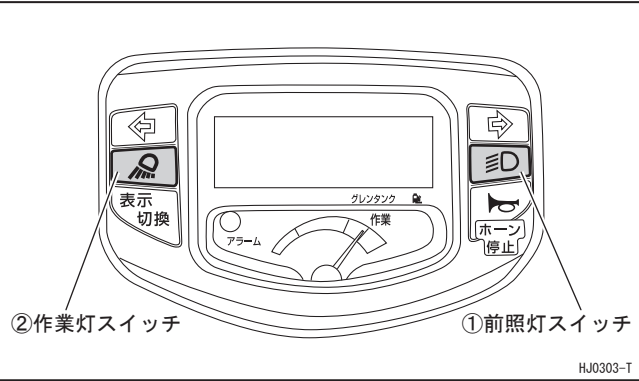
作業終了後、バッテリー上がり防止のため、ルームランプの消灯を確認してください。

11.2.7 作業灯

メインスイッチ「入」位置で、コンビネーションパネルを操作すると、つぎの図の示すように点灯、消灯します。

	コンビネーションパネル	前照灯	作業灯	キャビン上部作業灯	キャビン上部右後作業灯
操作なし	○	—	—	—	—
	○	○	—	—	—
	○	○	○	○	○

○：点灯 —：消灯

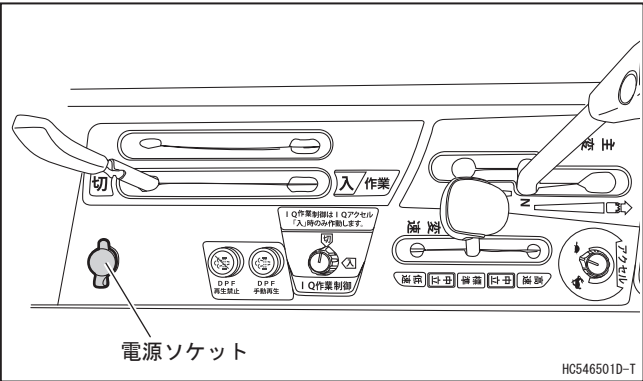


《重要》

作業終了後、バッテリーあがり防止のため、前照灯および、作業灯の消灯を確認してください。

11.2.8 電源ソケット

メインスイッチを「入」位置にすると使用できます。

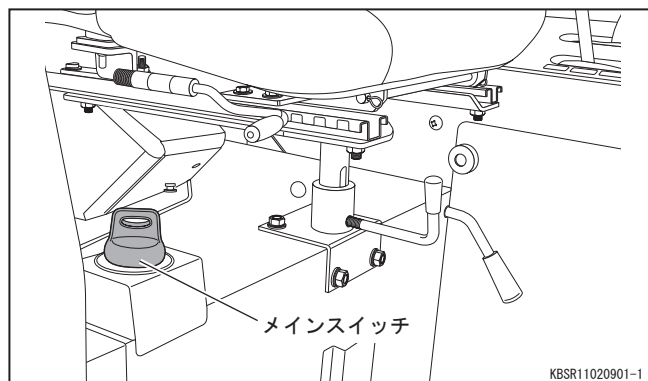


《参考》

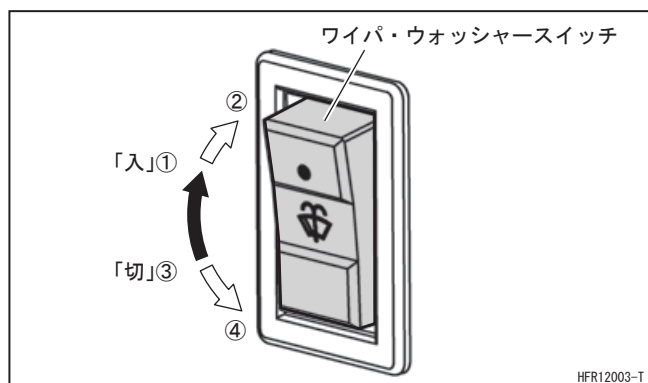
DC12V、84W 以下の製品を使用してください。

11.2.9 ワイパ・ウォッシャー

(1) ワイパ・ウォッシャーを使用するときは、メインスイッチを「入」位置にしてください。



(2) ワイパ・ウォッシャーのスイッチ操作のしかたについては、つぎの通りです。



- ①「入」 ……「切」位置からワイパ・ウォッシャースイッチの上側を押すと、ワイパが作動します。
- ② ……「入」位置からさらにワイパ・ウォッシャースイッチの上側を押し込むと、ワイパが作動しながらウォッシャー液が噴出されます。
- ③「切」 ……ワイパの作動が停止します。
- ④ ……「切」位置からワイパ・ウォッシャースイッチの下側を押し込むと、ウォッシャー液が噴出されます。

《重要》

- エンジンを停止したまま、ワイパを長時間使用しないでください。
- ウォッシャータンクにウォッシャー液が入っていない状態で使用しないでください。
- ワイパはウォッシャー液を噴出させてから使用してください。
- 寒冷時、ワイパブレードが凍結した場合、そのままワイパを作業させないでください。

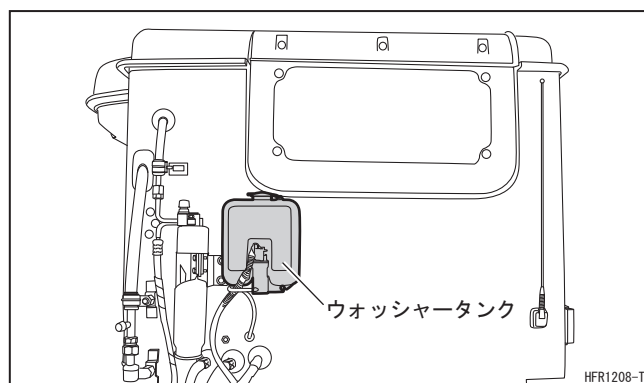
11.2.10 ウォッシャータンク

⚠ 注意

- ウォッシャー液の点検・補充をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ウォッシャー液が少なくなったときは、自動車用ウォッシャー液を補充してください。

ウォッシャータンクは、キャビンフレーム後面にあります。(タンク容量：約 2L)

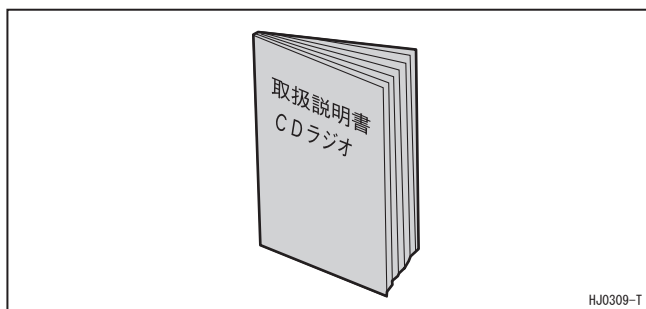


《 参考 》

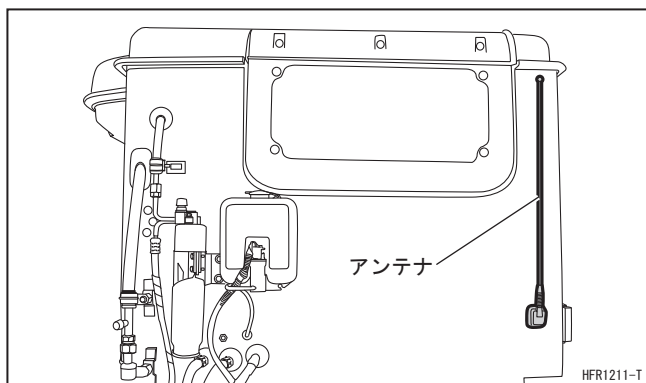
- 清水を補充すると、冬期に凍結することがあります。凍結したときは、ウォッシャー液は噴出されません。
- ウォッシャー液が出ないときは、ワイパ・ウォッシャースイッチを操作しないでください。
- ウォッシャーノズルの詰まりを防ぐために、ゴミがウォッシャータンク内に入らないようにしてください。

11.2.11 CD ラジオ

(1) CD ラジオの操作方法是、添付の CD ラジオの取扱説明書を参照してください。

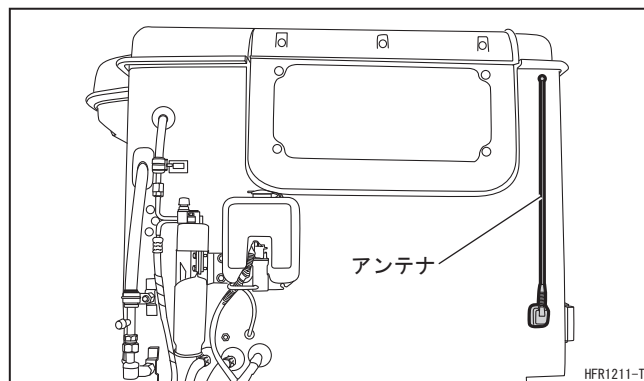


(2) ラジオの受信感度が悪い場合は、アンテナを伸ばして使用してください。

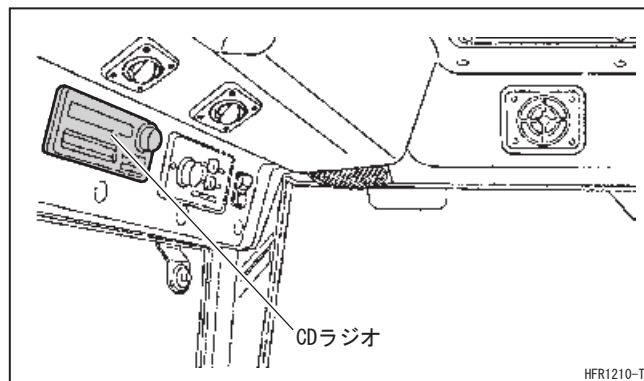


《 重要 》

- アンテナの破損を防ぐために、本機に機体カバー等をかけるときは、アンテナを縮めてキャビン側に倒してください。



- CD を使用しないときは、CD を抜き取ってください。

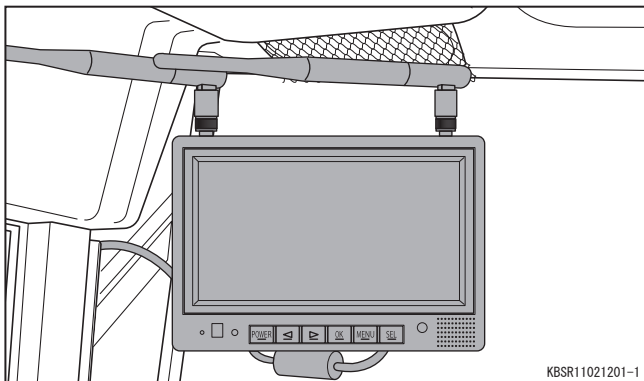


11.2.12 バックガイドモニター

！ 警告

- 機械の周囲に人がいないことを必ず確認し、「ホーン」を鳴らして合図してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 後進するときは、後方の状況に十分注意をはらい、低速で後進してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- バックガイドモニターを見ながら後進するときは、つぎのことに十分注意してください。
 - ・ 映像だけを見ながら後進することは絶対にしないでください。
映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後進すると本機をぶつかけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。
特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を、直接目視で確認してから、運転してください。
※ 守らないと、本機をぶつかけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

(1) バックガイドモニターは、キャビン前方にあります。



(2) エンジンの始動手順に従ってメインスイッチを「入」位置にすると、バックガイドモニターに本機後方の映像が表示されます。

《重要》

後進するときは、必ず目視やバックミラー等で、後方や周囲の安全を直接確認してください。

11.3 エアコン

⚠ 警告

- 万一、エアコンが故障した場合は、エアコンスイッチを「OFF」にしてお買い上げ先で点検整備を受けてください。

エアコンの回路内には高圧のガスが充填されていますので、配管部分やコンプレッサ部分を緩めると、ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充、その他の作業には特殊な工具と計器類が必要です。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- ヒータホースに異常を認めたときはすみやかにお買い上げ先で点検整備を受けてください。

- ヒータホースの異常とは、

- ・ ヒータホースのキズ付き、ひび、ふくらみ
- ・ ヒータホース接続部からの水もれ

※ 守らないと、傷害事故や故障の原因となります。

- ヒータホースには直接触れないでください。

※ 守らないと、やけどの原因となります。

《重要》

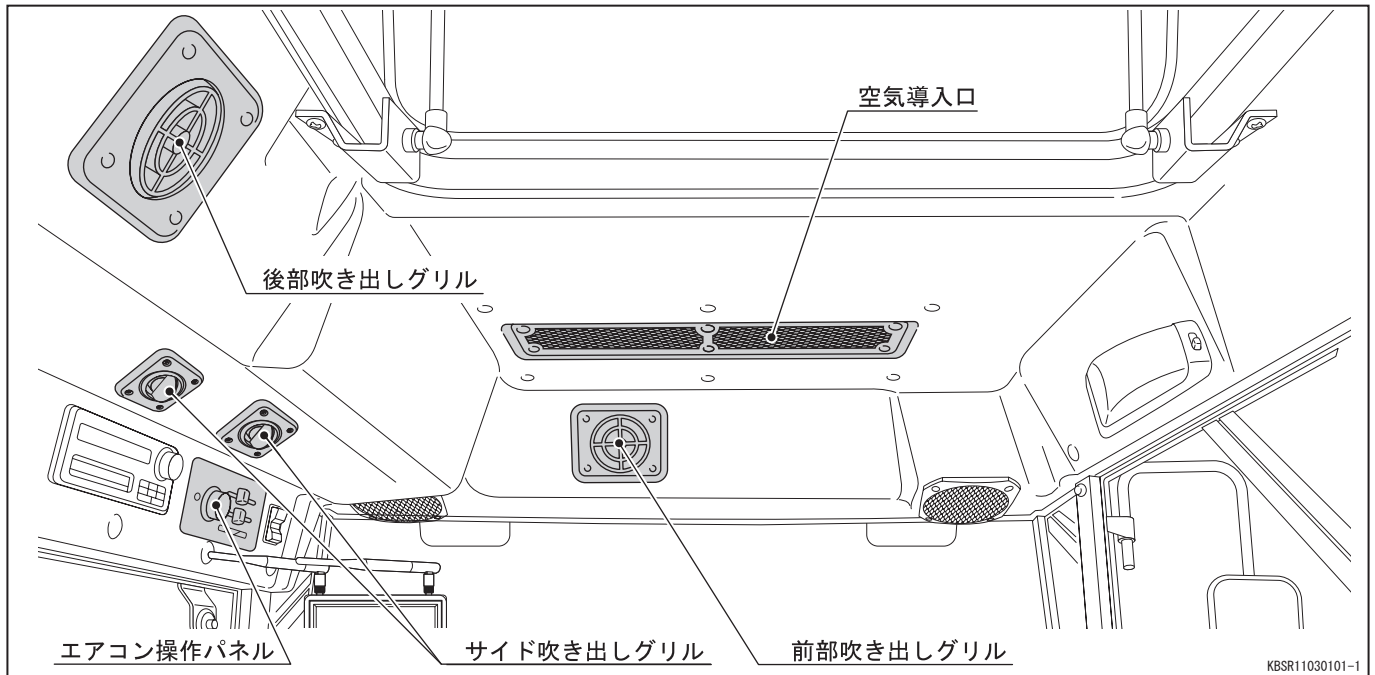
エアコンのコンプレッサのオイル切れおよびエアコン部品の損傷を防ぐために、自走ロールベアラを長期間使用せず保管するときは、1 カ月に一度、つぎの作業をしてください。

[1] エンジン回転をアイドリングにする

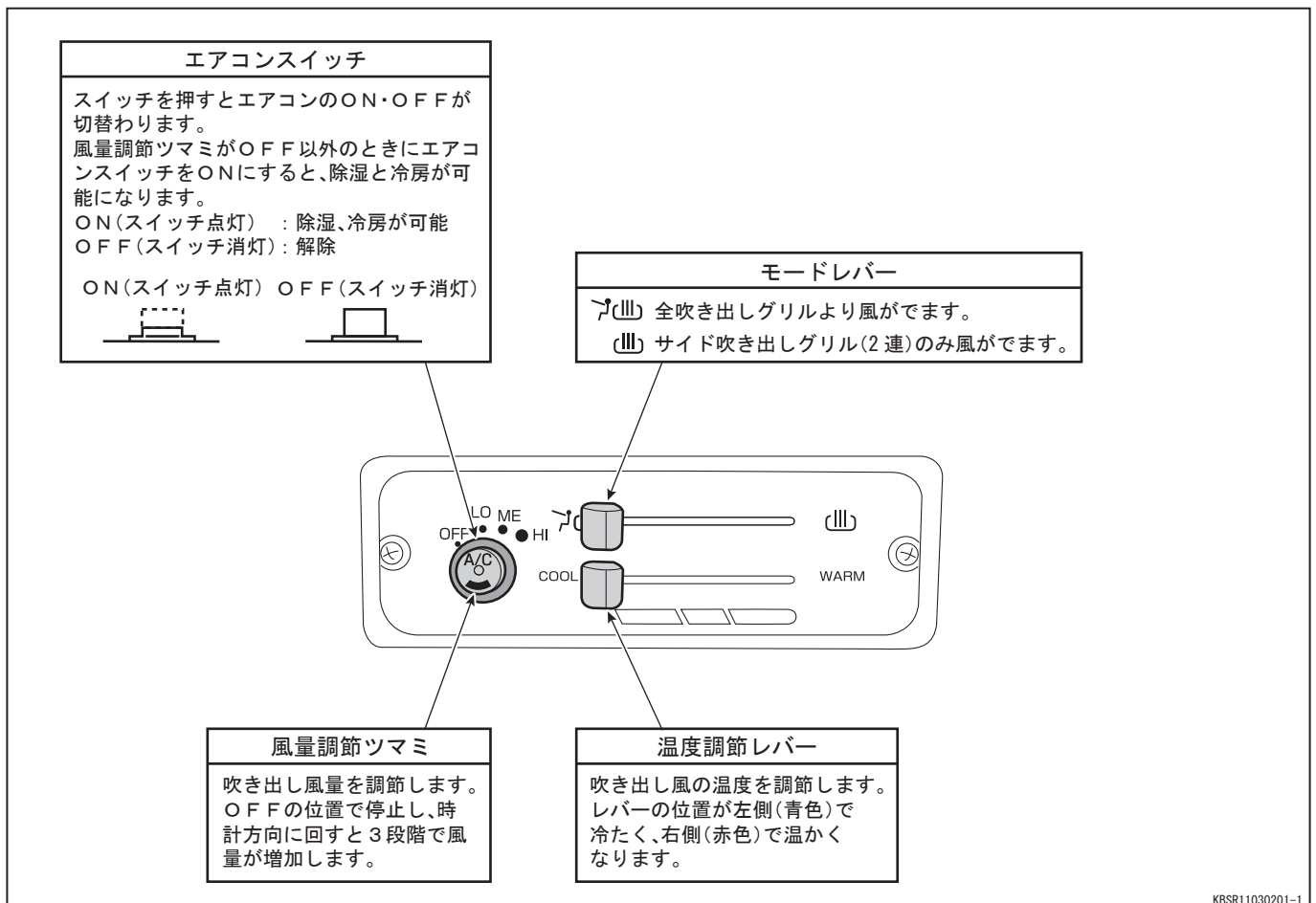
[2] エアコンスイッチを入れて5分以上運転する

11.3.1 各部の名称

◆ 各操作部の説明



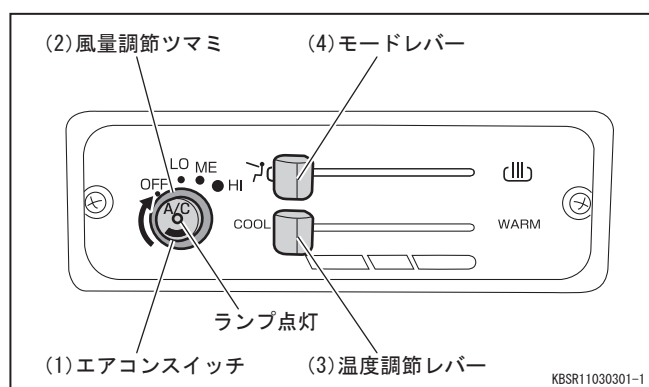
11.3.2 エアコン操作パネル



11.3.3 エアコンの使いかた

◆ 冷房および除湿

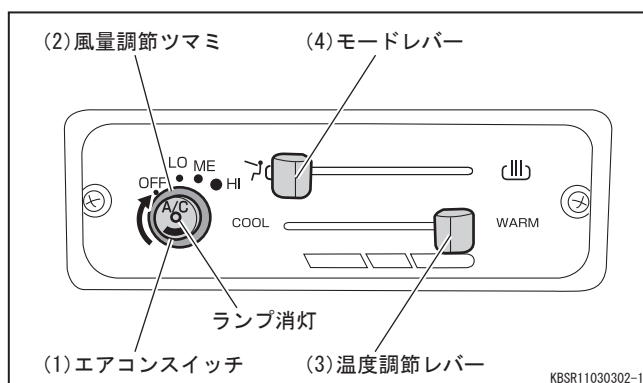
- (1) エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてください。
- (2) 風量調節ツマミを右側へ回し、ファンを作動させてください。
- (3) 温度調節レバーを「COOL」側で調節してください。
- (4) モードレバーを「」位置にしてください。



◆ 暖房

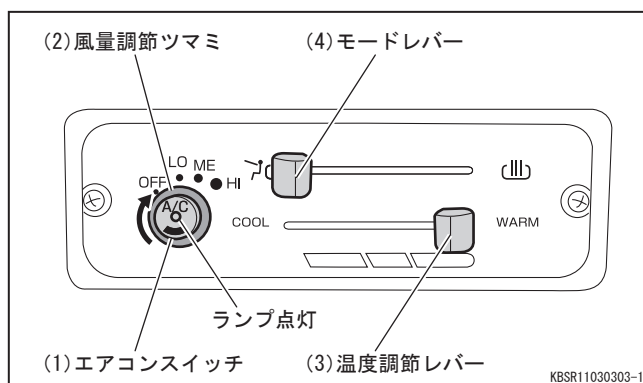
- (1) エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯) にしてください。
- (2) 風量調節ツマミを回してファンを作動させてください。
- (3) 温度調節レバーを「WARM」側で調節してください。

- (4) モードレバーを「」または「」位置にしてください。



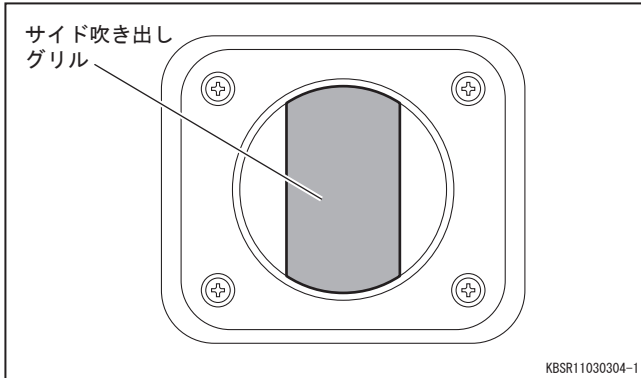
◆ 除湿暖房

- (1) エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてください。
- (2) 風量調節ツマミを回してファンを作動させてください。
- (3) 温度調節レバーを「WARM」側で調節してください。
- (4) モードレバーを「」または「」位置にしてください。

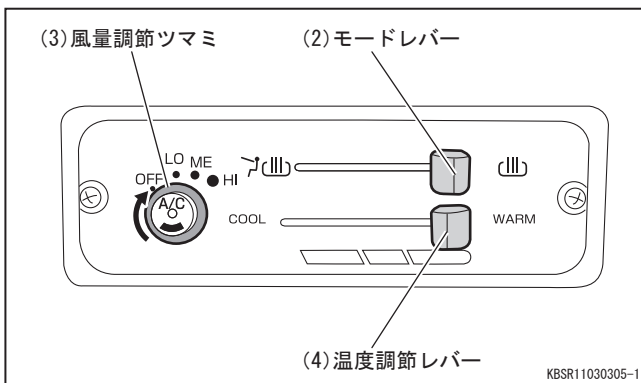


◆ デフロスト（曇り除去）

- (1) フロントガラスの曇りを除去するときは、サイド吹き出しグリルを、フロントガラスの方向に向けてください。



- (2) モードレバーを「」位置にしてください。
- (3) 風量調節ツマミを右側へ回し、「HI」位置にしてください。
- (4) 温度調節レバーを「WARM」側にしてください。



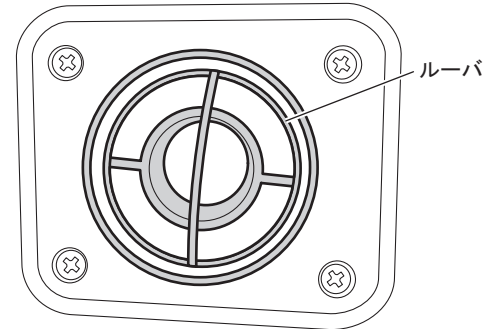
《参考》

外気温が極端に低いとき、エアコンが作動しない場合がありますが、故障ではありません。

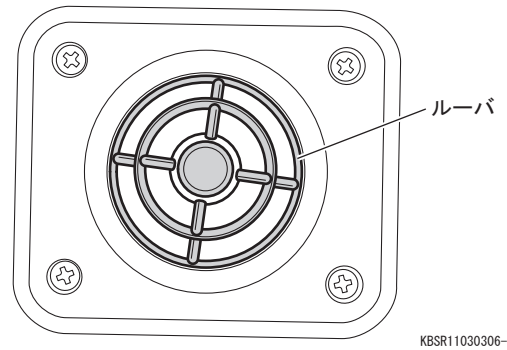
◆ 風向調節

- (1) 風の向きは、吹き出しグリルのルーバの向きによって、自由に調節できます。

〈サイド吹き出しグリル〉



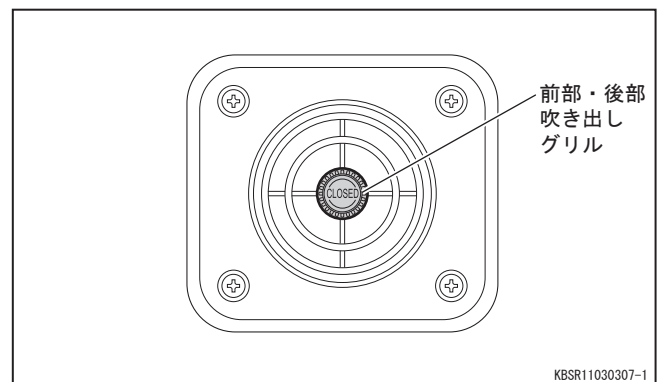
〈前部、後部吹き出しグリル〉



《参考》

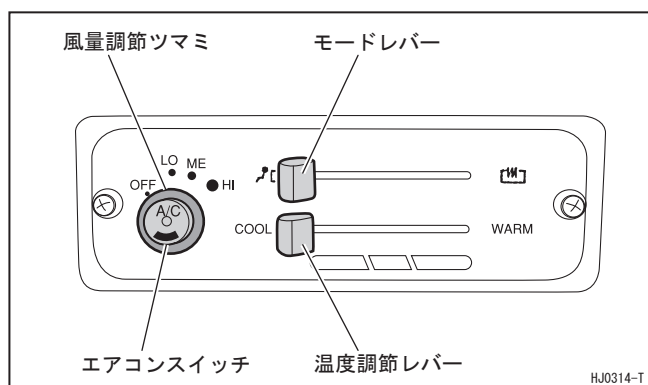
吹き出しグリルを閉じることで、他の吹き出しグリルの風量を増やすことができます。

- (2) 前部・後部吹き出しグリルは、ルーバを横向き、他の吹き出しグリルは、中央のツマミを回すことで「閉」位置にできます。



◆ エアコンを使用しないとき

- (1) エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯) にしてください。
- (2) 風量調節ツマミを左側に回して「OFF」位置にしてください。
- (3) 温度調節レバーを「COOL」位置にしてください。



12. 点検整備

⚠ 警告

- 閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 点検・整備・掃除するときは自走ロールベアラを平たんな場所に置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いて各部の回転が止まってから行ってください。
※ 守らないと、巻き込まれ、はさまれ等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジン周辺で作業するときは、エンジンが十分冷えてから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ピックアップ部を上げて作業するときは、必ず作業ロックノブを「ロック」位置にして、さらにピックアップ部の下にスタンド等の台を置き、ピックアップ部が下がらないようにしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分に注油してください。また、部品が摩擦したまま使い続けると、摩擦による火災の原因となり、場合によっては火災となります。

⚠ 注意

- 取り外したカバー類は、すべて取り付けてからエンジンを始動してください。
※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。
- 拾い上げ作業は、取り外したカバー類を必ずすべて取り付けてから行ってください。
※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、お買い上げ先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
- 廃棄物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により、処罰されることがあります。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染による健康被害の原因になります。
- 自走ロールベアラから廃液を抜く場合は、必ず容器で受けてください。

12.1 定期点検一覧表

※機械の使用状況やほ場の状態により、交換時期等は変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。

運転・作業中に異常を感じた場合は、すみやかに点検を実施し、お買い上げ先に連絡してください。

○：点検・補給・調整・調節・掃除 ●：交換

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間					それ以降(h)		参照 ページ
			シーズン 前	50	100	200	300	400	○	●	
燃料	燃料	補給	作業前または作業後								161
オイル	エンジンオイル	点検・交換	○	●		●		●	作業前	200時間 ごと	164
	延長フランジオイル	交換		●			●			300時間 ごと	166
	走行メインギヤケースオイル	点検・交換	○	●	○	●	○	●	100時間 ごと	200時間 ごと	167
	HST入力ギヤケースオイル	交換		●			●				168
	油圧オイル	点検・交換	○	●	○	○	●	○	100時間 ごと	300時間 ごと	169
	逆転ミッションオイル	点検・交換	○	●			●			300時間 ごと	170
	チェーンオイル	点検・補給	作業前								171
グリス	転輪・イコライザ部・アイドルローラ	グリスアップ	○	○	○	○	○	○	50時間 ごと		175
	車体水平および平行制御装置軸受部	グリスアップ	○	○	○	○	○	○	50時間 ごと		175
	ピックアップ部	グリスアップ	○	○	○	○	○	○	50時間 ごと		176
	ベアラ部	グリスアップ	○	○	○	○	○	○	50時間 ごと		176
	チャンバー部	グリスアップ	○	○	○	○	○	○	50時間 ごと		177
ベルト	エンジン出力ベルト	点検・交換	○	○	○	○	●	○	100時間 ごと、 または 交換後 20時間	300時間 ごと	180
	HSTベルト	点検・交換	○	○	点検:使用時間が100時間ごと、または交換後20時間 交換:使用時間が300時間ごと、または2年ごとの早いほう						181
	作業ベルト	点検・交換	○		○	○	●	○	100時間 ごと、 または 交換後 20時間	300時間 ごと	182
	ネット用ベルト	点検・交換	○	○	○	○	●	○	100時間 ごと、 または 交換後 20時間	300時間 ごと	184
	クーラベルト	点検・交換	○		○	○	●	○	100時間 ごと、 または 交換後 20時間	300時間 ごと	185
	ゼネレータベルト	点検・交換	○	○	点検:使用時間が100時間ごと、または交換後20時間 交換:使用時間が300時間ごと、または2年ごとの早いほう						186

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間						それ以降(h)		参照 ページ
			シーズン 前	50	100	200	300	400	○	●		
ベルト	冷却ファンカウンタベルト	点検・交換	○	○	○	○	●	○	100時間ごと、 または 交換後20時間	300時間ごと	187	
	冷却ファンベルト	点検・交換	○	○	○	○	●	○	100時間ごと、 または 交換後20時間	300時間ごと	188	
	逆流ファンベルト	点検・交換	○	○	○	○	●	○	100時間ごと、 または 交換後20時間	300時間ごと	188	
	コンベアベルト	点検・交換	○	○	○	○	●	○	100時間ごと、 または 交換後20時間	300時間ごと	189	
チェン	ベアラ駆動チェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●	100時間ごと、 または 交換後20時間	400時間ごと	192	
	中間チェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●	100時間ごと、 または 交換後20時間	400時間ごと	192	
	タイトチェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●	100時間ごと、 または 交換後20時間	400時間ごと	193	
	ピック駆動チェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●	100時間ごと、 または 交換後20時間	400時間ごと	194	
ワイヤ	作業クラッチワイヤ	点検・交換	○	○	○	○	○	●	100時間ごと、 または 交換後20時間	400時間ごと	195	

《 重要 》

- ・エンジンオイル量は、作業前に毎回点検してください。(164 ページ)
- ・ベルト、チェンは、初期 20 時間程度作業したら調整、調節してください。(178, 191 ページ)
点検調整、調節は、それ以降 100 時間ごとに行ってください。
- ・ワイヤは、初期 20 時間程度作業したら調整してください。(195 ページ)

12. 点検整備

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間					それ以降(h)		参照 ページ	
			シーズン 前	50	100	200	300	400	○	●		
エ ア コ ン	コンプレッサ(マグネットクラッチ)	点検	○	○		○		○	200時間 ごと		—	
	冷媒配管(高低圧ホース)	点検	○								—	
	ブロアモータ	点検	○								—	
	フィルタ	掃除・交換									215	
	エアフィルタ	掃除	作業前								215	
	コンデンサ	掃除	作業前								216	
	レシーバドライヤ	交換							8年ごと	—		
	サイトグラス(冷媒量)	点検	○							217		
	ヒータホース	交換							8年ごと	—		
	フロン排出抑制法に基づく簡易点検	点検							3カ月ごと	218		
そ の 他	駐車ブレーキスプリング	点検	○	○	○	○	○	○	100時間 ごと		196	
	燃料フィルタエレメント	点検・交換			○		○	●		400時間 ごと	197	
	エンジンオイルフィルタ	交換		●		●		●		200時間 ごと	198	
	HSTオイルフィルタカートリッジ	交換		●			●			300時間 ごと	199	
	ブリーザエレメント	交換								500時間 ごと	199	
	エアクリーナーエレメント	掃除・交換	○	○	○	○	○	●	50時間 ごと	400時間 ごと	199	
	プレクリーナー	掃除	作業前								199	
	燃料ホース	点検・交換	○	点検:使用時間が100時間ごと								201
	ラジエータホース	点検・交換	○	交換:使用時間が300時間ごと、または2年ごとの早いほう								201
	バッテリー	点検・交換	○	セルモータが回りにくいと充電							2年ごと	202
	ラジエータ・オイルクーラ・燃料クーラ	掃除	○	作業前点検					作業前	破損時	203	
	電気配線・ヒューズ関係・リレー	点検	○	○		○	○	○	100時 間ごと	破損時	204	
	クローラ	点検・調整	○	○	○	○	○	○	100時 間ごと	摩耗および 破損時	211	
	冷却水	点検・交換	○	点検:作業前／交換:1年ごと					作業前	1年ごと	212	
	ラジエータキャップ	点検	○	○	○	○	○	○	100時間 ごと	不調時	—	
	サイドクラッチアーム部	点検・交換	○							破損時	—	
	ホイールシャフトオイルシール	交換	○							600時間 ごと	—	
	ホイールスプロケット	点検・交換	○	○	○	○	左右 入替	○		500時間 ごと	—	
	クローラガイド	点検・交換	○		○	○	●	○	100時間 ごと	300時間 ごと	—	
	アイドルローラオイルシール	交換					●			300時間 ごと	—	
	トラックローラオイルシール	交換					●			300時間 ごと	—	
	ネット切断ナイフ	点検	○		○	○	○	○	100時間 ごと		218	
	シェアボルト	点検・交換	切断時								219	

《 重要 》

- ・エアクリーナーは、50 時間ごとに掃除してください。(199 ページ)
- ・冷却水の量は、作業前に毎日点検してください。(212 ページ)

12.2 燃料給油

⚠ 危険

● 燃料を補給するときは、火気厳禁です。

エンジンを停止し、エンジン等高温部が十分冷めたことを確認してから行ってください。

また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料の引火による爆発や火災の原因になります。

(1) 燃料は、必ず指定の「ディーゼル軽油」を使用してください。(162 ページ)

ディーゼル軽油には下表の種類があります。

使用地域、季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点 (°C)
特 1 号	+5 以下
1 号	-2.5 以下
2 号	-7.5 以下
3 号	-20 以下
特 3 号	-30 以下

(JIS 規格より抜粋)

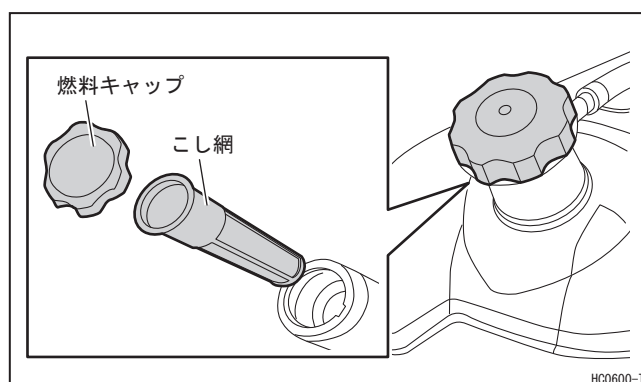
《 重要 》

流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し、エンジンの始動が困難になったり、停止したりすることがあります。

(2) 水抜剤は使用しないでください。

(3) 未使用の菜種油や、使用済みの調理油等を原料としたバイオディーゼル燃料 (BDF)、およびその混合油は使用しないでください。

(4) 長期格納のとき、燃料タンクは、燃料を満タンにしてください。水の発生を防ぐことができます。



《 重要 》

- 燃料タンク内に、ゴミ等が入らないよう給油時は、こし網を取らないでください。
- 給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
- コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は、超精密仕上がりになっています。これらの部品の作動不良を防ぐためドラム缶やホームタンク等から燃料を給油するときは水や砂等の異物が混入しないよう注意してください。

12.2.1 ディーゼル燃料について

燃料の品質と成分は非常に重要です。低品質燃料の使用は、エンジンの性能や耐久性が低下します。必ずつぎに挙げる仕様の燃料を使用してください。

◆ コモンレールエンジンに要求されるディーゼル燃料

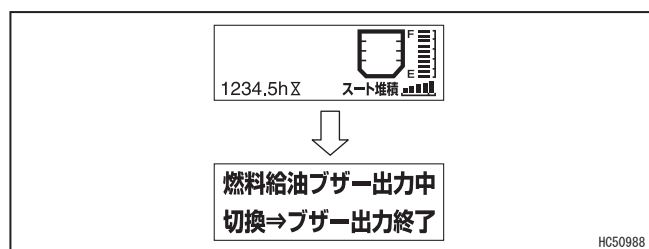
⚠ 注意

- JISK2204 規格に適合する燃料を使用してください。
- 燃料は超低硫黄軽油（S10）を使用してください。
- 亜鉛、ナトリウムフリーの燃料を使用してください。
- バイオディーゼル燃料（BDF）、およびその混合油は使用しないでください。
- 灯油は使用しないでください。
- 灯油を燃料に混ぜて使用しないでください。
- ドラム缶等に長期保存した燃料を使用しないでください。
- 内側を亜鉛メッキした容器に燃料を保管しないでください。
- 非正規販売店から購入した燃料は使用しないでください。

※ 守らないと、エンジンの性能や耐久性が低下します。

12.2.2 燃料給油ブザーの使いかた

(1) メインスイッチを「入」にして、エンジンを始動しない状態で約 10 秒後、マルチアイに「燃料ブザー出力中」を通常表示と交互に表示します。さらに燃料残量に応じて電子ブザーが吹鳴します。



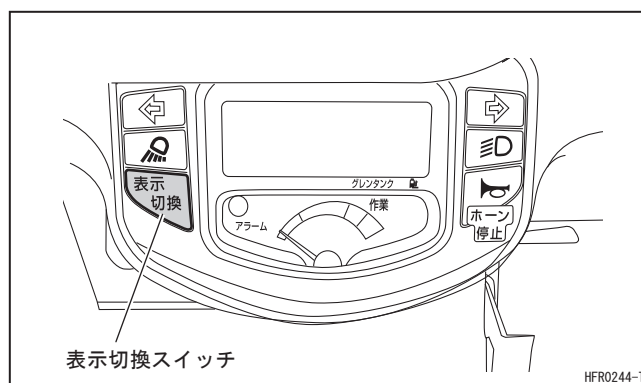
《重要》

エンジンを始動すると燃料給油ブザーは吹鳴しません。

(2) 燃料を給油すると、燃料タンクの量に応じて電子ブザーの吹鳴時間が短くなり、燃料が満タンになると、電子ブザーが連続吹鳴します。

燃料計	電子ブザー
10(F)	連続吹鳴
9	0.5秒ごとに断続吹鳴
8	1秒ごとに断続吹鳴
7~0(E)	2秒ごとに断続吹鳴

(3) 表示切換スイッチを押すとブザーが鳴り止み、マルチアイが通常表示に切り換わります。



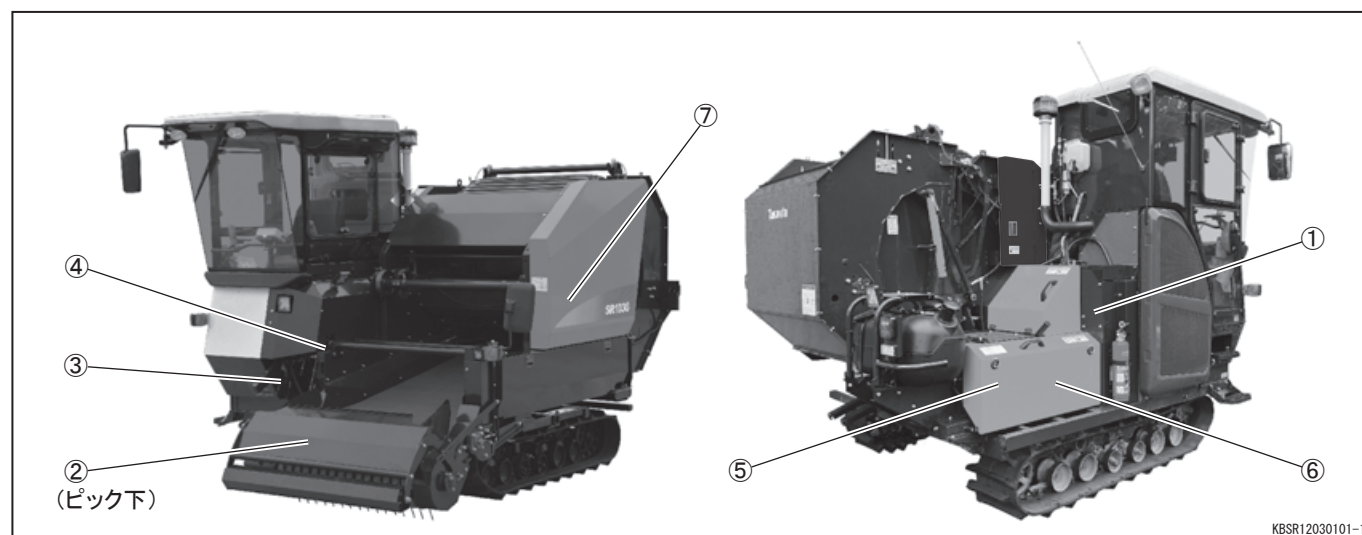
12.3 オイルの点検と交換のしかた

オイルの点検、交換時間は、「定期点検一覧表（158 ページ）」を参照してください。

⚠ 注意

- 交換、補給するオイルは、必ず指定されたオイルを使用してください。
 - 作業部および周辺の掃除を行ってから作業してください。
- ※ 守らないと、自走ロールベアラの故障や破損の原因になります。

12.3.1 給油一覧表



	給油箇所	容量 (L)	使用オイル	参照 ページ
①	エンジンオイル	5	ㇿセキハイクオリティエンジンオイル (10W-30 CK-4 / DH-2)	164
②	延長フランジオイル	0.15	ギヤオイル# 90	166
③	走行メインギヤケース	8	ㇿセキ UTH オイル (80W)	167
④	HST 入力ギヤケースオイル	0.15	ㇿセキ UTH オイル (80W)	168
⑤	油圧オイル	13	ㇿセキハイドロリックオイル (HL068) VG68	169
⑥	逆転ミッションオイル	0.8	ギヤオイル# 90	170
⑦	チェンオイル	5	油圧作動油 (VG32)	171

12.3.2 エンジンオイル

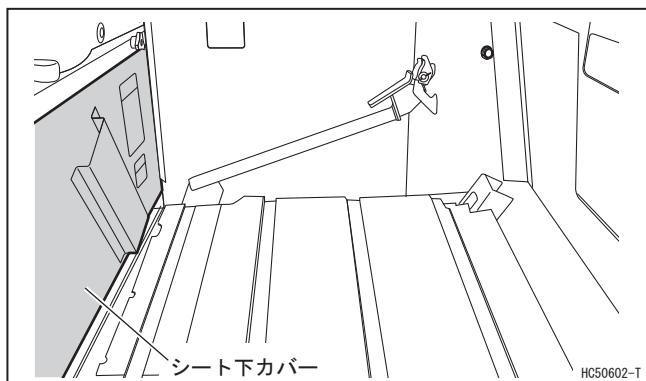
⚠ 注意

- エンジンオイルは「**マセキハイクオリティエンジンオイル(10W-30 CK-4/DH-2)**」を使用してください。
※ 守らないと、DPF 装置に悪影響を与え、故障の原因になります。
※ 守らないと、国内の排ガス規制基準値に適合しなくなるおそれがあります。
- エンジンオイル交換時は、必ず**エンジンオイルフィルタを新品に交換**してください。
※ 守らないと、エンジンオイルがすぐに劣化した状態となり、エンジンの早期故障につながります。
- エンジンオイル量の点検・補給は、**エンジン始動前の冷間時に実施**してください。
※ エンジン始動後は、オイルレベルが低くなる場合があります。
- エンジンオイル量が、オイルレベルゲージの「**交換**」位置以上にあるときは、**エンジンオイルを交換**してください。
※ 守らないと、エンジン故障の原因になります。

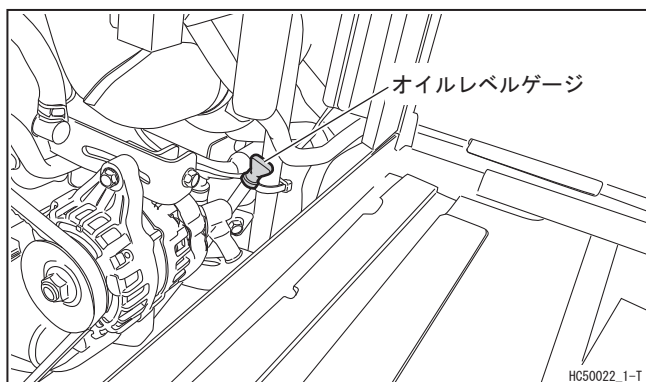
◆ 点検のしかた

(1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)

(2) シート下カバーを取り外してください。

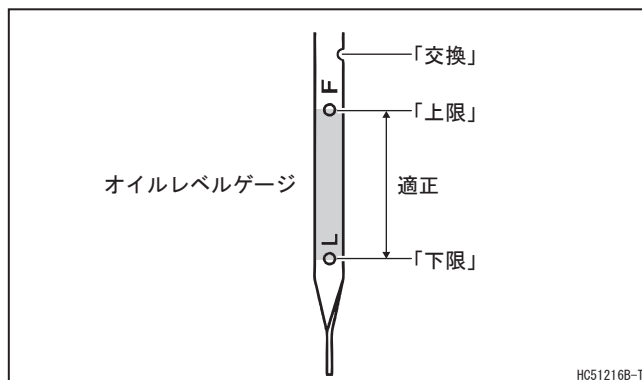


(3) オイルレベルゲージを抜いて、先端をきれいにふいてください。



(4) オイルレベルゲージを差し込み、再び抜き「上限」と「下限」の間にオイルがあるか点検してください。

「下限」以下の場合は、給油口から「上限」までオイルを補給してください。(交換手順1から4、6以降を参照)



《重要》

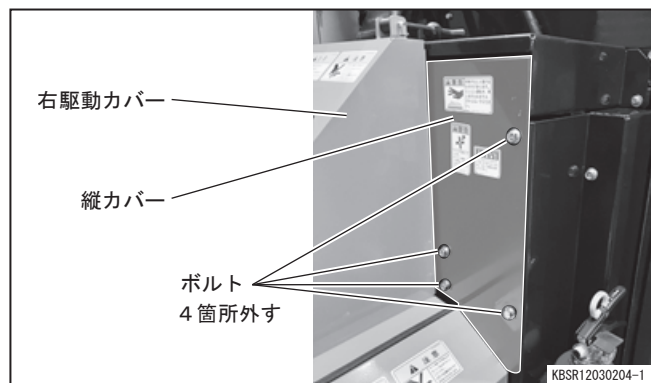
- オイル量の点検は、エンジンを停止して 10 ～ 20 分後に行ってください。
- オイルレベルゲージは、ゴムの部分まで完全に差し込んでください。
- DPF 再生時の燃料噴射により徐々に燃料がエンジンオイル内に混入し、オイルパン内のオイル量が増えることがありますが、故障ではありません。
- エンジンオイル内に燃料が混入することにより、エンジンオイルが薄まります。必ず指定時間でエンジンオイルを交換してください。

(5) シート下カバーを取り付けてください。

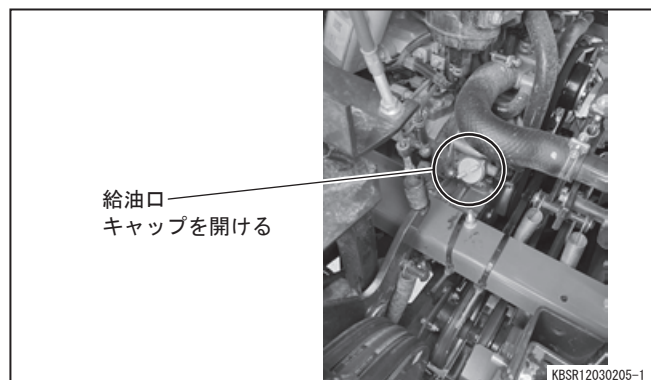
◆ 交換のしかた

(1) 右駆動カバーを開いてください。(135 ページ)

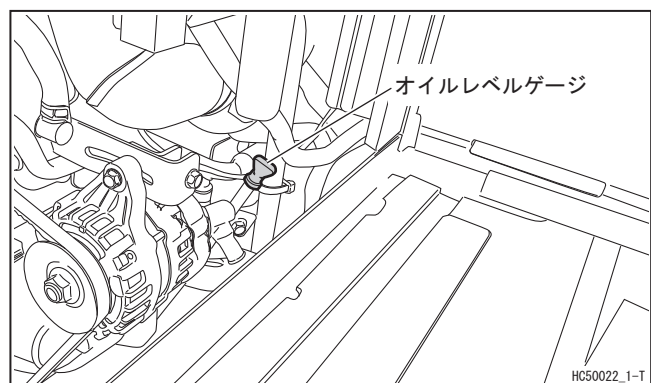
(2) ボルト (4 箇所) を外して縦カバーを取り外してください。



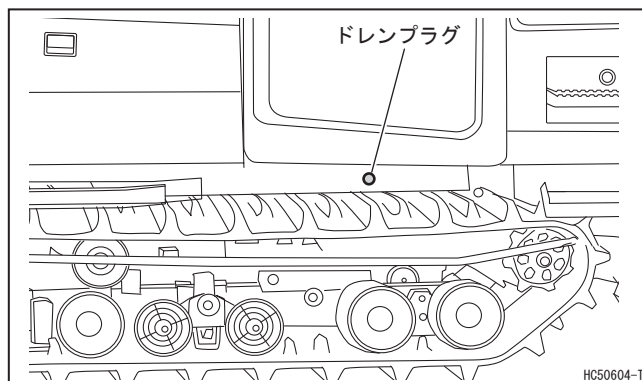
(3) 給油口のキャップを開けてください。



(4) シート下カバーを取り外して、オイルレベルゲージを引き抜いてください。(164 ページ)



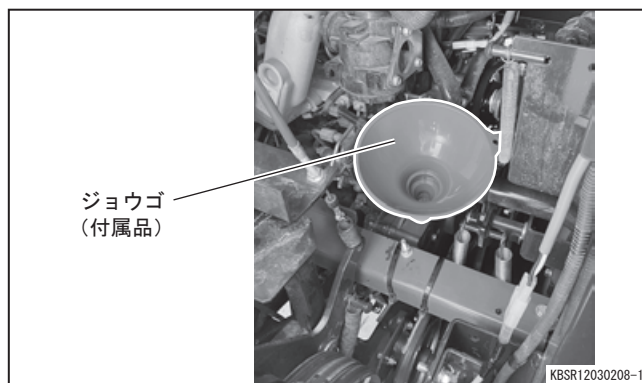
(5) ドレンプラグを取り外して容器にオイルを排出し、排出が終わったらドレンプラグを締め付けてください。



《 重要 》

オイルを入れる前にエンジンオイルフィルタを交換してください。(198 ページ)

(6) 付属品のジョウゴを給油口に差し込み、オイルを入れてください。



《 重要 》

必ず指定されたオイルを使用してください。

(7) オイルレベルゲージをきれいにふいて差し込み、オイル量を点検してください。

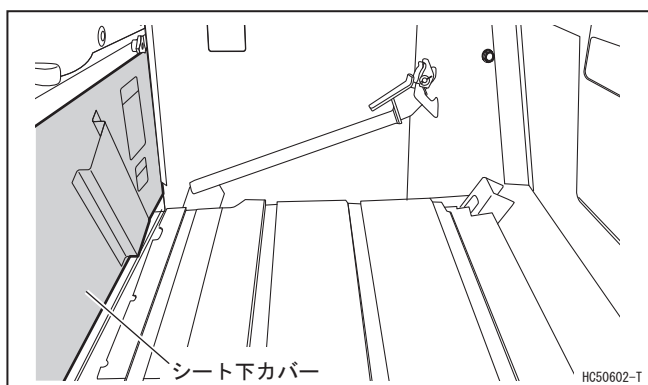
《 重要 》

オイルがオイルパンに完全に下がるのを待つて (15 分)、オイルレベルゲージを静かに引き抜き「上限」「下限」の範囲にオイルが付着していれば適量です。

(8) 給油口のキャップを閉め、縦カバーを取り付け、右駆動カバーを閉じてください。

(9) エンジンを始動して 1 分間アイドリング運転し、エンジンを停止して 15 分後に再度オイル量を点検してください。

(10) シート下カバーを取り付けてください。



12.3.3 延長フランジオイル

◆ 交換のしかた

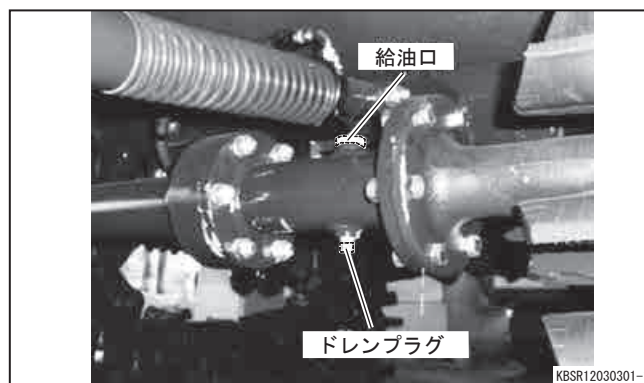
(1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)

(2) ピックアップ部を上げ、作業ロックノブを「ロック」位置にしてください。さらにピックアップ部の下に木片、ブロック等のしっかりした台を敷いて固定してください。

(3) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

(4) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。

(5) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口から、規定量 (0.15L) オイルを補給してください。



《 重要 》

- 作業前に、給油口の周辺のコロリを、完全に取り除いてください。
- オイルは「キセキ UTH オイル (80W)」を使用してください。

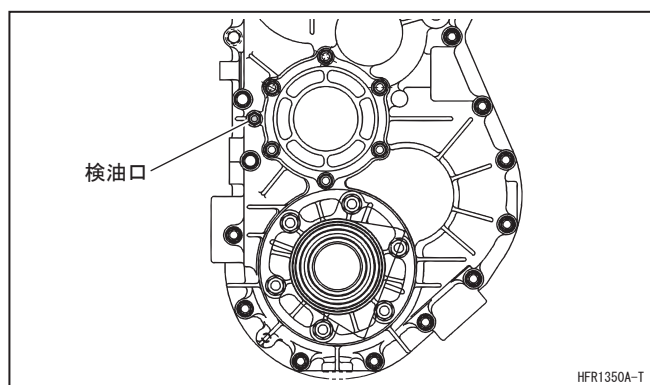
(6) 給油口のふたを取り付けてください。

(7) 作業後は、ロックノブを「解除」位置にしてください。

12.3.4 走行メインギヤケースオイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)
- (2) エンジンを始動してピックアップ部を上げ、作業ロックノブを「ロック」位置にしてください。
- (3) エンジンを停止し、ピックアップ部の下にスタンド等の台を置いてください。
- (4) 検油口にあるボルトを取り外し、油面が検油口に達しているか調べてください。
(検油口からオイルが出てくるか点検してください。)



- (5) 検油口以下のときは、補給が必要ですが、検油口以上に入れないでください。

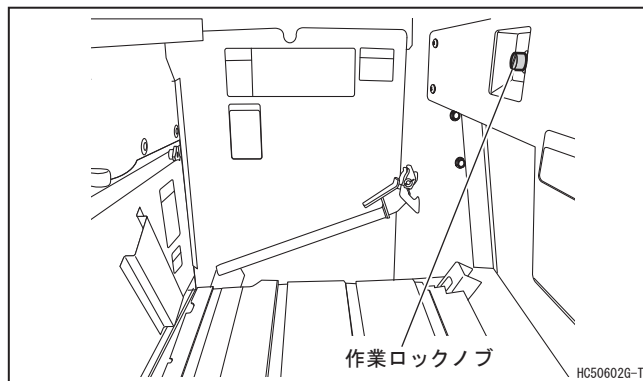
《重要》

- ・油量は、検油口よりオイルが流れはじめれば適量です。
- ・オイルは、「キセキ UTH オイル (80W)」を使用してください。

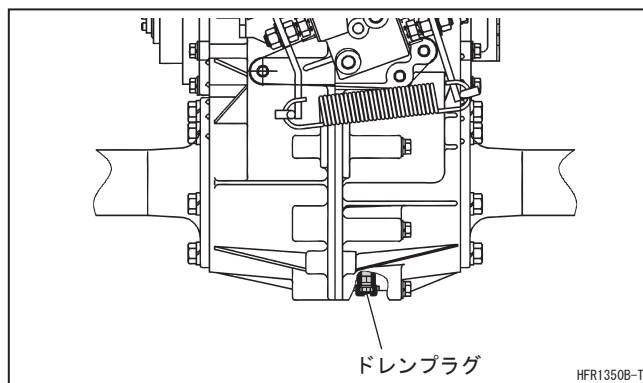
- (6) 検油口のボルトを締め付けてください。

◆ 交換のしかた

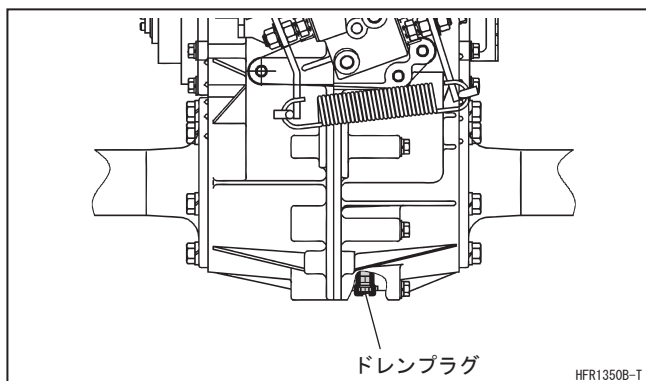
- (1) エンジンを始動してピックアップ部を上げ、作業ロックノブを「ロック」位置にしてください。



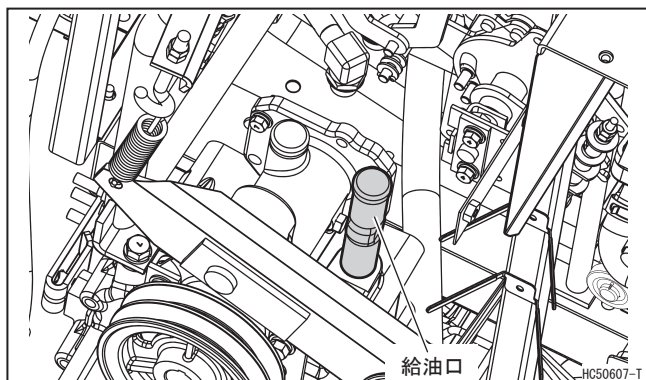
- (2) エンジンを停止し、ピックアップ部の下にスタンド等の台を置いてください。
- (3) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- (4) 検油口のボルトと、ドレンプラグを外し、ギヤオイルを排出してください。



- (5) 排出が終わったら、ドレンプラグを締め付けてください。



- (6) 給油口のキャップを開け、検油口からオイルが出てくるまで、給油口よりオイルを入れてください。



《重要》

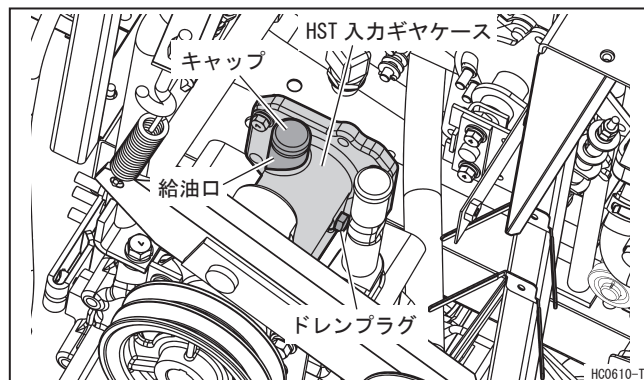
オイルは、「キセキ UTH オイル (80W)」を使用してください。

- (7) 検油口のボルトを締め付けてください。
- (8) 給油口のキャップを閉めてください。
- (9) エンジンを始動して 3 分間運転し、エンジンを停止して、再度オイル量を点検してください。

12.3.5 HST 入力ギヤケースオイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)
- (2) HST 入力ギヤケースの上にあるキャップを外し、オイル量が給油口すぐ下まで入っているか点検してください。



- (3) オイル量が減っているときは、オイルを補給してください。

《重要》

オイルは、「キセキ UTH オイル (80W)」を使用してください。

◆ 交換のしかた

- (1) HST 入力ギヤケース後ろのドレンプラグを取り外し、オイルを排出してください。
- (2) 排出後、ドレンプラグを締め付け、キャップを外し、給油口より規定量のオイルを入れてください。

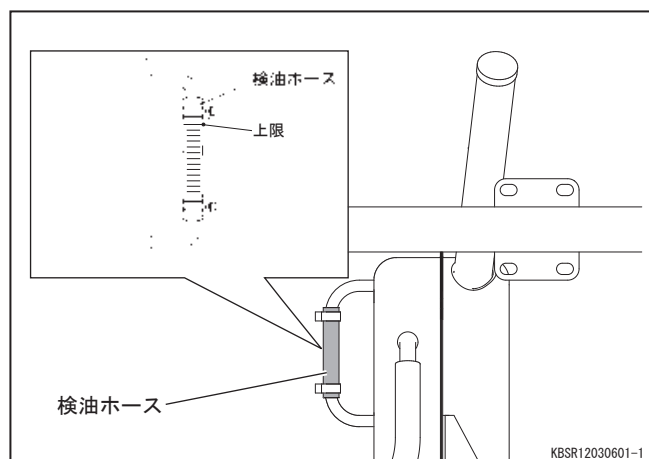
《重要》

オイルは、「キセキ UTH オイル (80W)」を使用してください。

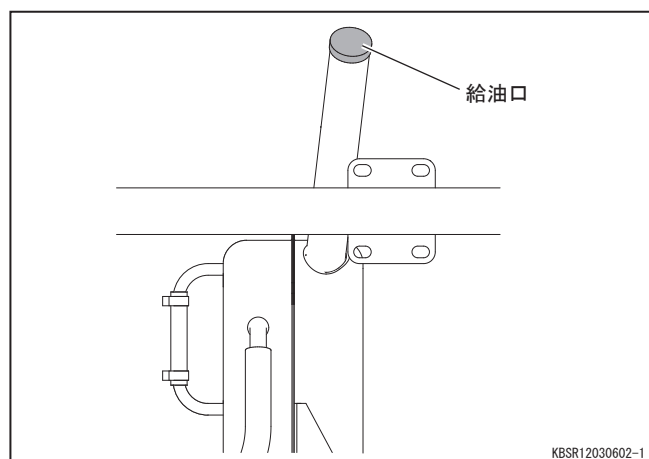
12.3.6 油圧オイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)
- (2) ベルトカバーを開いてください。(134 ページ)
- (3) エンジンを始動して車高を最下げ位置にし、ピックアップ部を最下げ位置にして、エンジンを停止してください。
- (4) 油圧オイルタンク横の検油ホースで、上限近くまでオイルがあるか点検してください。



- (5) 上限近く以下のときは、給油口より補給してください。



《重要》

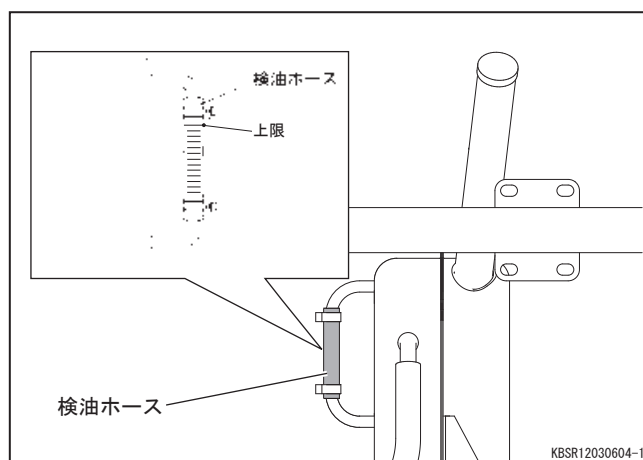
- 補給するときは、給油口周辺のコリを、完全に取り除いてください。
- オイルは「キセキハイドロリックオイル(HL068) VG68」を使用してください。
- オイルを入れすぎると、オイルがあふれるおそれがあります。

◆ 交換のしかた

- (1) ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- (2) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。



- (3) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口から、規定量に達するまでオイルを補給してください。



《重要》

- 作業前に、給油口の周辺のコリを、完全に取り除いてください。
- オイルは「キセキハイドロリックオイル(HL068) VG68」を使用してください。
- オイルを入れすぎると、オイルがあふれるおそれがあります。

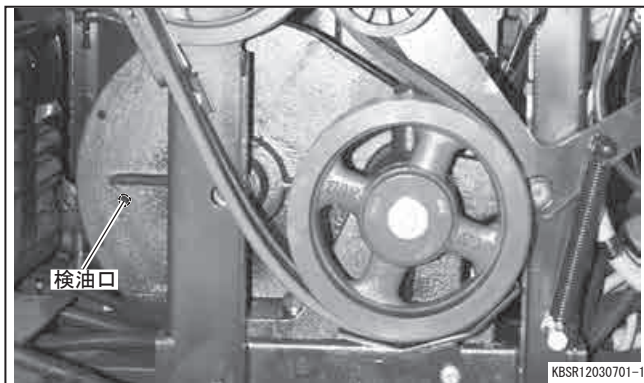
- (4) 給油口のふたを取り付けてください。

- (5) ベルトカバーを閉じてください。(134 ページ)

12.3.7 逆転ミッションオイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)
- (2) ベルトカバーを開いてください。(134 ページ)
- (3) 検油口のボルトを外し、油面が検油口に達しているか確認してください。(油量は、検油口よりオイルが流れはじめれば、適量です。)



- (4) 油面が検油口以下の場合は、給油口のふたを外し、給油口からギヤオイルが、検油口に達するまで、補給してください。(交換のしかた参照)

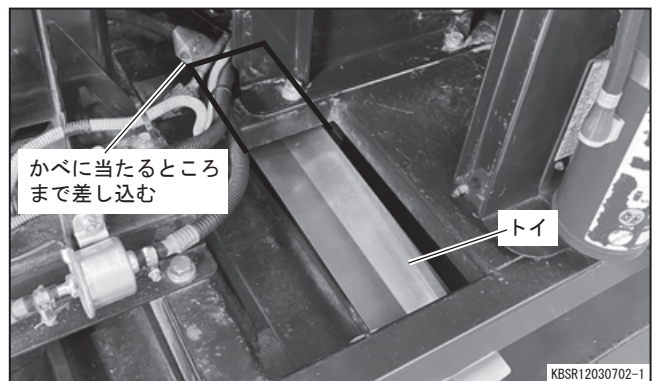
《重要》

- ・ギヤオイルは、検油口以上に入れないでください。
- ・オイルは「ギヤオイル# 90」を使用してください。

- (5) 検油口のボルトを締め付けてください。

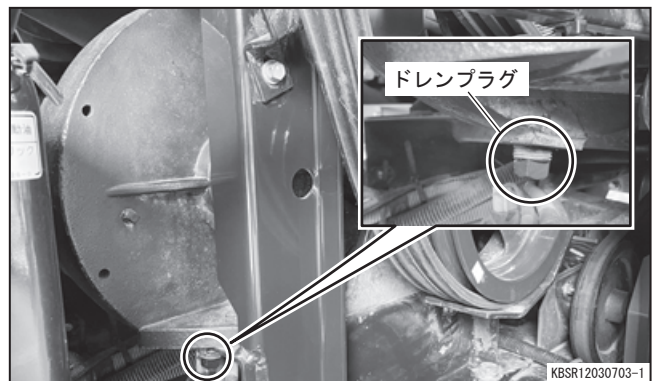
◆ 交換のしかた

- (1) ドレンプラグの下に、トイを差し込んでください。



- (2) トイの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

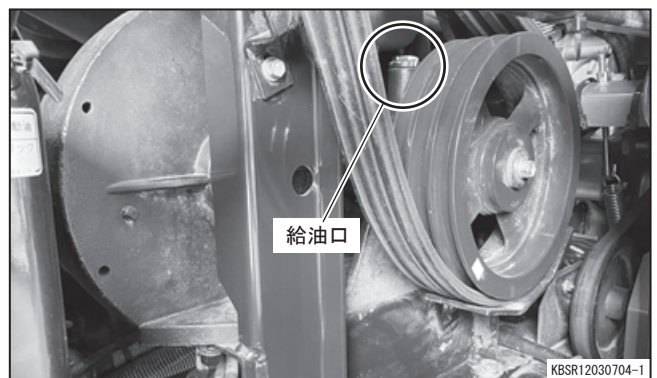
- (3) 給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。



- (4) オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口より規定量に達するまで、オイルを入れてください。

《重要》

オイルは「ギヤオイル# 90」を使用してください。



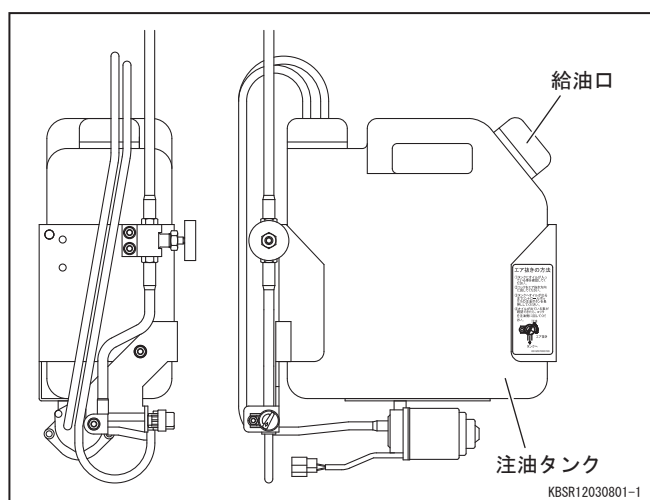
- (5) 給油口のふたを取り付けてください。

- (6) ベルトカバーを閉じてください。(134 ページ)

12.3.8 チェンオイル

◆ 点検のしかた

- (1) 機体を水平にしてください。(103 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)
- (3) 注油タンクに、チェンオイルが入っているかを確認してください。注油タンクのオイルが少ない場合は、注油タンクの給油口を開け、規定量のオイルを補給してください。



《 参考 》

注油タンク内のオイルが、完全に無くなっていた場合は、エア抜きを行う必要があります。(172 ページ)

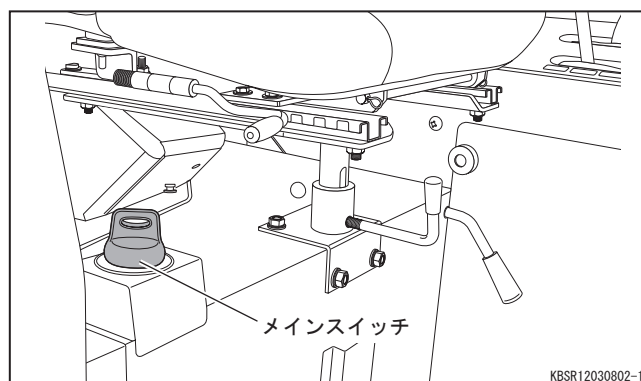
《 重要 》

チェンオイルは、「油圧作動油 (VG32)」を使用してください。

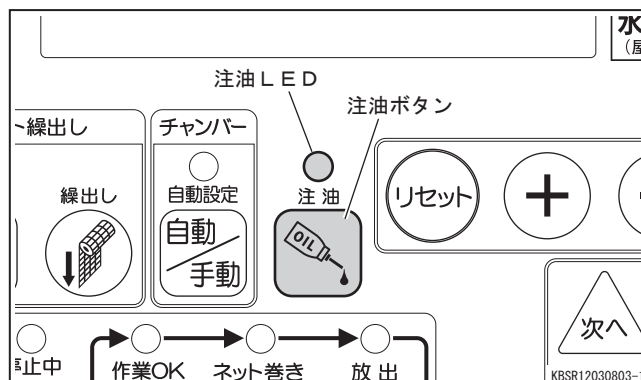
- (4) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)

◆ チェンへの注油のしかた

- (1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



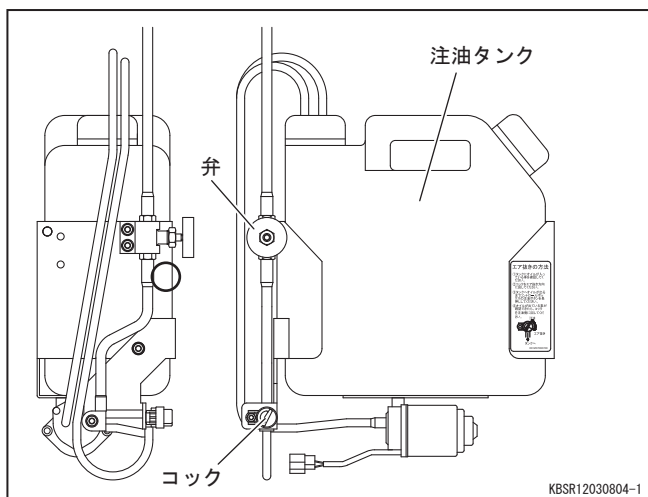
- (2) コントロールボックスの注油ボタンを押して、注油タンクのモータを作動させてください。ボタンを押している間は注油され、ボタン上のLEDが点灯します。



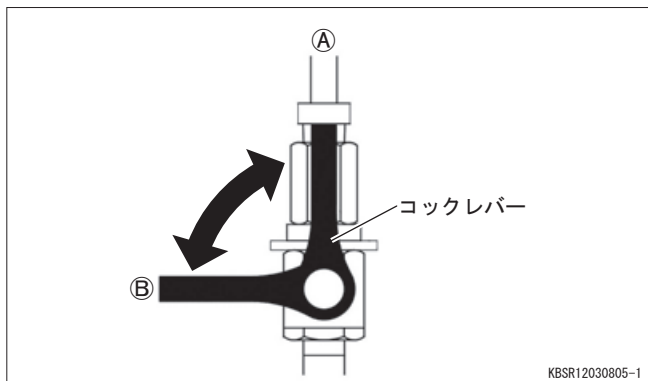
◆ エア抜きのしかた

(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。
左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)

(2) 注油タンクに、チェーンオイルが入っているかを確認してください。



(3) コックレバーをA方向にしてください。



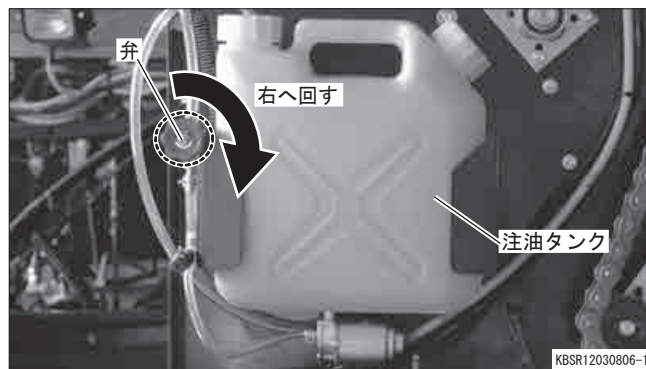
(4) 赤のホースをタンクより抜き、電動注油ポンプのコネクタを「エアヌキ」と書かれたコネクタに付け替え、オイルが出ることを確認できたら、「チェーンウユ」と書かれたコネクタに戻してください。

(5) ホースを元に戻し、コックレバーをB方向にしてください。

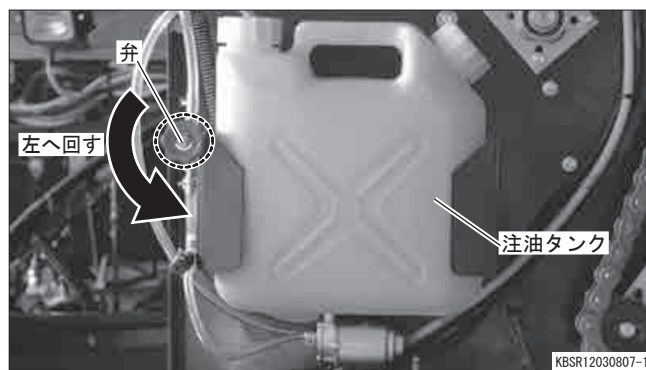
(6) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)

◆ チェンへの注油量の調整方法

(1) 注油タンク横の弁を、「右」方向に締め切ってください。



(2) 注油タンク横の弁を、「左」方向に約 1/4 回転戻してください。



(3) 電動注油ポンプのコネクタを「エアヌキ」と書かれたコネクタに付け替え、モータを作動させてください。

(4) 注油量を見て、多ければ「右」方向に弁を動かし、少なければ「左」方向に弁を動かして、注油量を調節してください。



《 参考 》

定期的にノズルの掃除を行ってください。

注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的にノズル先端部に付着した草やワラを掃除してください。

 警告

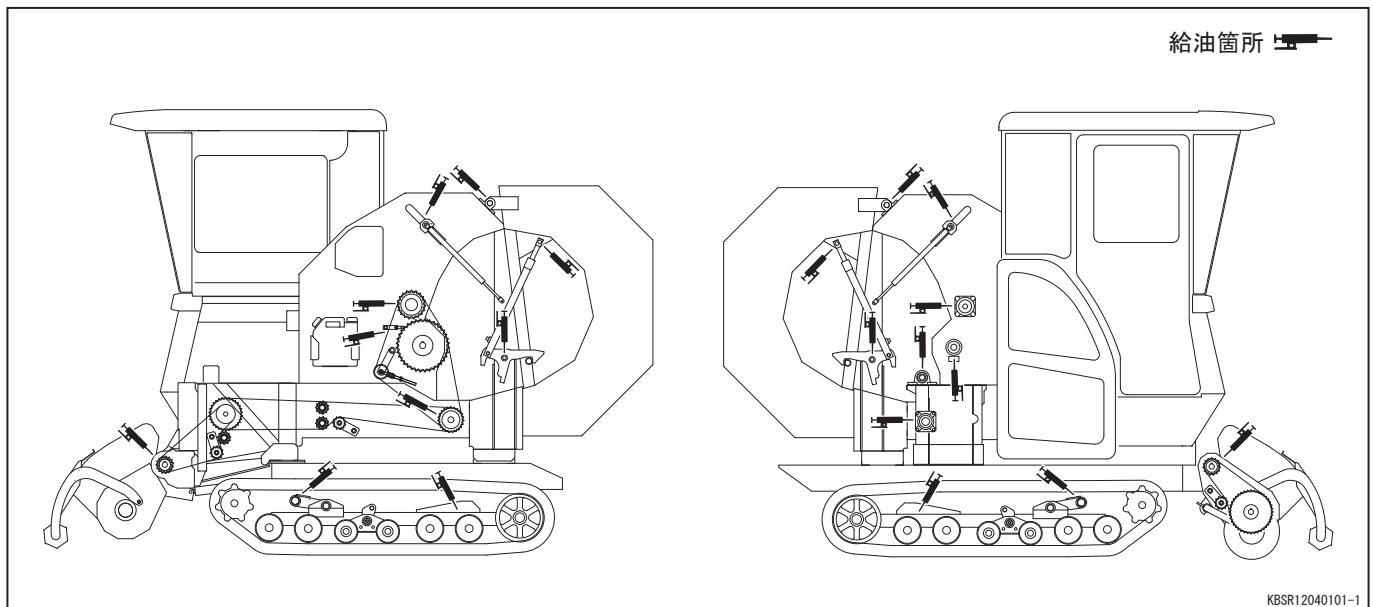
- 各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部には十分注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

12.4 グリス注入のしかた

⚠ 警告

- 必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

12.4.1 使用グリス一覧表



給油箇所	規定量	出荷時のグリスの種類	参照ページ
転輪・イコライザ部・アイドルローラ	適量	シトラックス SPNo.2	175、235
車体水平および平行制御装置軸受	適量	シトラックス SPNo.2	175、235
ピックアップ部	適量	サンライトグリス No.2	176、235
ベアラ部	適量	サンライトグリス No.2	176、235
チャンバー部	適量	サンライトグリス No.2	177、235

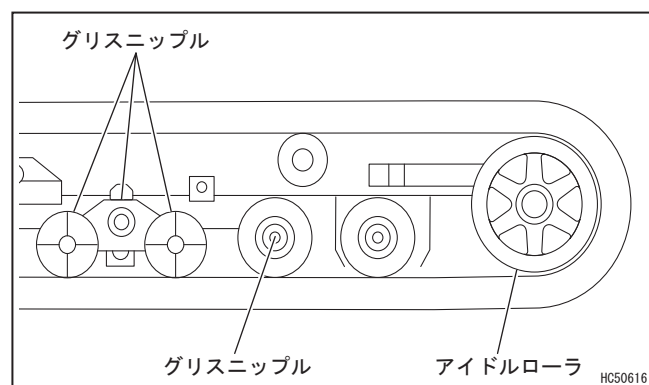
12.4.2 転輪・イコライザ部・アイドルローラのグリスアップ

長期格納前、または 50 時間ごとにつぎの部位にグリスアップしてください。

(1) グリスニップルのキャップを取り外して、裏側のオイルシールからグリスがわき出るまでグリスアップしてください。

(2) 左右ともにグリスアップをしてください。

(3) グリスアップ後は、キャップを取り付けてください。



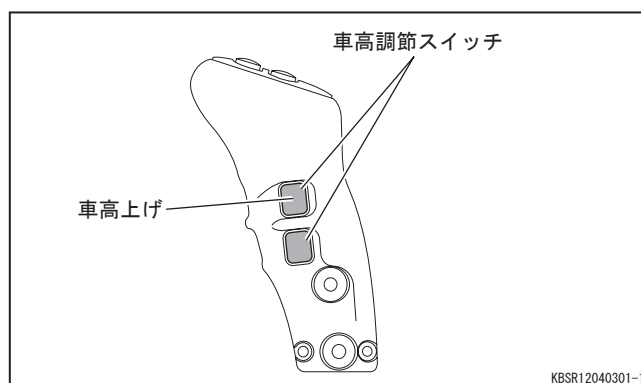
《重要》

転輪が泥につかる湿田作業をした場合もグリスアップをしてください。

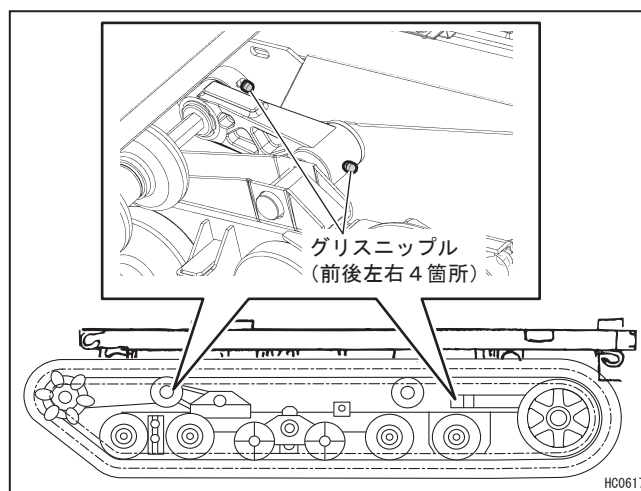
12.4.3 車体水平および平行制御装置軸受のグリスアップ

長期格納前、または 50 時間ごとにつぎの部位にグリスアップしてください。

(1) グリスアップを効率的に行うために、車高上下スイッチを操作し車高を上げてください。



(2) グリスニップルのキャップを取り外して、グリスアップしてください。



(3) グリスアップ後はキャップを取り付けてください。

《重要》

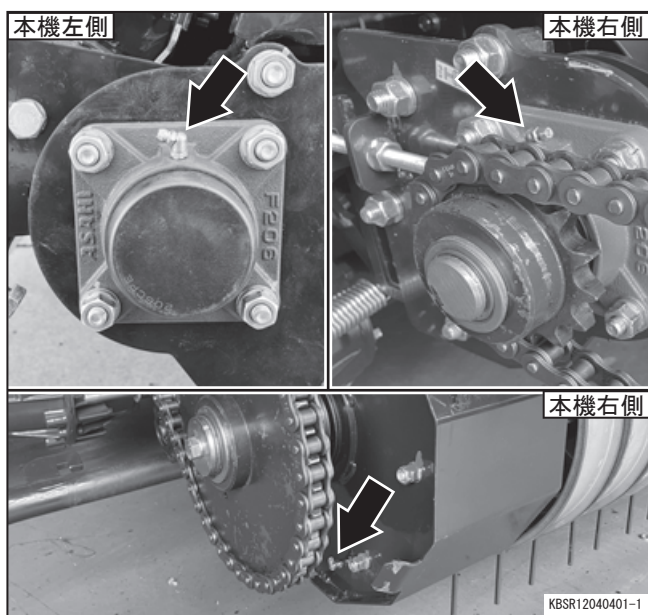
グリスアップ後は、車高を元通り（最下げ）にしてください。

12.4.4 ピックアップ部のグリスアップ

長期格納前、または 50 時間ごとにつぎの部位にグリスアップしてください。

(1) 本機右側のピックチェーンカバーを取り外してください。(139 ページ)

(2) つぎの箇所に、グリスアップしてください。



(3) 本機右側のピックチェーンカバーを取り付けてください。(139 ページ)

12.4.5 ベーラ部のグリスアップ

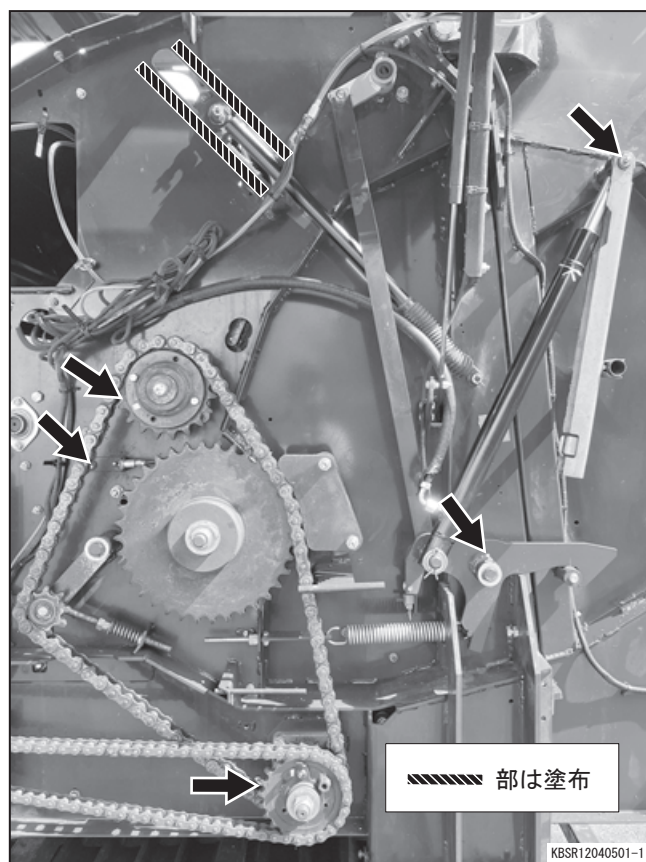
長期格納前、または 50 時間ごとにつぎの部位にグリスアップしてください。

◆ 本体左

(1) チェンカバーを開いてください。(132 ページ)

(2) 左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)

(3) つぎの箇所に、グリスアップしてください。

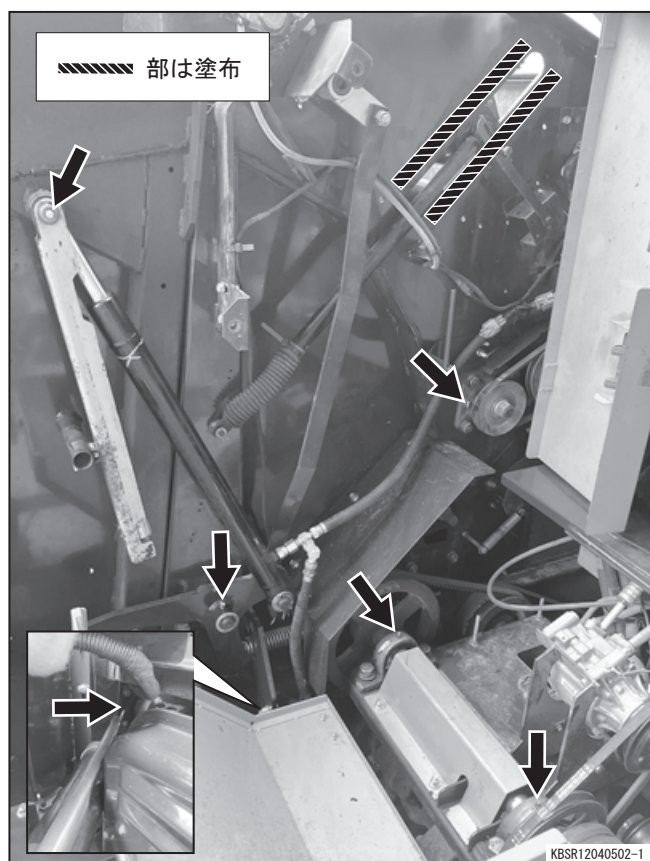


(4) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)

(5) チェンカバーを閉じてください。(132 ページ)

◆ 本体右

- (1) タンクガードを開けてください。(136 ページ)
- (2) 右駆動カバーを開けてください。(135 ページ)
- (3) ネット駆動カバーを開けてください。(137 ページ)
- (4) つぎの箇所に、グリスアップしてください。

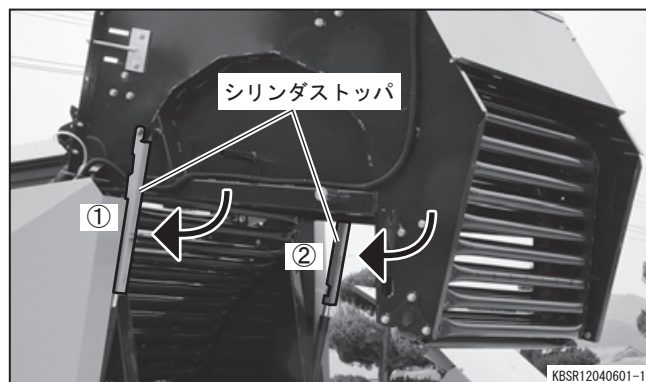


- (5) ネット駆動カバーを閉じてください。(137 ページ)
- (6) 右駆動カバーを閉じてください。(135 ページ)
- (7) タンクガードを閉じてください。(136 ページ)

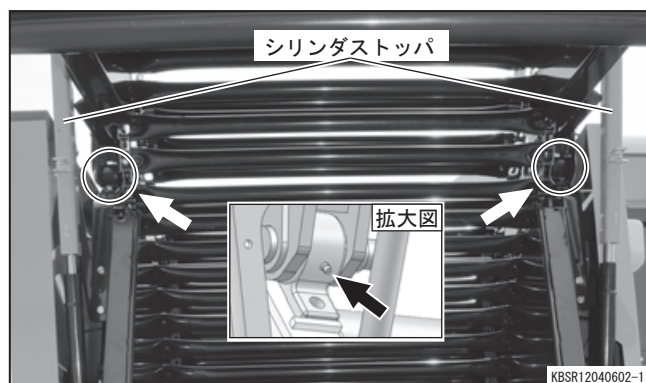
12.4.6 チャンバー部のグリスアップ

長期格納前、または 50 時間ごとにつぎの部位にグリスアップしてください。

- (1) チャンバーを開き、シリンダストッパを、①、②ともにセットしてください。(75 ページ)



- (2) チャンバーの下から、図の箇所にグリスアップしてください。(左右 1 箇所)



- (3) シリンダストッパをキャビン側から外し、チャンバーを閉じてください。(75 ページ)

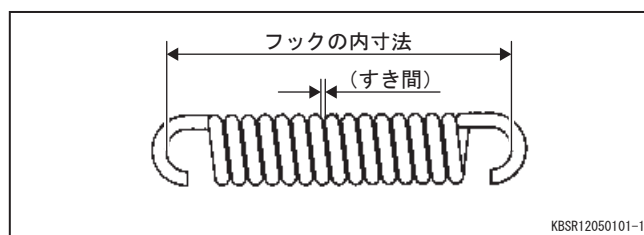
12.5 ベルトの点検と調節のしかた

！ 警告

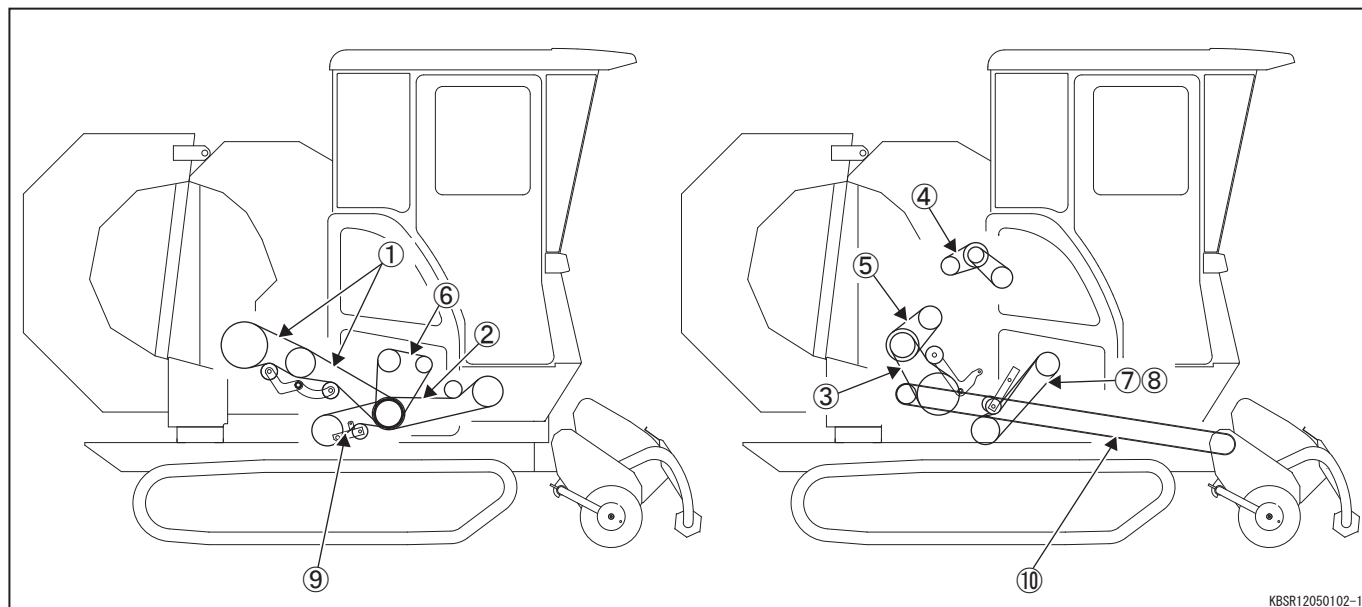
- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

12.5.1 ベルトの点検と調節一覧表

- ベルトの点検、交換時間は、「定期点検一覧表（158 ページ）」を参照してください。
- ベルトに変形や破損があるときは、新品と交換してください。
- テンションスプリングの長さは、フックの内寸法を測定してください。
参考にテンションスプリングのすき間を（ ）内に示します。（179 ページ）



◆ ベルト配置



No.	ベルト名	点 検 ・ 調 整		参照 ページ
		点検のしかた	規定量 (mm)	
①	エンジン出力ベルト	テンションスプリングの長さ(すき間)	119～122 (0.6～0.8)	180
②	HSTベルト	テンションスプリングの長さ(すき間)	123～127 (0.8～1.0)	181
③	作業ベルト	テンションスプリングの長さ(すき間)	79～81 (0.8～1.0)	182
④	ネット用ベルト	約98N{10kgf}で指で押したときの たわみ量	5～10	184
⑤	クーラベルト	約98N{10kgf}で指で押したときの たわみ量	5～10	185
⑥	ゼネレータベルト	約98N{10kgf}で指で押したときの たわみ量	14～16	186
⑦	冷却ファンカウンタベルト	テンションスプリングの長さ(すき間)	117～120 (0.4～0.6)	187
⑧	冷却ファンベルト	テンションスプリングの長さ(すき間) (クラッチ入の状態)	90～94 (0.6～0.8)	188
⑨	逆流ファンベルト	テンションスプリングの長さ(すき間) (クラッチ入の状態)	90～94 (0.6～0.8)	188
⑩	コンベアベルト	約98N{10kgf}で指で押したときの たわみ量	30	189

《 参考 》

- 各ベルトは、シーズン前および、100 時間ごとに点検してください。
- 新しいベルトは、初期伸びがあります。作業時間が 20 時間程度で、調節してください。

12.5.2 エンジン出力ベルト

⚠ 注意

● エンジン出力ベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

(1) ベルトカバーを開いてください。

(134 ページ)

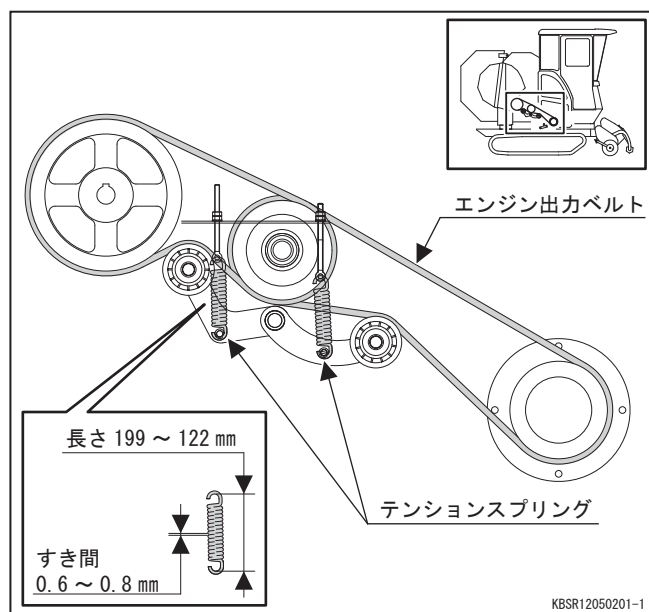
(2) 右駆動カバーを開いてください。

(135 ページ)

(3) テンションスプリングの長さが 199 ~ 122mm (すき間 0.6 ~ 0.8mm) あるか、点検してください。

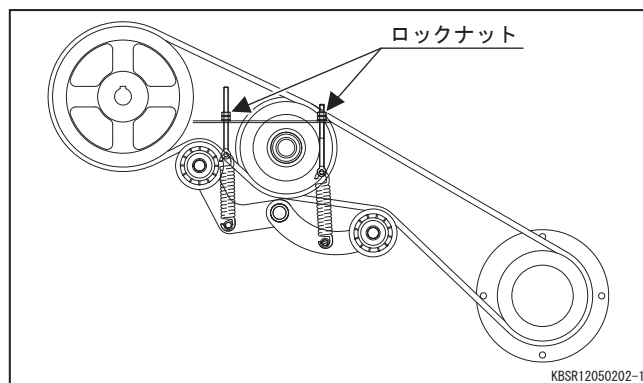
規定量でない場合は、調整してください。

※ ベルトは 2 本あります (エンジンプーリから中間プーリ、中間プーリから出力プーリ)。テンションスプリングもベルトごとにあり、調整方法は同じです。



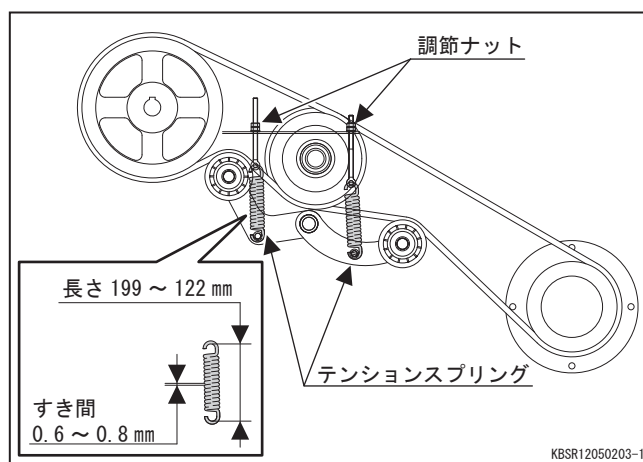
◆ 調節のしかた

(1) ロックナットを緩めてください。



(2) 調節ナットを回して、テンションスプリングの長さを 199 ~ 122mm (すき間 0.6 ~ 0.8mm) の間になるように、調節してください。

(3) ロックナットを締め付けてください。



(4) 右駆動カバーを閉じてください。

(135 ページ)

(5) ベルトカバーを取り付けてください。

(134 ページ)

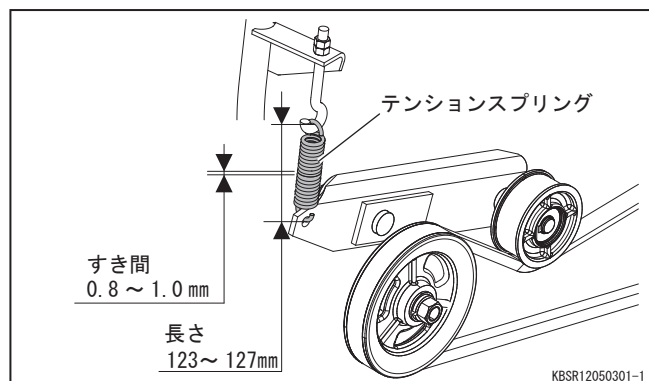
12.5.3 HST ベルト

！ 注意

- HST ベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

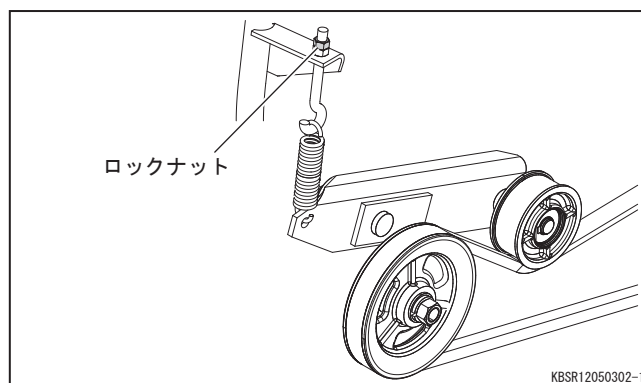
◆ 点検のしかた

テンションスプリングの長さが 123 ～ 127mm（すき間 0.8 ～ 1.0mm）の間にあるか点検してください。

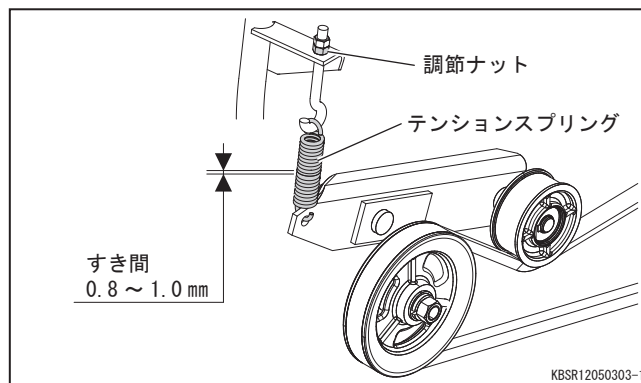


◆ 調節のしかた

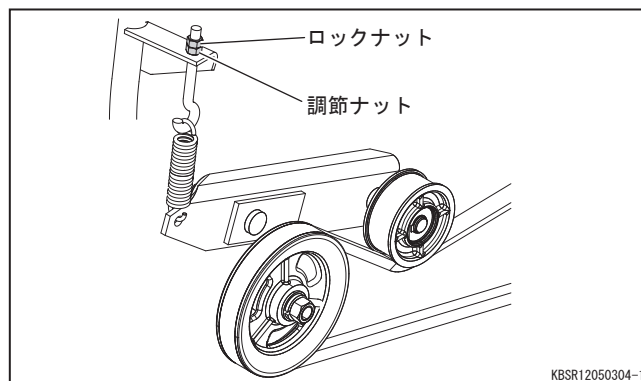
- (1) ロックナットを緩めてください。



- (2) 調節ナットを回して、テンションスプリングの長さを 123 ～ 127mm（すき間 0.8 ～ 1.0mm）に調節してください。



- (3) ロックナットを確実に締め付けてください。



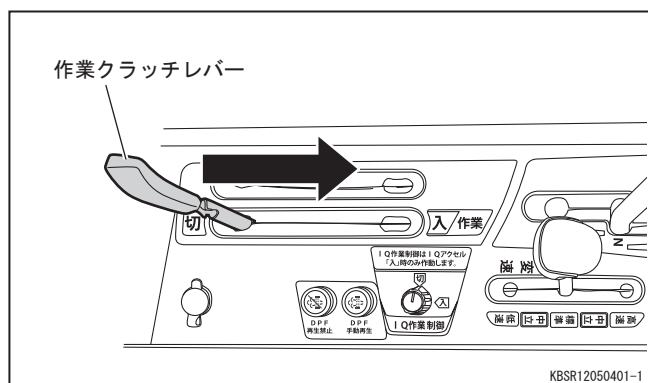
12.5.4 作業ベルト

⚠ 注意

- 作業ベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

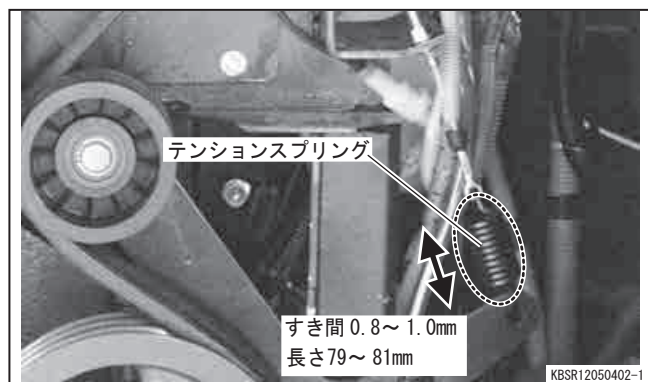
- (1) 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。



- (2) 右駆動カバーを開いてください。(135 ページ)

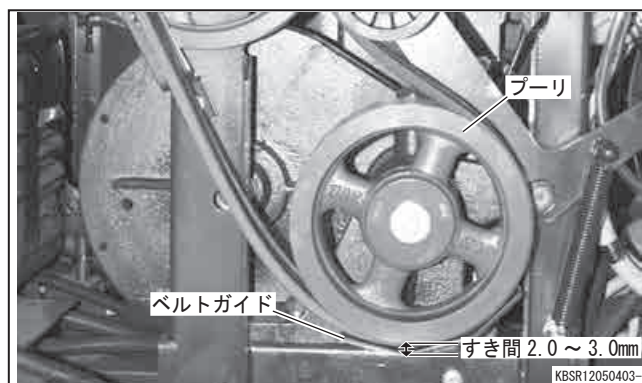
- (3) 作業クラッチワイヤのテンションプリングの長さが 79～81mm (すき間 0.8～1.0mm) の間にあるか、点検してください。

規定量でない場合は、ロックナットを緩め、ワイヤーの長さを調節してください。



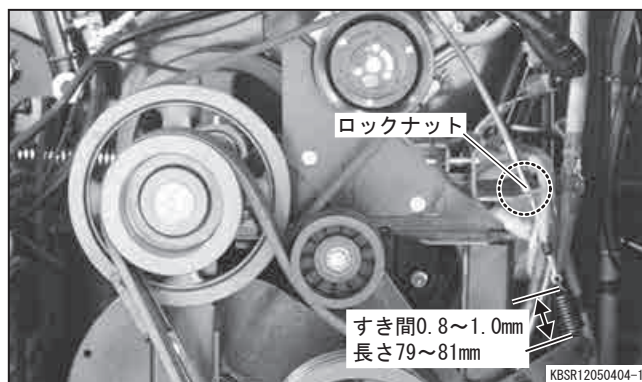
- (4) プーリーとベルトガイドのすき間が 2～3mm の間にあるか、点検してください。

規定量でない場合は、調節してください。



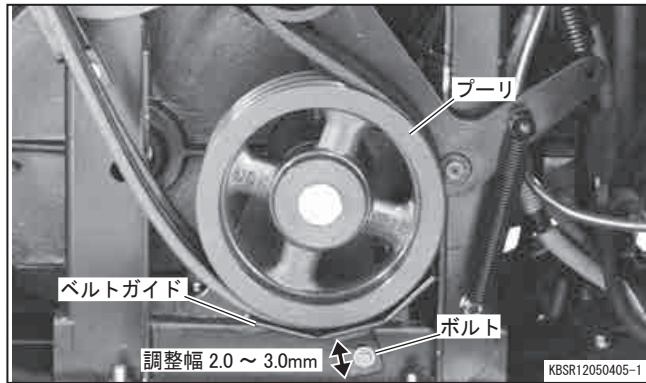
◆ 調節のしかた

- (1) ロックナットを緩めてください。
- (2) ナットを回して、テンションプリングの長さが 79～81mm (すき間 0.8～1.0mm) の間になるように、ワイヤーの長さを調節してください。



- (3) ロックナットを確実に締め付けてください。

- (4) ボルトを緩め、矢印方向へスライドさせ、プーリとベルトガイドのすき間が2～3mmの間になるように、調節ナットを回して調節してください。



- (5) ボルトを確実に締め付けてください。
- (6) 右駆動カバーを閉じてください。(135 ページ)

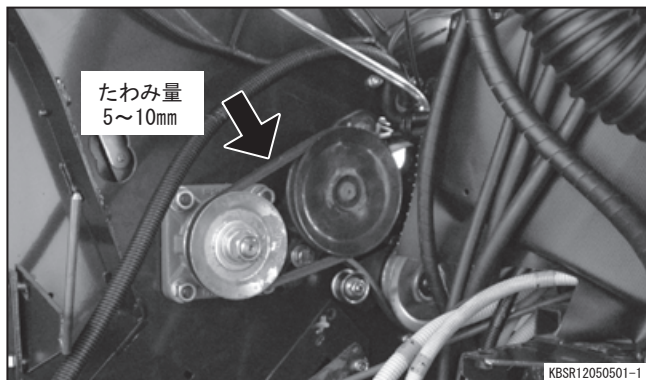
12.5.5 ネット用ベルト

⚠ 注意

- ネット用ベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

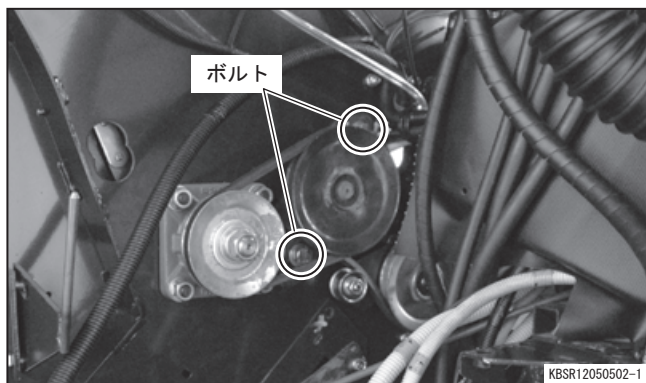
◆ 点検のしかた

- (1) ネット駆動カバーを開けてください。(137 ページ)
- (2) ベルトを矢印の方向に約 98N{10kgf} で指で押したときのたわみ量が、5 ～ 10mm の間にあるか、点検してください。
規定量でない場合は、調節してください。

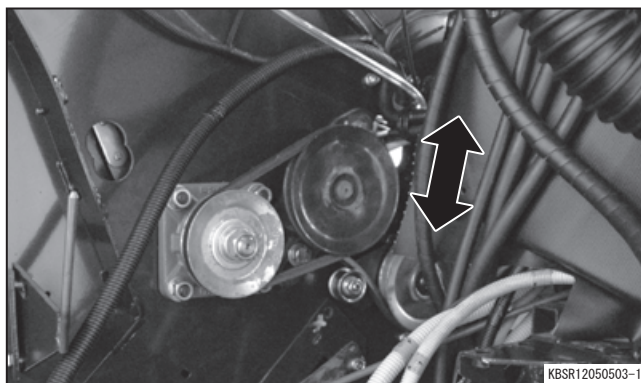


◆ 調節のしかた

- (1) ボルトを緩めてください。



- (2) テンションプーリを、矢印方向へのスライドさせ、ベルトの張りを調節してください。



- (3) ボルトを確実に締め付けてください。
- (4) ネット駆動カバーを閉じてください。(137 ページ)

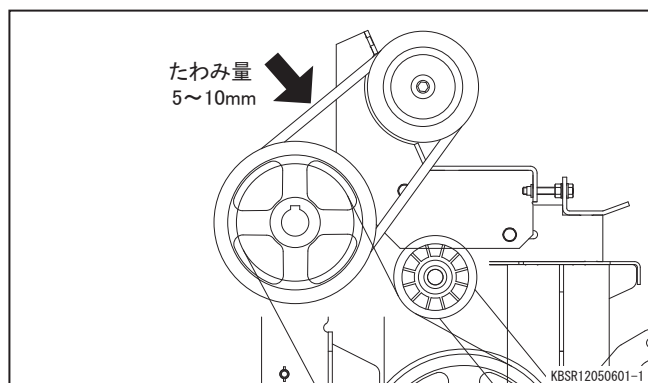
12.5.6 クーラベルト

！ 注意

- クーラベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
※守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

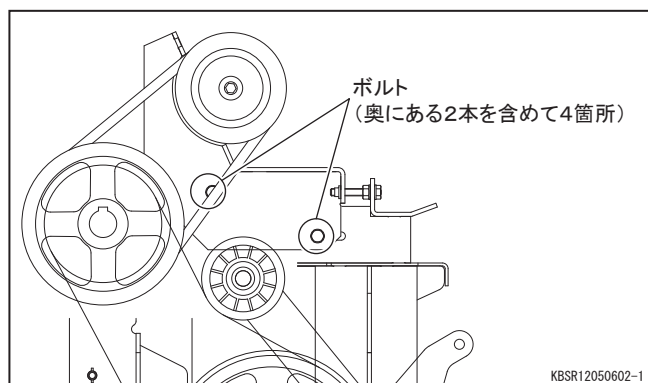
◆ 点検のしかた

- (1) 右駆動カバーを開いてください。(135 ページ)
- (2) クーラベルトを矢印の方向に指で押したときのたわみ量が 5 ～ 10mm の間にあるか、点検してください。
- 規定量でない場合は、調節してください。

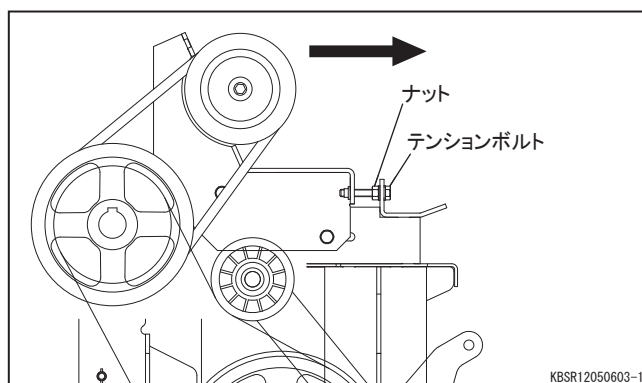


◆ 調節のしかた

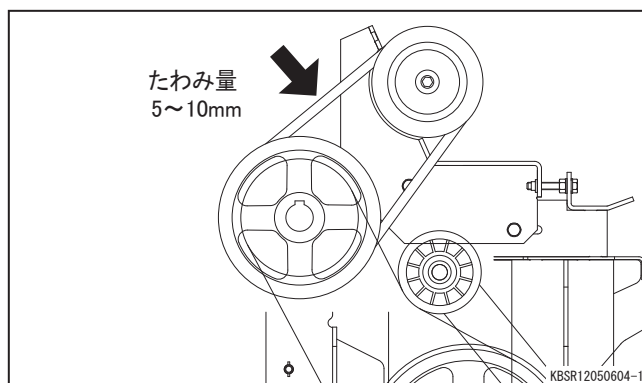
- (1) ボルト (4 箇所) を緩めてください。



- (2) ナットを緩め、テンションボルトを締めて、コンプレッサを矢印方向へスライドさせ、ベルトの張りを調節してください。



- (3) ボルト (4 箇所) を締め付けてください。
- (4) クーラベルトを矢印の方向に指で押したときのたわみ量が 5 ～ 10mm の間にあるか確認してください。
- 規定量でない場合は、再度調節してください。



- (5) 右駆動カバーを閉じてください。(135 ページ)

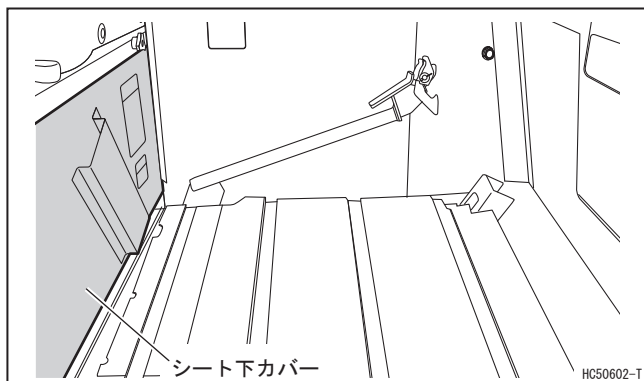
12.5.7 ゼネレータベルト

⚠ 注意

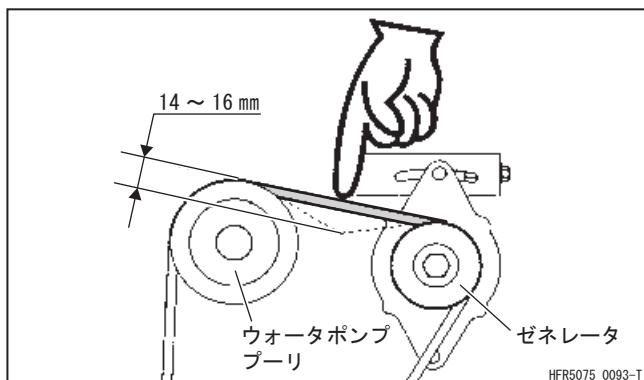
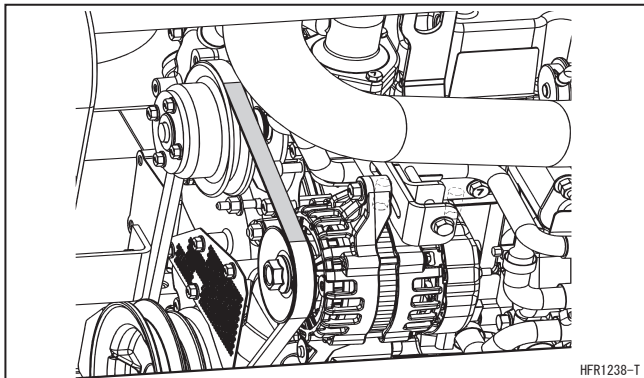
- ゼネレータベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

- (1) シート下カバーを取り外してください。



- (2) ベルトの中央部を約 98N {10kgf} で押して、たわみ量が 14 ~ 16mm の間にあるか点検してください。



《 参考 》

ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

- (3) シート下カバーを取り付けてください。

◆ 調節のしかた

調節するときは、お買い上げ先にご相談ください。

12.5.8 冷却ファンカウンタベルト

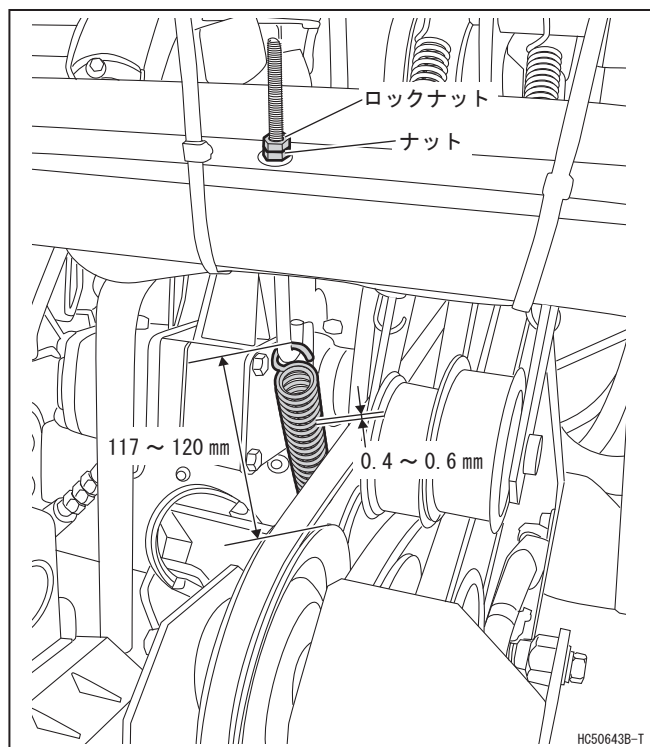
！ 注意

● 冷却ファンカウンタベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

- (1) ベルトカバーを開いてください。(134 ページ)
- (2) テンションスプリングの長さが 117 ~ 120mm (すき間 0.4 ~ 0.6mm) の間にあるか点検してください。



- (3) ベルトカバーを閉じてください。(134 ページ)

◆ 調節のしかた

- (1) ロックナットを緩めてください。
- (2) ナットを回してテンションスプリングの長さが 117 ~ 120mm (すき間 0.4 ~ 0.6mm) の間に調節してください。
- (3) ロックナットを確実に締め付けてください。

12.5.9 冷却ファンベルト・逆流ファンベルト

⚠ 注意

● 冷却ファンベルト・逆流ファンベルト点検・調節は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

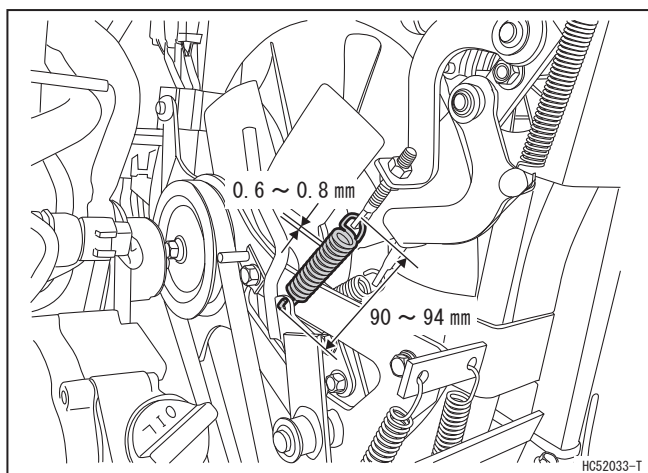
※ 守らないと、やけど等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 点検のしかた

(1) メインスイッチを「入」にして、2～3秒後に「切」にしてください。

(2) ベルトカバーを開いてください。(134 ページ)

(3) 冷却ファン側のテンションスプリングの長さが 90～94mm（すき間 0.6～0.8mm）の間にあるか点検してください。



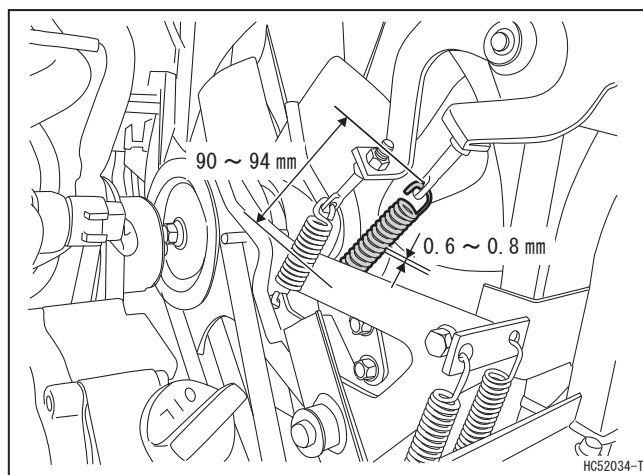
(4) メインスイッチを「入」にしてください。

(5) 作業クラッチレバーを「入」位置にして、1～2秒後にメインスイッチを「切」にしてください。

《 参考 》

作業クラッチレバーを「入」位置にすると、約3秒間テンションが逆流ファン側に切り換わります。

(6) 逆流ファン側のテンションスプリングの長さが 90～94mm（すき間 0.6～0.8mm）の間にあるか点検してください。



(7) ベルトカバーを閉じてください。(134 ページ)

(8) メインスイッチを「入」にし、冷却ファン側のテンションに切り換わったことを確認してメインスイッチを「切」にしてください。

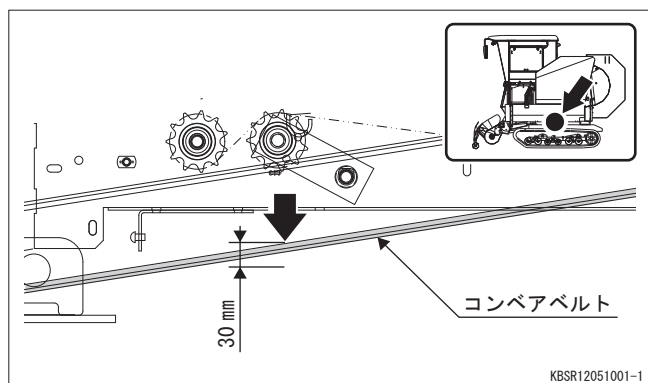
◆ 調節のしかた

調節するときは、お買い上げ先にご相談ください。

12.5.10 コンベアベルト

◆ 点検のしかた

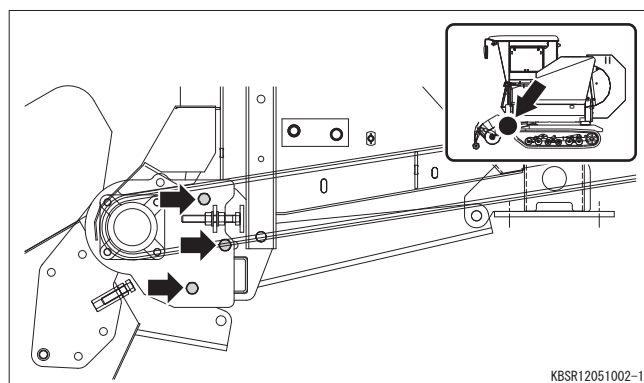
- (1) チェンカバーを開いてください。(132 ページ)
- (2) コンベアベルトの矢印の場所を指で押したときのたわみ量が、約 30mm であるか点検してください。
規定量でない場合は左右のステーを調節してください。



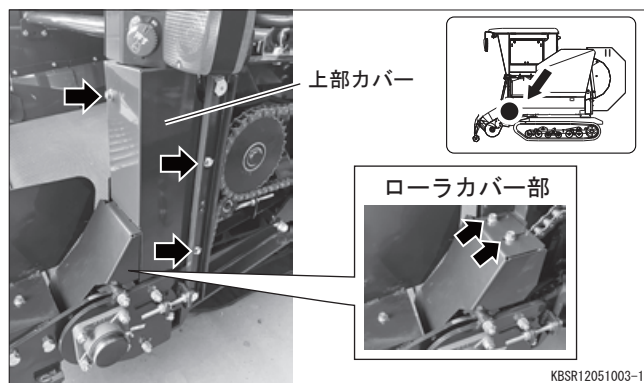
- (3) 機体左側のチェンカバーを閉じてください。(132 ページ)

◆ 調節のしかた

- (1) 機体左側のチェンカバーを開いてください。(132 ページ)
- (2) ピック駆動チェンのテンションバネを緩めてください。(194 ページ)
- (3) 機体左右のステーを固定しているボルトを緩めてください。

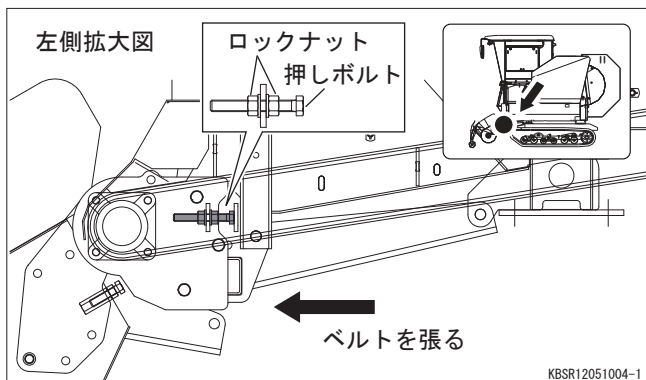


- (4) ボルト (3 箇所) を外して、上部カバーを取り外してください。
- (5) ボルト (2 箇所) を外しローラカバーを取り外してください。

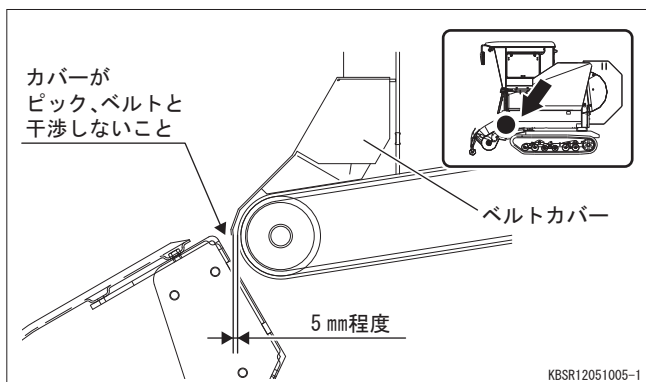


- (6) ロックナットを緩めてください。

- (7) ベルトのたわみ量が約 30mm になるように左右の押しボルトを調節してください。
- 押しボルトの頭から、取り付け部までの距離が左右同じになるように、長さを調整してください。



- (8) ロックナットを確実に締め付けてください。
- (9) ステーを固定しているボルトを確実に締め付けてください。
- (10) ベルトカバーの距離が5mm 程度になるように、ローラカバーの位置を調整し、ボルトを締め付けてください。



- (11) ローラーカバーと上部カバーを取り外すときの逆の手順で取り付けてください。
- (12) ピック駆動チェーンのテンションバネを調整してください。(194 ページ)
- (13) チェンカバーを閉じてください。(132 ページ)

12.6 チェンの点検と調整のしかた

警告

●必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

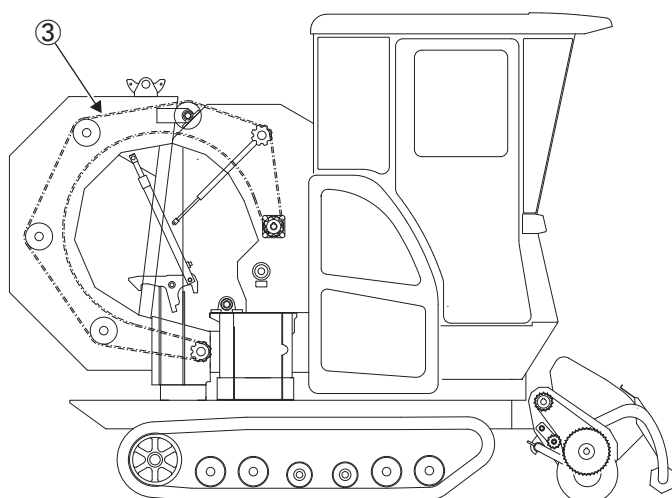
注意

●取り外したカバー類は、必ずすべて取り付けてください。

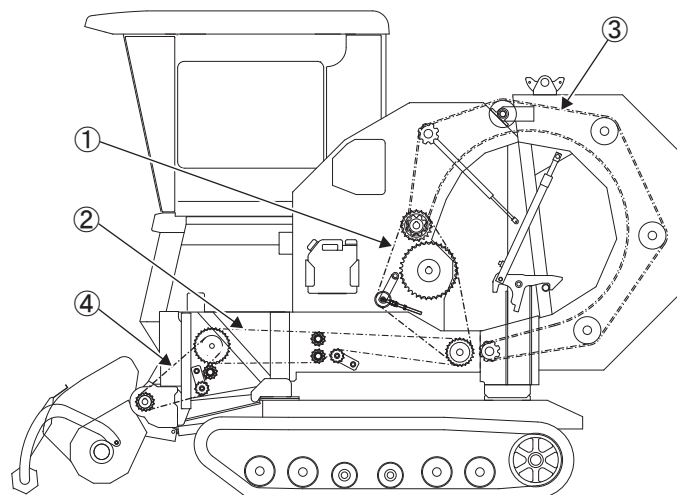
※守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

12.6.1 チェンの点検と調整一覧表

本機右側



本機左側



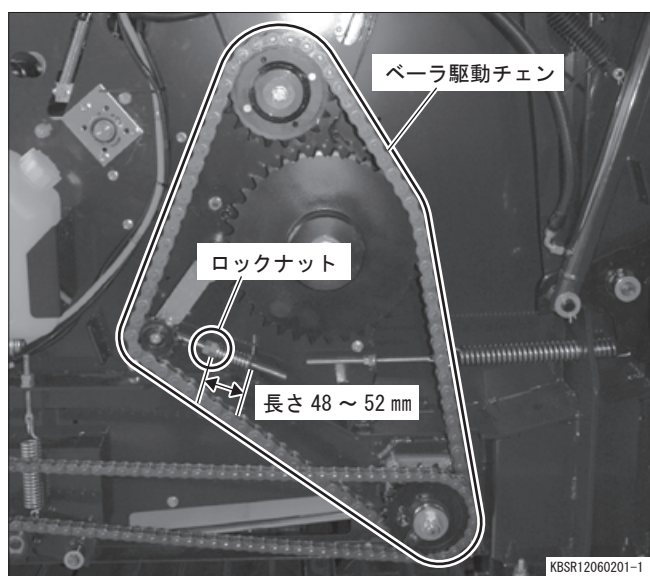
KBSR12060101-1

No.	ベルト名	調整		参照 ページ
		点検のしかた	規定量 (mm)	
①	ベアラ駆動チェーン	テンションスプリングの長さ	48 ~ 52	192
②	中間チェーン	テンションスプリングの長さ	170 ~ 175	192
③	タイトチェーン	テンションカナグのすき間	90 ~ 100	193
④	ピック駆動チェーン	テンションスプリングの長さ	123 ~ 127	194

12.6.2 ベーラ駆動チェーン

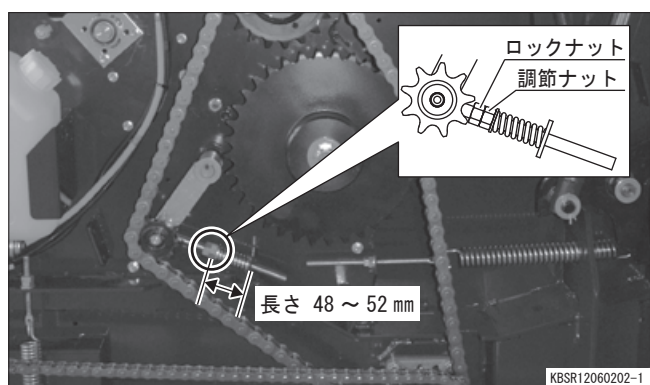
◆ 点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(132 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)
- (3) ベーラ駆動チェーンのテンションスプリングの長さが、48 ～ 52mm の間にあるか、点検してください。
規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

- (1) ベーラ駆動チェーンのロックナットを緩めてください。
- (2) テンションスプリングの長さが、48 ～ 52mm の間にくるように、調節ナットで調整してください。



- (3) ロックナットを締め付けてください。

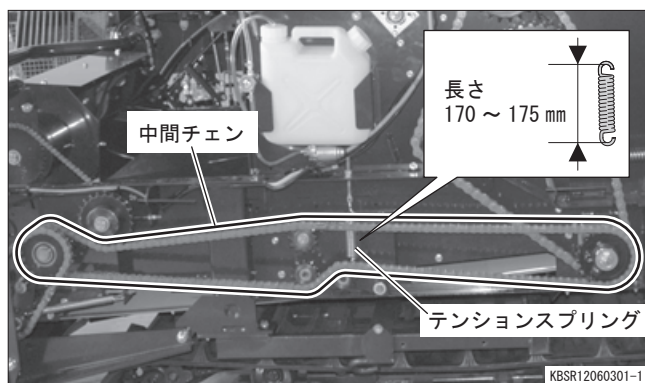
- (4) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)

- (5) チェンカバーを閉じてください。(132 ページ)

12.6.3 中間チェーン

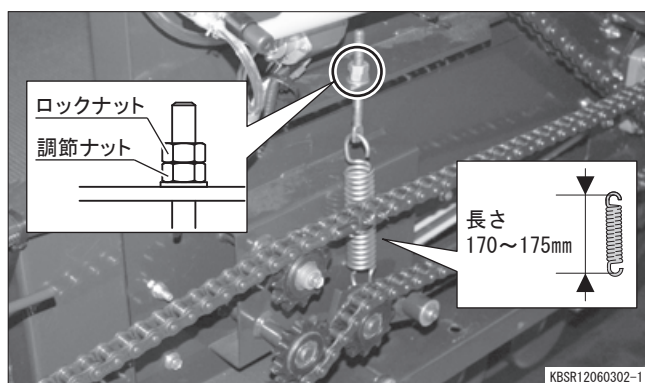
◆ 点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(132 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)
- (3) 中間チェーンの、テンションスプリングの長さが 170 ～ 175mm の間にあるか点検してください。
規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

- (1) 中間チェーンのロックナットを緩めてください。
- (2) テンションスプリングの長さが、170 ～ 175mm の間にくるように、調節ナットで調整してください。

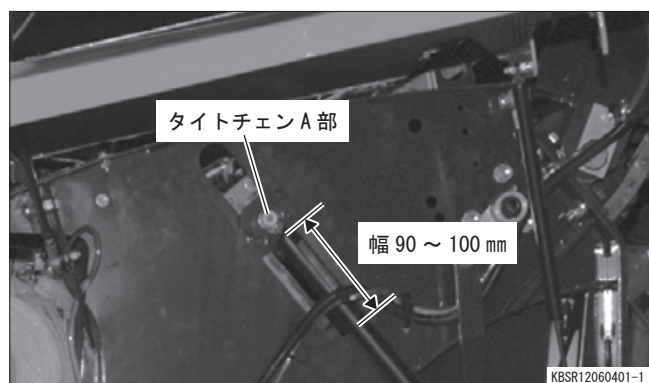


- (3) ロックナットを締め付けてください。
- (4) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)
- (5) チェンカバーを閉じてください。(132 ページ)

12.6.4 タイトチェン

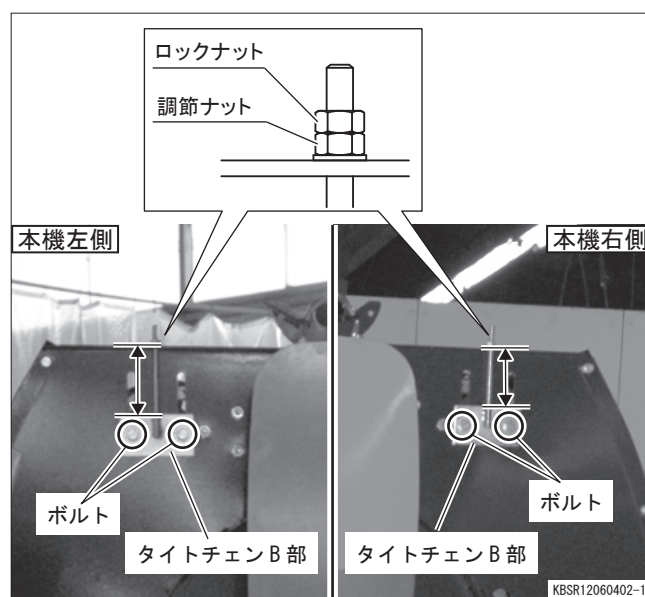
◆ 点検のしかた

- (1) 左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)
- (2) ネット駆動カバーを開けてください。(137 ページ)
- (3) 本機両側にあるタイトチェン A 部の幅が、チェーンの閉まっている状態で、90 ～ 100mm の間にあるか点検してください。
規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

- (1) 本機両側にある、タイト B 部のロックナットを緩めてください。
- (2) 固定ボルトを緩めてください。
- (3) タイトチェン A 部のすき間が、90 ～ 100mm の間になるように、調節ナットで調整してください。



- (4) ロックナットを締め付けてください。
- (5) 固定ボルトを確実に締め付けてください。
- (6) ネット駆動カバーを閉じてください。(137 ページ)
- (7) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)

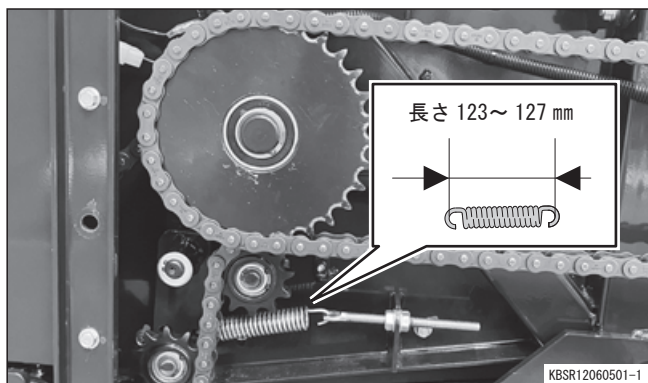
《 参考 》

タイトチェンを調整すると、感知ポテンショメータの初期位置がずれて、満了前に満了感知をしてしまい、ネット巻付けできなくなります。「セッテイモード」へ移行し、項目 10「ポテンショシヨキチ」の設定で初期化してください。(91 ページ)

12.6.5 ピック駆動チェーン

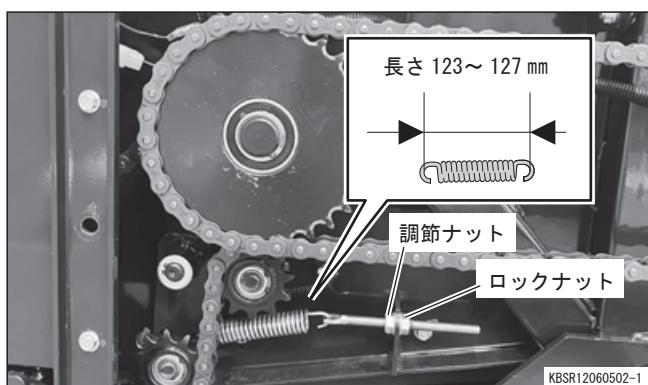
◆ 点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(132 ページ)
- (2) テンションスプリングの長さが 123 ～ 127mm の間にあるか点検してください。規定量でない場合は、調整してください。



◆ 調整のしかた

- (1) ピック駆動チェーンのロックナットを緩めてください。
- (2) テンションスプリングの長さが、123 ～ 127mm の間にくるように、調節ナットで調整してください。



- (3) ロックナットを締め付けてください。
- (4) チェンカバーを閉じてください。(132 ページ)

12.7 ワイヤの点検と調整のしかた

⚠ 危険

- 閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

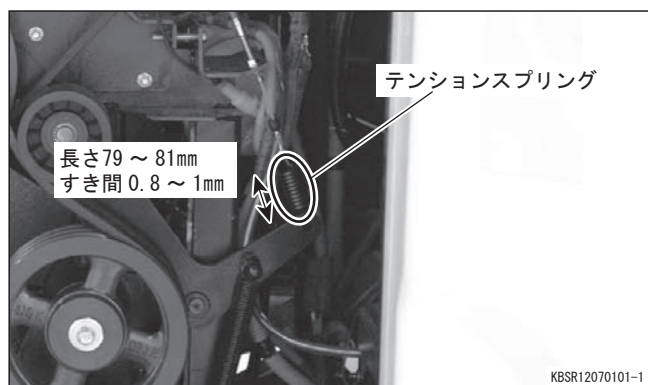
⚠ 警告

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は必ずすべて取り付けてください。
※ 守らないと、衣服類等が巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

12.7.1 作業クラッチワイヤ

《重要》

作業クラッチベルトのテンションプリングの長さを79～81mm(すき間0.8～1mm)に調整してください。



◆ 調整のしかた

作業ベルトの点検と調整を参照してください。(182ページ)

《重要》

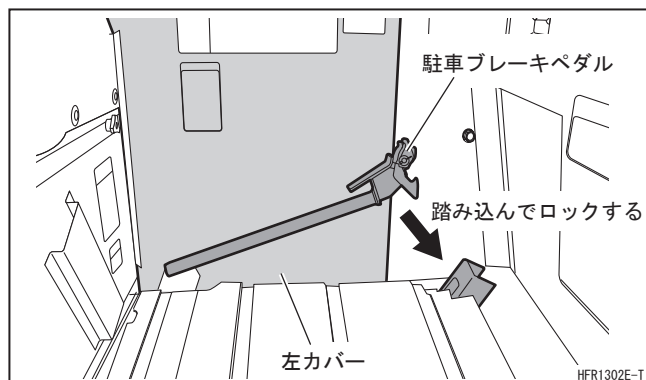
ベルトを張りすぎると、作業クラッチレバーを「切」にした状態でもベルトが回る場合がありますので、注意してください。

12.8 その他の点検と調整について

12.8.1 駐車ブレーキスプリングの点検と調整

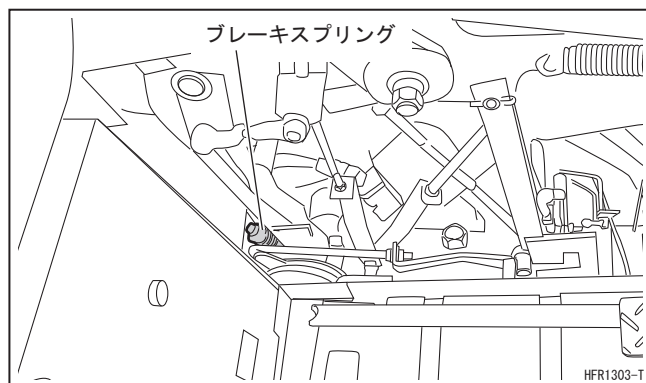
◆ 点検のしかた

- (1) 駐車ブレーキペダルをロックするまで踏み込んでください。



- (2) フロアの左カバーを取り外してください。

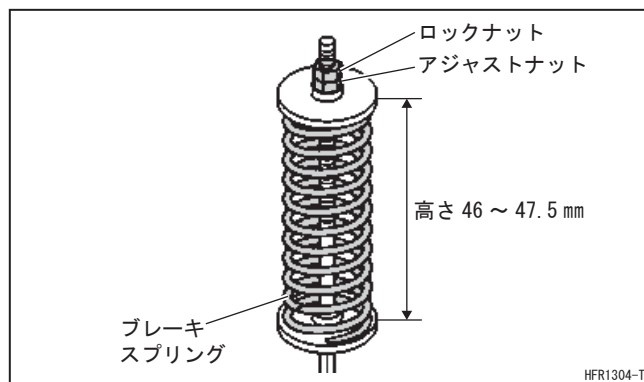
- (3) ブレーキスプリングの高さが 46 ～ 47.5mm あるか点検してください。



- (4) フロアの左カバーを取り付けてください。

◆ 調整のしかた

- (1) 駐車ブレーキペダルをロックするまで踏み込んでください。
- (2) フロアの左カバーを取り外してください。
- (3) ロックナットを緩めてください。
- (4) アジャストナットを回して、スプリングの高さを規定量 (46 ～ 47.5mm) に調整してください。



- (5) ロックナットを確実に締め付けてください。
- (6) フロアの左カバーを取り付けてください。

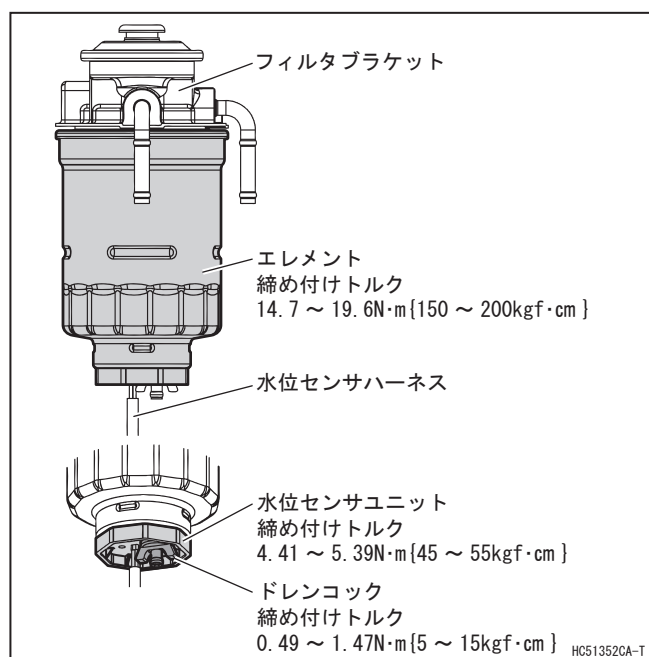
12.8.2 燃料フィルタの掃除と交換

燃料フィルタは 100 時間ごとに清掃し、400 時間ごとに交換してください。

⚠ 注意

● コモンレールシステムは、微細なゴミでもトラブルの原因となるため、お買い上げ先での交換をお勧めします。

- (1) ベルトカバーを開いてください。
(134 ページ)
- (2) 燃料フィルタ底部の水位センサハーネスを、本機ハーネスから外してください。
- (3) 燃料を受ける適当な容器を、燃料フィルタの下に用意してください。
- (4) ドレンコックを緩め、燃料フィルタ内の燃料をすべて排出してください。



- (5) 燃料の排出が止まったら、ドレンコックと水位センサユニットをエレメントから取り外してください。

- (6) 専用工具を使用して、エレメントをフィルタブラケットから取り外してください。

《重要》

取り外しかたや専用工具については、お買い上げ先にご相談ください。

- (7) フィルタブラケットとドレンコックを掃除してください。
- (8) 新しいエレメントの上面にある溝に、Oリングがきちんとセットされているか確認してください。

《重要》

エレメントは洗浄して再使用せず、必ず新しい純正部品と交換してください。

- (9) Oリング表面を燃料で湿らせ、エレメントを専用工具を使用して規定トルクで締め付けてください。

《重要》

エレメントを強く締めすぎると、燃料もれやフィルタブラケット破損の原因となります。

- (10) 水位センサユニットの合わせ面に Oリングがあることを確認してください。
- (11) 水位センサユニットとドレンコックを規定トルクで締め付けてください。
- (12) 水位センサハーネスを元通りに組み付けてください。
- (13) エア抜きをしてください。(68 ページ)
- (14) ベルトカバーを閉じてください。
(134 ページ)

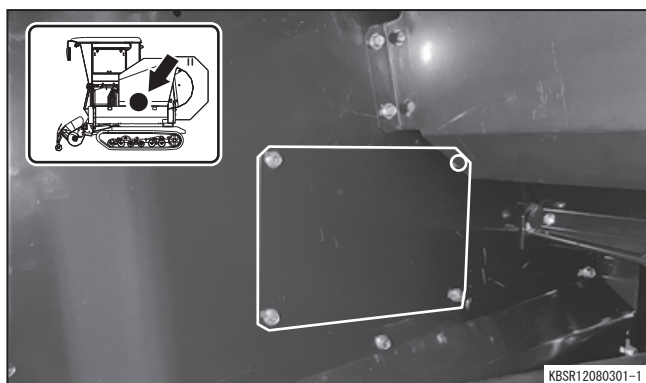
12.8.3 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルフィルタカートリッジは、エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

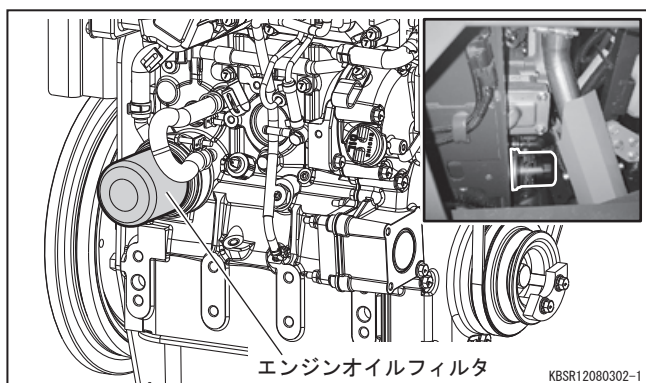
(1) エンジンオイルを排出してください。

(164 ページ)

(2) コンベアベルトの上から、フロントケース内側のカバーを外してください。



(3) 専用工具を使用してオイルフィルタを取り外してください。



《 重要 》

取り外しかたや専用工具については、お買い上げ先にご相談ください。

(4) オイルフィルタ取り付け面に付着しているオイルをウエス等できれいにふき取ってください。

(5) 新しいオイルフィルタの Oリング（ガスケット）が溝にきちんとセットされているか確認してください。

(6) Oリング（ガスケット）に新しいエンジンオイルを薄く塗ってください。

(7) オイルフィルタを取り付けてください。

このとき、Oリング（ガスケット）が、オイルフィルタ取り付け面に接触するまで回し、その後、専用工具、または手で 3/4 ～ 1 回転締め付けてください。
(締め付けトルク: 15～20N・m{153～204kgf・cm} 相当)

(8) エンジンオイルを入れてください。(164 ページ)

(9) フロントケース内側にカバーを取り付けてください。

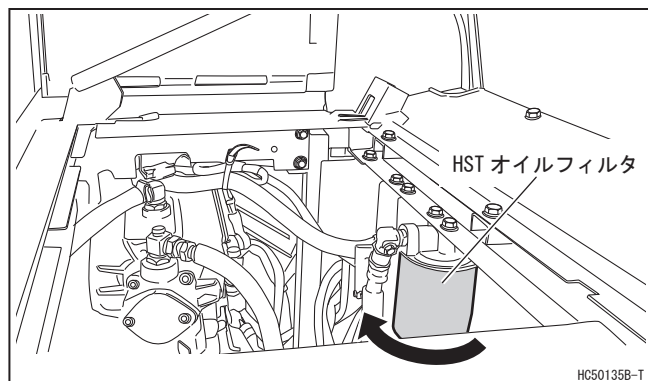
《 重要 》

交換後、エンジンオイルを給油し、エンジンを始動させると、オイルフィルタに入っていた量だけエンジンオイルが減ります。

規定量までエンジンオイルを補給してください。
(164 ページ)

12.8.4 HSTオイルフィルタカートリッジの交換

- (1) 運転席ステップを取り外してください。
- (2) フィルタレンチを使用してオイルフィルタを矢印方向に回して取ってください。



- (3) 新しいフィルタのゴムシール部にオイルを薄く塗り、Oリング（ガスケット）が、オイルフィルタ取り付け面に接触するまで回し、その後、フィルタレンチを使用して規定トルク（ $25\text{N}\cdot\text{m}$ { $255\text{kgf}\cdot\text{cm}$ } 相当）で締め付けてください。

《重要》

交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量までHSTオイルを補給してください。

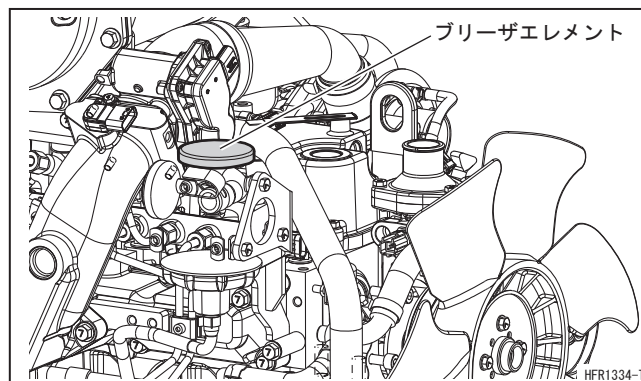
オイルの種類、検油のしかた等についてはオイル交換のしかたを参照してください。

(163、168 ページ)

- (4) 運転席ステップを取り付けてください。

12.8.5 ブリーザエLEMENTの交換

ブリーザエLEMENTは、お買い上げ先で交換してください。



12.8.6 エアクリーナーとプレクリーナーの掃除と交換

⚠ 注意

- エンジンを始動したまま、エアクリーナー・プレクリーナーのカバーを取り外さないでください。

※守らないと、エンジン故障の原因になります。

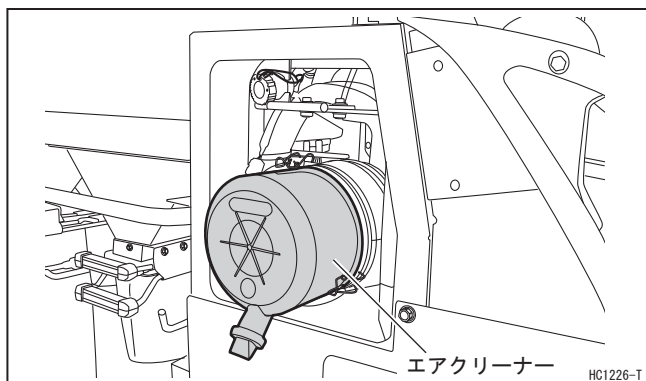
- エアクリーナーエLEMENTを交換するときは、必ず純正部品を使用してください。

※守らないと、DPF 装置に悪影響を与え、故障の原因になります。

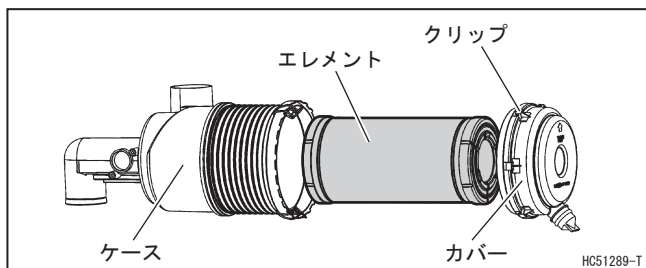
※守らないと、国内の排ガス規制基準値に適合しなくなるおそれがあります。

◆ エアクリーナーの掃除

- (1) ラジエータカバーを開けてください。(131 ページ)
- (2) クリップを外して、エレメントを取り出してください。



- (3) カバーとケースの内側を掃除してください。
- (4) エレメントの掃除は、つぎの要領で行ってください。
[1] 乾いたホコリがついているときは、エレメントを傷めないように注意しながら、エレメントの内側からエアで吹き飛ばしてください。



《重要》

- エアの圧力は、205kPa {2.1kgf/cm²} を超えないように注意してください。
- エレメントとノズルの間は適度にあげてください。

- [2] カーボンや油分で汚れているときは、エレメントを交換してください。

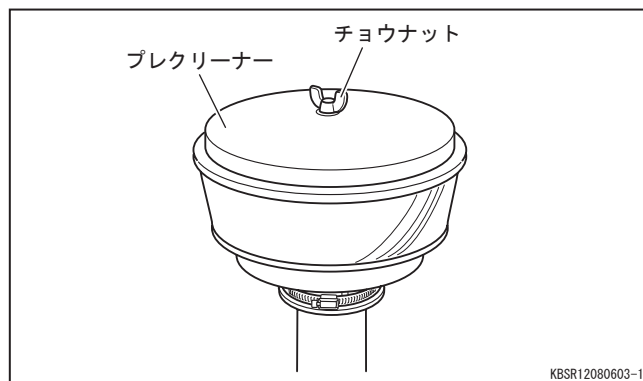
- (5) 掃除後、逆の手順で確実に取り付けてください。
- (6) ラジエータカバーを閉じてください (131 ページ)。

◆ プレクリーナーの掃除

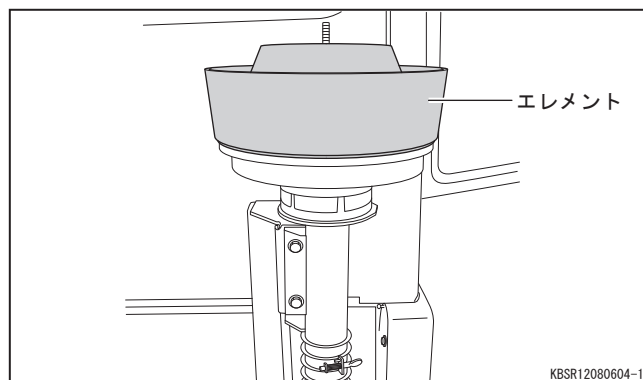
《重要》

プレクリーナーは、作業前に毎日掃除してください。

- (1) プレクリーナー上部のチョウナットを取り外してください。



- (2) プレクリーナー内にある、エレメントのホコリを取り除いてください。



- (3) 掃除後、エレメントをプレクリーナー内へ戻し、チョウナットを確実に締め付けてください。

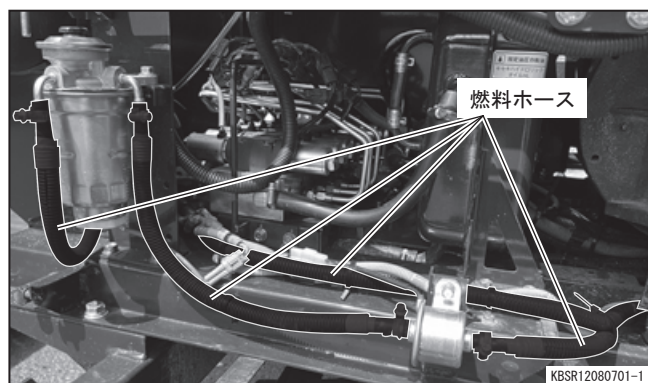
12.8.7 燃料ホースの点検と交換

⚠ 危険

- 燃料ホースは、必ず点検してください。

※ 破損していると、燃料もれを起こし、火災の原因になります。

燃料ホースは、使わなくても劣化します。シーズン前および使用時間が 100 時間ごとに、締め付けバンドのゆるみ、燃料ホースのキズを必ず点検してください。また、使用時間が 300 時間または 2 年ごとの早いほうで、お買い上げ先で交換してください。

**《重要》**

燃料ホースを交換するときは、燃料ホース内を軽油で洗ってから取り付けてください。

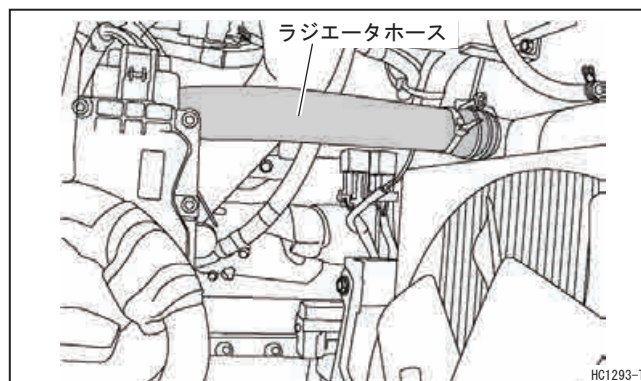
12.8.8 ラジエータホースの点検と交換

⚠ 警告

- ラジエータホースは、必ず点検してください。

※ 運転中に破損すると、熱湯が吹き出し、やけどをする原因になります。

ラジエータホースは、使わなくても劣化します。シーズン前および使用時間が 100 時間ごとに、締め付けバンドのゆるみ、ホースのキズを必ず点検してください。また、使用時間が 300 時間または 2 年ごとの早いほうで交換してください。



12.8.9 バッテリーの点検と交換

⚠ 危険

- バッテリーの液量が、バッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったらそのまま使用したり、充電をしないでください。

※ 守らないと、バッテリーが爆発してやけどや火災の原因になります。

- 充電や点検は、通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。

※ 守らないと、引火爆発の原因になります。

- バッテリー液を身体や服に付けないように注意してください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 守らないと、失明ややけどの原因になります。

もし、目や皮膚、服に付いたときは、ただちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、すみやかに医療機関を受診してください。

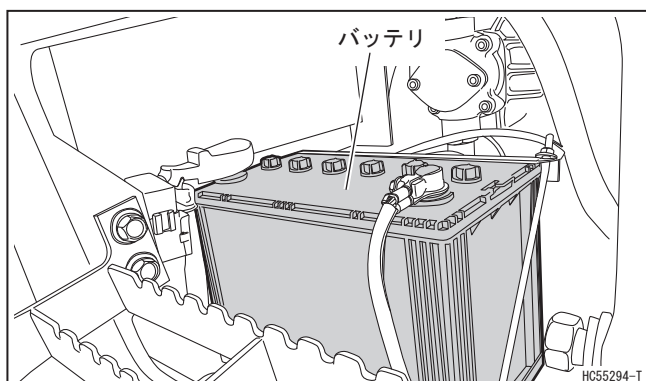
⚠ 注意

- バッテリーコード（端子）を外すときは、⊖コードを先に外してください。バッテリーコードを付けるときは、⊕コードを先に付けてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

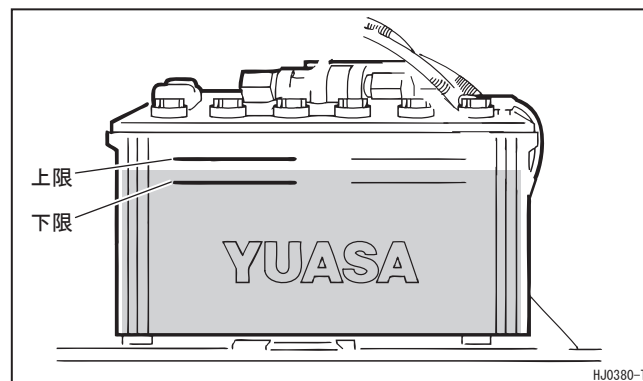
(1) バッテリーは、シーズン前に点検してください。

(2) バッテリーの取り付け位置は、キャビン座席下にあります。



◆ 点検のしかた

電解液が、液面線の上限、下限の間にあるかどうかを確認してください。下限以下のときには、精製水を補充してください。



◆ 充電について

- ・エンジンが始動しにくくなったり、前照灯や作業灯が暗くなってきたときは、充電をしてください。
- ・急速充電はしないでください。
- ・長期運転しないときは、夏期 2 カ月、冬期 3 カ月ごとに充電をしてください。

⚠ 注意

- バッテリーのコードを外すときは、メインスイッチを「切」にし、3 分以上たってから外してください。
※ 守らないと、エンジンその他装置の故障の原因になります。

◆ 交換

バッテリーを交換するときは、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

バッテリー型式：115D31R

《 参考 》

バッテリーを廃棄するときは、お買い上げ先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規定に従って処理してください。

12.8.10 ラジエータ・オイルクーラ・燃料クーラの掃除

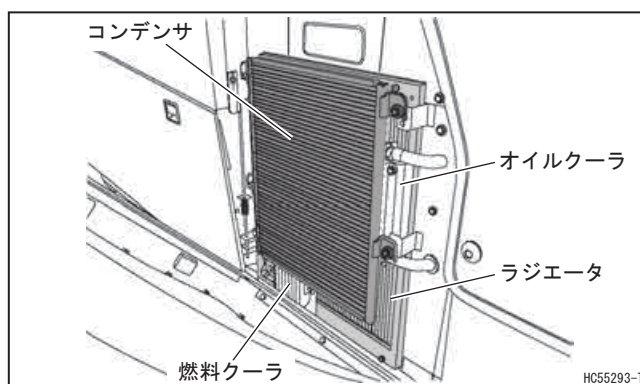
⚠ 警告

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等、傷害事故の原因になります。

⚠ 注意

- 高圧水をかけないでください。
※ 守らないと、フィンが変形して故障の原因になります。
- エンジン周りの電気配線、電装品には水をかけないでください。
※ 守らないと、電気部品の故障の原因になります。

- (1) 毎日作業前に掃除してください。
- (2) ラジエータカバーを開いてください。(131 ページ)
- (3) ラジエータ・オイルクーラ・燃料クーラのフィンの間にゴミが入ったときは、水道水で流してください。



- (4) ラジエータカバーを閉じてください。(131 ページ)

12.8.11 電気配線・ヒューズ関係の点検と交換

⚠ 危険

- 傷んだ配線は、すみやかに買い上げ先で修理、または交換してください。
※ 守らないと、ショート・漏電による火災の原因になります。
- ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は他のもので代用せず、買い上げ先で点検、修理をしてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。

⚠ 注意

- ヒューズを交換するときは、必ずメインスイッチを「切」にしてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 1年に1回、買い上げ先で定期点検を受けてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- メータパネル、バッテリー、エンジン周りの電気配線、電装品および電子油圧操作部には高圧水をかけないでください。
※ 守らないと、電気部品の故障の原因になります。

◆ 電気配線の点検

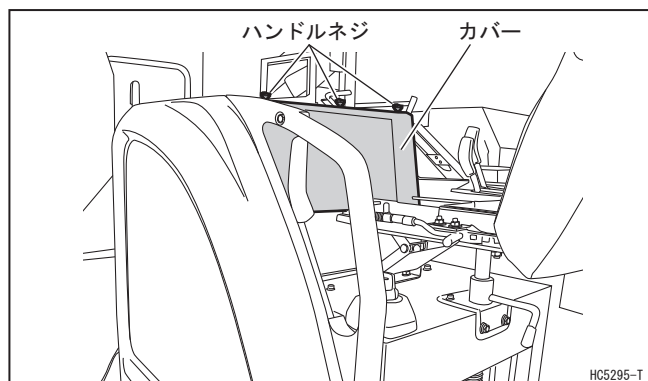
- ・配線類やバッテリーコードがネズミのかじりや自然劣化による損傷がないこと。
- ・配線のクランプのゆるみがないこと。
配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- ・ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。

◆ 運転席後ヒューズの点検と交換

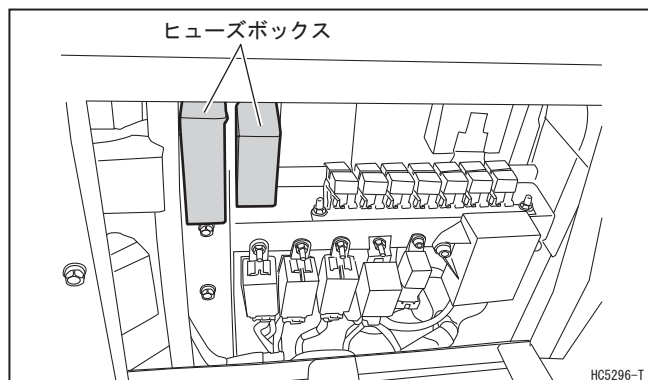
《重要》

ヒューズはシーズン前に点検してください。
シート後方のカバーに、ヒューズラベルを貼付
しています。

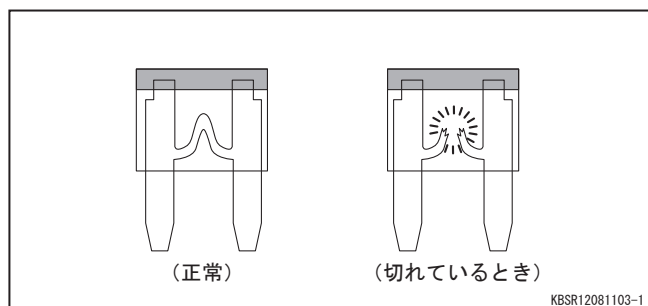
- (1) シートを前に倒してください。(63 ページ)
- (2) シート後方のカバーをハンドルネジを回して取り
外してください。



- (3) ヒューズボックスのふたを、取り外してください。



- (4) 各ヒューズが切れていないか、点検してください。



- ## ◆ ヒューズ（ヒューズボックス内）の交換のしかた
- (1) ヒューズが切れている場合は、必ず同じ容量の
ヒューズと交換してください。

20A	前照灯 /ホーン	20A	油圧 / 自動制御 主電源
20A	作業灯	10A	スイッチ パネル 電源
30A	作業灯 OPT	10A	外部電源
20A	リール前後 モータ	10A	センサ 電源
20A	排出 クラッチ モータ	10A	油圧 / 自動制御
20A	エンジン ファン モータ	10A	エンジン 始動
10A	吸塵ファン モータ	10A	ウインカ
20A	ロータリー バルブ モータ	10A	清掃ブロー ランプ
10A	予備	10A	MU1 電源
30A	オーガ 旋回 モータ	10A	スイッチ パネル 制御電源

空	ジャンパ チャージ	10A	スタータ
5A	ジャンパ 車体感度	30A	ECU
10A	ジャンパ 吸塵ファン 装備有無	15A	燃料ホップ /スタータ 電源
10A	ジャンパ グレンタンク 装備有無	5A	ECU 電源
10A	ジャンパ 予備	5A	リレー (メイン)

- (2) ヒューズボックスのふたを、取り付けてください。
- (3) シート後方のカバーをハンドルネジを回して取り
付けてください。
- (4) シートを元に戻してください。

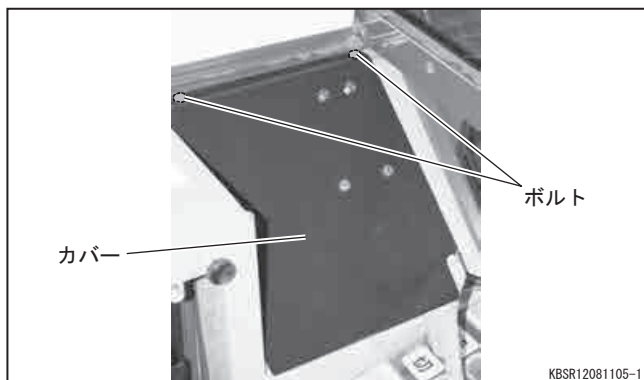
《重要》

ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、お
買い上げ先で点検・修理をしてください。

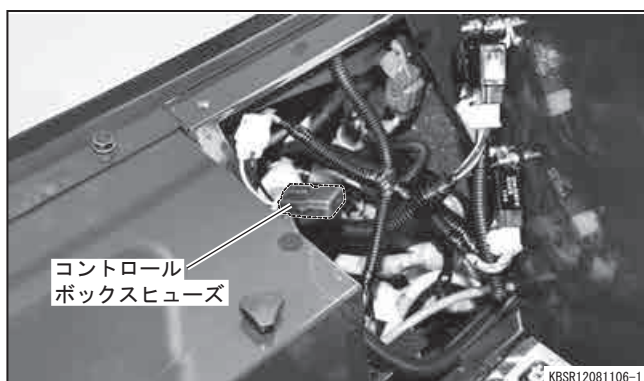
◆ コントロールボックスヒューズの点検と交換のしかた

(1) シートを前に倒してください。(63 ページ)

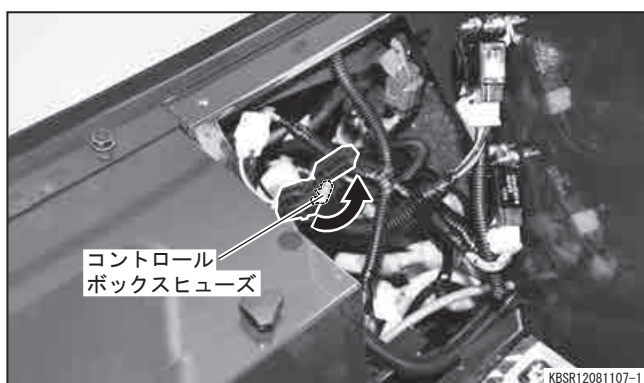
(2) シート横のカバーを取り外してください。



(3) カバーの中から、コントロールボックスヒューズを取り出して、コントロールボックスヒューズのカバーを開けてください。



(4) コントロールボックスヒューズが切れているか確認し、切れていれば、ヒューズを交換してください。



(5) コントロールボックスヒューズをカバーの中へ戻し、カバーを取り付けてください。

12.8.12 リレー・ヒューズの点検

⚠ 警告

● 点検・交換時には、必ずバッテリーの⊖側を外してから行ってください。

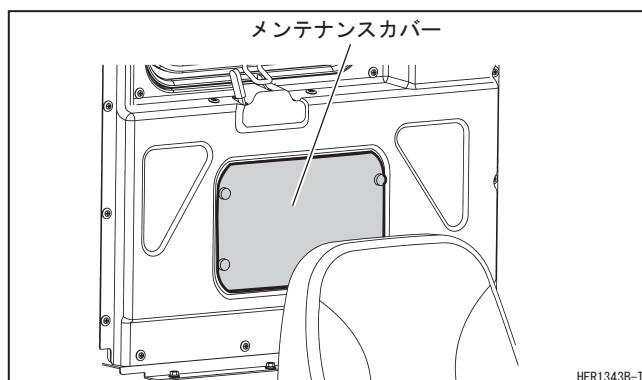
※ 守らないと、スパーク（火花がとぶ）・感電し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

● 点検交換のため、取り外したメンテナンスカバーは、必ず元の通りに取り付けてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

(1) シート後のメンテナンスカバーを取り外し、ヒューズボックスのふたを取り外して、各ヒューズが切れていないか点検してください。

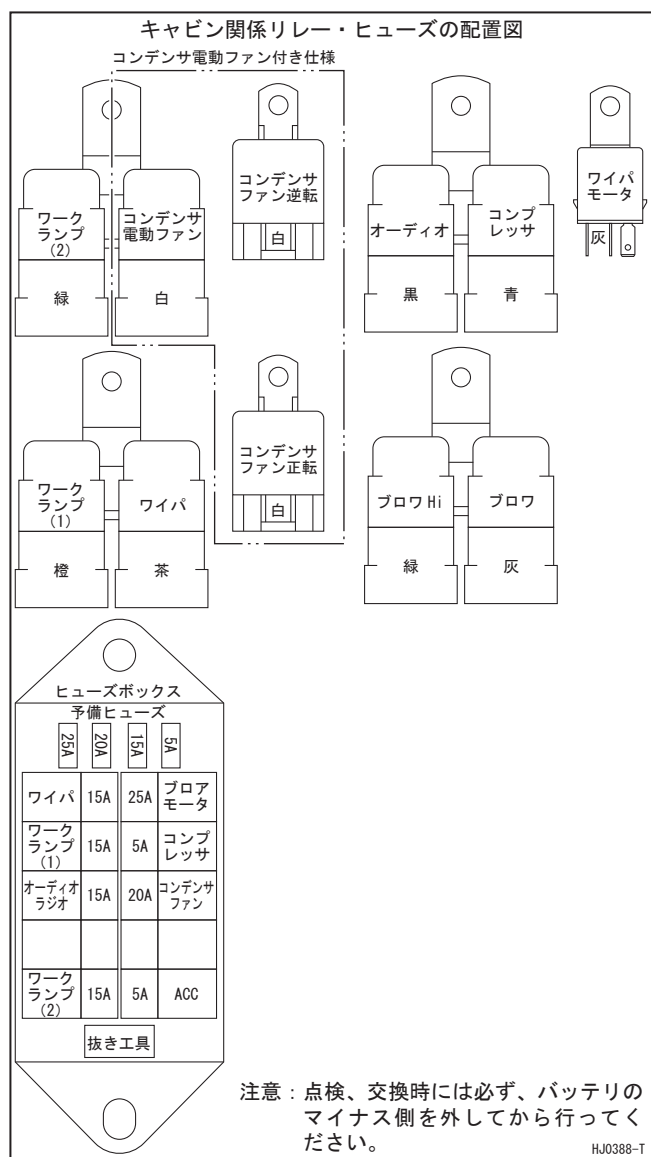


(2) ヒューズが切れているときは、同容量のヒューズと交換してください。

《 重要 》

ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、お買い上げ先で点検、修理をしてください。

- (3) ヒューズボックスのふたを取り付けて、シート後のメンテナンスカバーを取り付けてください。

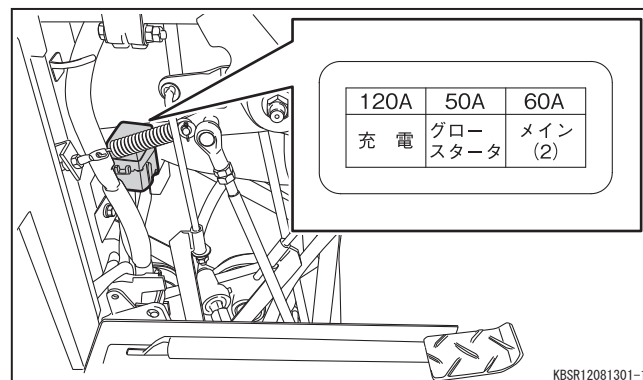


12.8.13 スローブローヒューズの点検

エンジンハーネス、バッテリーコードに、スローブローヒューズが設置されています。スローブローヒューズは、ヒューズの一つで過大電流が流れたり、ショートしたときに、溶断して配線の損傷を防ぎます。

◆ エンジンハーネス側

- (1) フロアの左カバーを取り外してください。
- (2) スローブローヒューズが溶断していないか点検してください。



120A：白 / スローブローヒューズ（充電）

バッテリーが充電されなくなり、バッテリーあがりを起こすときは、このヒューズを点検してください。

50A：赤 / スローブローヒューズ（グロー・スタータ）スタータモーターが回らないときは、このヒューズを点検してください。

60A：黄 / スローブローヒューズ（メイン (2)）作業灯、方向指示器が作動しないときは、このヒューズを点検してください。

- (3) スローブローヒューズが溶断しているときは、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

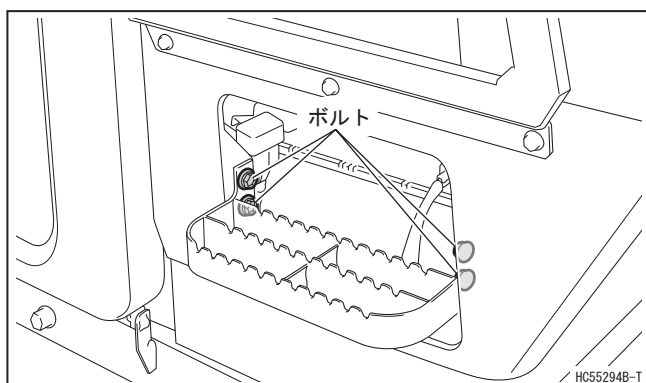
《 重要 》

- ・スローブローヒューズ（メイン (1)）、（エンジン制御）はボルト締めになっています。外しにくい構造ですので、交換するときは、お買い上げ先にご相談ください。
- ・ヒューズを交換してもすぐに溶断するときは、お買い上げ先で点検、修理してください。

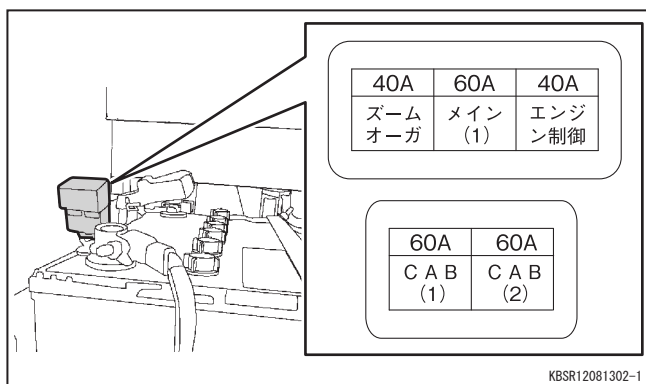
- (4) ヒューズボックスのふたを閉じ、フロアの左カバーを取り付けてください。

◆ バッテリーコード側

- (1) ボルト（4箇所）を取り外し、運転席ステップを取り外します。



- (2) バッテリーの⊕端子に共締めされているヒューズボックスのふたを開いて、各スローブローヒューズが溶断していないか点検してください。



40A：緑 / スローブローヒューズ（ズームオーガ）コントロールボックスの電源が入らないときは、このヒューズを点検してください。

60A：黄 / スローブローヒューズ（メイン（1））前照灯、作業灯、吸塵ファンが作動しないときは、このヒューズを点検してください。

40A：緑 / スローブローヒューズ（エンジン制御）エンジンが始動しないときは、このヒューズを点検してください。

60A：黄 / スローブローヒューズ（CAB（1））エアコンが作動しないときは、このヒューズ（ハーネス色赤）を点検してください。

60A：黄 / スローブローヒューズ（CAB（2））ワイパ、CD ラジオ等が作動しないときは、このヒューズ（ハーネス色白）を点検してください。

- (3) スローブローヒューズが溶断しているときは、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

《重要》

- ・スローブローヒューズ（メイン（1））、（エンジン制御）はボルト締めになっています。外しにくい構造ですので、交換するときは、お買い上げ先にご相談ください。
- ・ヒューズを交換してもすぐに溶断するときは、お買い上げ先で点検、修理してください。

- (4) ヒューズボックスのふたを閉じてください。

- (5) 運転席ステップを取り付けるときは、取り外すときの逆の手順で、取り付けてください。

12.8.14 各センサの調整

警告

● 必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

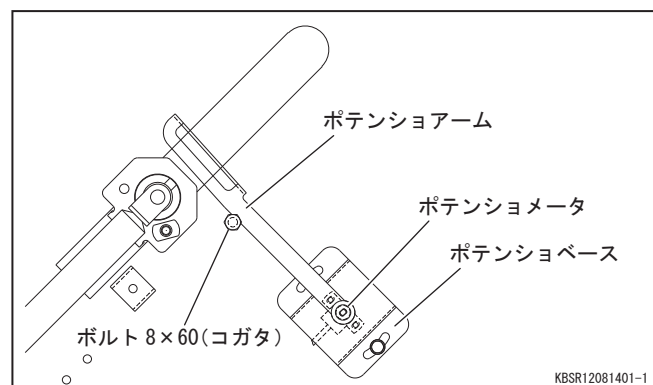
各センサの位置は「ロールベアラ 電装配置図」(244 ページ) を参照してください。

◆ 感知ポテンシオメータ

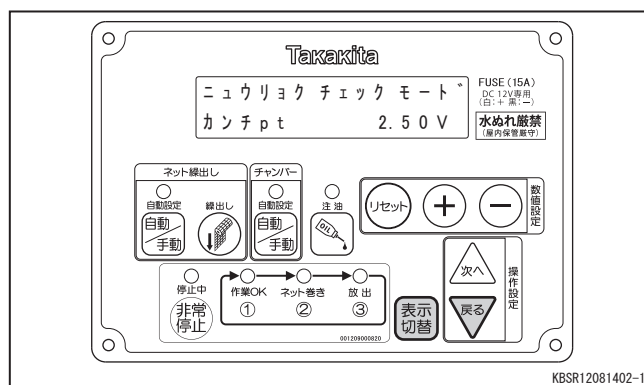
(1) ネット駆動カバーを開けてください。

(137 ページ)

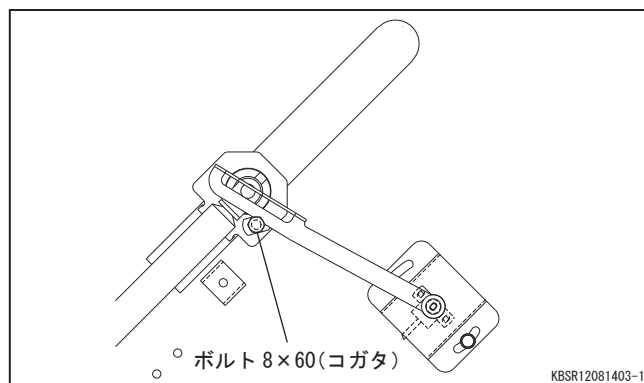
(2) 感知に使用するボルト 8×60(コガタ)を外して、図に示す位置で固定し、ポテンショアームをボルト 8×60(コガタ)の上に載せてください。



(3) コントロールボックスの表示切替ボタンを 2 回押して入力チェックモードに入り、戻るボタンを一度押し、次の画面が表示されたら、感知ポテンシオメータの電圧値が 2.4 ~ 2.6V になるように、ポテンシオベースの長穴を調整してください。2.4 ~ 2.6V に入っているとブザーが鳴ります。



(4) 手順 (2) の感知に使用するボルト 8×60(コガタ)を外して、元の位置に固定してください。

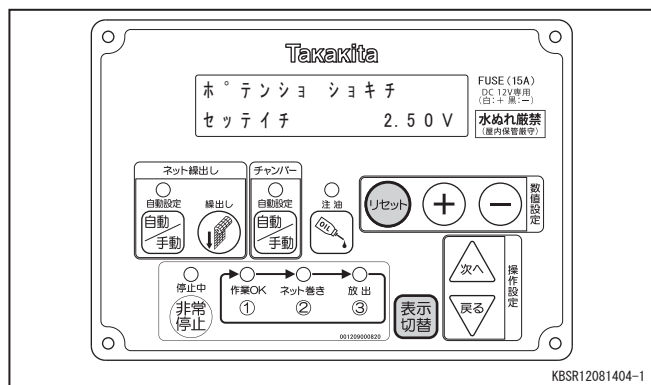


(5) ネット駆動カバーを閉じてください。

(137 ページ)

- (6) 調整後、コントロールボックスの表示切替ボタンを2回押して作業画面に戻り、リセットボタンを長押ししてください。

次の画面が表示されたら設定完了です。



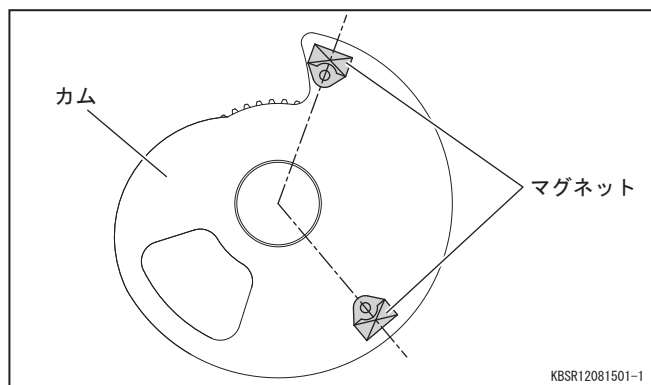
12.8.15 マグネットの配置

警告

- マグネットは割れやすいため、強く締めすぎないように注意してください。
※ 守らないと、割れて、センサがマグネットを検出しなくなるおそれがあります。

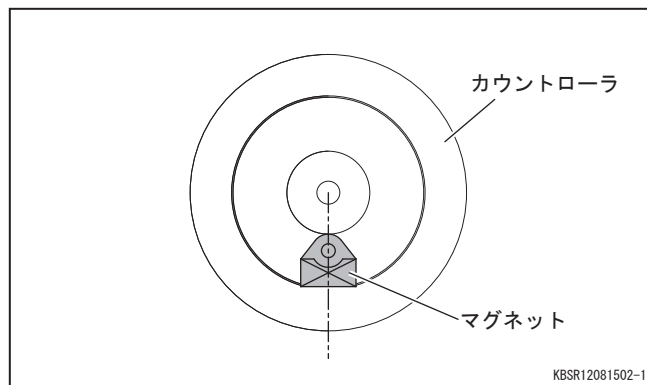
◆ カム

つぎの図に示すようにカムの中心から伸びる線に沿ってマグネットを配置してください。



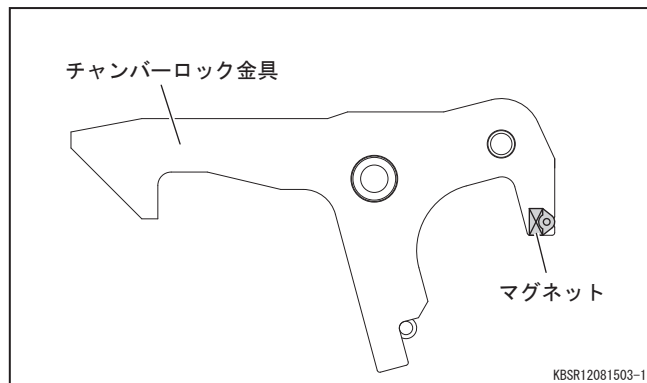
◆ カウントローラ

つぎの図に示すようにカウントローラの中心から伸びる線に沿ってマグネットを配置してください。
また、動かないようにマグネット裏側にコーキング材を塗布してからマグネットを固定してください。



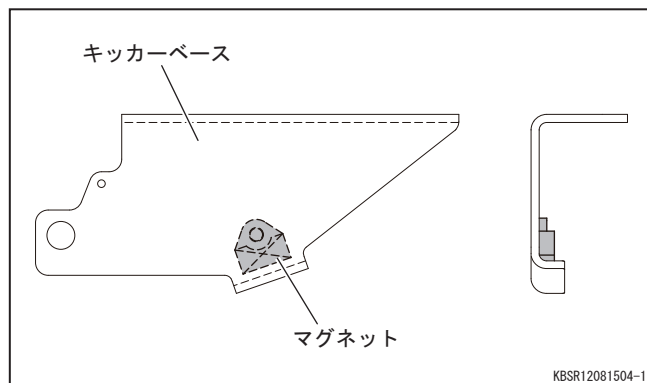
◆ チャンバーロック金具

つぎの図に示すようにチャンバーロック金具の形状に沿ってマグネットを配置してください。



◆ キッカーベース

つぎの図に示すようにキッカーベースの曲げ部分と平行になるようにマグネットを配置してください。



※ 各マグネット、センサの距離の調整は必要ありません。

12.8.16 クローラの点検と調整

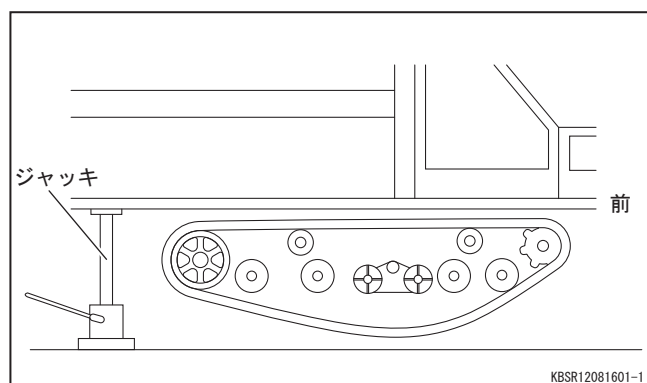
警告

- クローラの張りを点検・調整するときは、次のことを守ってください。
 - (1) 平たんで地面の硬い場所で行う。
 - (2) 揚力 1.5t 以上のジャッキを使用する。
 - (3) 自走ロールベアラのサイドフレームに滑らないようにジャッキをかける。
 - (4) 走行フレームの下にスタンドを置く。
 - (5) 自走ロールベアラの下にもぐりこまないようにする。
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

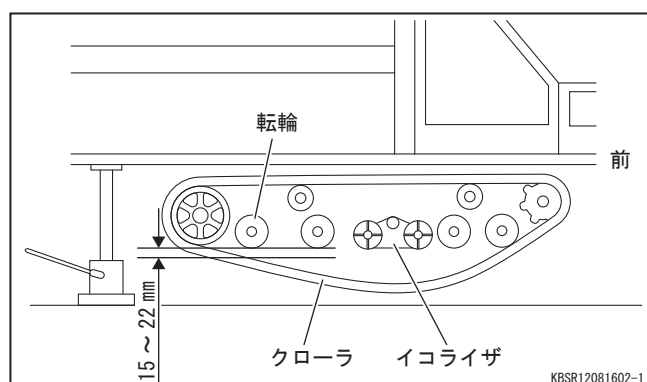
クローラは、シーズン前および 1 回目は 50 時間、2 回目からは 100 時間ごとに点検してください。
また、摩耗、および破損時には交換してください。

◆ クローラの点検のしかた

- (1) 点検する側のサイドフレームの前後を、ゆっくりとジャッキで持ち上げてください。

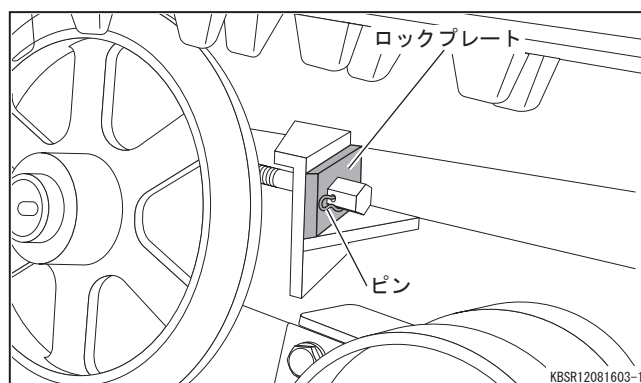


- (2) イコライザの後の固定転輪で、転輪とクローラのすき間が 15 ～ 22mm の間にあるか、点検してください。規定量でない場合は、調整してください。

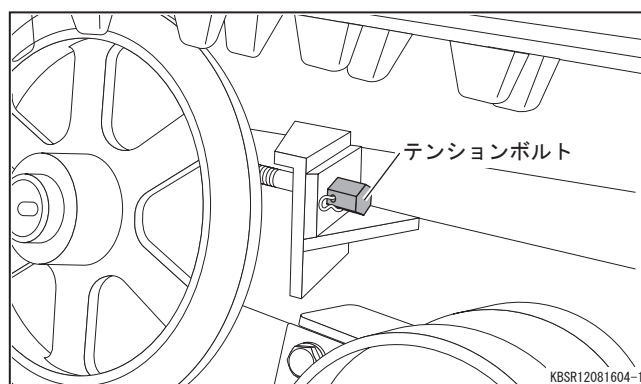


◆ クローラの調整のしかた

- (1) ピンとロックプレートを取り外してください。



- (2) テンションボルトを回し、転輪とクローラのすき間を、15 ～ 22mm の間になるように調整してください。(車高は最下げ位置にして、クローラの張りを調整してください)



(3) テンションボルトの位相を調整して、ロックプレートを元の位置に組み付け、ピンで固定してください。

(4) ゆっくりとジャッキを緩めて、機体を下げてください。

12.8.17 冷却水の点検と交換

◆ 不凍液について

- ・工場出荷時には不凍性冷却液（ロングライフクーラント）を注入してあります。そのまま作業してください。
- ・冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- ・SAE J814、SAE J1034、ASTM D3306、JIS K2234 いずれかの規格に適合している不凍液を使用してください。
- ・不凍性冷却液（ロングライフクーラント）は必ず軟水と混ぜて使用してください。
- ・不凍性冷却液（ロングライフクーラント）の濃度は全体の 30 ～ 60% の割合で使用してください。（不凍液の混合比は、気温や不凍液メーカーにより異なります。不凍液メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。）

⚠ 警告

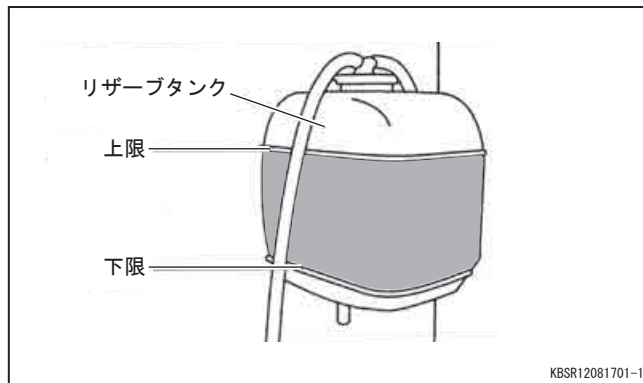
- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止後に十分冷めるまで開けないでください。

※ 守らないと、熱湯が噴出して、やけど等の傷害事故の原因になります。

◆ 点検のしかた

(1) 右駆動力バーを開いてください。（135 ページ）

(2) 冷却水のリザーブタンクの水量が、上限と下限の間にあるか点検してください。



(3) 冷却水が不足しているときは、リザーブタンク上限（FULL ライン）まで冷却水（ロングライフクーラント）を補給してください。

《 重要 》

冷却水は、上限以上に入れないでください。ラジエータの性能が十分発揮できなくなるほか、冷却水がもれる原因になります。

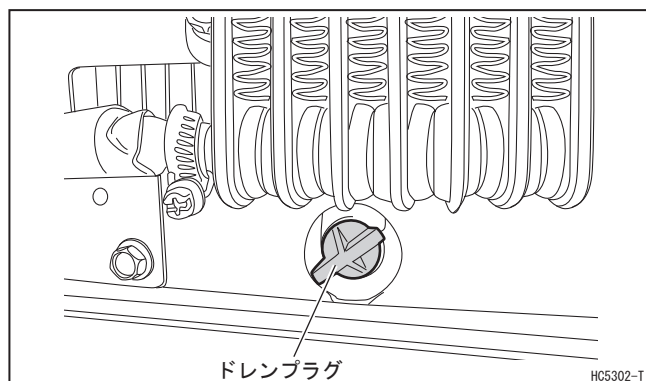
(4) 右駆動力バーを閉じてください。（135 ページ）

◆ 交換のしかた

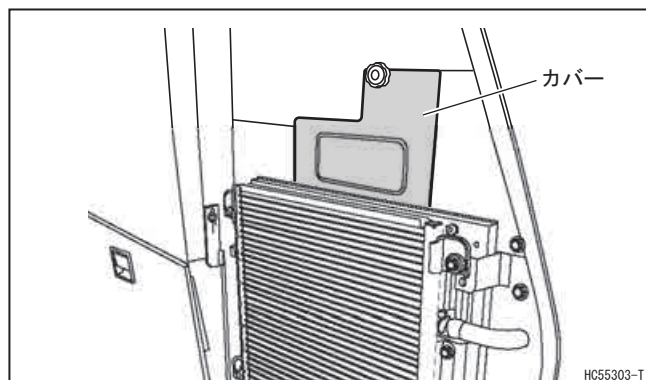
(1) ラジエータカバーを開けてください。

(131 ページ)

(2) ドレンプラグを緩め、容器に冷却水を排出してください。



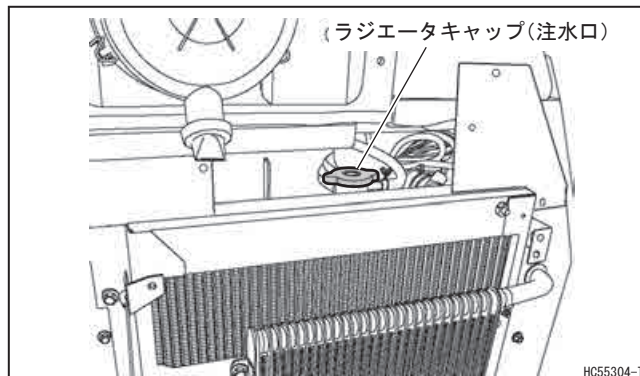
(3) ラジエータ給水口のカバーを開いて、ラジエータキャップ (4) 図参照) を開けてください。



《重要》

ラジエータキャップを開けると冷却水は勢いよく排出されます。

(4) 排出が終わったら、注水口より水道水 (軟水) を入れて、ゴミや錆が排出されなくなるまで洗浄してください。



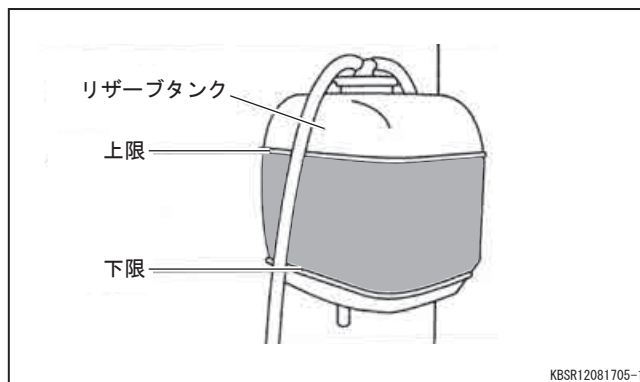
(5) ドレンプラグを締め付けて、注水口より冷却水 (ロングライフクーラント) を入れてください。

《重要》

- 冷却水は注水口の高さまで入れてください。
- 冷却水の量は約 8L です。

(6) ラジエータキャップを確実に閉めてください。

(7) リザーブタンク上限 (FULL ライン) まで冷却水 (ロングライフクーラント) を入れてください。



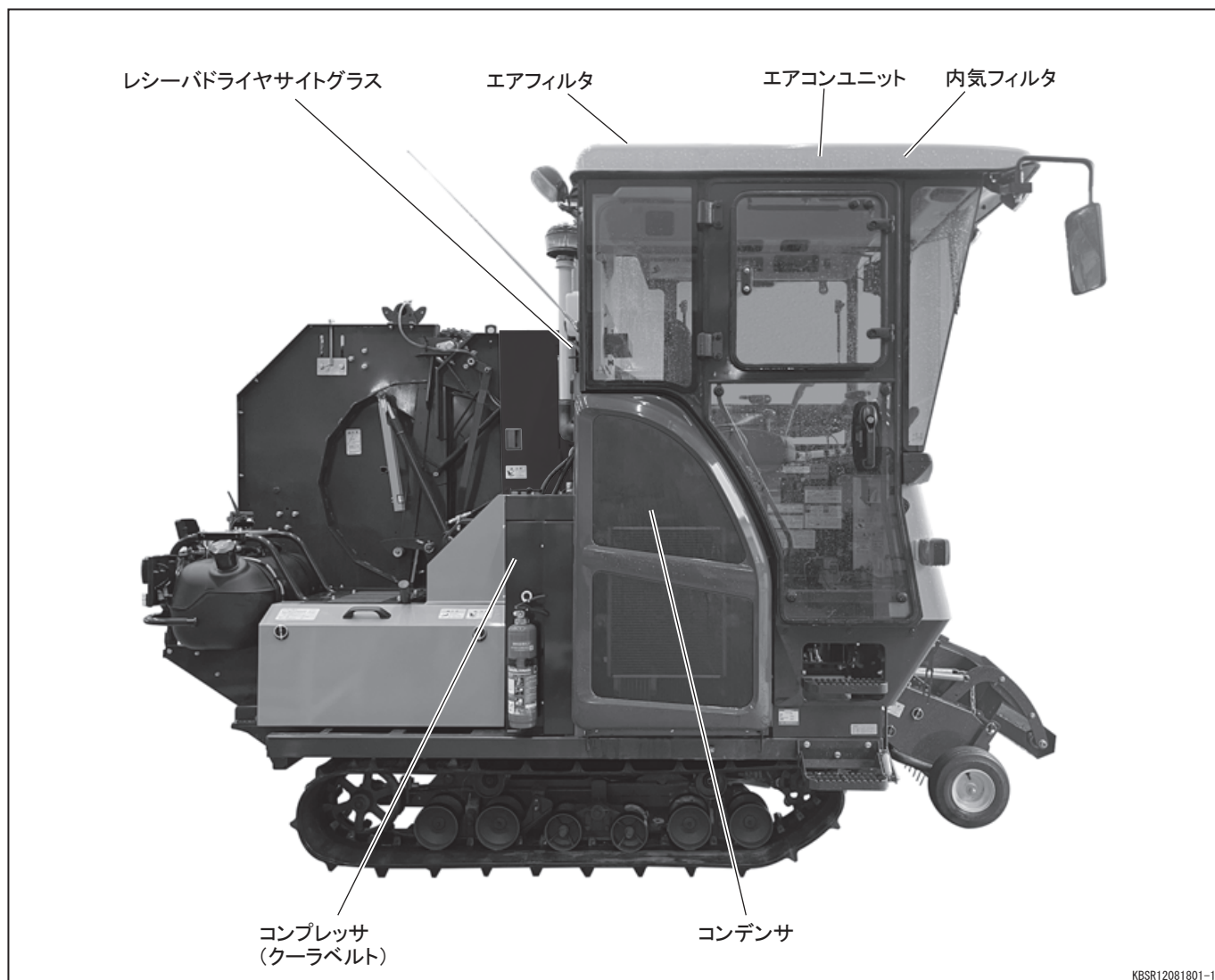
(8) エンジンを開始して、約 5 分間アイドリング運転をしてください。エンジンを停止して、再度、冷却水の量を確認し、不足していれば補給してください。

(9) ラジエータの給水口のカバーを閉じてください。

(10) ラジエータカバーを閉じてください。

(131 ページ)

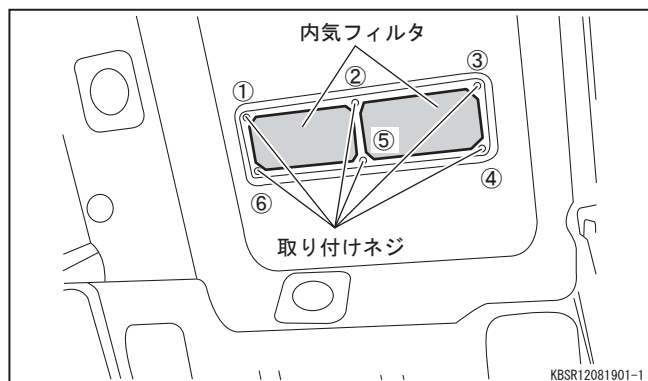
12.8.18 エアコン部品の配置



12.8.19 フィルタの掃除

◆ 内気フィルタ

- (1) 6箇所取り付けネジを緩めて、フィルタを取り外し、フィルタを傷めないように注意しながら、汚れや詰まりをエアで吹き飛ばしてください。



- (2) フィルタの汚れや詰まりが激しい場合は、家庭用中性洗剤を溶かしぬるま湯で洗浄し、水でよくすすいだあと、完全に自然乾燥させてください。

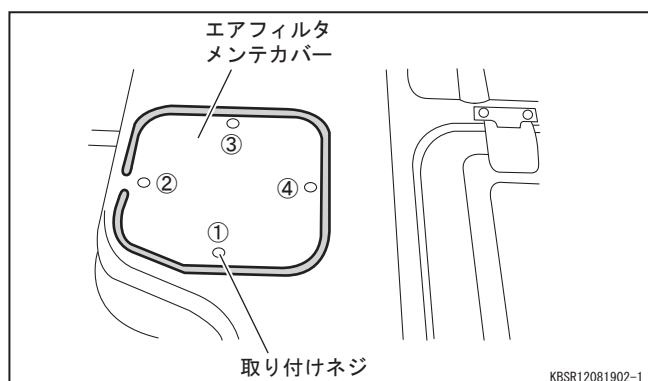
- (3) フィルタを取り付け、取り付けネジで固定してください。

◆ エアフィルタ

《参考》

エアコンの吹き出し風量が、極端に少なくなった場合、エアフィルタの詰まりが考えられますので、点検してください。

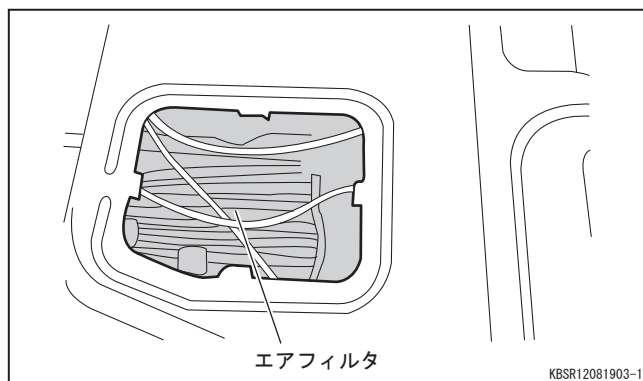
- (1) ルーフ左後部のエアフィルタメンテカバー取り付けネジ（4箇所）を、取り外してください。



- (2) エアフィルタ側面の矢印と同じ向きにエアをかけ、ホコリを吹き飛ばしてください。

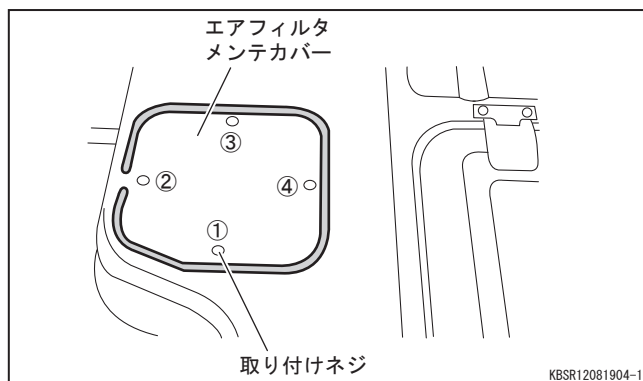
《参考》

汚れや詰まりの激しいものは交換してください。



- (3) エアフィルタ側面の矢印を上向きにして、すき間ができないように取り付けてください。

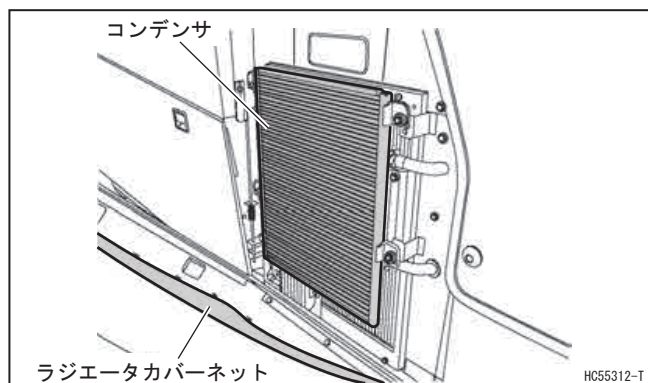
- (4) エアフィルタメンテカバー取り付けネジ（4箇所）を取り付けてください。



12.8.20 コンデンサの掃除

作業前に掃除してください。

- ・ネットは、やわらかいブラシを使用して水で洗い落としてください。
- ・コンデンサのフィンをつぶさないように注意しながら汚れや詰まりをエアで吹き飛ばしてください。



《 参考 》

- ・フィンがつぶれたときは元に戻してください。
- ・作業中、ネットについたワラくず等が多くなったら掃除してください。

12.8.21 冷媒量の点検

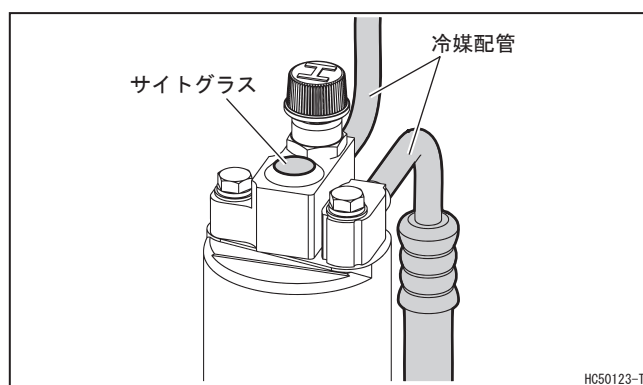
！ 注意

- 長時間放置（2 時間以上）後、実施する場合は、事前にアイドリング回転にてつぎの操作（2、3 項）をし、ならし運転を 5 分以上行ってください。
※ 守らないと、エアコン部品の損傷の原因となります。
- シーズンオフ等長期間保管する場合は、冷媒がもれていないか点検してください。もれた状態で放置しないでください。異常があるときは、お買い上げ先に連絡してください。
※ 守らないと、エアコン部品の内部に錆が発生する原因になります。

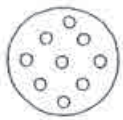
リヤハッチを開けてキャビン背面左のレシーバドライヤのサイドグラス（点検窓）から冷媒の気泡の流れを見て、冷媒量の点検をしてください。

◆ 準備作業

- (1) エンジンを始動し、エンジン回転数を 2600rpm にしてください。
- (2) エアコンスイッチを「ON」風量調節ツマミを「HI」にしてください。
- (3) 温度調節レバーを「COOL」側いっぱいに動かしてください。



◆ 冷媒量チェック表

冷 媒 量	サイトグラスの状態	
適正		ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。
不足		いつもの気泡の流れが見える。 透明または白泡のときもある。
なし、またはほとんどなし		何も見えない。 または、霧のようなものが流れているのがわずかに見える。

12.8.22 フロン排出抑制法に基づくエアコン機器の簡易点検

◆ 点検

- フロン排出抑制法により、エアコン機器の管理者（自走ロールベアラの所有者）には、機器および冷媒ガス（フロン類）の適切な管理義務があります。
- エアコン機器は、3 カ月に 1 回以上の簡易点検が必要です。最終ページに記載されている簡易点検実施記録表に記録を取って、エアコン機器を廃却後 3 年間は保管してください。

《 参考 》

- 簡易点検の実施は、法律に基づく義務です。違反した場合には、罰せられます。
- この自走ロールベアラを譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。

12.8.23 ネット切断ナイフの点検

! 警告

- ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋等の保護具を着用してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ ネット切断ナイフの点検のしかた

- (1) チャンバーを開けてください。(75 ページ)

《 重要 》

チャンバーを開けて作業を行うときは、必ず、シリンダストッパをセットしてください。

- (2) ネット切断ナイフに摩耗や欠損がないかを確認し、異常があれば、お買い上げ先に連絡してください。



12.8.24 シェアボルトの点検と交換

⚠ 危険

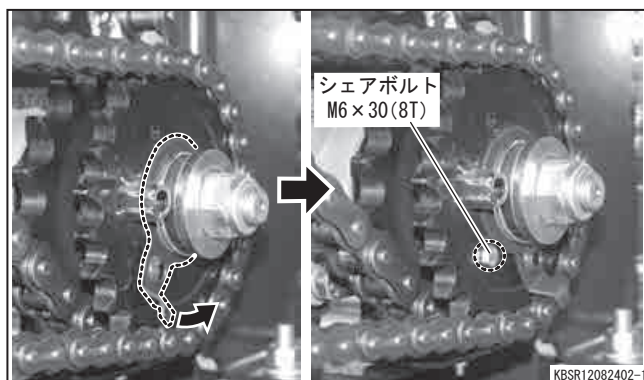
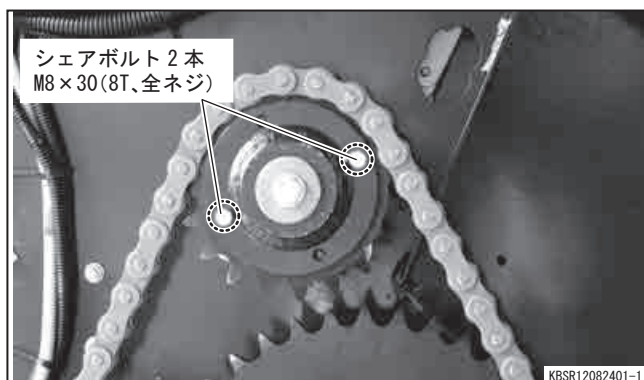
● 必ずエンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

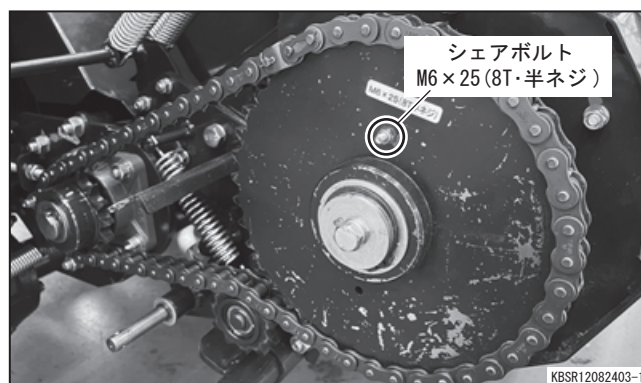
◆ シェアボルトの点検のしかた

- (1) チェンカバーを開いてください。(132 ページ)
- (2) 左サイドカバーを開いてください。(133 ページ)
- (3) ピックチェンカバーを取り外してください。(139 ページ)
- (4) シェアボルトに切損や緩みがないかを確認し、緩みのある場合は締め付け、切損の場合は、シェアボルトを交換してください。

チャンバー側



ピックアップ側



◆ シェアボルトの交換のしかた

- (1) 付属品で梱包されているシェアボルトを使用して、各部位を締め付けてください。

《 重要 》

シェアボルトは、指定以外のボルトを使用しないでください。

- (2) チェンカバーを閉じてください。(132 ページ)
- (3) 左サイドカバーを閉じてください。(133 ページ)
- (4) ピックチェンカバーを取り付けてください。(139 ページ)

13. 格納時の手入れ

⚠ 危険

- 自走ロールベアラにかける機体カバーは、エンジン等高温部が十分冷めたことを確認してからかけてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。
- 洗車するときは、エンジン部（本体、ゼネレータ、ホース、ハーネス等）、キャビン部（ガラス、ルーフ等）、電装品（モニター、パネル、センサ、モータ、バッテリー、ハーネス等）、樹脂類（クローラ、ホース、カバー、ラベル等）には、直接または近距離から高圧水をかけないでください。
※ 守らないと、自走ロールベアラの破損や故障の原因になります。

⚠ 警告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 格納は、平たんな場所を選び、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 格納時は、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、いたずら等による重大な事故の原因になります。
- 各部脱着、開閉を行うときは本機を平たんで水平な場所に止めて行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

⚠ 注意

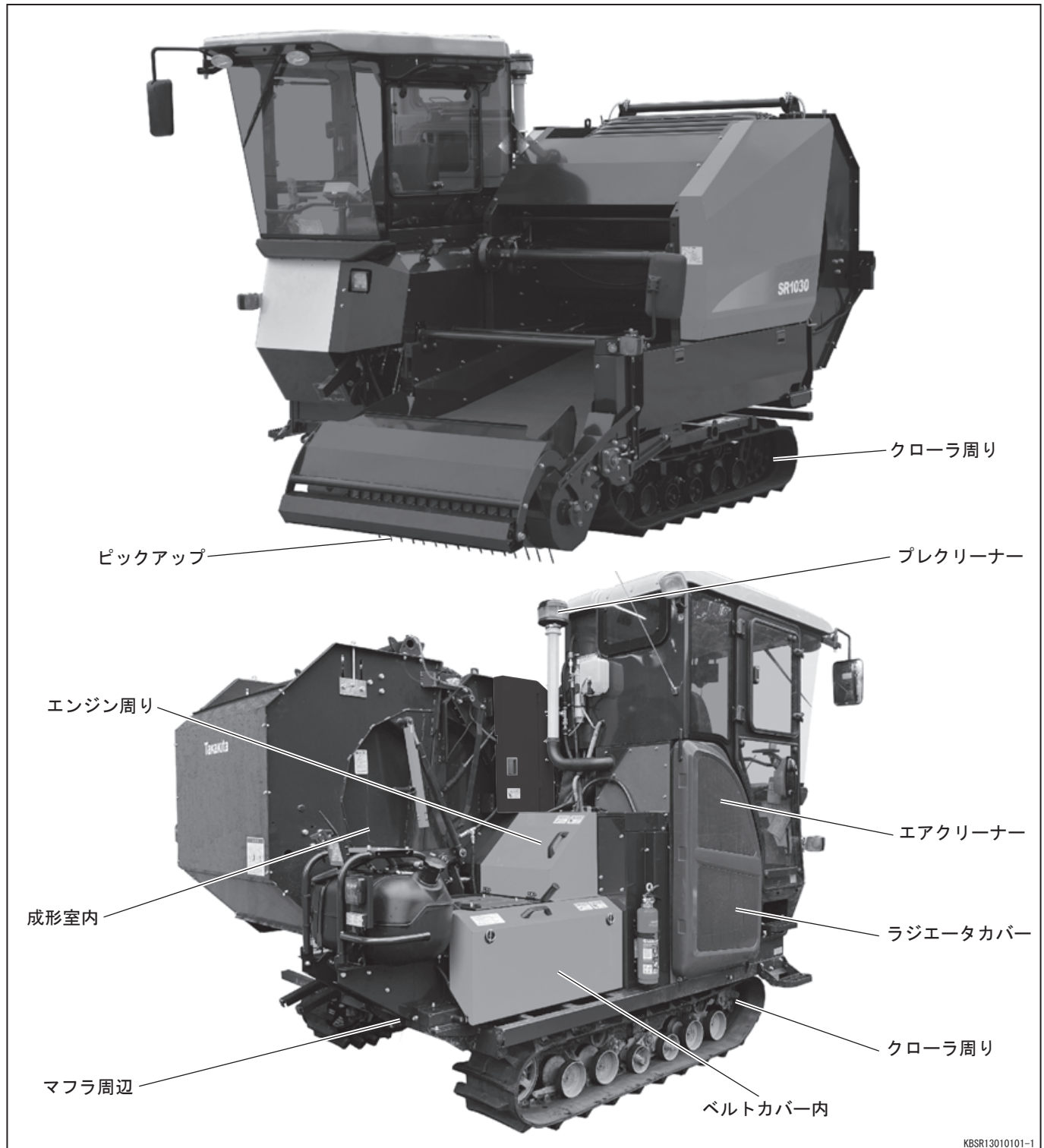
- 点検整備で取り外した保護カバー類は、必ず元通りに取り付けてください。
※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。
- 空運転を行うときは、カバー類を取り付けてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、はさまれ等傷害事故の原因になります。

《重要》

各部の搬送部をきれいに掃除してください。異なる品種の混合をさけたいとき等必ず掃除をしてください。

13.1 掃除のしかた

13.1.1 掃除箇所



《重要》

自走ロールベアを長持ちさせるため、必ず手入れをしてください。

13.2 その他の手入れのしかた

⚠ 注意

● エンジン部、電装品等には圧力水をかけないでください。

※ 守らないと、機械の破損の原因になります。

各部についた泥やワラକୁズを取り除いてください。

◆ エンジン関係の手入れのしかた

(1) 燃料タンクは、満タンにして、水の発生を防いでください。

(2) 冬期停止時の冷却水は、抜くか、不凍液を入れてください。

◆ バッテリーの保存

(1) バッテリーを取り外し、乾燥した日光の当たらない場所に、保存してください。

(2) バッテリーは、夏期は2カ月、冬期は3カ月以内に、補充電をしてください。

◆ 長期格納時の注油

つぎの箇所に、注油してください。(85 ページ)

- ・ ピックアップ部・チャンバー部のチェン
- ・ 各レバーの支点部
- ・ 各ベルトのテンションアームの支点部
- ・ ピックアップ部昇降の支点部

◆ 長期格納時のグリスアップ

グリス注入のしかた(174 ページ)に従って、グリスアップしてください。

◆ 長期格納時の手入れのしかた

各部に収穫物が残っていると、ネズミが営巣したり、配線部をかじったりして、故障の原因となりますので、きれいに掃除してください。

◆ 格納のしかた

(1) 塗装の剥がれたところは、錆が発生しないように補修塗料を塗ってください。

(2) 湿気の少ない風通しのよい水平な場所に格納してください。

(3) 各レバーは、「切」位置にしてください。

(4) アクセルダイヤルを「」側にいっぱいまで回してください。(65 ページ)

(5) 駐車ブレーキをかけてください。

(6) 車高は最下げ位置にしてください。

(7) ピックアップ部を、最下げ位置にしてください。

(8) メインスイッチのキーを抜き取ってください。

14. 不調時の診断と処置

⚠ 警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止して、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、回転部等に手や衣服が巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備は、平たんで水平な場所で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、エンジン等の高温部が十分冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備で取り外したカバーは、必ず元の通り取り付けてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、はさまれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

14.1 異常発生時の処置

現象	原因	処置	参照ページ
エンジンが始動しない (セルモータが回らない場合)	駐車ブレーキペダルを踏み込んでいますか。	駐車ブレーキペダルを踏み込んでください。	66
	作業クラッチレバーは、「切」になっていますか。	作業クラッチレバーを、「切」にしてください。	67
	バッテリーが、放電していませんか。	補充電または、交換してください。	202
	バッテリーの端子は、ゆるんでいませんか。	端子を掃除し、締め付けてください。	204
	スローブローヒューズは、溶断していませんか。	スローブローヒューズを交換してください。	207
エンジンが始動しない (セルモータは勢いよく回るが、かからない場合)	燃料はありますか。	燃料を入れ、エア抜きをしてください。	68
	燃料系統に水が混入していませんか。	水抜きを行ってください。	68
作業クラッチレバーが「入」になるとエンジンが停止する	非常停止スイッチが、「停止」位置になっていませんか。	非常停止スイッチを、「運転」位置にしてください。	64
草がうまく拾えない	集草していますか。	ウインドローを作ってください。	87
	材料が、短かすぎませんか。	クロップカバーの位置を下げてください。	89
	ウインドローが、大きすぎませんか。	クロップカバーの位置を上げてください。	89
	シェアボルトが、切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	219
	ピックアップ部が、下がりきらない状態になっていませんか。	車高が、最下げ位置になっているかを確認してください。	104

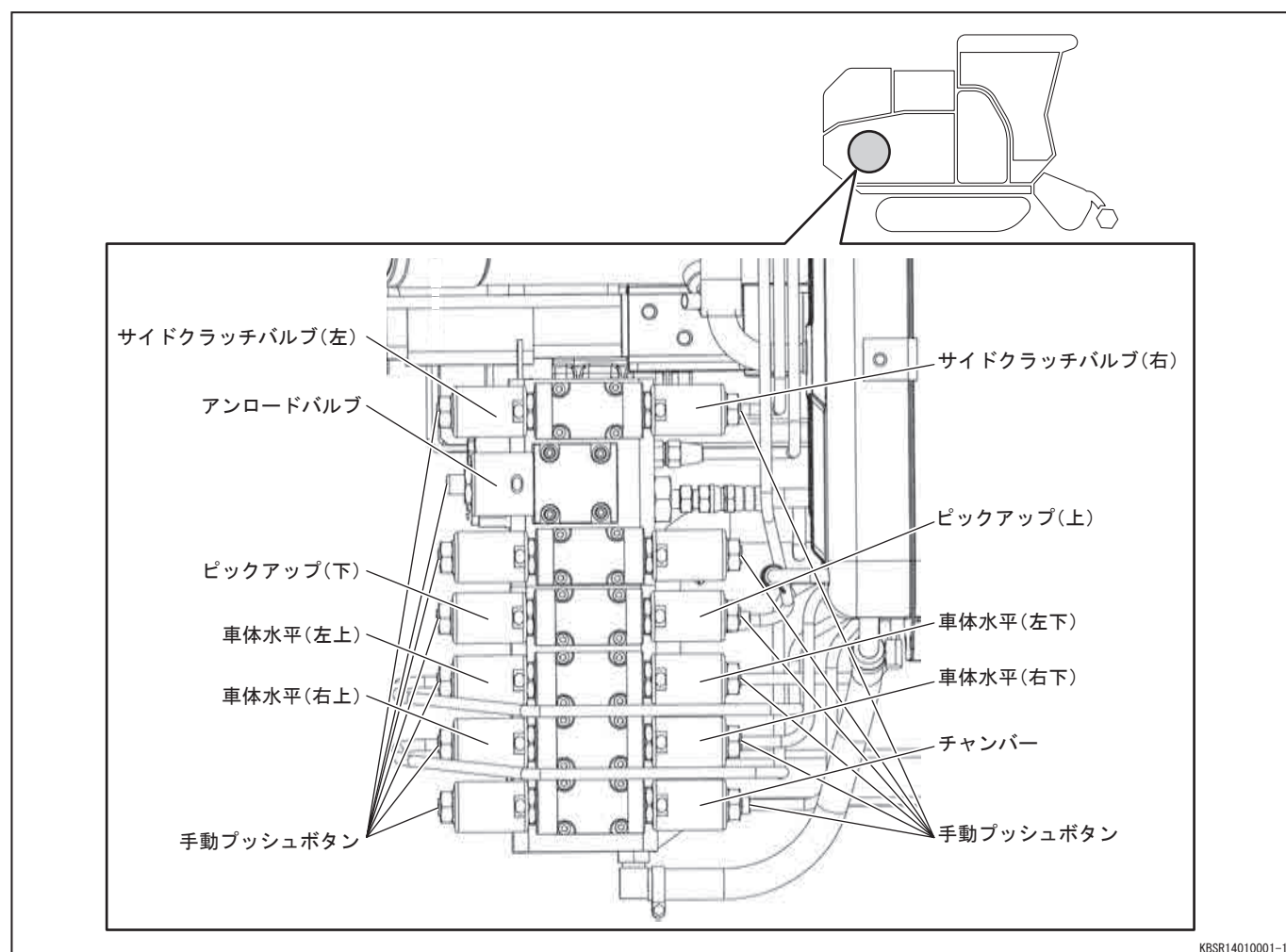
現象	原因	処置	参照ページ
収穫物を搬送しない	ピックアップ部で、草が引っかかっていますか。	いったん後進して、引っかけた草を取り除いてください。	—
	シェアボルトが、切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	219
ピックアップが昇降しない	ヒューズが、切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	204
	端子が、外れていませんか。	ハーネス、端子を点検してください。	204
	作業ロックノブがロック位置になっていませんか。	作業ロックノブのロックを解除してください。	—
	ソレノイドバルブに、ゴミが詰まっていますか。	プッシュボタンを数回押して、ゴミを抜いてください。	225
エンジン回転がドロップする	作業速度が、速すぎませんか。	予感知のブザーが鳴ったら、作業速度を落としてください。	—
	セッテイモードの「カンチキヨリ」設定数値が上がった状態になっていませんか。	セッテイモードの「カンチキヨリ」設定で、現状の数値より設定を下げてください。	91
	タイトチェンにオイルが、注油されていますか。	注油タンクのオイル量をチェックしてください。	171
ネット結束が緩い	ネットブレーキが、弱くありませんか。	ブレーキバネを、現状の位置より締める方向に、かけ変えてください。	93
	ネットの巻き数が、少なくありませんか。	セッテイモードの「カウント」設定で、現状の数値より上げた設定にしてください。	91
	ベールが、やわらかすぎませんか。	セッテイモードの「カンチキヨリ」設定で、現状の数値より設定を上げてください。	91
ネットが切れる	ネットブレーキが、強くありませんか。	ブレーキバネを、現状の位置より緩める方向に、かけ変えてください。	93
ネットが広がらない	ネットブレーキが、弱くありませんか。	ブレーキバネを、現状の位置より締める方向に、かけ変えてください。	93
タイトチェン部に自動注油しない	注油タンクの配管に、エアが噛んでいますか。	エア抜きを行ってください。	172
チャンバーが開閉できない	ヒューズが、切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	205
	配線が、外れていませんか。	ハーネス、端子を点検してください。	204
	作業ロックノブがロック位置になっていませんか。	作業ロックノブのロックを解除してください。	88
	ソレノイドバルブに、ゴミが詰まっていますか。	手動プッシュボタンを数回押して、ゴミを抜いてください。 (詳細は 225 ページの「※」を参照ください)	225

現象	原因	処置	参照ページ
油圧が作動しない	油圧バルブに、ゴミが詰まっていますか。	手動プッシュボタンを数回押して、ゴミを抜いてください。 (詳細は 225 ページの「※」を参照ください)	225
コントロールボックスのヒューズがよく切れる	繰出しギヤ部にホコリが噛んでいる	繰出しギヤ部のホコリを除去する	—
繰出しやチャンバー開閉が自動で動かない	設定が自動になっていない	設定を自動にする	90
ディスプレイに「*ネット フコウカン クリダシ ボタン フオス」のエラーが表示される	ネットが無くなっている。 ネットがチャンバーに入らない	新しいネットに交換するネットがゴムローラ等に絡まっていないか確認する	92
ディスプレイに「*カム モータ フカクニン」のエラーが表示される	繰出しギヤ部にホコリが噛んでいる	繰出しギヤ部のホコリを除去する	—

※ バルブのごみ抜きのかた

①タンクガードを開けてください。(136 ページ)

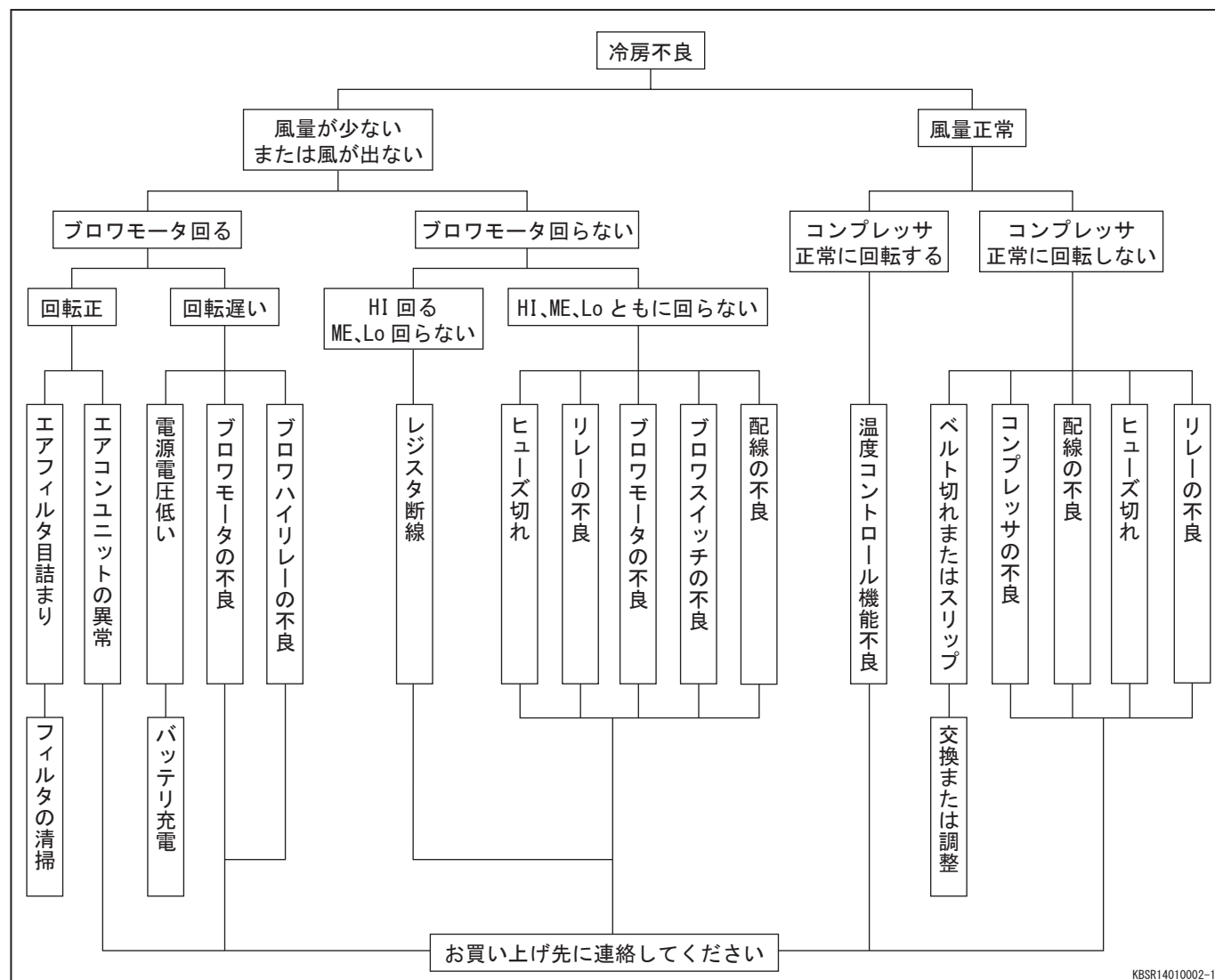
②アンロードバルブの手動プッシュボタンを押したまま、同時に不調箇所のバルブの手動プッシュボタンを、数回押してください。



KBSR14010001-1

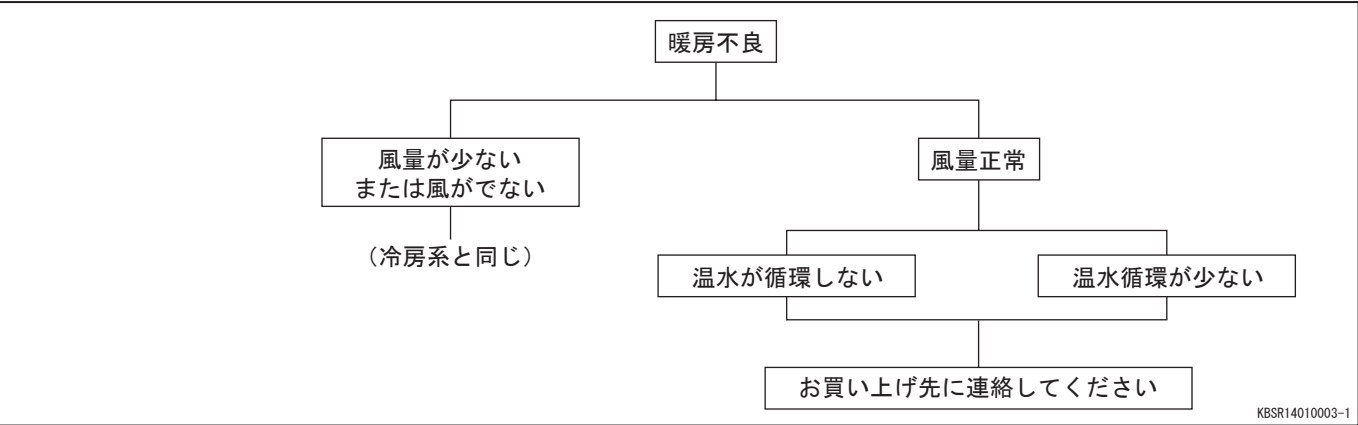
現象	原因	処置	参照ページ
ワイパが作動しない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	205
	アースおよびターミナルが接触不良になっていませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	204
	ワイパ・ウォッシャースイッチが故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
	ワイパリレーが故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
	ワイパモータが故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
ウォッシャー液が出ない	ウォッシャー液が少なくなっていますか。	ウォッシャー液を規定量まで、補給してください。	149
	アースおよびターミナルが接触不良になっていませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。	204
	ワイパ・ウォッシャースイッチおよびリレーが故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
	モータが故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
ラジオの音が出ない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	205
	ラジオ本体が故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
ラジオにノイズが入る	アースおよびターミナルが接触不良になっていませんか。	アンテナおよび CD ラジオ等のターミナルの点検清掃をしてください。	150
	ラジオ本体が故障、または断線していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
エアコンが冷えない	—	トラブルシューティングを参照してください。	227
エアコンが暖まらない	—	トラブルシューティングを参照してください。	228
ドア、サイドウィンドウ、ハッチの開きが弱い	ダンパが故障、または反発力が弱くなっていませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
ドアが走行中に開く	ドアロックの調整不良、または故障していませんか。	お買い上げ先に連絡してください。	—
電源が取り出せない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを点検してください。	205

◆ 冷房関係トラブルシューティング



KBSR14010002-1

◆ 暖房関係トラブルシューティング



◆ 使用エアコンガスおよび充填について

！ 注意

- 冷媒ガスは、必ず R-134a (HFC-134a) を使用してください。
※ 守らないと、エアコン故障の原因になります。
- 冷媒ガスの補充は行わないでください。
冷媒ガスの充填は全量回収し、規定量を入れ直してください。
※ 守らないと、冷媒ガスの不足や過充填となり、エアコン故障の原因になります。

このエアコンは、フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。

地球環境を保護するため、次のことが法律で定められており、違反した場合は罰せられます。

- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要となります。
- 廃棄する場合にフロン類の回収が行われていない機器を廃棄物・リサイクル業者が引取することは禁止されています。
- 冷媒の種類および数量は下表の通りです。

種類	冷媒番号	GWP 値	数量 (kg)
HFC	R134a	1430	0.80

14.2 異常表示時の処置（自動制御関係）

電子・油圧装置に異常が生じた場合、マルチアイに異常メッセージが表示されます。

この表示が出たときは		→	こう処置します
刈高さ制御	入力系の異常	自動装置の使用をやめ 点検をしてください。	お買い上げ先に連絡してください。
	パワステポジション上下 センサ信号異常		
	配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常		刈高さ制御のスイッチを押し、ランプ を消灯させた状態で使用してください。 お買い上げ先に連絡してください。
	入力系の異常		
バックリフト制御	刈高さセンサ 信号変化 なし	自動装置の使用をやめ 点検をしてください。	お買い上げ先に連絡してください。
	配線の断線あるいはセンサの異常		
	入力系の異常		バックリフト制御のスイッチを押し、 ランプを消灯させた状態で使用して ください。お買い上げ先に連絡 してください。
	パワステポジション上下 センサ信号異常		
IQ アクセル制御	配線の断線あるいはセンサの異常	自動装置の使用をやめ 点検をしてください。	お買い上げ先に連絡してください。 IQ アクセル制御のスイッチを押し、 ランプを消灯させた状態で使用して ください。スロットルレバーを手動に て操作してください。
	エンジン 「回転異常」		
	エンジン回転計が動かない。		お買い上げ先に連絡してください。
	配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常		

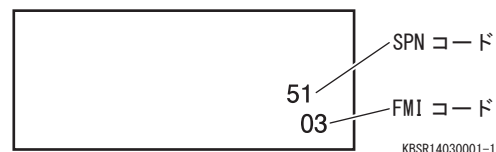
KBSR14020001-1

この表示が出たときは		→	こう処置します
車体水平制御	入力系の異常	自動装置の使用をやめ 点検をしてください。	お買い上げ先に連絡してください。 車体水平制御のスイッチを押し、ランプ を消灯させた状態で使用してください。
	車体傾斜 センサ信号異常		
	配線の断線あるいはセンサ・コントローラの異常		

KBSR14020002-1

14.3 エンジン異常コード

エンジンに異常が発生すると、マルチアイに「エンジン異常」が表示されたあと、エンジン異常コードが表示されます。表示された異常コードをお買い上げ先に連絡してください。



異常コード		内容	
SPN	FMI		
51	03	吸気スロットルバルブ ポジションセンサ	入力電圧高
51	04	吸気スロットルバルブ ポジションセンサ	入力電圧低
97	02	燃料フィルタ	水混入
100	01	エンジンプロテクション	低油圧
102	00	ブースト圧センサ	上限超過
102	01	ブースト圧センサ	下限超過
102	03	ブースト圧センサ	入力電圧高
102	04	ブースト圧センサ	入力電圧低
105	03	ブースト温度センサ	入力電圧高
105	04	ブースト温度センサ	入力電圧低
108	03	大気圧センサ	入力電圧高
108	04	大気圧センサ	入力電圧低
110	00	エンジンプロテクション	高水温
110	03	水温センサ	入力電圧高
110	04	水温センサ	入力電圧低
132	03	エアフロセンサ	Hi 側ショート
132	04	エアフロセンサ	Lo 側ショート
157	00	レール圧偏差大	異常高圧
157	01	レール圧偏差大	アンダーシュート
157	03	レール圧センサ	入力電圧高
157	04	レール圧センサ	入力電圧低
157	15	高圧ポンプ	高圧異常
168	03	バッテリー電圧	入力電圧高
172	03	吸気温度センサ (エアフロメータ)	入力電圧高
172	04	吸気温度センサ (エアフロメータ)	入力電圧低
174	00	エンジンプロテクション	高燃料温
174	03	燃料温度センサ	入力電圧高
174	04	燃料温度センサ	入力電圧低
190	00	エンジン回転数	オーバーラン
628	02	ECU チェックサム (ロムエリア)	異常
636	02	カムパルス	波形異常
636	07	クランクパルス&カムパルス	波形異常
636	08	カムパルス	検出不良
638	00	高圧ポンプ	異常高圧 2
638	16	高圧ポンプ	異常高圧 1
639	09	CAN TSC1 通信	タイムアウト
639	19	CAN2(J1939)	ノードエラー

異常コード		内容	
SPN	FMI		
651	03	インジェクタコイル #1cyl	ショート
651	05	インジェクタコイル #1cyl	オープン
651	12	インジェクタ昇圧 #1cyl	タイムアウト
652	03	インジェクタコイル #2cyl	ショート
652	05	インジェクタコイル #2cyl	オープン
652	12	インジェクタ昇圧 #2cyl	タイムアウト
653	03	インジェクタコイル #3cyl	ショート
653	05	インジェクタコイル #3cyl	オープン
653	12	インジェクタ昇圧 #3cyl	タイムアウト
654	03	インジェクタコイル E4FH: #4cyl , E3FH: #2cyl	ショート
654	05	インジェクタコイル E4FH: #4cyl , E3FH: #2cyl	オープン
654	12	インジェクタ昇圧 E4FH: #4cyl , E3FH: #2cyl	タイムアウト
676	03	グローリレー	VB ショート、オープン
676	04	グローリレー	GRD ショート
677	03	スタータスイッチ	ショート
724	03	ラムダセンサ	ヒータ回路 Hi 異常
724	04	ラムダセンサ	ヒータ回路 Lo 異常
1077	02	ECU CPU (メイン)	故障
1077	08	ECU CPU (サブ)	故障
1077	09	ECU 昇圧回路 IC	内部クロック故障
1077	10	ECU AD コンバータ	異常
1077	12	エンジンコントローラ IC 間通信	通信異常
1347	03	高圧ポンプ燃料調量弁 (SCV)	ショート
1347	04	高圧ポンプ燃料調量弁 (SCV)	オープン
1347	13	高圧ポンプ学習値	不良
2791	02	EGR バルブ DC モータ	駆動回路異常
2791	03	GR バルブ ポジションセンサ	入力電圧高
2791	04	GR バルブ ポジションセンサ	入力電圧低
2791	07	EGR バルブ	固着
2791	08	EGR バルブ DC モータ	オーバーヒート
2791	12	EGR バルブ DC モータ	IC 異常
2797	02	インジェクタ電源 COM1 回路	オープン
2797	03	インジェクタ電源 COM1 回路	BATT ショート
2797	04	インジェクタ電源 COM1 回路	GRD ショート
2798	02	インジェクタ電源 COM2 回路	オープン
2798	03	インジェクタ電源 COM2 回路	BATT ショート
2798	04	インジェクタ電源 COM2 回路	GRD ショート
2840	12	インジェクタ補正情報 (QR データ)	未書き込み
2840	13	インジェクタ補正情報 (QR データ)	異常
2950	02	吸気スロットルバルブ DC モータ	駆動回路異常
2950	06	吸気スロットルバルブ DC モータ	駆動電流異常
2950	07	吸気スロットルバルブ DC モータ	バルブ固着
2950	08	吸気スロットルバルブ DC モータ	DUTY 異常

14. 不調時の診断と処置

異常コード		内容	
SPN	FMI		
2950	12	吸気スロットルバルブ DC モータ	IC 異常
3225	03	ラムダセンサ電圧	入力電圧高
3225	04	ラムダセンサ電圧	入力電圧低
3225	05	ラムダセンサ	作動不良
3225	12	ラムダセンサ	故障
3224	03	DPF 入口温度センサ	入力電圧高
3224	04	DPF 入口温度センサ	入力電圧低
3224	12	DPF 入口温度	異常高温
3226	03	DPF 出口温度センサ	入力電圧高
3226	04	DPF 出口温度センサ	入力電圧低
3226	12	DPF 出口温度	異常高温
3250	12	DPF 再生時間	タイムアウト (DMODE2)
3251	00	DPF	詰まり
3251	01	DPF	取り外し
3251	03	差圧センサ	入力電圧高
3251	04	差圧センサ	入力電圧低
3264	03	ラムダセンサ+電圧	入力電圧高
3264	04	ラムダセンサ+電圧	入力電圧低
3509	03	ECU 5V 供給回路 1	入力電圧高
3509	04	ECU 5V 供給回路 1	入力電圧低
3510	03	ECU 5V 供給回路 2	入力電圧高
3510	04	ECU 5V 供給回路 2	入力電圧低
3597	00	ECU 昇圧回路 IC	過大充電
3597	01	ECU 昇圧回路 IC	充電不足
3597	09	ECU 昇圧回路 IC	内部クロック故障
3597	19	ECU 昇圧回路 IC	通信異常
3711	12	DPF 再生時間	タイムアウト (DMODE1)
3719	00	DPF スート堆積量	過堆積 (前期)
3719	12	DPF スート堆積量	過堆積 (後期)
3936	12	DPF システム	取り外し警告
4201	02	クランクパルス	波形異常
4201	08	クランクパルス	検出不良
4202	08	クランクパルス&カムパルス	検出不良
4765	03	DOC 入口温度センサ	入力電圧高
4765	04	DOC 入口温度センサ	入力電圧低
4765	12	DOC 入口温度	異常高温
10040	19	CAN1 (ISO)	ノードエラー
516099	03	DPF 手動再生要求ランプ	VB ショート
516099	04	DPF 手動再生要求ランプ	GND ショート
516100	03	DPF 再生禁止ランプ	VB ショート
516100	04	DPF 再生禁止ランプ	GND ショート

15. 付表

15.1 主要諸元

		名称	自走ロールベアラ		
		型式	SR1030		
		区分	CRSW		
機体寸法		全長 (mm)	3650		
		前幅 (mm)	2370		
		全高 (mm)	2560		
		機体質量 (重量) (kg)	2910		
エンジン		型式名	サセキ E3FH-TDEA02		
		種類	水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼルターボ / DPF		
		総排気量 (L{cc})	1.826 (1826)		
		出力 / 回転速度 (kW{PS} / min ⁻¹)	30.0{40.8} / 2600		
		使用燃料	ディーゼル軽油		
		燃料タンク容量 (L)	55		
走行部		始動方式	セルモータ式		
	クローラ	幅 × 接地長 (mm)	400×1440		
		中心距離 (mm)	1540		
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm ² })	24.6{0.25}		
		変速方式	主変速：油圧モータ式 (HST) 副変速：選択かみ合い式		
		変速段数	主変速：無断 副変速：3 段		
		走行速度 (m/sec)	前進	0 ~ 0.80	0 ~ 1.38 0 ~ 2.34
			後進	0 ~ 0.77	0 ~ 1.26 0 ~ 2.15
ピックアップ部		作業幅 (mm)	1310		
		タイン両端幅 (mm)	1040		
		タインピッチ (mm)	70		
		タイン数 (個 / 列)	8		
		タインバー数 (本)	4		
		タイン作用直径 (mm)	540		
ベアラ部		ベール寸法 (cm)	φ 100×100		
		成形方法	チェーンバー (定径式)		
		梱包材料	ネット		
		適応ネット幅 (cm)	98 ~ 105		
諸装置		警報装置	エンジンオイル、バッテリーチャージ、水温、タンク満杯、エンジンセンサ、作業クラッチ、ネットエラー		
		自動化装置	刈高さ定点停止、IQ アクセル、車体水平、バックリフト		
		安全装置	エンジン始動セーフティスイッチ、チェーンロック		
		オープン装置	エンジンカバー、左サイドカバー、右サイドカバー、右駆動カバー		
		その他の装置	センサチェック、パワーステアリング、マルチアイ		
		適用作物	稲わら、麦わら		
		作業能率 (分 / 10a)	6 ~ 23		

15.2 付属品一覧

		品名	付属個数	備考
工具	1	メガネレンチ 17	1	
	2	スパナ 10-12	2	
	3	工具箱	1	
消耗品	1	シェアボルト M6×30 (8T)	10	
	2	シェアボルト M8×30 (8T、全ネジ)	5	
	3	タフロックナット M8	5	
	4	シェアボルト M6×25 (8T)	5	
	5	ナイロンナット M6	5	
その他	1	取扱説明書	1	
	2	点検ブック (保証書付)	1	
	3	油差しジョウゴ	1	
	4	トイ	1	
	5	スペアキー	1	
	6	消火器	1	

15.3 推奨潤滑油一覧表

区分		メーカー名	商品名	出荷時 充填
ディーゼル エンジンオイル		井関農機 他有名メーカーのグレード CF 級以上使用	井セキハイクオリティエンジンオイル (10W-30 CK-4/DH-2) 20L 缶 ……7019-024-300-10 4L 缶 ……7019-024-400-20	○
油圧オイル		井関農機	井セキハイドロリックオイル (HL068) VG68 20L 缶 ……7019-012-300-00 4L 缶 ……7019-012-400-10	○
ギヤオイル	走行メイン ギヤケース	井関農機	井セキ UTH オイル (80W) 20L 缶 ……7019-019-300-10 4L 缶 ……7019-019-400-20	○
	HST 入力 ギヤケース	井関農機		○
	延長 フランジ	有名メーカー品	ギヤオイル # 90	○
	逆転ミッション オイル	有名メーカー品	ギヤオイル # 90	○
一般グリス		協同油脂 他有名メーカーの リチューム系一般グリス	シトラックス SP No.2 シトラックス SP No.0	○
燃料		有名メーカー品 超低硫黄軽油 (S10)	ディーゼル軽油	○
不凍液		モービル石油 昭和シェル石油 (株) 他有名メーカー品を使用	モービルロングライフクーラント (L.L.C.) アンチフリーズ	○
チェン		有名メーカー品	油圧作動油 (VG32)	○

区分	メーカー名	商品名	出荷時充填
エアコンガス	デンソー 有名メーカー品	カーエアコン・クーラ用ガス R-134a (HFC-134a)	○
コンプレッサオイル	デンソー	冷媒機オイル ND-OIL8	○
ウォッシャー液	シェル石油 有名メーカー品	シェルウインドウクリーナー	○

《重要》

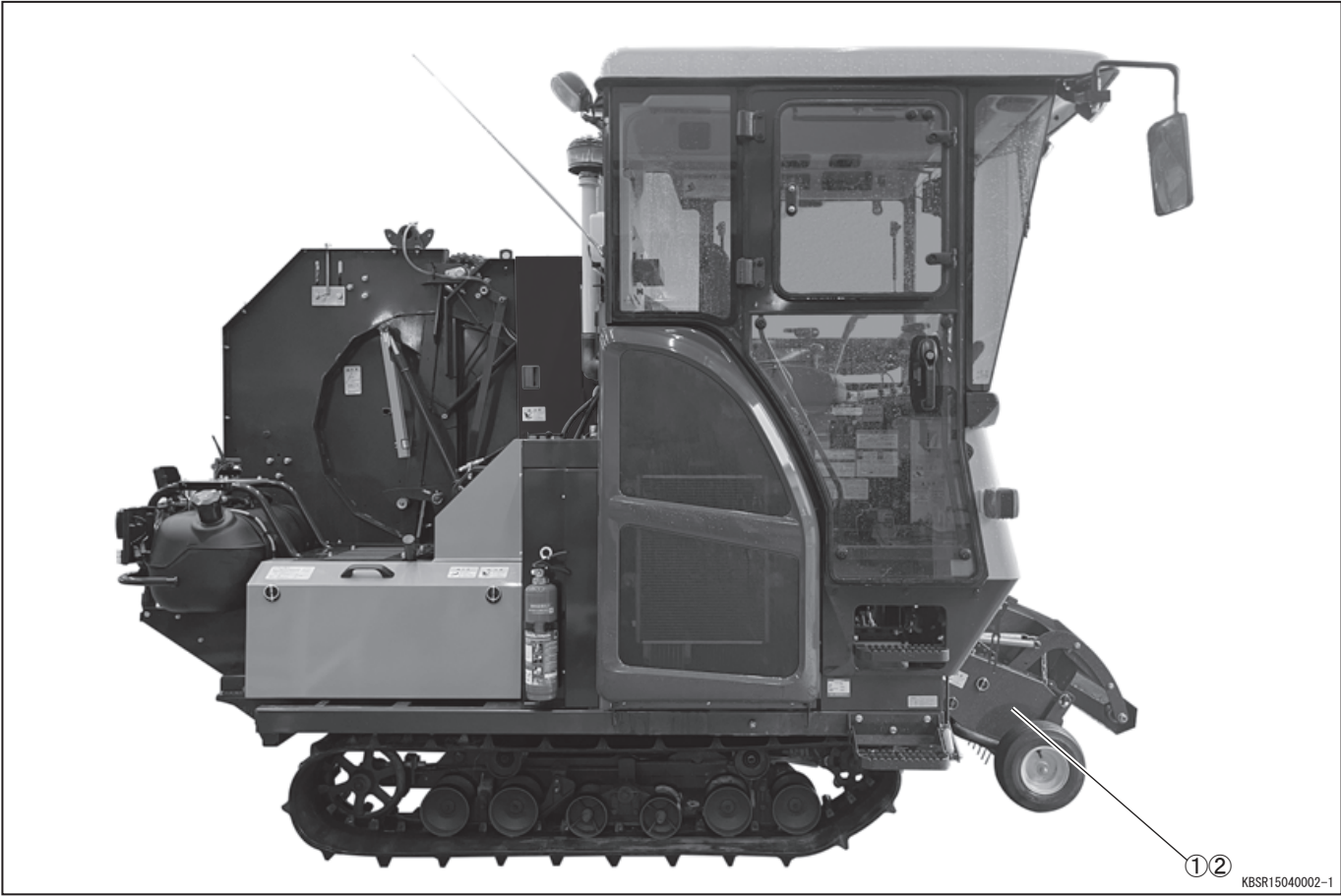
エアコンガスの回収・充填は、第一種フロン類充填回収業者に依頼されるか、お買い上げ先に連絡してください。

15.4 主要消耗品

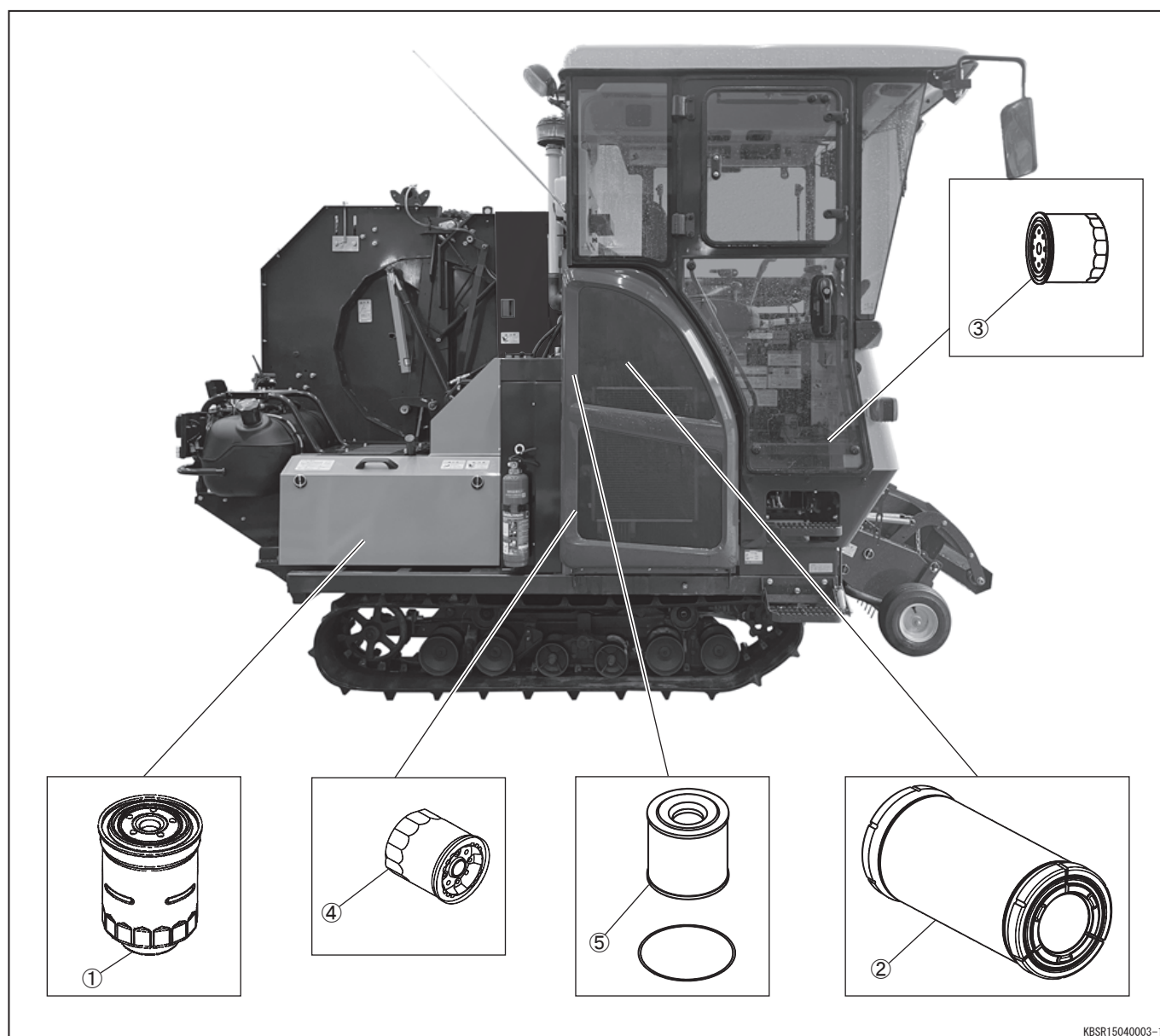


KBSR15040001-1

No.	品名	コード番号	使用個数/台
①	タイン	11405-5591-001	32
②	ボルト 8×30 (8T・ゼンネジ)	01318-5080-300	2
③	タフロックナット 8	02160-0081-700	2
④	ボルト 6×30 (8T・半ネジ)	01118-0060-300	1



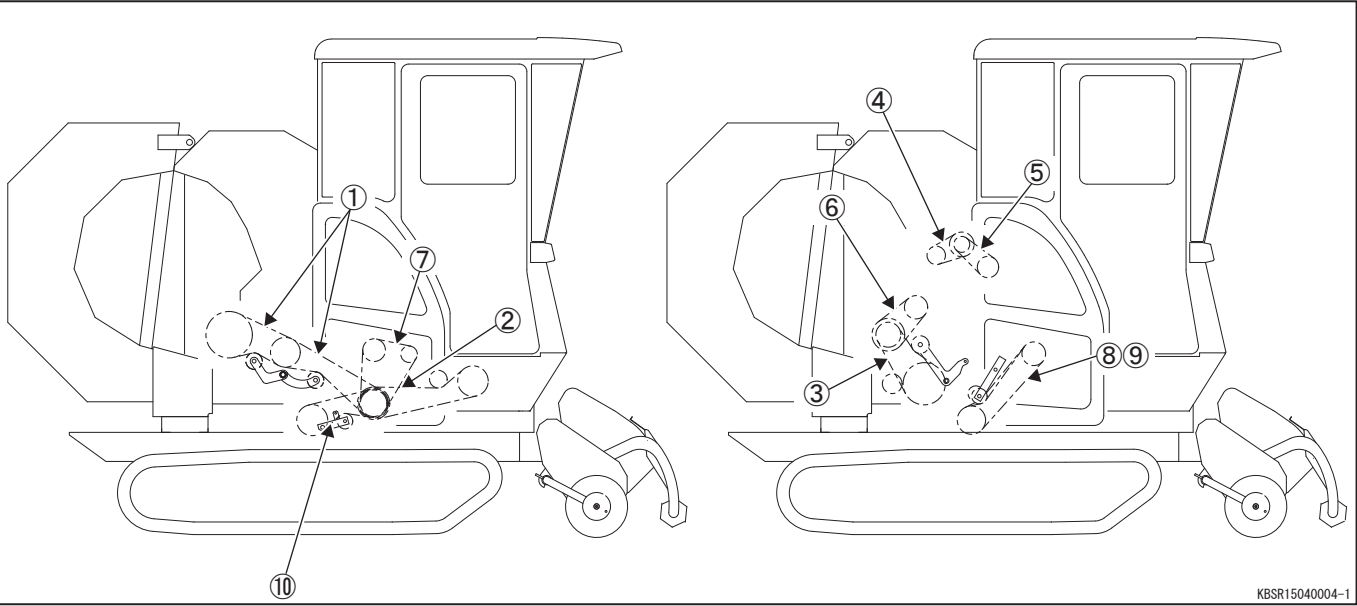
No.	品名	コード番号	使用個数／台
①	ボルト 6×25(8T・半ネジ)	01118-0060-250	1
②	ナイロンナット 6	02311-4001-060	1



KBSR15040003-1

No.	品名	コード番号
①	燃料フィルタ エlement	6213-240-012-00
②	エアクリーナー エlement	1803-104-203-00
③	HST オイルフィルタ カートリッジ	1785-509-201-10
④	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	6213-240-005-10
⑤	ブリーザ エlementキット	6211-745-005-10

◆ ベルト配置



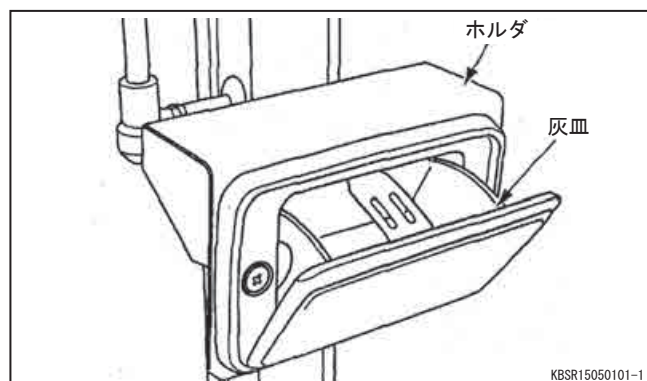
KBSR15040004-1

No.	品名	サイズ	注文コード番号	使用個数／台
①	エンジン出力ベルト	LC-61	3893-307-003-10	1
		LC-49	47227-2218-000	1
②	HST ベルト	LC-61	3893-307-003-10	1
③	作業ベルト	LB-48	03610-5120-480	3
④	ネット用ベルト 1	A-25	03610-0010-250	1
⑤	ネット用ベルト 2	A-27	03610-0010-270	1
⑥	クーラベルト	A-34	03610-0010-340	1
⑦	ゼネレータベルト	A-43 (NR5)	6213-671-062-00	1
⑧	冷却ファンベルト	LB-54	3890-340-006-00	1
⑨	逆流ファンベルト	LB-54	3890-340-006-00	1
⑩	冷却ファンカウンタベルト	LB-45	3893-341-005-00	1

15.5 オプション

15.5.1 灰皿

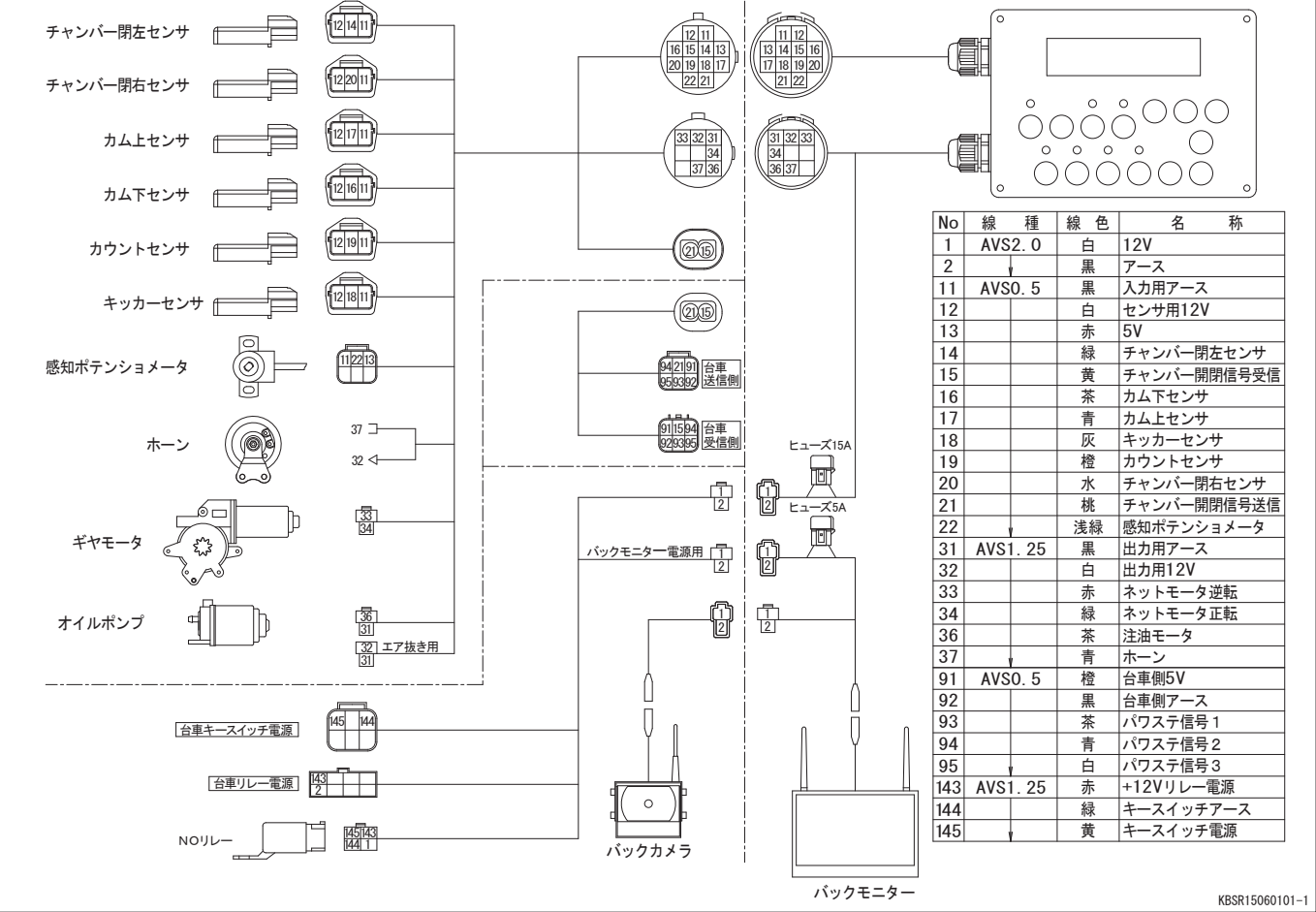
注文部品名	コード番号	必要個数
アッシュトレイ SET	3857-235-200	1



15.6 配線図

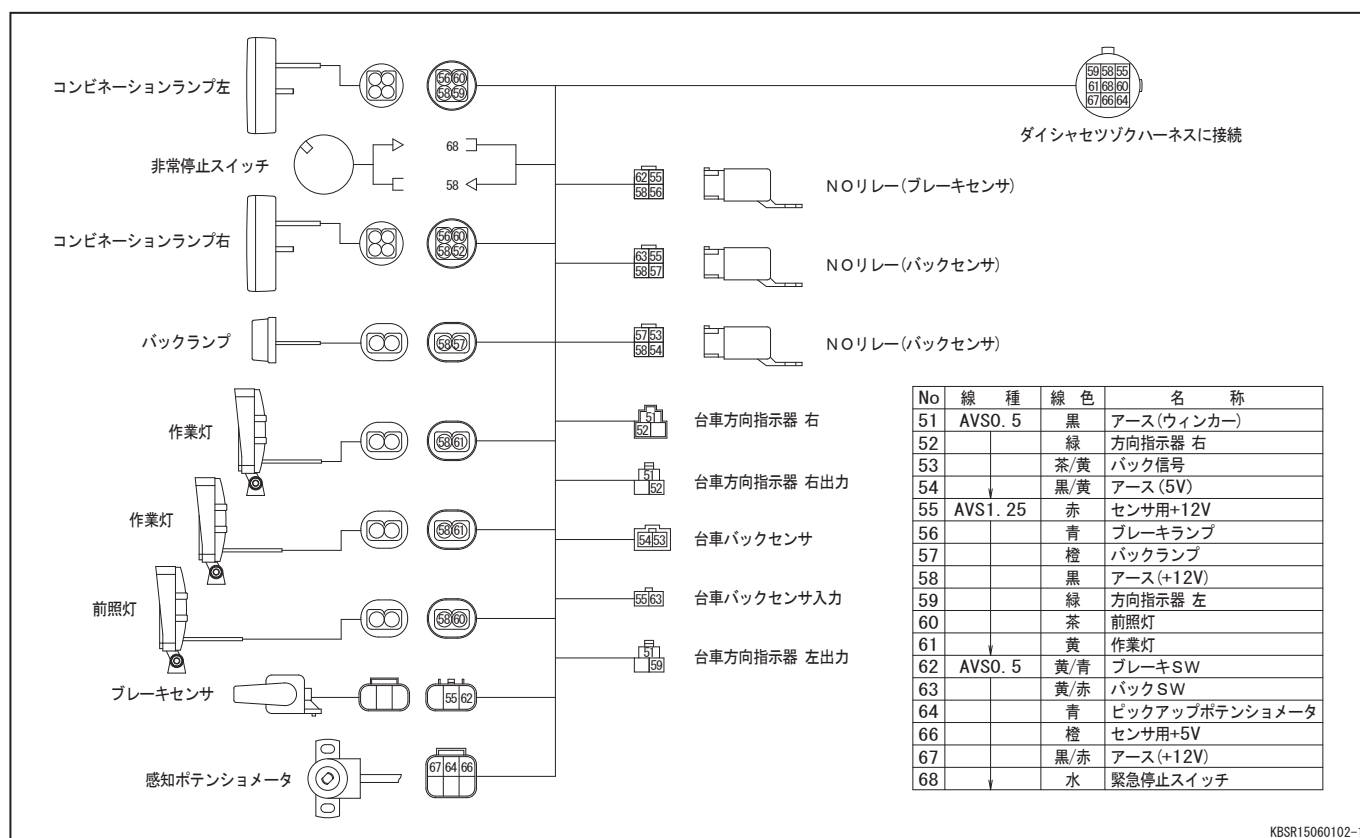
15.6.1 ロールベアラ コントロールボックス部

◆ メインハーネス



※ 各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

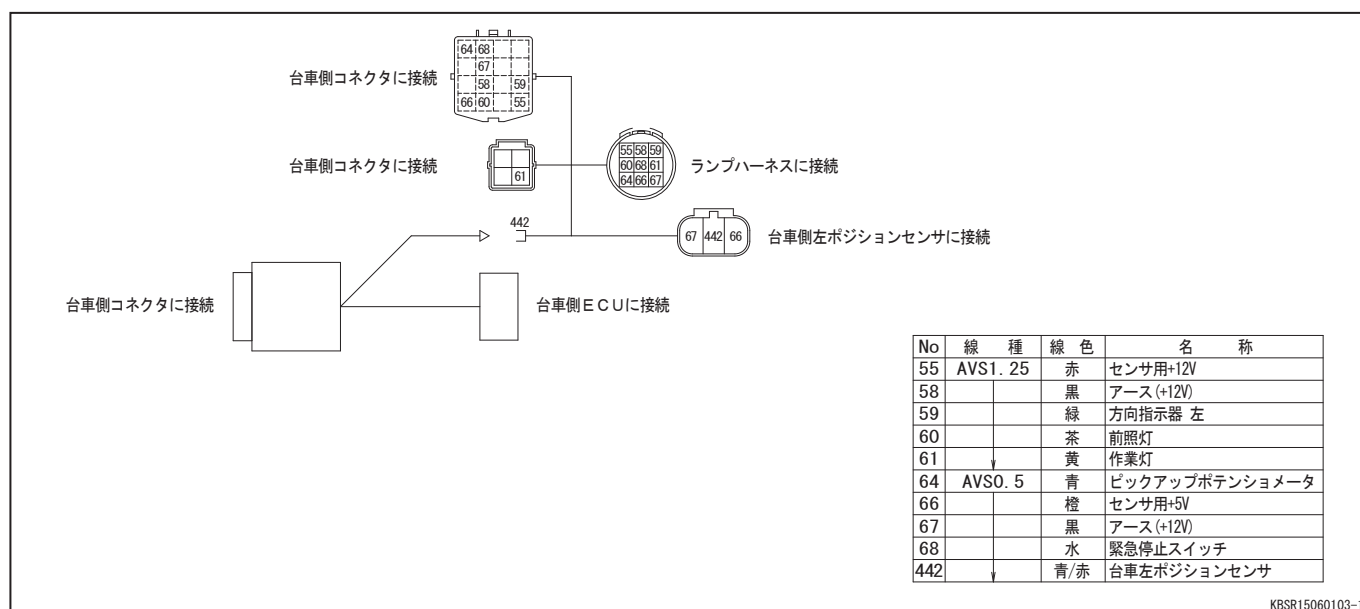
◆ ランプハーネス



KBSR15060102-1

※ 各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

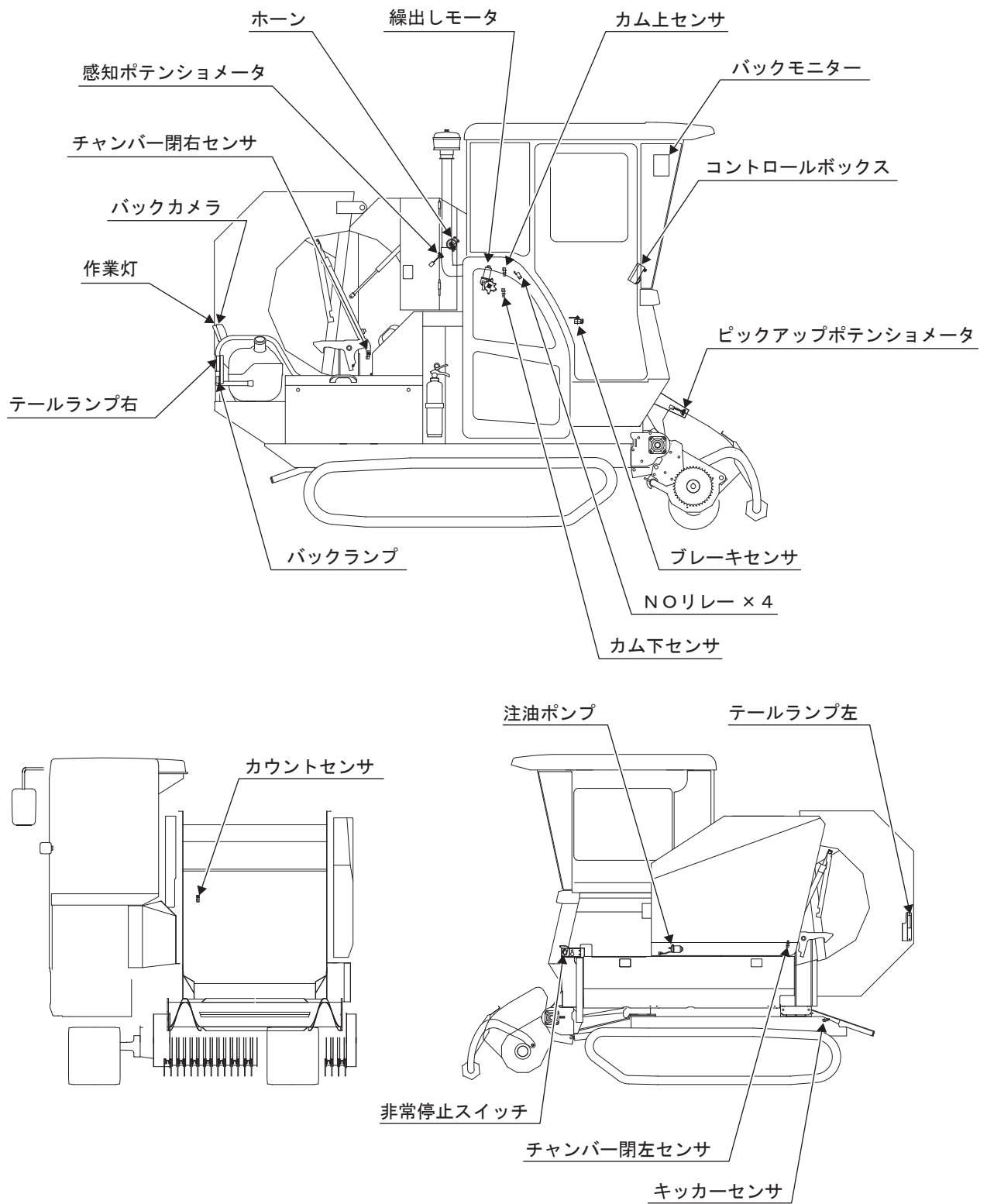
◆ ダイシャセツゾクハーネス



KBSR15060103-1

※ 各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

15.6.2 ロールベアラ 電装配置図



KBSR15060201-1

15.7 フロン排出抑制法によるお客様点検

フロン排出抑制法に基づく農業機械用エアコン機器等第一種特定製品 簡易点検実施記録表

機種	型式	製造番号	管理責任者
----	----	------	-------

- ・点検頻度は3カ月に1回以上

[illegible]

※点検の際、異常や不具合を発見した場合は、すみやかにお買い上げ先へお問い合わせください。

※この点検記録表は、エアコン機器を廃棄後3年間は保管してください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談
させていただく場合もあります。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をご使用になりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因にな
ります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理の
もとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因
となります。

株式会社 **9nキ9**

本社工場	〒 518-0441 三重県名張市夏見2828番地 TEL 0595-63-3111 (代) FAX 0595-64-0857
札幌工場	〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠2条3丁目1番20号 TEL 011-781-1111 (代) FAX 011-781-1113
営業所・札幌	〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠2条3丁目1番20号 TEL 011-781-1111 (代) FAX 011-781-1113
豊 富	〒 098-4110 北海道天塩郡豊富町大通り12丁目 TEL 0162-82-1245 (代) FAX 0162-82-1885
北 見	〒 099-2103 北海道北見市端野町3区305-1 TEL 0157-56-3326 (代) FAX 0157-56-3674
中標津	〒 086-1001 北海道標津郡中標津町東1条南10丁目 TEL 0153-72-2983 (代) FAX 0153-72-3080
帯 広	〒 082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線13-3 TEL 0155-62-3311 (代) FAX 0155-65-3312
東 北	〒 020-0891 岩手県柴波郡矢巾町流通センター南3丁目2番6号 TEL 0196-37-2841 (代) FAX 0196-38-7225
南東北	〒 981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字尾西373番8号 TEL 022-345-6951 (代) FAX 022-345-6952
関 東	〒 323-0012 栃木県小山市大字羽川字下田66 TEL 0285-24-4481 (代) FAX 0285-24-3791
関 西	〒 518-0441 三重県名張市夏見2828番地 TEL 0595-63-3111 (代) FAX 0595-64-0857
中 国	〒 708-1123 岡山県津山市下高倉西845-1 TEL 0868-29-3131 (代) FAX 0868-29-3132
九 州	〒 834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代1389-163 TEL 0943-33-1311 (代) FAX 0943-33-1312
南九州	〒 885-0003 宮崎県都城市高木町4917番1 TEL 0986-38-4321 (代) FAX 0986-38-4342